

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部設置							
フリガナ者		コクリツダイガクホウジントウキョウカガクダイガク 国立大学法人東京科学大学（仮称）							
フリガナ名称		トウキョウカガクダイガク 東京科学大学（仮称）							
大学本部の位置		東京都目黒区大岡山二丁目12番1号							
大学の目的		大学は、科学に立脚して社会の発展に指導的役割を果たすことのできる市民を育成する。 この理念のもとに必要な専門的知識を学生に修得させ、かつ人格の陶冶をなすとともに、理学、工学、医学、歯学、人文社会科学及びこれらの融合学術分野の理論と応用を研究し、その深奥を究めて科学と技術の水準を高めることを大学の目的とし、もって文化の進展に寄与し、地球上全ての構成員の福祉に貢献することをその使命とする。							
新設学部等の目的		医学部 【医学科】 ア．養成する人材像 疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成する。 イ．教育研究上の目的 1）幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。 2）自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。 3）世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。 ウ．卒業後の進路等 本学附属病院又は他病院研修医 【保健衛生学科】 ア．養成する人材像 看護学、検査技術学の2つの専門領域における知識・技術を教授するにとどまらず、豊かな教養と高い倫理観に裏付けされた医療人としての感性を有し、学際的視野にたち、自ら問題を提起し、これを解決できる能力を備えた医療人を育成する。 イ．教育研究上の目的 1）物事を多面的に捉えられる幅広い教養を身に付け、看護学または検査技術学の基礎から応用に至る高い専門知識と技術を修得している。 2）多様な背景を持つ人々の主体性や価値観を理解し、豊かな感性を持って個々を尊重した関係を築くことができる医療人としての人間性が形成されている。 3）社会情勢の影響あるいは業務の特性によって時々刻々と変化する臨床現場の中で、問題を的確に見出し解決に向かわせる柔軟な理解力・洞察力・行動力が養われている。 4）看護または臨床検査の分野におけるスペシャリストを目指して学習を継続する自己学習能力を身に付け、大学院あるいは職場において診療・教育・研究・開発活動を進展させていくことができる創造性が形成されている。 5）国際情勢に関心を示し、看護または臨床検査の分野におけるスペシャリストとして国際貢献に関与できる基礎学力が養われている。 ウ．卒業後の進路等 病院、大学院進学、研究所、企業等							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医学部	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	医学科	6	85	2年次 5	535	学士（医学）	令和6年10月 第1年次	東京都文京区湯島1-5-45 千葉県市川市国府台2-8-30	
	保健衛生学科	4	90	-	360	学士（看護学） 学士（保健学）	令和6年10月 第1年次	同上	
	計		175	2年次 5	895				

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		同一設置者内における変更状況は別紙のとおり										
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
			講義	演習	実験・実習	計						
	医学部 医学科		125科目	8科目	6科目	139科目	219単位					
	医学部 保健衛生学科看護学専攻		128科目	11科目	13科目	152科目	130.5単位					
	医学部 保健衛生学科検査技術学専攻		114科目	3科目	19科目	136科目	142単位					
教員組織の概要	学 部 等 の 名 称			専任教員等						兼任教員等	※「新設分」は東京医科歯科大学の教員組織を継承する。	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設分	医学部 医学科			48人 (48)	28人 (28)	46人 (46)	50人 (50)	172人 (172)	0人 (0)		530人 (530)
		医学部 保健衛生学科看護学専攻			7人 (7)	9人 (9)	2人 (2)	8人 (8)	26人 (26)	0人 (0)		271人 (271)
		医学部 保健衛生学科検査技術学専攻			6人 (6)	3人 (3)	0人 (0)	7人 (7)	16人 (16)	0人 (0)		208人 (208)
		計			61人 (61)	40人 (40)	48人 (48)	65人 (65)	214人 (214)	0人 (0)		-人 (-)
	既設分	理学院			54人 (54)	38人 (38)	1人 (1)	52人 (52)	145人 (145)	0人 (0)		186人 (186)
		工学院			91人 (91)	90人 (90)	1人 (1)	63人 (63)	245人 (245)	0人 (0)		253人 (253)
		物質理工学院			69人 (69)	64人 (64)	0人 (0)	68人 (68)	201人 (201)	0人 (0)		191人 (191)
		情報理工学院			34人 (34)	20人 (20)	3人 (3)	27人 (27)	84人 (84)	0人 (0)		191人 (191)
		生命理工学院			41人 (41)	39人 (39)	3人 (3)	53人 (53)	136人 (136)	0人 (0)		157人 (157)
		環境・社会理工学院			50人 (50)	41人 (41)	0人 (0)	37人 (37)	128人 (128)	0人 (0)		227人 (227)
		計			339人 (339)	292人 (292)	8人 (8)	300人 (300)	939人 (939)	0人 (0)		-人 (-)
	合 計			400人 (400)	332人 (332)	56人 (56)	365人 (365)	1153人 (1153)	0人 (0)	-人 (-)		
	教員以外の職員の概要	職 種			専 任		兼 任		計			大学全体
		事 務 職 員			1233人 (1233)		1211人 (1211)		2444人 (2444)			
技 術 職 員			1845人 (1845)		581人 (581)		2426人 (2426)					
図 書 館 専 門 職 員			23人 (23)		26人 (26)		49人 (49)					
そ の 他 の 職 員			53人 (53)		392人 (392)		445人 (445)					
計			3154人 (3154)		2210人 (2210)		5364人 (5364)					
校地等	区 分		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		大学全体		
	校 舎 敷 地		449,710㎡	0㎡		0㎡		449,710㎡				
	運 動 場 用 地		58,604㎡	0㎡		0㎡		58,604㎡				
	小 計		508,314㎡	0㎡		0㎡		508,314㎡				
	そ の 他		93,074㎡	0㎡		0㎡		93,074㎡				
	合 計		601,388㎡	0㎡		0㎡		601,388㎡				
校 舎			専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		大学全体		
			492,049㎡ (492,049㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		492,049㎡ (492,049㎡)				

教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体
	290室		201室		1002室		5室 (補助職員7人)		7室 (補助職員6人)		
専任教員研究室			新設学部等の名称					室数			
			大学全体					875室			
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
		1,027,883 [571,240] (1,027,883 [571,240])	31,505 [26,734] (31,505 [26,734])	24,418 [22,904] (24,418 [22,904])						8,343 (8,343)	497 (497)
	計		1,027,883 [571,240] (1,027,883 [571,240])	31,505 [26,734] (31,505 [26,734])	24,418 [22,904] (24,418 [22,904])	8343 (8,343)	497 (497)	55862 (55,862)			
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		17,423 m ²		1,578 席		1,213,499 冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		5,853 m ²		テニスコート、プール、武道館、柔剣道場、弓道場							
経費及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費 (運営費交付金)による	
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—		
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—		
		設備購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			—								
大 学 の 名 称	東京工業大学										
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	理学院		年	人	年次人	人		倍			
			(学士課程)	4	151	—	604	学士 (理学)	1.13	H28年度	
			(修士課程)	2	154	—	308	修士 (理学) (学術)	1.15	H28年度	
	(博士後期課程)		3	52	—	156	博士 (理学) (学術)	0.8	H28年度		
	工学院		(学士課程)	4	358	3年次9	1450	学士 (工学)	1.12	H28年度	
			(修士課程)	2	477	—	954	修士 (理学) (工学) (学術)	1.35	H28年度	
			(博士後期課程)	3	169	—	507	博士 (理学) (工学) (学術)	0.81	H28年度	
	物質理工学院		(学士課程)	4	183	3年次5	742	学士 (理学) (工学)	1.04	H28年度	
			(修士課程)	2	347	—	694	修士 (理学) (工学) (学術)	1.28	H28年度	
			(博士後期課程)	3	129	—	387	博士 (理学) (工学) (学術)	0.79	H28年度	

	情報理工学院									
	(学士課程)	4	92	3年次 2	372	学士 (理学) (工学)	1. 20	H28年度		
	(修士課程)	2	135	—	270	修士 (理学) (工学) (学術)	1. 28	H28年度		
	(博士後期課程)	3	50	—	150	博士 (理学) (工学) (学術)	1	H28年度		
	生命理工学院									
	(学士課程)	4	150	3年次 10	620	学士 (理学) (工学)	1. 04	H28年度		
	(修士課程)	2	168	—	336	修士 (理学) (工学) (学術)	1. 21	H28年度		
	(博士後期課程)	3	52	—	156	博士 (理学) (工学) (学術)	1. 17	H28年度		
	環境・社会理工学院									
	(学士課程)	4	134	3年次 4	544	学士 (工学)	1. 09	H28年度		
	(修士課程)	2	263	—	526	修士 (理学) (工学) (学術)	1. 42	H28年度		
	(博士後期課程)	3	115	—	345	博士 (理学) (工学) (学術) (技術経営)	1. 13	H28年度	目黒区大岡山 2 丁目 12-1	
	技術経営専門職学位課程 (専門職学位課程)	2	40	—	80	技術経営修士 (専門職)	1. 23	H28年度		
	理学部									
	数学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	H10年度		平成28年度より学 生募集停止
	物理学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	H10年度		平成28年度より学 生募集停止
	地球惑星科学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	H10年度		平成28年度より学 生募集停止
	工学部									
	化学工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	H7年度		平成28年度より学 生募集停止
	電気電子工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	H12年度		平成28年度より学 生募集停止
	情報工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	H12年度		平成28年度より学 生募集停止
	土木・環境工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	H7年度		平成28年度より学 生募集停止
	生命理工学部									
	生命科学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	H11年度		平成28年度より学 生募集停止

既設大学等の状況	理工学研究科 (博士後期課程) 建築学専攻	3	—	—	—	博士 (工学) (学術)	—	H12年度	平成28年度より学生募集停止
	生命理工学研究科 (博士後期課程) 生体システム専攻	3	—	—	—	博士 (理学) (工学) (学術)	—	H12年度	平成28年度より学生募集停止
	総合理工学研究科 (博士後期課程) 環境理工学創造専攻	3	—	—	—	博士 (工学) (学術)	—	H10年度	平成28年度より学生募集停止
	知能システム科学専攻	3	—	—	—	博士 (理学) (工学) (学術)	—	H8年度	平成28年度より学生募集停止
	物理情報システム専攻	3	—	—	—	博士 (理学) (工学) (学術)	—	H17年度	平成28年度より学生募集停止
	社会理工学研究科 (博士後期課程) 価値システム専攻	3	—	—	—	博士 (理学) (工学) (学術)	—	H8年度	平成28年度より学生募集停止
	経営工学専攻	3	—	—	—	博士 (理学) (工学) (学術)	—	H8年度	平成28年度より学生募集停止
	イノベーションマネジメント研究科 (博士後期課程) イノベーション専攻	3	—	—	—	博士 (技術経営) (工学) (学術)	—	H17年度	平成28年度より学生募集停止

大 学 の 名 称	東京医科歯科大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
医学部						1.03			
医学科	6	101	2年次 5	628	学士（医学）	1.01	S26年度		
保健衛生学科	4	90	—	360	学士 （看護学） （保健学）	1.06	H元年度		
歯学部						1.00			
歯学科	6	53	—	318	学士（歯学）	1.03	S26年度		
口腔保健学科	4	32	2年次 5	143	学士 （口腔保健学）	0.94	H16年度		
医歯学総合研究科 （修士課程）								東京都文京区湯島1- 5-45	
医歯理工保健学専攻	2 （医 療管 理学 コー ス：1 年）	131	—	257	修士 （医科学） （歯科学） （理学） （工学） （口腔保健学） （保健学） （医療管理学） （医療政策学） （グローバル健 康医学）	1.11	H30年度		
（博士課程）									
医歯学専攻	4	181	—	724	博士 （医学） （歯学） （数理医科学） （学術）	1.40	H30年度		
東京医科歯科大学・チ リ大学国際連携医学系専 攻	5	3	—	15	博士 （医学）	0.33	H28年度		
東京医科歯科大学・チ ュラロンコン大学国 際連携歯学系専攻	5	3	—	15	博士 （歯学）	0.93	H28年度		
東京医科歯科大学・マ ヒドン大学国際連携医学 系専攻	4	3	—	12	博士 （医学）	1.00	R2年度		
生命理工医療科学専攻	3	25	—	75	博士 （理学） （工学） （保健学） （口腔保健学）	0.61	H30年度		
医歯学系専攻	4	—	—	—	博士 （医学） （歯学） （学術）	—	H24年度		平成30年度より学 生募集停止
保健衛生学研究科 （博士課程（前期））									
生体検査科学専攻	2	—	—	—	修士 （保健学）	—	H13年度		平成30年度より学 生募集停止
（博士課程（後期）） 生体検査科学専攻	3	—	—	—	博士 （保健学）	—	H13年度		平成30年度より学 生募集停止

	(博士課程) 看護先進科学専攻	5	13	—	65	博士 (看護学)	1.30	H26年度		
	共同災害看護学専攻	5	—	—	—	博士 (看護学)	—	H26年度		令和3年度より学 生募集停止
附属施設の概要		名称：東京科学大学病院 目的：患者の診療を通じて医学及び歯学の教育と研究を行うこと 所在地：東京都文京区湯島 1－5－4 5 設置年月：令和 3 年 1 0 月 建物 101,052㎡ 名称：生体材料工学研究所 目的：生体に用いられる物質及び材料並びに生体工学に関する学理及びその応用の研究を行うこと 所在地：東京都千代田区神田駿河台 2－3－1 0 設置年月：昭和 2 6 年 4 月 建物 6,169㎡ 名称：難治疾患研究所 目的：膠原病その他の難治疾患に関する学理及びその応用を研究すること 所在地：東京都文京区湯島 1－5－4 5 設置年月：昭和 4 8 年 9 月 建物 10,429㎡ 名称：東京科学大学附属科学技術高等学校 目的：高度な普通教育及び科学技術に関する専門教育を行うとともに、大学における教育研究に協力し、大学の教育実習の実施に当たること 所在地：東京都港区芝浦 3－3－6 設置年月：平成 1 7 年 4 月 建物：13,747㎡ 名称：科学技術創成研究院 目的：革新的な科学や技術を開拓することを通じた新たな研究領域の創出と、人類社会の課題解決、将来の産業基盤の育成を強く意識した世界トップレベルの研究成果の創出 所在地：神奈川県横浜市緑区長津田町 4 2 5 9 設置年月：平成 2 8 年 4 月 建物 30,657㎡								

同一設置者内における変更状況

令和 6 年 10 月 名称変更予定

東京工業大学→東京科学大学（仮称）

東京医科歯科大学（廃止）

医学部医学科 (△85)(2 年次編入学定員) (△5)保健衛生学科 (△90)

※令和 6 年 10 月学生募集停止（2 年次編入学を含む）

歯学部歯学科 (△53)口腔保健学科 (△32)(2 年次編入学定員) (△5)

※令和 6 年 10 月学生募集停止（2 年次編入学を含む）

東京医科歯科大学大学院（廃止）

医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻 (△131)医歯学専攻 (△181)東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻 (△3)東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻 (△3)東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻 (△3)生命理工医療科学専攻 (△25)医歯学系専攻（平成 30 年 4 月学生募集停止） (-)保健衛生学研究科看護先進科学専攻 (△13)共同災害看護学専攻（令和 3 年 4 月学生募集停止） (-)

※令和 6 年 10 月学生募集停止

国立大学法人東京科学大学 意見伺い等に関わる組織の移行表

今回の意見伺いは東京工業大学及び東京医科歯科大学の統合を目的としたものである。手続上、東京工業大学(新大学名称:東京科学大学)に医学部、歯学部、大学院医歯学総合研究科及び大学院保健衛生学研究科の2学部2研究科を設置し、東京医科歯科大学は統合時(令和6年10月1日)に廃止され、在学生全員の学籍が新大学へ移行することとなる。なお、下表のとおり、統合前後で2学部2研究科の教育研究組織や学生数に変更はなく、教員組織、校地、校舎、施設、設備、学生支援体制も同一性を保持する。

※ 別途、統合時(令和6年10月1日)に大学名称を変更する予定である。

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東京工業大学				東京科学大学				
理学院	151	-	604	理学院	151	-	604	
数学系				数学系				
物理学系				物理学系				
化学系				化学系				
地球惑星科学系				地球惑星科学系				
	3年次				3年次			
工学院	358	9	1,450	工学院	358	9	1,450	
機械系				機械系				
システム制御系				システム制御系				
電気電子系				電気電子系				
情報通信系				情報通信系				
経営工学系				経営工学系				
	3年次				3年次			
物質理工学院	183	5	742	物質理工学院	183	5	742	
材料系				材料系				
応用化学系				応用化学系				
	3年次				3年次			
情報理工学院	92	2	372	情報理工学院	92	2	372	
数理・計算科学系				数理・計算科学系				
情報工学系				情報工学系				
	3年次				3年次			
生命理工学院	150	10	620	生命理工学院	150	10	620	
生命理工学系				生命理工学系				
	3年次				3年次			
環境・社会理工学院	134	4	544	環境・社会理工学院	134	4	544	
建築学系				建築学系				
土木・環境工学系				土木・環境工学系				
融合理工学系				融合理工学系				
理学部				理学部				
数学科	-	-	-	数学科	-	-	-	(平成28年度学生募集停止)
物理学科	-	-	-	物理学科	-	-	-	(平成28年度学生募集停止)
地球惑星科学科	-	-	-	地球惑星科学科	-	-	-	(平成28年度学生募集停止)
工学部				工学部				
化学工学科	-	-	-	化学工学科	-	-	-	(平成28年度学生募集停止)
電気電子工学科	-	-	-	電気電子工学科	-	-	-	(平成28年度学生募集停止)
情報工学科	-	-	-	情報工学科	-	-	-	(平成28年度学生募集停止)
土木・環境工学科	-	-	-	土木・環境工学科	-	-	-	(平成28年度学生募集停止)
生命理工学部				生命理工学部				
生命科学科	-	-	-	生命科学科	-	-	-	(平成28年度学生募集停止)
				医学部	2年次			学部の設置(意見伺い)
				医学科	85	5	535	
				保健衛生学科	90	-	360	
				歯学部				学部の設置(意見伺い)
				歯学科	53	-	318	
				口腔保健学科	32	5	143	
	2年次				2年次			
計	1,068	-	4,332	計	1,328	10	5,688	
	3年次				3年次			
		30				30		
東京医科歯科大学								大学の廃止(意見伺い)
医学部	2年次				2年次			令和6年度学生募集停止
医学科	85	5	535	医学科	0	0	0	
保健衛生学科	90	-	360	保健衛生学科	0	-	0	
歯学部								令和6年度学生募集停止
歯学科	53	-	318	歯学科	0	-	0	
口腔保健学科	32	5	143	口腔保健学科	0	0	0	
	2年次				2年次			
計	260	10	1,356	計	0	0	0	

東京工業大学大学院 理学院	(M)	154	-	308	東京科学大学大学院 理学院	(M)	154	-	308
	数学系(M) 物理学系(M) 化学系(M) 地球惑星科学系(M)					数学系(M) 物理学系(M) 化学系(M) 地球惑星科学系(M)			
	(D)	52	-	156		(D)	52	-	156
	数学系(D) 物理学系(D) 化学系(D) 地球惑星科学系(D)					数学系(D) 物理学系(D) 化学系(D) 地球惑星科学系(D)			
	工学院					工学院			
	(M)	477	-	954		(M)	477	-	954
	機械系(M) システム制御系(M) 電気電子系(M) 情報通信系(M) 経営工学系(M)					機械系(M) システム制御系(M) 電気電子系(M) 情報通信系(M) 経営工学系(M)			
	(D)	169	-	507		(D)	169	-	507
	機械系(D) システム制御系(D) 電気電子系(D) 情報通信系(D) 経営工学系(D)					機械系(D) システム制御系(D) 電気電子系(D) 情報通信系(D) 経営工学系(D)			
	物質理工学院					物質理工学院			
	(M)	347	-	694		(M)	347	-	694
	材料系(M) 応用化学系(M)					材料系(M) 応用化学系(M)			
	(D)	129	-	387		(D)	129	-	387
	材料系(D) 応用化学系(D)					材料系(D) 応用化学系(D)			
情報理工学院	(M)	135	-	270	情報理工学院	(M)	135	-	270
	数理・計算科学系(M) 情報工学系(M)					数理・計算科学系(M) 情報工学系(M)			
	(D)	50	-	150		(D)	50	-	150
	数理・計算科学系(D) 情報工学系(D)					数理・計算科学系(D) 情報工学系(D)			
生命理工学院	(M)	168	-	336	生命理工学院	(M)	168	-	336
	生命理工学系(M)					生命理工学系(M)			
	(D)	52	-	156		(D)	52	-	156
	生命理工学系(D)					生命理工学系(D)			
環境・社会理工学院	(M)	263	-	526	環境・社会理工学院	(M)	263	-	526
	建築学系(M) 土木・環境工学系(M) 融合理工学系(M) 社会・人間科学系(M)					建築学系(M) 土木・環境工学系(M) 融合理工学系(M) 社会・人間科学系(M)			
	技術経営専門職学位課程	40	-	80		技術経営専門職学位課程	40	-	80
	(D)	115	-	345		(D)	115	-	345
	建築学系(D) 土木・環境工学系(D) 融合理工学系(D) 社会・人間科学系(D) イノベーション科学系(D)					建築学系(D) 土木・環境工学系(D) 融合理工学系(D) 社会・人間科学系(D) イノベーション科学系(D)			
	理工学研究科					理工学研究科			
	建築学専攻(D)	-	-	-		建築学専攻(D)	-	-	- (平成28年度学生募集停止)
	生命理工学研究科					生命理工学研究科			
	生体システム専攻(D)	-	-	-		生体システム専攻(D)	-	-	- (平成28年度学生募集停止)
	総合理工学研究科					総合理工学研究科			
	環境理工学創造専攻(D)	-	-	-		環境理工学創造専攻(D)	-	-	- (平成28年度学生募集停止)
	知能システム科学専攻(D)	-	-	-		知能システム科学専攻(D)	-	-	- (平成28年度学生募集停止)
	物理情報システム専攻(D)	-	-	-		物理情報システム専攻(D)	-	-	- (平成28年度学生募集停止)
	社会理工学研究科					社会理工学研究科			
	価値システム専攻(D)	-	-	-		価値システム専攻(D)	-	-	- (平成28年度学生募集停止)
	経営工学専攻(D)	-	-	-		経営工学専攻(D)	-	-	- (平成28年度学生募集停止)
イノベーションマネジメント研究科					イノベーションマネジメント研究科				
	イノベーション専攻(D)	-	-	-		イノベーション専攻(D)	-	-	- (平成28年度学生募集停止)

				<u>医歯学総合研究科</u>			研究科の設置（意見伺い）
				<u>医歯理工保健学専攻（M）</u>	<u>131</u>	-	<u>257</u>
				<u>医歯学専攻（D）</u>	<u>181</u>	-	<u>724</u>
				<u>東京科学大学・チリ大学国際連携医学系専攻（D）</u>	<u>3</u>	-	<u>15</u>
				<u>東京科学大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻（D）</u>	<u>3</u>	-	<u>15</u>
				<u>東京科学大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻（D）</u>	<u>3</u>	-	<u>12</u>
				<u>生命理工医療科学専攻（D）</u>	<u>25</u>	-	<u>75</u>
				<u>医歯学系専攻（D）</u>	-	-	-（平成30年度学生募集停止）
				<u>保健衛生学研究科</u>			研究科の設置（意見伺い）
				<u>看護先進科学専攻（D）</u>	<u>13</u>	-	<u>65</u>
				<u>共同災害看護学専攻（D）</u>	-	-	<u>2</u> （令和3年度学生募集停止）
				計	<u>2,510</u>	-	<u>6,034</u>
							大学院の廃止（意見伺い）
							令和6年度学生募集停止
					<u>0</u>	-	<u>0</u>
					<u>0</u>	-	<u>0</u>
					<u>0</u>	-	<u>0</u>
					<u>0</u>	-	<u>0</u>
					<u>0</u>	-	<u>0</u>
					<u>0</u>	-	<u>0</u>
					<u>0</u>	-	<u>0</u> （平成30年度学生募集停止）
					<u>0</u>	-	<u>0</u> 令和6年度学生募集停止
							（令和3年度学生募集停止）
				計	<u>0</u>	-	<u>0</u>

東京医科歯科大学大学院			
医歯学総合研究科			
医歯理工保健学専攻（M）	131	-	257
医歯学専攻（D）	181	-	724
東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻（D）	3	-	15
東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻（D）	3	-	15
東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻（D）	3	-	12
生命理工医療科学専攻（D）	25	-	75
医歯学系専攻（D）	-	-	-
保健衛生学研究科			
看護先進科学専攻（D）	13	-	65
共同災害看護学専攻（D）	-	-	4
計	359	-	1,167

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医学部医学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	自由教育講義系	人文科学・社会科学	人文社会科学概論	1前	2		○								兼2		
			国際地域文化入門	1前	2		○									兼3	
			哲学	1前		2		○								兼1	
			倫理学	1前		2		○								兼1	
			心理学	1前		2		○								兼1	
			宗教学	1前		2		○								兼1	
			芸術	1前		2		○								兼5	
			歴史学	1前		2		○								兼2	
			民俗学	1前		2		○								兼1	
			科学史	1前		2		○								兼1	
			文学	1前		2		○								兼1	
			法学	1前		2		○								兼1	
			政治学	1前		2		○								兼1	
			経済学	1前		2		○								兼1	
			社会学	1前		2		○								兼1	
			社会心理学	1前		2		○								兼1	
			社会思想史	1前		2		○								兼1	
			文化人類学	1前		2		○								兼1	
			Japanese Culture and Society	1前		2		○								兼1	
			グローバル教養科目	1前		2		○								兼3	
			人文社会科学特論	1前		2		○								兼3	
	小計 (21科目)			—	4	38	0	—			0	0	0	0	0	兼25	—
	自由教育講義系	フィジカルウェルビーイング系	フィジカルウェルビーイング	1前		2		○								兼4	
			フィットネスマネジメント	1前		2		○								兼4	共同
			小計 (2科目)			—	0	4	0	—			0	0	0	0	0
	外国語	ドイツ語Ⅰ	1前		2		○									兼2	
		ドイツ語Ⅱ	1前		2		○									兼2	
		フランス語Ⅰ	1前		2		○									兼1	
		フランス語Ⅱ	1前		2		○									兼1	
		中国語Ⅰ	1前		2		○									兼2	
		中国語Ⅱ	1前		2		○									兼2	
		スペイン語Ⅰ	1前		2		○									兼1	
		スペイン語Ⅱ	1前		2		○									兼1	
		日本語Ⅰ	1前		2		○									兼1	
		日本語Ⅱ	1前		2		○									兼1	
		英語Ⅰ	1通	6		○										兼9	
	小計 (11科目)			—	6	20	0	—			0	0	0	0	0	兼16	—
	自然科学	物理学入門	1前		1		○									兼2	
		生物学入門	1前		1		○									兼4	
		化学入門	1前		1		○									兼3	
		数学Ⅰ	1前	1			○									兼2	
		物理学Ⅰ	1前	1			○									兼2	
		数学Ⅱ	1前		1		○									兼2	
		物理学Ⅱ	1前		1		○									兼2	
		化学	1前	2			○									兼5	
		生物学	1前	2			○									兼2	
	サイエンスPBL入門	1後	1.5			○									兼15		

自由 教育 実習系	自然科学実験	1前	2					○							兼7	
	小計（ 11科目）	—	9.5	5	0		—		0	0	0	0	0	0	兼19	—
自由 教育 セミナー系	共通領域	教養選択科目	1通	1			○								兼18	
		教養基礎セミナー	1後	2			○								兼17	
		教養セミナーⅠ	2通	1			○								兼20	
		教養セミナーⅡ	3通	1			○								兼20	
		教養セミナーⅢ	5後	1			○								兼20	
		教養自由セミナーⅠ	4通		1		○								兼17	
		教養自由セミナーⅡ	6通		1		○								兼17	
		小計（ 7科目）	—	6	0	2	—		0	0	0	0	0	0	兼21	—
基礎 教育系	グローバル教養総合講座	1前	1.5				○								兼26	
	情報処理	1前	1				○								兼2	共同
	小計（ 2科目）	—	2.5	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼27	—
	多職種連携Ⅰ	1前	0.5				○								兼20	共同
	医学導入	1後	6.5				○	※	8	1	2	1			兼22	オムニバス ・共同（一部） 演習を含む
	匠講話	1後	1				○		14						兼1	オムニバス
	AI・データサイエンスのための数学	1後	2				○								兼4	共同
	医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2				○			1					兼16	共同
	アカデミック・リテラシー	1後	1				○								兼9	共同
	人体構造総論	1後	1.5				○		1			2			兼2	オムニバス ・共同（一部）
	細胞生物学	1後	1				○		1		1	2			兼7	オムニバス
	生理学	2前	3				○		1	3		2			兼4	オムニバス ・共同（一部）
	英語Ⅱ	2・3・4・ 5・6通	1～4				○								兼4	共同
	System-based medical terminologyⅠ	3前	1				○								兼1	
	System-based medical terminologyⅡ	3後	1				○								兼1	
	IMRAD Format Presentation in English	3・4通	1				○								兼1	
	FOCUS (Fit for Overseas Clerkship opportunities)	5後	2				○								兼1	
	組織学	2前	3.5				○	※	1		1	2			兼2	オムニバス ・共同（一部） 実験・実習を含む
	人体解剖学	2前	7.5				○	※	1			2			兼7	オムニバス ・共同（一部） 実験・実習を含む
	薬理学	2前	2				○		3						兼11	オムニバス
	生化学	2前	2				○		1						兼1	オムニバス
	分子遺伝学	2前	1				○		1		1	2			兼1	オムニバス ・共同（一部）
	神経解剖学	2前	3				○	※	1		1	2			兼3	実験・実習を含む
	免疫学	2後	2				○		3						兼14	オムニバス ・共同（一部）
	神経科学・基礎	2後	3.5				○		2	1	2	1			兼3	オムニバス ・共同（一部）
	感染・基礎	2後	2				○		1	1		1			兼4	オムニバス ・共同（一部）
	病理学	2後	1				○		1		1	2			兼1	オムニバス ・共同（一部）
	医動物学	2後	2				○	※	1			2			兼1	実験・実習を含む
	腫瘍学	2後	1				○		5		2	3			兼1	オムニバス ・共同（一部）

専門科目	基礎医学実習	2後	1					○	5	3	4	9	兼9	オムニバス ・共同（一部）
	医療とAI・ビッグデータ応用	2前	1			○							兼10	共同
	臨床医学導入	2後	1			○			2	1	3	1	兼6	オムニバス ・共同（一部）
	循環器	2後	3			○			1	4	1	2	兼21	オムニバス ・共同（一部）
	呼吸器	3前	2			○			3	1	1	2	兼11	オムニバス ・共同（一部）
	消化器	3前	3			○			4	2	4	2	兼26	オムニバス ・共同（一部）
	腎臓・泌尿器	3前	3			○			1	2	1	3	兼17	オムニバス ・共同（一部）
	内分泌・代謝	3前	2			○			1	1	1	1	兼8	オムニバス ・共同（一部）
	血液・腫瘍	3前	2			○			2	1	6	1	兼9	オムニバス ・共同（一部）
	一般外科	3前	1			○			2	1	3		兼7	オムニバス ・共同（一部）
	神経科学・臨床	3前	4			○			5	4	3	6	兼32	オムニバス ・共同（一部）
	骨・関節・脊椎	3前	2			○			2	2	2	2	兼24	オムニバス ・共同（一部）
	感染・臨床	3前	1			○			1		1	1	兼9	オムニバス ・共同（一部）
	頭頸部・臨床	3後	4			○			7	1	7	2	兼26	オムニバス ・共同（一部）
	膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学）	3後	3			○		※	1		1	2	兼8	オムニバス ・共同（一部） 実験・実習を含む
	膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー）	3後	1			○			1	1	1		兼8	オムニバス ・共同（一部）
	膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（膠原病）	3後	1			○			2		2	1	兼8	オムニバス ・共同（一部）
	生殖・発達	3後	4			○			1	2	2	3	兼26	オムニバス ・共同（一部）
	救急・麻酔・集中治療	3後	2			○			3	1	1		兼17	オムニバス ・共同（一部）
	法医学	3後	1			○				1	1	1	兼6	オムニバス ・共同（一部）
	衛生学	3後	1			○			1		1	2	兼7	オムニバス ・共同（一部）
	公衆衛生学	3後	1.5			○			4	1	2		兼14	オムニバス ・共同（一部）
	行動科学	3後	1			○			2				兼8	オムニバス ・共同（一部）
	生物統計学	3後	1			○							兼2	
	選択社会医学実習	3後	1					○	2	2	3	1	兼3	オムニバス ・共同（一部）
	生命倫理	3通	2			○			1				兼12	共同
	多職種連携Ⅱ	3前	0.5			○							兼21	共同
	自由選択学習	4前	12					○	47				兼61	共同
	臨床導入実習	4前	8					○	8	12	18	15	兼89	共同
	臨床実習Ⅰ	4後・5通	40					○	32	5	12	9	兼49	共同
	臨床実習Ⅱ	6前	15					○	32	5	12	9	兼49	共同
	包括医療統合教育Ⅰ	5後	1			○		※	1		1		兼2	※演習
	包括医療統合教育Ⅱ	6前	1			○		※	1		1		兼2	※演習
多職種連携Ⅲ	6前	1			○							兼21	共同	
研究実践プログラムⅠ	2通		2		○			11	4	10	23	兼1	共同	
研究実践プログラムⅡ	3通		2		○			11	4	10	23	兼1	共同	
研究実践プログラムⅢ	4通		2		○			11	4	10	23	兼1	共同	
研究実践プログラムⅣ	5通		2		○			11	4	10	23	兼1	共同	
研究実践プログラムⅤ	6通		2		○			11	4	10	23	兼1	共同	
地域医療学習プログラム	1～6通	1					○	4				兼1	共同 地域枠入学学生のみ。その他入学学生は自由科目 実習を含む	
小計（66科目）	—	183～186	0	10	—			48	28	46	50	0	兼447	—

全 学 科 共 通 自 由 科 目	Moral and Political Philosophy for Medicine	1・2・3・4・5・6通			1	○									兼1	
	Biosocial Research Topics	1・2・3・4・5・6通			1	○									兼1	
	Applied Critical Thinking for Health Sciences	1・2・3・4・5・6通			1	○									兼1	
	Fundamentals of Global Health	1・2・3・4・5・6通			1	○									兼1	
	Leadership	1・2・3・4・5・6通			1	○									兼2	共同
	Negotiation	1・2・3・4・5・6通			1	○									兼2	共同
	Design Thinking	1・2・3・4・5・6通			1	○									兼3	共同
	オンライン異文化交流	1・2・3・4・5・6通			1	○									兼2	共同
	ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通			1	○			1	1					兼10	オムニバス方式・共同
	AI実践演習	2通			1		○								兼4	共同
	アントレプレナー教育	2・3・4・5・6通			1	○									兼5	オムニバス方式・共同（一部）
	疫学基礎	1前			1	○			1		1					
	生物統計学基礎	1前			1	○								兼2	共同	
	生物統計学応用Ⅰ	1後			1	○								兼5	オムニバス方式	
	生物統計学応用Ⅱ	1後			1	○								兼5	オムニバス方式	
	臨床試験方法論基礎	1前			1	○								兼1		
	臨床試験方法論応用	1後			1	○								兼2	共同	
	口腔疫学基礎	1前			1	○								兼4	オムニバス方式	
	疫学応用	1後			1	○					1			兼6	オムニバス方式・共同（一部）	
小計（19科目）		－	0	0	19	－			1	1	1	0	0	兼37	－	
合計（139科目）		－	219～222	67	31	－			48	28	46	50	0	兼530	－	
学位又は称号		学士（医学）		学位又は学科の分野				医学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
全学共通科目の必修科目36単位，専門科目の必修科目183単位を修得し，219単位以上修得すること。								1 学年の学期区分				2 学期				
								1 学期の授業期間				15 週				
								1 時限の授業時間				45 分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
（医学部保健衛生学科看護学専攻）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	人文科学・社会科学	人文社会科学概論	1前	2		○								兼2		
		国際地域文化入門	1前	2		○								兼3		
		哲学	1前	2		○								兼1		
		倫理学	1前	2		○								兼1		
		心理学	1前	2		○								兼1		
		宗教学	1前	2		○								兼1		
		芸術	1前	2		○								兼5		
		歴史学	1前	2		○								兼2		
		民俗学	1前	2		○								兼1		
		科学史	1前	2		○								兼1		
		文学	1前	2		○								兼1		
		法学	1前	2		○								兼1		
		政治学	1前	2		○								兼1		
		経済学	1前	2		○								兼1		
		社会学	1前	2		○								兼1		
		社会心理学	1前	2		○								兼1		
		社会思想史	1前	2		○								兼1		
		文化人類学	1前	2		○								兼1		
		Japanese Culture and Society	1前	2		○								兼1		
		グローバル教養科目	1前	2		○								兼3		
		人文社会科学特論	1前	2		○								兼3		
		小計（ 21科目）	—	4	38	0	—		0	0	0	0	0	兼25	—	
	フイジカルウェルビーイング	フィジカルウェルビーイング	1前	2		○								兼4	共同	
		フィットネスマネジメント	1前	2		○								兼4		
		小計（ 2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼5		
	外国語	ドイツ語Ⅰ	1前	2		○								兼2		
		ドイツ語Ⅱ	1前	2		○								兼2		
		フランス語Ⅰ	1前	2		○								兼1		
		フランス語Ⅱ	1前	2		○								兼1		
		中国語Ⅰ	1前	2		○								兼2		
		中国語Ⅱ	1前	2		○								兼2		
		スペイン語Ⅰ	1前	2		○								兼1		
		スペイン語Ⅱ	1前	2		○								兼1		
		日本語Ⅰ	1前	2		○								兼1		
		日本語Ⅱ	1前	2		○								兼1		
		英語Ⅰ	1通	6		○								兼9		
		小計（ 11科目）	—	6	20	0	—		0	0	0	0	0	兼16	—	
	自然科学	統計学	1前	1		○								兼1		
		化学基礎	1前	1		○								兼3		
		生物学基礎	1前	2		○								兼1		
		小計（ 3科目）	—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	兼5		
	実習系	科学基礎実験	1前	1				○						兼7	—	
		小計（ 1科目）	—	1	0	0	—		0	0	0	0	0	兼7		
	自由教育セミナー系	教養選択科目	1通	1		○								兼18		
		教養基礎セミナー	1後	2		○								兼17		
		教養セミナーⅠ	2通	1		○								兼20		
		教養セミナーⅡ	4通	1		○								兼20		
		小計（ 4科目）	—	5	0	0	—		0	0	0	0	0	兼21		
	基礎教育系	グローバル教養総合講座	1前	1.5		○								兼26	共同	
		情報科学	1前	1		○								兼4		
		小計（ 2科目）	—	2.5	0	0	—		0	0	0	0	0	兼27		

専門基礎分野	解剖学	1後	3			○								兼2	オムニバス方式
	生理学	2前	3			○								兼2	オムニバス方式
	生化学	1後	2			○								兼1	
	薬理学Ⅰ	2後	1			○			1					兼1	
	薬理学Ⅱ	2後	1			○			1					兼1	
	病理学	1後	1			○								兼2	オムニバス方式
	微生物学	1後	1			○								兼2	オムニバス方式
	栄養学	1後	1			○								兼1	
	疫学	3前	1			○								兼1	
	病態学	2通	5			○			1	1		1		兼32	オムニバス方式・共同（一部）
	英語Ⅱ	2・3・4通		1～4		○								兼4	共同
	憲法	1～4前		2		○			1			1		兼1	共同
	System-based medical terminologyⅠ	3前	1			○								兼1	
	Nurse-Patient Communication	4前	1			○								兼1	
	IMRAD Format Presentation in English	3,4通		1		○								兼1	
	Diagnostic Procedures in English	4通		1		○								兼1	
	アカデミック・リテラシー	1後	1			○								兼9	共同
	AI・データサイエンスのための数学	1後	2			○								兼4	共同
	医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2			○								兼17	オムニバス方式・共同（一部）
	国際保健看護学Ⅰ	1後	1			○			1					兼1	オムニバス方式
	国際保健看護学Ⅱ	4前	1			○			1					兼3	オムニバス方式
	産業保健学	4前	1			○				1				兼2	オムニバス方式
	看護制度論	1後	1			○			1			2		兼3	オムニバス方式・共同
	保健医療福祉制度論	2後	2			○				1				兼1	オムニバス方式
	健康教育学演習	2前	1			○			1	1		1		兼1	オムニバス方式
	卒業論文Ⅰ	3通	1			○			1					兼2	共同
	卒業論文Ⅱ	3・4通	2			○			7	9	2	7			共同
	実践看護英語Ⅰ	2前		1		○			1	1				兼5	オムニバス方式・共同（一部）
	実践看護英語Ⅱ	3前		1		○			1	1				兼5	オムニバス方式・共同（一部）
	実践看護英語Ⅲ	4前		1		○			1	1				兼5	オムニバス方式・共同（一部）
	国際保健福祉A	1通		1		○			1	3		1			共同
	国際保健福祉B	2通		1		○			1	3		1			共同
	国際保健福祉C	3通		1		○			1	3		1			共同
	国際保健福祉D	4通		1		○			1	3		1			共同
	インディペンデントスタディA	2通		1		○			1						
	インディペンデントスタディB	3通		1		○			1						
	インディペンデントスタディC	4通		1		○			1						
小計（37科目）		—	36	0	15～18	—			7	9	2	8	0	兼92	—
専門科目	基礎看護学	人間の健康と看護	1後	1			○		1			2			
		基礎看護学Ⅰ	2前	1			○		1			2		兼1	共同
		基礎看護学Ⅱ	2通	1			○		1			2			共同
		基礎看護学演習Ⅰ	2前	2				○	1			2		兼2	共同
		基礎看護学演習Ⅱ	2後	1				○	1			2			共同
		基礎看護学実習Ⅰ	1通	1					1			2			共同
		基礎看護学実習Ⅱ	2通	2					1			2			共同
		フィジカルアセスメント	2前	1			○		2	3	1	3			オムニバス方式・共同（一部）
	成人看護学	成人の健康と看護	2前	2			○		1	1		1			オムニバス方式
		成人看護学	2後	2			○		1	1		1		兼4	オムニバス方式
		クリティカルケア看護学	3前	1			○		1	1		1		兼3	オムニバス方式
		成人看護学演習	3前	1				○	1	1		1		兼1	共同
		成人・老年看護学実習Ⅰ	3後	3					1	1		1			共同
	精神看護学	緩和ケア看護学	3前	1			○		1	1	1	1		兼6	オムニバス方式・共同（一部）
		心の健康と看護Ⅰ	2前	2			○			2				兼11	オムニバス方式・共同
		心の健康と看護Ⅱ	2後	1			○			2				兼5	オムニバス方式・共同
		精神看護学演習	3前	1				○		2				兼1	オムニバス方式・共同
	小児看護学	精神看護学実習	3後	2				○		2					共同
		小児の健康と看護	2前	1			○			1		1		兼3	オムニバス方式
		小児看護学Ⅰ	2後	1			○			1		1		兼6	オムニバス方式
		小児看護学Ⅱ	3前	1			○			1		1		兼5	オムニバス方式
		小児看護学演習	3前	1				○		1		1			共同
		小児看護学実習	3後	2				○		1		1			共同

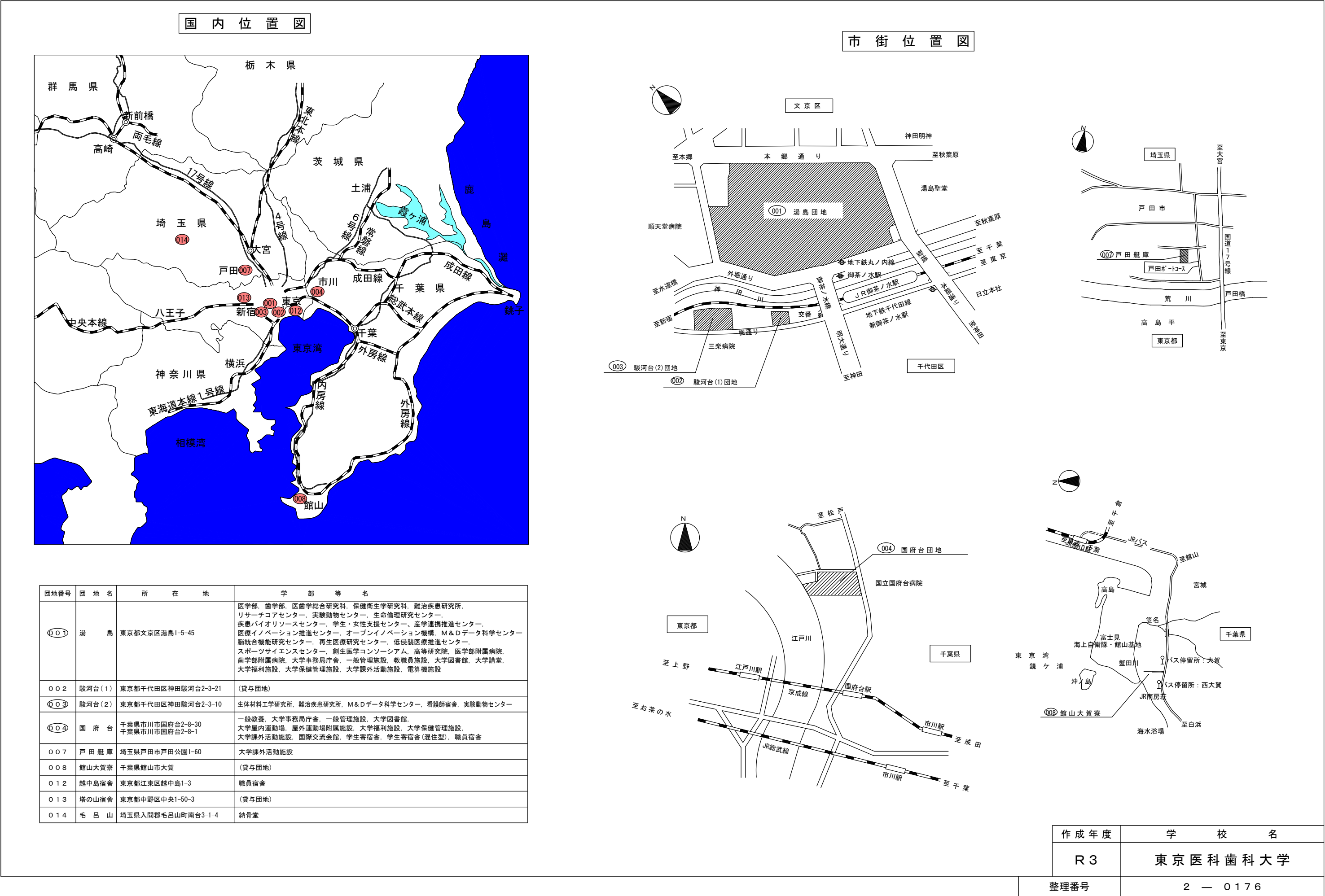
教 育 課 程 等 の 概 要																
(医学部保健衛生学科検査技術学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通科目	人文科学・社会科学	人文社会科学概論	1前	2		○								兼2		
		国際地域文化入門	1前	2		○								兼3		
		哲学	1前	2		○								兼1		
		倫理学	1前	2		○								兼1		
		心理学	1前	2		○								兼1		
		宗教学	1前	2		○								兼1		
		芸術	1前	2		○								兼5		
		歴史学	1前	2		○								兼2		
		民俗学	1前	2		○								兼1		
		科学史	1前	2		○								兼1		
		文学	1前	2		○								兼1		
		法学	1前	2		○								兼1		
		政治学	1前	2		○								兼1		
		経済学	1前	2		○								兼1		
		社会学	1前	2		○								兼1		
		社会心理学	1前	2		○								兼1		
		社会思想史	1前	2		○								兼1		
		文化人類学	1前	2		○								兼1		
		Japanese Culture and Society	1前	2		○								兼1		
		グローバル教養科目	1前	2		○								兼3		
		人文社会科学特論	1前	2		○								兼3		
		小計（ 21科目）	—	4	38	0	—		0	0	0	0	0	兼25	—	
	自由教育講義系	フィジカルウェルビーイング	1前	2		○								兼4	共同	
		フィットネスマネジメント	1前	2		○								兼4		
		小計（ 2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼5		
	外国語	ドイツ語Ⅰ	1前	2		○								兼2		
		ドイツ語Ⅱ	1前	2		○								兼2		
		フランス語Ⅰ	1前	2		○								兼1		
		フランス語Ⅱ	1前	2		○								兼1		
		中国語Ⅰ	1前	2		○								兼2		
		中国語Ⅱ	1前	2		○								兼2		
		スペイン語Ⅰ	1前	2		○								兼1		
		スペイン語Ⅱ	1前	2		○								兼1		
		日本語Ⅰ	1前	2		○								兼1		
		日本語Ⅱ	1前	2		○								兼1		
		英語Ⅰ	1通	6		○								兼9		
		小計（ 11科目）	—	6	20	0	—		0	0	0	0	0	兼16	—	
	自然科学	物理学入門	1前	1		○								兼2		
		生物学入門	1前	1		○								兼4		
		化学入門	1前	1		○								兼3		
		数学Ⅰ	1前	1		○								兼2		
		物理学Ⅰ	1前	1		○								兼2		
		物理学Ⅱ	1前	1		○								兼2		
		統計学	1前	1		○								兼1		
		化学	1前	2		○								兼5		
		生物学	1前	2		○								兼2		
		小計（ 9科目）	—	8	3	0	—		0	0	0	0	0	兼14	—	
	自由教育実習系	自然科学	科学基礎実験	1前	1			○						兼7		
		小計（ 1科目）	—	1	0	0	—		0	0	0	0	0	兼7		
	自由教育セミナー系	共通領域	教養選択科目	1通	1		○							兼18		
		教養基礎セミナー	1後	2		○								兼17		
		教養セミナーⅠ	2通	1		○								兼20		
		教養セミナーⅡ	3通	1		○								兼20		
		小計（ 4科目）	—	5	0	0	—		0	0	0	0	0	兼21		
	基礎教育系	共通領域	グローバル教養総合講座	1前	1.5		○							兼26	共同	
		情報科学	1前	1		○								兼4		
		小計（ 2科目）	—	2.5	0	0	—		0	0	0	0	0	兼27		

専門科目	形態・病態制御学系	人体構造学講義	1通	3			○		1		1	兼1 兼8 兼2	オムニバス方式・共同(一部) 共同 オムニバス方式 オムニバス方式・共同(一部)			
		人体構造学実習	2前	1				○	1		1					
		病理検査学講義(Ⅰ)	1後	1			○				1					
		病理検査学講義(Ⅱ)	2通	3			○				1					
		病理検査学実習	2後	2				○			1					
		血液検査学講義	2後	2			○		1							
		血液検査学実習	3前	2				○	1							
	物質・代謝学系	生化学講義(Ⅰ)	1後	2			○		1			兼1	オムニバス方式・共同(一部) ※講義 オムニバス方式・共同(一部) ※講義 オムニバス方式・共同(一部) ※講義			
		生化学講義(Ⅱ)	2前	1			○		1							
		生化学実習	2後	1				○	1							
		薬理学	2後	2			○									
		分析化学検査学Ⅰ	1後	2			※	○	1		1					
		分析化学検査学Ⅱ	2通	4			※	○	1		1					
		分析化学検査学Ⅲ	3前	3			※	○	1		1					
	機能調節・制御学系	医用システム情報学講義(Ⅰ)	1後	1			○		1			兼1 兼3 兼2	共同 共同 オムニバス方式・共同(一部) 共同 共同 共同 共同 共同 共同			
		医用システム情報学講義(Ⅱ)	3前	1			○		1							
		医用システム情報学実習(Ⅰ)	2前	1				○	1		1					
		医用システム情報学実習(Ⅱ)	3前	1				○	1		1					
		生理学講義	2前	3			○		1		1					
		臨床生理検査学講義(Ⅰ)	2後	2			○		2		2					
		臨床生理検査学講義(Ⅱ)	3前	2			○		2		2					
		生理学実習	2後	1				○	1		1					
		臨床生理検査学実習(Ⅰ)	2後	3				○	2		2					
	病因・病態学系	臨床生理検査学実習(Ⅱ)	3前	2				○	2		2					
		病原体検査学講義(Ⅰ)	1後	1			○		1			兼1 兼3 兼2	オムニバス方式 オムニバス方式 共同 オムニバス方式			
		病原体検査学講義(Ⅱ)	3前	3			○		1							
		病原体検査学実習(Ⅰ)	2後	1				○			1					
病原体検査学実習(Ⅱ)		3前	2				○	1		1						
免疫検査学講義		2後	3			○		1	1							
免疫検査学実習		3前	2				○		1							
遺伝子・染色体検査学講義		2前	2			○			1							
遺伝子検査学実習	3前	1				○		1								
検査管理・社会医学系	臨床検査総合管理学	1後	1.5			○		4	1		1	兼1 兼1	オムニバス方式・共同(一部) 共同 共同 オムニバス方式・共同(一部)			
	医学情報処理演習(Ⅰ)	2後	1				○	1								
	医学情報処理演習(Ⅱ)	4前	1				○	1								
	公衆衛生学講義	4前	2			○			1							
	公衆衛生学実習	4前	1				○		1							
	医療概論・関係法規	4前	1			○		5	2		5					
総合分野	臨床病態学(Ⅰ)	2前	2			○		1			1	兼13 兼10 兼20 兼20 兼20 兼5 兼4 兼5 兼11 兼2 兼1 兼1 兼3 兼4 兼16 兼9 兼9	オムニバス・共同(一部) オムニバス方式 共同 共同 共同 オムニバス方式 共同 共同 共同 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式 オムニバス方式・共同(一部) 共同 共同 共同 共同 共同 オムニバス方式			
	臨床病態学(Ⅱ)	4前	2			○		1			2					
	多職種連携Ⅰ	1前	0.5			○		3	1							
	多職種連携Ⅱ	2前	0.5			○		3	1							
	多職種連携Ⅲ	4前	1			○		3	1							
	総合講義	4通	2			○		1								
	臨地実習	3後	12				○	6	3		7					
	卒業研究(Ⅰ)	3後	1			○		6	3		7					
	卒業研究(Ⅱ)	4前	6			○		6	3		7					
	遺伝学	2・3・4前	1			○										
	生命理工学概論	2・3後	1			○		1								
	生体医工学	3前	2			○										
	分子生物学	2・3・4前	1			○										
	心臓生理学	2・3・4後	1			○										
	アドバンスド生理機能検査学	3・4後	1			○		2		2						
	心電図判読	3・4前	1			○		1		1						
	AI実践演習	2・4通	1				○	1								
	短期海外研修A	1通		1		○			1							
	短期海外研修B	2通		1		○			1							
	短期海外研修C	3通		1		○			1							
短期海外研修D	4通		1		○			1								
外国語	英語Ⅱ	2・3・4通		1～4		○						兼8 兼1 兼1 兼1	共同 共同 共同 オムニバス方式			
	System-based medical terminologyⅠ	3前	1			○										
	Diagnostic Procedures in English	4通	1			○										
	IMRAD Format Presentation in English	3,4通		1		○										
	Learning Medical English	2・3・4後	1			○		1		3						
	小計(68科目)	—	102.5	11～14	5	—		6	3	0	7			0	兼122	—

全学共通自由科目	Moral and Political Philosophy for Medicine	1・2・3・4通			1	○								兼1	
	Biosocial Research Topics	1・2・3・4通			1	○								兼1	
	Applied Critical Thinking for Health Sciences	1・2・3・4通			1	○								兼1	
	Fundamentals of Global Health	1・2・3・4通			1	○								兼1	
	Leadership	1・2・3・4通			1	○								兼2	共同
	Negotiation	1・2・3・4通			1	○								兼2	共同
	Design Thinking	1・2・3・4通			1	○								兼3	共同
	アントレプレナー教育	2・3・4通			1	○								兼5	オムニバス方式・共同（一部）
	ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通			1	○								兼12	オムニバス方式・共同
	オンライン異文化交流	1・2・3・4通			1	○								兼2	共同
	疫学基礎	1前			1	○								兼2	
	生物統計学基礎	1前			1	○								兼2	共同
	生物統計学応用Ⅰ	1後			1	○								兼5	オムニバス方式
	生物統計学応用Ⅱ	1後			1	○								兼5	オムニバス方式
	臨床試験方法論基礎	1前			1	○								兼1	
	臨床試験方法論応用	1後			1	○								兼2	共同
	口腔疫学基礎	1前			1	○								兼4	オムニバス方式
	疫学応用	1後			1	○								兼7	オムニバス方式・共同（一部）
小計（18科目）		—	0	0	18	—		0	0	0	0	0	0	兼37	—
合計（136科目）		—	129	76～79	23	—		6	3	0	7	0	0	兼208	
学位又は称号		学士（保健学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）							
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
全学共通科目33.5単位、専門科目102.5単位、選択科目6単位以上を修得し、142単位以上修得すること。 なお、選択科目のうち2単位以上は4年次に修得すること。また、2単位以上は外国語科目を修得すること。 四大学連合複合領域 コース開講科目は、東京工業大学又は一橋大学が開講する授業科目の単位を修得した場合、4単位を上限として単位を修得したものとみなす。					1 学年の学期区分				2 学期						
					1 学期の授業期間				1 5 週						
					1 時限の授業時間				4 5 分						

国立大学法人等施設実態報告（様式2）

案 内 図



湯島キャンパス・駿河台キャンパス

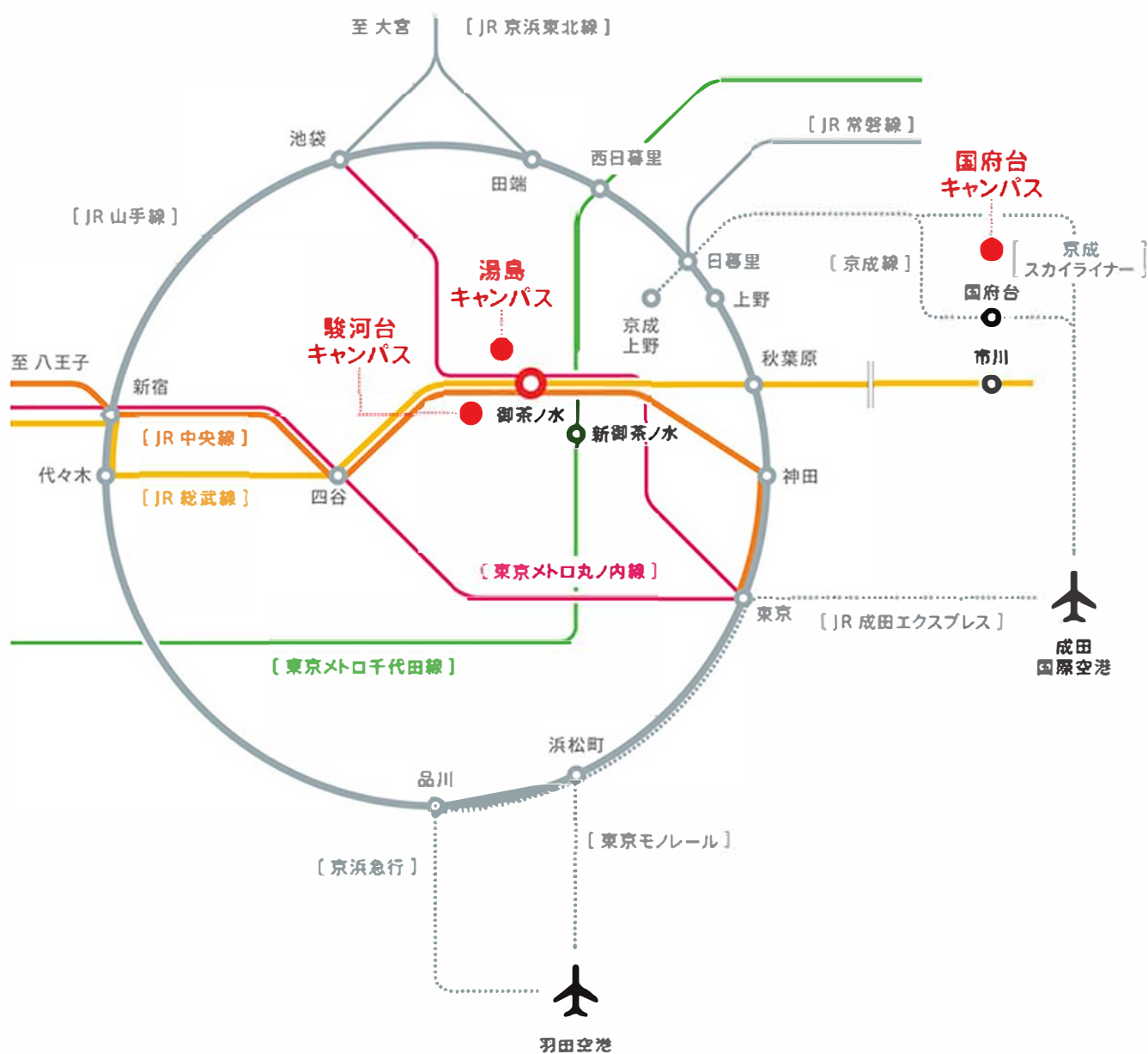
Yushima and Surugadai Campuses

- ・ JR御茶ノ水駅下車…徒歩2分（110m）
- ・ 東京メトロ丸ノ内線御茶ノ水駅下車…徒歩1分（38m）
- ・ 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅下車…徒歩7分（600m）

国府台キャンパス

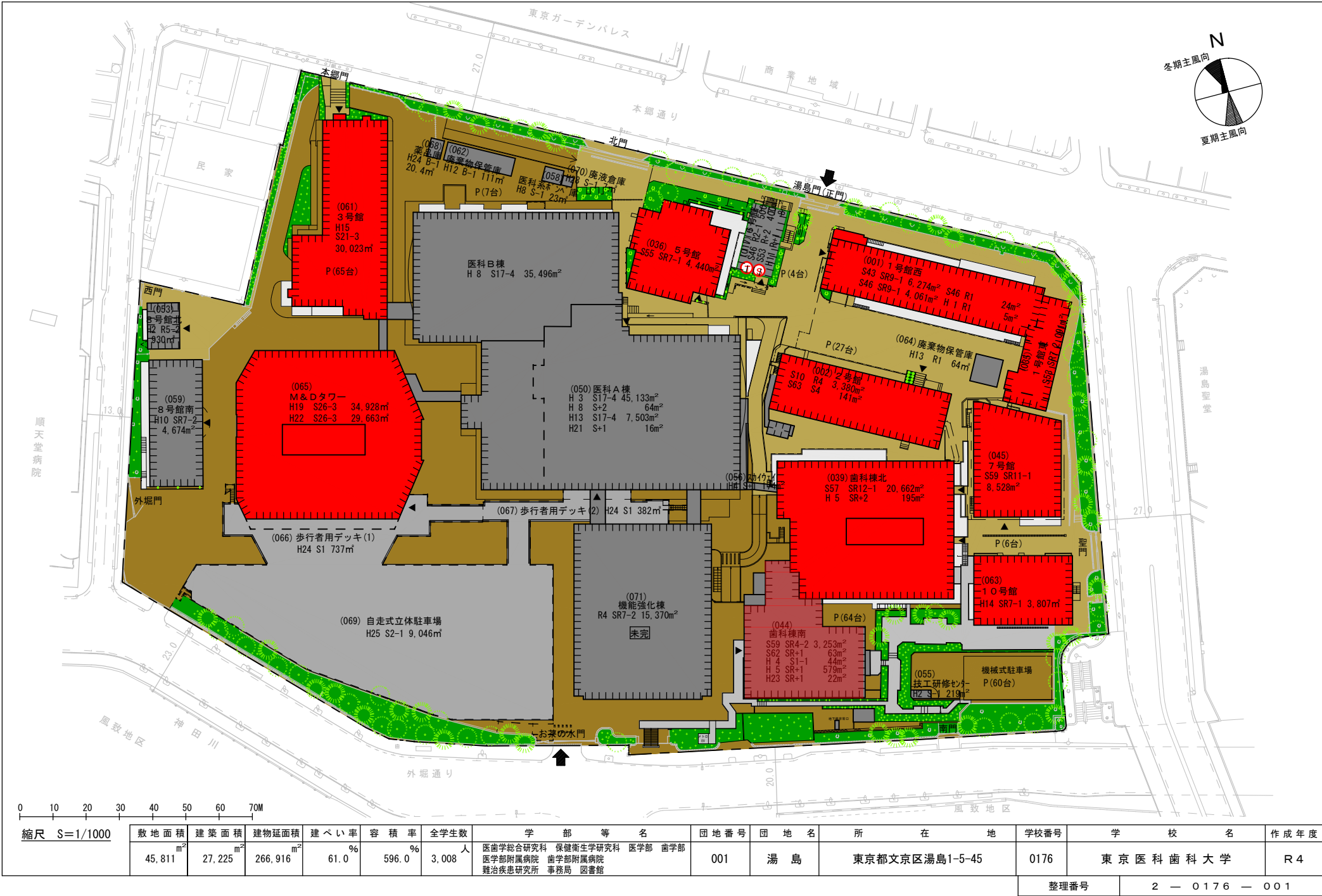
Kounodai Campus

- ・ 京成線国府台駅下車…徒歩15分（1.2Km）
- ・ JR市川駅下車
- ・ 国府台病院バス停…徒歩2分（140m）
（北口、バス一番乗場11系統松戸駅〈松戸車庫〉行き10分）



配置図

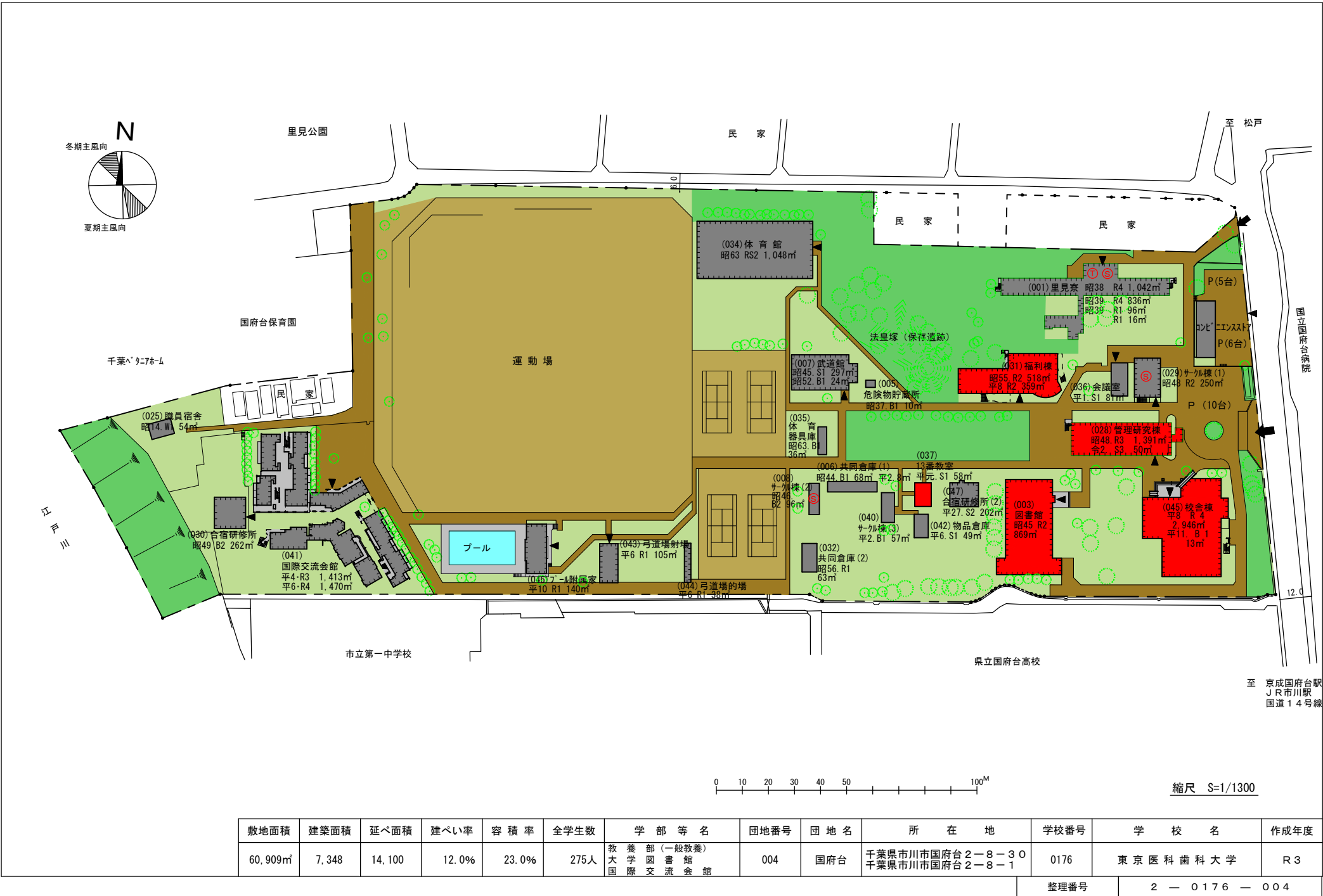
国立大学等施設実態報告（様式2）



一図面-4-

配 置 図

国立大学法人等施設実態報告（様式2）



○東京科学大学（仮称）学則（案）

目次

- 第1章 総則（第1条—第10条）
- 第2章 入学，再入学，転入学及び編入学（第11条—第18条）
- 第3章 休学，留学，退学，転学並びに転学院及び転系（第19条—第24条）
- 第4章 授業科目，単位数及び履修方法等（第25条—第28条）
- 第5章 履修の認定及び学位等（第29条—第36条）
- 第6章 入学料及び授業料（第37条—第43条）
- 第7章 表彰及び懲戒並びに除籍（第44条—第46条）
- 第8章 科目等履修生等（第47条—第51条）
- 第9章 寄宿舍（第52条）

附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この学則は，学校教育法（昭和22年法律第26号。以下「学教法」という。）第85条及び国立大学法人東京科学大学（仮称）組織運営規則（令和 年規則第 号。次条において「組織運営規則」という。）第 条第 項に基づき東京科学大学（仮称）（以下「本学」という。）に置く学院及び学部の修業年限，教育課程その他の学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

（学院及び学部）

第2条 本学に置く学院並びに学部及び学部に置く学科は，次のとおりとする。

理学院

工学院

物質理工学院

情報理工学院

生命理工学院

環境・社会理工学院

医学部

医学科

保健衛生学科

歯学部

歯学科

口腔保健学科

2 前項に規定する学院並びに学部及び学部に置く学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的及び位置は，組織運営規則第 条第 項の定めるところによる。

（学院及び学部の入学定員及び収容定員並びに系等）

第3条 学院及び学部の入学定員及び収容定員は，別表1のとおりとする。

2 学院に，教育上の目的に応じて，専門教育実施の基本的な単位として系を置く。

3 学部に置く学科に，専攻を置く。

4 前2項の系及び専攻は，別表1のとおりとする。

5 前各項のほか、本学に、医学部及び歯学部の教養教育実施の基本的な単位として教養部を置く。

6 学修の課程については、別に定める。

(系への所属)

第4条 本学の学院に入学した1年次相当の学生に係る修学指導等については、各学院において行うこととし、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した学生は、前条第2項に規定する学院に置く系に所属するものとする。

(修業年限)

第5条 修業年限は、医学部医学科及び歯学部歯学科を除き、4年とする。

2 医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は、6年とする。

3 前2項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の修業年限は、過去に本学又は他の大学において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(在学年限)

第6条 在学年限は、医学部医学科及び歯学部歯学科を除き、8年とする。

2 医学部医学科及び歯学部歯学科の在学年限は、10年とする。

3 前2項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の在学年限は、過去に本学又は他の大学において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(学年)

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を、次の区分のとおり2学期に分ける。

前期 4月1日から毎年度において学長が定める9月中の日まで

後期 前期最終日の翌日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期を、前半及び後半に分けることができるものとする。

(休業日)

第9条 学生の休業日は、次に掲げるとおりとする。

一 日曜日

二 土曜日

三 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

四 創立記念日（月 日）

五 春期休業日、夏期休業日及び冬期休業日

2 前項の規定にかかわらず、教育上必要がある場合には、休業日に授業を行うことができる。

3 第1項第5号の期間は、その都度、学長が別に定める。

4 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

(教授会の審議及び学長の決定事項)

第10条 入学、卒業、学位の授与その他学生の在籍に関する事項及び教育課程の編成に関する事項は、学院、学部又は教養部の教授会の議を経て、学長が決

定する。

第2章 入学，再入学，転入学及び編入学

(入学資格)

第11条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 六 文部科学大臣の指定した者(昭和23年文部省告示第47号)
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- 八 学教法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- 九 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の時期)

第12条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、第16条第4項に規定する者については、学期の始めとすることがある。

(入学志願の手続き)

第13条 入学志願者は、入学願書に所定の書類と別に定める検定料を添えて、願い出なければならない。

- 2 前項の検定料は、別に定めるところにより、免除することがある。
- 3 一度納付した検定料は、別に定めがある場合を除き返還しない。
- 4 入学志願の時期は、その都度決定して公告する。

(入学者選考)

第14条 入学志願者に対しては、学力その他に基づき選考の上、入学者を決定する。

- 2 前項の入学者選考の方法、期日等については、その都度決定して公告する。
- 3 前2項のほか、入学者選考に関し必要な事項は別に定める。

(再入学)

第15条 本学を卒業した者又は第21条若しくは第22条の規定により退学し

た者が再び入学を願い出たときは、前条の規定にかかわらず、収容定員に余裕がある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

- 2 四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修する者（以下「複合領域コース履修者」という。）が第 22 条の規定により退学し、協定大学に編入学した後再び入学を願い出て入学を許可された場合は、学院へ再び入学する場合は 3 年次相当に、医学部医学科又は歯学部歯学科へ再び入学する場合は退学時の在籍学科の在籍年次以上に入学する。

- 3 前 2 項のほか、再入学に関し必要な事項は別に定める。

（転入学）

第 16 条 他の大学に在学している者で、本学に転入学を願い出る者があるときは、収容定員に余裕がある場合に限り、学力その他に基づき選考の上、入学を許可することがある。

- 2 前項の規定により、次の各号に掲げる学院等に転入学を願い出ることができる者は、当該各号に掲げる大学等に在学する者とする。

- 一 学院 国内の他の大学又は本学と協定を締結している外国の大学
- 二 医学部医学科 国内の他の大学の医学部医学科
- 三 歯学部歯学科 国内の他の大学の歯学部歯学科
- 四 医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科 国内の他の大学又は短期大学及び外国の大学又は短期大学

- 3 協定大学に 2 年以上在学する複合領域コース履修者（第 22 条により退学した者を除く。）が本学の学院に転入学を願い出て選考の上、入学を許可された場合は 3 年次相当に、医学部保健衛生学科に転入学を願い出て選考の上、入学を許可された場合は 2 年次に入学する。

- 4 本学と協定を締結している外国の大学に 2 年以上在学する外国人が本学の学院に転入学を願い出て入学を許可された場合は、3 年次相当に入学する。

- 5 前各項のほか、転入学に関し必要な事項は別に定める。

（編入学）

第 17 条 高等専門学校又は短期大学を卒業した者で、本学の学院に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

- 2 大学の医学部医学科を卒業した者で本学の歯学部歯学科に、大学の歯学部歯学科を卒業した者で本学の医学部医学科に編入学を願い出た者があるときは、欠員がある場合に限り、学力その他に基づき選考の上、入学を許可することがある。

- 3 次の各号のいずれかに該当する者で、本学の医学部医学科の 2 年次に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

- 一 大学を卒業した者（医学を履修する課程を卒業した者を除く。）
- 二 学教法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者（学校教育における 15 年の課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得したと本学において認めた者を含む。）

4 次の各号のいずれかに該当する者で、本学の歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の2年次に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

一 高等専門学校又は短期大学を卒業した者

二 大学を卒業した者

三 歯科技工士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

5 前各項のほか、編入学に関し必要な事項は別に定める。

(誓約書)

第18条 入学を許可された者は、所定の誓約書を提出し、これに記載された事項を守らなければならない。

第3章 休学、留学、退学、転学並びに転学院及び転系

(休学)

第19条 傷病その他やむをえない理由のため一定期間以上学修することができないときは、許可を受けて休学することができる。

2 傷病のため学修することが不相当と認められる学生及び行方不明の学生に対しては、休学を命ずることがある。

3 休学した期間は、在学期間に算入しない。

4 休学に関し必要な事項は、別に定める。

(留学)

第20条 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関等に留学しようとするときは、願い出て留学することができる。

2 留学した期間は、在学期間に算入する。

3 留学に関し必要な事項は、別に定める。

(願いによる退学)

第21条 傷病その他やむをえない事情があるときは、願い出て退学することができる。

(協定大学編入学のための退学)

第22条 複合領域コース履修者が協定大学に編入学するときは、願い出て退学するものとする。

(転学)

第23条 他の大学に転学しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

(転学院及び転系)

第24条 学院に所属する者のうち、転学院又は転系を志願する者については、別に定めるところにより、許可することがある。

第4章 授業科目、単位数及び履修方法等

(授業科目、単位数及び履修方法等)

第25条 教育上の目的を達成するために必要な授業科目、単位数及び履修方法等については、別に定める。

(授業の方法)

第26条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第1項の授業の一部を、本学の校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

5 前各項に定めるもののほか、授業の方法に関し必要な事項は、別に定める。
(成績評価基準等の明示等)

第27条 本学においては、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学においては、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第28条 本学においては、学生に対する教育の充実を図るため、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第5章 履修の認定及び学位等

(授業科目の履修の認定)

第29条 授業科目の履修の認定については、別に定める。

(他の大学における授業科目の履修等)

第30条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が他の大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項の規定は、学生が、第19条の規定により休学し、当該休学期間中に外国の大学において授業科目を履修する場合、第20条の規定により外国の大学に留学する場合、外国の大学等が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学等の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(入学前の既修得単位の認定)

第31条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条第1項に規定する科目等履修生及び同条第2項に規定する特別の課程履修生として修得した単位を含む。)を、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

る。

- 2 前項の規定により認定することができる単位数は、編入学及び転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、前条第1項（同条第2項において準用する場合を含む。）の規定により本学において修得したものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（卒業）

- 第32条 第5条に規定する修業年限以上在学し、所定の授業科目を履修し、次の区分により定める単位数以上を修得した者については、卒業を認める。

学院／学部・学科・専攻			卒業に必要な単位数
学院			各学院が定める124単位以上の単位数以上
医学部	医学科		219単位以上
	保健衛生学科	看護学専攻	130.5単位以上
		検査技術学専攻	142単位以上
歯学部	歯学科		199単位以上
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	128単位以上
		口腔保健工学専攻	129単位以上

- 2 前項に規定する単位数には、各学院又は学部が別に定める科目の単位数を含まなければならない。
- 3 第1項の規定による卒業に必要な単位数のうち、第26条第2項に規定する授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、卒業要件となる単位数が124単位を超える学院又は学部にあつては、その超える単位数を60単位に加えて卒業要件として認定することができる。

（早期卒業）

- 第33条 本学の学院に3年以上在学（学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第149条の規定に該当する者を含む。）し、所定の授業科目を履修し、前条第1項に規定する各学院の定める124単位以上の単位数以上を優秀な成績をもって修得したと認められる者については、第5条及び前条第1項の修業年限に係る規定にかかわらず、卒業を認めることができる。

- 2 前項に規定する単位数には、各学院が別に定める科目の単位数を含まなければならない。
- 3 第1項の規定による卒業に必要な単位数のうち、第26条第2項に規定する授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、卒業要件となる単位数が124単位を超える学院にあつては、その超える単位数を60単位に加えて卒業要件として認定することができる。

- 4 第1項の早期卒業に関する事項は、別に定める。

（学位）

第 3 4 条 前 2 条の規定により、卒業を認められた者に対し、次の区分により学位を授与する。

学院／学部・学科・専攻			授与する学位（専攻分野）
理学院			学士（理学）
工学院			学士（工学）
物質理工学院			学士（理学）又は学士（工学）
情報理工学院			学士（理学）又は学士（工学）
生命理工学院			学士（理学）又は学士（工学）
環境・社会理工学院			学士（工学）
医学部	医学科		学士（医学）
	保健衛生学科	看護学専攻	学士（看護学）
		検査技術学専攻	学士（保健学）
歯学部	歯学科		学士（歯学）
	口腔保健学科		学士（口腔保健学）

（学位の授与）

第 3 5 条 学位の授与については、別に定める東京科学大学（仮称）学位規程（令和 年規程第号）による。

（教育職員免許状）

第 3 6 条 学院において教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は、別表 2 のとおりとする。

第 6 章 入学料及び授業料

（入学料）

第 3 7 条 入学、再入学、転入学及び編入学の選考に合格した者で入学のため所要の手続きをとろうとする者は、所定の期日までに別に定める入学料を納付しなければならない。ただし、第 42 条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請した者については、免除又は徴収猶予を許可し、又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

2 前項の規定にかかわらず、第 22 条の規定により退学した複合領域コース履修者が協定大学に編入学した後、再入学する場合は、入学料は徴収しないものとする。

（授業料）

第 3 8 条 授業料の額は、別に定めるところによるものとし、各年度に係る授業料について、次の区分で納付しなければならない。この場合において、それぞ

れの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

納付区分	納期
前期分	5月31日まで
後期分	11月30日まで

2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期分の授業料を徴収するときに、当該年度の後期分の授業料を併せて徴収するものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、医学部及び歯学部の入학을許可される者の申出があったときは、入学年度の前期又は前期及び後期の授業料を、入学を許可するときに併せて徴収するものとする。

(既納の入学料及び授業料)

第39条 一度納付した入学料及び授業料は返還しない。

(休学者及び復学者の授業料)

第40条 学生が休学を許可され、又は命ぜられ、次の各号のいずれかに該当する場合は、月割（前期の最終月は9月1日から前期の最終日まで、後期の初月は後期の開始日から10月末日までとみなす。以下同じ。）により、休学当月の翌月（休学の開始日が月の初日である場合にあっては、休学当月）から復学当月の前月までの授業料を免除する。

一 第38条第1項に規定する授業料の納期までに休学を願い出た場合

二 第42条の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合

2 前項の規定により、授業料の免除を受けた学生が、第38条第1項に規定する授業料の納期より後に復学した場合にあっては、復学当月から当該学期末までに係る授業料を、直ちに納付しなければならない。

(退学者等の授業料)

第41条 退学又は除籍の場合であっても、その学期に属する分の授業料は、納付しなければならない。ただし、学生が退学を許可され、次の各号のいずれかに該当する場合は、月割により、退学当月の翌月以降の授業料を免除する。

一 第38条第1項に規定する授業料の納期までに退学を願い出た場合

二 次条の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合

2 停学を命ぜられた場合であっても、その期間中の授業料は、納付しなければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、第46条第7号に規定する死亡による除籍となった者の除籍日の属する学期の未納の授業料は全額を免除することがある。

(入学料及び授業料の免除又は徴収猶予)

第42条 入学料及び授業料は、別に定める基準により、免除又は徴収猶予することができる。

(授業料返還の特例)

第43条 第39条の規定にかかわらず、第38条第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により、当該授業料に相当する額を返還する。

- 2 第 39 条の規定にかかわらず、授業料を納付した者において、当該授業料に係る期間に、休学した者については、月割により、休学当月の翌月（休学の開始日が月の初日である場合にあっては休学当月）から復学当月の前月までの授業料を、卒業、退学又は除籍により在籍しなくなった者については、月割により、卒業日、退学日又は除籍日の属する月の翌月以降の授業料を返還する。

第 7 章 表彰及び懲戒並びに除籍

（表彰）

第 4 4 条 学生に表彰に値する行為があったときは、表彰することがある。

- 2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

（懲戒）

第 4 5 条 学生が法令若しくは本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為を行ったときは懲戒する。

- 2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

- 3 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

（除籍）

第 4 6 条 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

- 一 学力劣等で成業の見込みがないと認められるとき。
- 二 在学期間が第 6 条に規定する年数を超えるとき。
- 三 休学期間が第 19 条第 4 項に基づき別に定める期間を超えるとき。
- 四 入学料の免除若しくは徴収猶予を許可されなかった者又は半額免除若しくは徴収猶予を許可された者が、納付すべき入学料を所定の期日までに納付しなかったとき。
- 五 授業料の納付を怠り、督促しても、なお、納付しなかったとき。
- 六 第 19 条第 2 項の規定により休学を命ぜられた行方不明の学生が、別に定める休学期間を経過しても復学できないとき。
- 七 死亡となったとき。

第 8 章 科目等履修生等

（科目等履修生）

第 4 7 条 本学の学生以外の者で、本学が開設する授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修することを願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

（特別聴講学生）

第 4 8 条 他の大学との協定に基づき、国内の他の大学の学生で本学が開設する授業科目を履修することを願い出る者があるときは、特別聴講学生として入学を許可することがある。

- 2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

（海外交流学生）

第 4 9 条 本学と外国の大学との学術交流協定等に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生から志願がある場合に

は、海外交流学生として、入学を許可することがある。

2 海外交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

(海外訪問学生)

第50条 本学と外国の大学との相互了解に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生から志願がある場合には、本学において教育研究上有益と認められ、支障のない場合に限り、海外訪問学生として入学を許可することがある。

2 海外訪問学生に関し必要な事項は、別に定める。

(短期交流学生)

第51条 本学の教員の下で特定の事項について短期の教育研究指導又は研修を受けることについて、国内の他の大学等の学生から志願がある場合には、本学において教育研究上有益と認められ、支障のない場合に限り、短期交流学生として、受入を許可することがある。

2 短期交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 寄宿舍

(寄宿舍)

第52条 本学に、寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この学則は、令和6年10月1日から施行する。

2 第2条第1項に定めるもののほか、本学に、次の学部及び学科（以下「旧学部等」という。）を置く。

理学部	数学科
	物理学科
	地球惑星科学科
工学部	化学工学科
	電気電子工学科
	情報工学科
	土木・環境工学科
生命理工学部	生命科学科

3 旧学部等は、この学則の施行の日（以下「施行日」という。）前に東京工業大学に入学し、施行日において引き続き当該学部等に在学する者が当該学部等に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

別表1（第3条関係）

学院・学部	系・学科	専攻	入学定員 人	編入学定員 人	収容定員 人
理学院	数学系	—	151		604

	物理学系 化学系 地球惑星科学系				
計			151		604
工学院	機械系 システム制御系 電気電子系 情報通信系 経営工学系	—	358		1,432
	(第3年次相当編入 学定員)			9	18
計			358	9	1,450
物質理工学院	材料系 応用化学系	—	183		732
	(第3年次相当編入 学定員)			5	10
計			183	5	742
情報理工学院	数理・計算科学系 情報工学系	—	92		368
	(第3年次相当編入 学定員)			2	4
計			92	2	372
生命理工学院	生命理工学系	—	150		600
	(第3年次相当編入 学定員)			10	20
計			150	10	620
環境・社会 理工学院	建築学系 土木・環境工学系 融合理工学系	—	134		536
	(第3年次相当編入 学定員)			4	8
計			134	4	544
学院計			1,068	30	4,332

医学部	医学科	—	85		510
	(第2年次編入学定員)			5	25
	保健衛生学科	看護学専攻	55		220
		検査技術学専攻	35		140
計			175	5	895
歯学部	歯学科	—	53		318
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	22		88
		口腔保健工学専攻	10		40
		(第2年次編入学定員)		5	15
計			85	5	461
学部計			260	10	1,356
合計			1,328	40	5,688

別表2 (第36条関係)

学院	免許状の種類	免許教科
理学院	中学校教諭一種免許状	数学, 理科
	高等学校教諭一種免許状	数学, 理科
工学院	高等学校教諭一種免許状	情報, 工業
物質理工学院	中学校教諭一種免許状	理科
	高等学校教諭一種免許状	理科, 工業
情報理工学院	中学校教諭一種免許状	数学
	高等学校教諭一種免許状	数学, 情報
生命理工学院	中学校教諭一種免許状	理科
	高等学校教諭一種免許状	理科
環境・社会理工学院	高等学校教諭一種免許状	工業

○東京科学大学（仮称）大学院学則（案）

目次

- 第1章 総則（第1条—第12条）
- 第2章 入学，進学，再入学，転入学及び編入学（第13条—第24条）
- 第3章 休学，留学，退学，転学並びに転学院及び転系等（第25条—第30条）
- 第4章 授業科目，単位数及び履修方法等（第31条—第38条）
- 第5章 履修の認定及び学位等（第39条—第49条）
- 第6章 入学料及び授業料（第50条—第56条）
- 第7章 表彰及び懲戒並びに除籍（第57条—第59条）
- 第8章 科目等履修生等（第60条—第66条）
- 第9章 寄宿舍（第67条）
- 第10章 国際連携専攻（第68条—第73条）

附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この学則は，学校教育法（昭和22年法律第26号。以下「学教法」という。）第100条及び国立大学法人東京科学大学（仮称）組織運営規則（令和 年規則第 号。次条において「組織運営規則」という。）第 条第 項に基づき東京科学大学（仮称）（以下「本学」という。）大学院（以下「本学大学院」という。）に置く学院及び研究科の標準修業年限，教育課程その他の学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

（学院及び研究科）

第2条 本学大学院に置く学院及び研究科は，次のとおりとする。

理学院

工学院

物質理工学院

情報理工学院

生命理工学院

環境・社会理工学院

医歯学総合研究科

保健衛生学研究科

2 前項に規定する学院及び研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的及び位置は，組織運営規則第 条第 項の定めるところによる。

（課程）

第3条 本学大学院に，次の課程を置く。

一 修士課程

二 博士課程

三 専門職学位課程（学教法第99条第2項に規定する専門職大学院の課程をいう。以下同じ。）

2 前項第2号の博士課程の種類は，次のとおりとする。

- 一 前期 2 年の課程及び後期 3 年の課程に区分するもの（以下「区分制博士課程」という。）
 - 二 前期及び後期の区分を設けないもの（次号を除く。以下「一貫制博士課程」という。）
 - 三 大学院設置基準（昭和 49 年文部省令第 28 号。）第 44 条に規定する医学又は歯学を履修するもの（以下「医学又は歯学を履修する博士課程」という。）
 - 四 後期の課程のみのもの（以下「後期 3 年博士課程」という。）
- 3 前項第 1 号に規定する前期 2 年の課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。
 - 4 第 2 項第 1 号に規定する後期 3 年の課程は、「博士後期課程」という。
（入学定員及び収容定員並びに系，コース及び専攻）
- 第 4 条 本学大学院の入学定員及び収容定員は，別表 1 のとおりとする。
- 2 学院に，教育上の目的に応じて，専門教育実施の基本的な単位として系を置く。
 - 3 前項の系のほか，環境・社会理工学院に，イノベーション創出のリーダーとして科学技術を活用し，自ら理論を構築して産業や社会の発展に貢献する実務家を養成するため，技術経営専門職学位課程（前条第 1 号第 3 項に規定する専門職学位課程として置かれるものをいう。以下同じ。）を置く。
 - 4 第 2 項の系に，教育プログラムとしてコースを置く。
 - 5 前項に規定するコースのうち，新たに社会が求める学術分野の人材を育成するために設けられた複数の学問領域からなる学際的教育プログラムとしてのコース（以下第 12 条第 2 項，別表 1 (1) 及び別表 2 (1) の 1 において「複合系コース」という。）は，複数の系に跨って置くことができる。
 - 6 研究科に，専門分野の教育研究を行うため，専攻を置く。
 - 7 前項の専攻のうち、医歯学総合研究科修士課程医歯理工保健学専攻に教育研究分野を置き、医歯学総合研究科博士課程及び保健衛生学研究科看護先進科学専攻の講座に教育研究分野を置く。
 - 8 第 6 項の専攻には，大学院設置基準第 35 条に定める国際連携専攻を含むものとする。
 - 9 学院に置く第 2 項から第 5 項までの系及びコース並びに技術経営専門職学位課程並びに研究科に置く前 2 項の専攻は，別表 1 のとおりとする。
 - 10 医歯学総合研究科医歯理工保健学専攻に，医療管理政策学コース及びグローバルヘルスリーダー養成コースを置く。
 - 11 前項の医療管理政策学コースは，これを次のコースに区分するものとする。
 - 一 医療管理学コース
 - 二 医療政策学コース（課程の目的）
- 第 5 条 修士課程（区分制博士課程にあつては第 3 条第 2 項第 1 号に規定する前期 2 年の課程をいう。以下同じ。）は，広い視野に立って精深な学識を授け，専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が要求される職業

を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

- 2 博士課程（区分制博士課程にあっては博士後期課程をいう。）は、専攻分野について、独創的研究によって従来の学術水準に新しい知見を加えるとともに、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- 3 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

（標準修業年限等）

第 6 条 本学大学院の標準修業年限は、次のとおりとする。

学院・研究科	課程	専攻・コース	標準修業年限
学院	区分制	—	5 年
	博士課程	修士課程	2 年
		博士後期課程	3 年
	専門職学位課程	—	2 年
医歯学総合研究科	修士課程	医歯理工保健学専攻	2 年
		医療管理政策学コース	—
		医療管理学コース	1 年
		医療政策学コース	2 年
		グローバルヘルスリーダー養成コース	2 年
	医学又は歯学を履修する博士課程	医歯学専攻	4 年
		東京科学大学（仮称）・チリ大学国際連携医学系専攻	5 年
		東京科学大学（仮称）・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻	5 年
		東京科学大学（仮称）・マヒドン大学国際連携医学系専攻	4 年
	後期 3 年博士課程	生命理工医療科学専攻	3 年
保健衛生学研究科	一貫制博士課程	看護先進科学専攻	5 年

- 2 前項の規定にかかわらず、第 38 条第 3 項に規定する清華大学との大学院合同プログラムを履修する者の標準修業年限は、2 年 6 月とする。
- 3 第 1 項の規定にかかわらず、専門職学位課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、かつ、昼間と併せて夜間その

他特定の時間又は時期において授業を行う等の適切な方法により教育上支障を生じない場合は、その標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。

- 4 前3項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の標準修業年限は、過去に本学大学院又は他の大学の大学院において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(標準修業年限を超える期間にわたる教育課程の履修)

第7条 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、当該学院及び研究科において支障のない場合に限り、その計画的な履修(次項において「長期履修」という。)を認めることがある。

- 2 前項のほか、長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

(在学年限)

第8条 在学期間は、標準修業年限の2倍までとすることができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、東京科学大学(仮称)・チリ大学国際連携医学系専攻については、在学期間を6年まで延長することができる。

- 3 第1項の規定にかかわらず東京科学大学(仮称)・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻については、在学期間を8年まで延長することができる。

- 4 前各項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の在学年限は、過去に本学大学院又は他の大学の大学院において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(学年)

第9条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から毎年度において学長が定める9月中の日まで

後期 前期最終日の翌日から翌年3月31日まで

- 2 前項に定める各学期を、前半及び後半に分けることができるものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、学長は本学大学院において必要と認めるときは、各学期の始期及び終期を変更することができる。

(休業日)

第11条 学生の休業日は、次に掲げるとおりとする。

一 日曜日

二 土曜日

三 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

四 創立記念日(月 日)

五 春期休業日、夏期休業日及び冬期休業日

- 2 前項の規定にかかわらず、教育上必要がある場合には、休業日に授業を行うことができる。
- 3 第1項第5号の期間は、その都度、学長が別に定める。

4 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。
(教授会又は研究科委員会の審議及び学長の決定事項)

第12条 入学、修了、学位の授与その他学生の在籍に関する事項及び教育課程の編成に関する事項は、学院の教授会又は研究科の研究科委員会の議を経て、学長が決定する。

2 前項の規定にかかわらず、複合系コースを選択する学生に係る入学、修了、学位の授与その他学生の在籍に関する事項については、当該学生の所属する学院の教授会の議を経て、学長が決定する。

第2章 入学、進学、再入学、転入学及び編入学

(修士課程、専門職学位課程及び一貫制博士課程の入学資格)

第13条 修士課程、専門職学位課程及び一貫制博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 学教法第83条に規定する大学(以下第10号及び第11号において同じ。)を卒業した者

二 学教法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者

三 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

四 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

五 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

六 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

七 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

八 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)

九 学教法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

十 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

十一 大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績

をもって修得したものと認めた者

十二 外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

十三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

十四 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

（博士後期課程及び後期 3 年博士課程の入学資格）

第 14 条 博士後期課程及び後期 3 年博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 修士の学位又は専門職学位を有する者

二 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

四 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

五 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和 51 年法律第 72 号）第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

六 外国の学校、第 4 号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

七 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）

八 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達した者（医学又は歯学を履修する博士課程医歯学専攻の入学資格）

第 15 条 医学又は歯学を履修する博士課程医歯学専攻（以下「博士課程医歯学専攻」という。）に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 大学の医学、歯学、薬学又は獣医学（修業年限が 6 年のものに限る。）を履修する課程を卒業した者

二 外国において、学校教育における 18 年の課程（最終の課程は医学、歯学、

薬学又は獣医学)を修了した者

三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程は医学, 歯学, 薬学又は獣医学)を修了した者

四 我が国において, 外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程は, 医学, 歯学, 薬学又は獣医学)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって, 文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

五 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について, 当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において, 修業年限が5年以上である課程(最終の課程は, 医学, 歯学, 薬学又は獣医学)を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設(前号の指定を受けたものに限る。)において課程を修了することを含む。)により, 学士の学位に相当する学位を授与された者

六 文部科学大臣の指定した者(昭和30年文部省告示第39号)

七 学教法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって, 当該者を本学大学院において大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

八 本学大学院において, 個別の入学資格審査により, 大学(医学, 歯学, 薬学(修業年限が6年のものに限る。))又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で, 24歳に達した者

九 大学(医学, 歯学, 薬学(修業年限が6年のものに限る。))又は獣医学)に4年以上在学し, 本学大学院において, 所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

十 外国において学校教育における16年の課程(最終の課程は医学, 歯学, 薬学又は獣医学)を修了し, 本学大学院において, 所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

十一 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程(最終の課程は医学, 歯学, 薬学又は獣医学)を修了し, 本学大学院において, 所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

十二 我が国において, 外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程(最終の課程は, 医学, 歯学, 薬学又は獣医学)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって, 文部科学大臣が別に指定するもの

の当該課程を修了し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(医学又は歯学を履修する博士課程国際連携専攻の入学資格)

第16条 医学又は歯学を履修する博士課程国際連携専攻(以下「博士課程国際連携専攻」という。)に入学することのできる者は、前条各号のいずれかに該当し、かつ共同で教育課程を編成した外国の大学院(以下「国際連携大学」という。)の入学資格を満たす者とする。

(進学)

第17条 学院の修士課程又は専門職学位課程を修了して、引き続き学院の博士後期課程に進学(志願する学院又は系が、修士課程又は専門職学位課程における学院又は系若しくは技術経営専門職学位課程と異なる場合も含む。)することを願い出た者に対しては、選考の上、進学を許可する。

2 研究科の修士課程を修了して、引き続き研究科の医学又は歯学を履修する博士課程又は後期3年博士課程に進学することを願い出た者に対しては、選考の上、進学を許可する。

(入学の時期)

第18条 入学の時期は、学期の始めとする。

(入学志願の手続き)

第19条 入学志願者は、入学願書に所定の書類と別に定める検定料を添えて、願い出なければならない。

2 前項の検定料は、別に定めるところにより、免除することがある。

3 一度納付した検定料は、別に定めがある場合を除き返還しない。

4 入学志願の時期は、その都度決定して公告する。

(入学者選考)

第20条 入学志願者に対しては、学力その他に基づき選考の上、入学者を決定する。

2 前項の入学者選考の方法、期日等については、その都度決定して公告する。

3 前2項に定めるもののほか、入学者選考に関し必要な事項は、別に定める。

(再入学)

第21条 本学大学院を修了した者又は第27条の規定により退学した者が再び入学を願い出たときは、前条の規定にかかわらず、収容定員に余裕がある場合に限り、別に定めるところにより、選考の上、入学を許可することがある。

(転入学)

第22条 他の大学の大学院に在学している者で、本学大学院に転入学を願い出る者があるときは、収容定員に余裕がある場合に限り、別に定めるところにより、学力その他について選考の上、入学を許可することがある。

(編入学)

第23条 第14条各号のいずれかに該当する者で、本学大学院一貫制博士課程に編入学を願い出る者があるときは、別に定めるところにより、学力その他に基づき選考の上、入学を許可することがある。

(誓約書)

第24条 入学を許可された者は、所定の誓約書を提出し、これに記載された事項を守らなければならない。

第3章 休学，留学，退学，転学並びに転学院及び転系等

(休学)

第25条 傷病その他やむをえない理由のため一定期間以上学修することができないときは、許可を受けて休学することができる。

2 傷病のため学修することが不相当と認められる学生及び行方不明の学生に対しては、休学を命ずることがある。

3 休学した期間は、在学期間に算入しない。

4 休学に関し必要な事項は、別に定める。

(留学)

第26条 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関等に留学しようとするときは、願い出て留学することができる。

2 留学した期間は、在学期間に算入する。

3 留学に関し必要な事項は、別に定める。

(願いによる退学)

第27条 傷病その他やむをえない事情があるときは、願い出て退学することができる。

(転学)

第28条 他の大学の大学院に転学しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

(転学院，転系及びコースの変更並びに転専攻)

第29条 学院に所属する者のうち、転学院若しくは転系（技術経営専門職学位課程を含む。）又は選択するコースの変更を志願するものについては、別に定めるところにより、許可することがある。

2 研究科に所属する者のうち、転専攻を志願するものについては、別に定めるところにより、許可することがある。

(教育研究分野の変更)

第30条 研究科に所属する者が教育研究分野の変更を願い出たときは、やむを得ない理由があると研究科長が判断した場合に限り、変更を許可することがある。

第4章 授業科目，単位数及び履修方法等

(授業科目，単位数及び履修方法等)

第31条 本学大学院の教育上の目的を達成するために必要な授業科目，単位数及び履修方法等については、別に定める。

(教育方法)

第32条 本学大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。

2 前項に定めるもののほか、専門職学位課程の教育は、専攻分野に応じ体系的

かつ実践的な教育課程を編成し、第5条第3項に規定する目的を達成するために適切な方法によって行う。

（教育方法の特例）

第33条 本学大学院において教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行うことができる。

（研究指導委託）

第34条 学生が他の大学院、研究所又は高度の水準を有する病院（以下「他の大学院等」という。）において研究指導を受けることが教育上有益であると本学大学院において認めるときは、別に定めるところにより、あらかじめ、当該他の大学院等と協議の上、学生が当該他の大学院等において研究指導の一部を受けることを認めることがある。ただし、修士課程の学生にあっては、その期間は1年を超えないものとする。

（授業の方法）

第35条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの方法の併用により行う。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。ただし、専門職学位課程においては、十分な教育効果が得られる専攻分野に関して、当該効果が認められる授業について、これを行うことができるものとする。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第1項の授業及び研究指導の一部を、本学の校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

5 前各項に定めるもののほか、専門職学位課程においては、その目的を達成し得る実践的な教育を行うことができるよう専攻分野に応じ事例研究、現地調査又は、双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行う等適切に配慮しなければならない。

6 前各項に定めるもののほか、授業の方法に関し必要な事項は、別に定める。

（成績評価基準等の明示等）

第36条 本学大学院においては、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学大学院においては、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第37条 本学大学院においては、学生に対する教育の充実に図るため、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施

するものとする。

(学院に置く教育プログラム等及び研究科に置くコース等)

第38条 本学大学院に、学院における修士課程及び博士後期課程の一貫教育プログラムとして、次の教育課程を置く。

リーダーシップ教育課程

グローバルリーダー教育課程

環境エネルギー協創教育課程

情報生命博士教育課程

グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント教育課程

物質・情報卓越教育課程

超スマート社会卓越教育課程

エネルギー・情報卓越教育課程

2 前項の教育課程に関し必要な事項は、別に定める。

3 本学大学院に、学院と清華大学が共同して実施する大学院の合同プログラム(以下「清華大学との大学院合同プログラム」という。)を置く。

4 医歯学総合研究科に、履修上の区分として、次のコース又はプログラムを置く。

先制医療学コース

先制医歯理工学コース

臨床疫学プログラム

5 保健衛生学研究科看護先進科学専攻に、履修上の区分として、災害看護グローバルリーダー養成コースを置く。

第5章 履修の認定及び学位等

(授業科目の履修の認定)

第39条 授業科目の履修の認定については、別に定める。

(他の研究科における授業科目の履修等)

第40条 本学大学院の研究科において教育上有益と認めるときは、学生が本学大学院の他の研究科の授業科目を履修すること又は当該他の研究科において研究指導の一部を受けることを認めることがある。

2 前項の規定により履修した他の研究科の授業科目について修得した単位は、15単位を超えない範囲で学生の所属する研究科における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。ただし、次条第1項及び第42条第1項の規定により本学大学院の研究科において修得したものとして認定する単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第41条 本学大学院において教育上有益と認めるときは、学生が他の大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、15単位(区分制博士課程にあっては修士課程及び博士後期課程を通じて15単位)を超えない範囲で本学大学院における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。ただし、研究科においては、前条第1項及び次条第1項の規定

により本学大学院の研究科において修得したものとして認定する単位数と合わせて 20 単位を超えないものとする。

- 2 前項の規定は、学生が、第 25 条の規定により休学し、当該休学期間中に外国の大学において授業科目を履修する場合、第 26 条の規定により外国の大学に留学する場合、外国の大学等が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学等の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（入学前の既修得単位の認定）

第 4 2 条 本学大学院において教育上有益と認めるときは、学生が本学大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（大学院設置基準第 15 条の規定により準用する大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第 31 条第 1 項に規定する科目等履修生及び同条第 2 項に規定する特別の課程（履修証明プログラム）履修生として修得した単位を含む。）を、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

- 2 前項の規定により本学大学院（専門職学位課程を除く。以下この項において同じ。）において認定することができる単位数は、編入学及び転入学の場合を除き、本学大学院において修得した単位以外のものについては、15 単位を超えないものとし、かつ、第 40 条第 1 項及び前条第 1 項（同条第 2 項において準用する場合を含む。）の規定により本学大学院において修得したものとして認定する単位数と合わせて 20 単位を超えないものとする。

- 3 第 1 項の規定により専門職学位課程において認定することができる単位数は、転入学の場合を除き、当該課程において修得した単位以外のものについては、前条第 1 項（同条第 2 項において準用する場合を含む。）の規定により本学専門職学位課程において修得したものとして認定する単位数と合わせて 15 単位を超えないものとする。ただし、別に定めがある場合はこの限りでない。

（修士課程修了の要件）

第 4 3 条 修士課程の修了の要件は、当該課程に 2 年（清華大学との大学院合同プログラムを履修する者にあつては 2 年 6 月、第 4 条第 10 項第 1 号に規定する医療管理学コースを履修する者にあつては 1 年）以上在学し、所定の授業科目について 30 単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1 年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 前項の場合において、学院又は研究科が修士課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

- 3 第 1 項の規定にかかわらず、学院に所属する者の在学期間に関しては、前条の規定により当該学院の修士課程に入学する前に修得した単位（学教法第 102

条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。)を当該課程において修得したものとして認定する場合であって、当該単位の修得により当該課程の教育課程の一部を履修したと教授会が認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で当該課程に在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、当該課程に少なくとも1年以上在学するものとする。

(博士課程修了の要件)

第44条 区分制博士課程の修了の要件は、本学大学院の学院に5年(修士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、所定の授業科目について54単位以上(博士後期課程における24単位以上の修得単位を含む。)修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年(修士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

2 前条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の区分制博士課程の修了の要件については、前項中「5年(修士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「修士課程における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年(修士課程又は専門職学位課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)」とあるのは「3年(修士課程における在学期間を含む。)」と読み替えて、同項の規定を適用する。

3 前2項の規定にかかわらず、第14条各号のいずれかに該当する者(第17条に規定する進学を許可された者を除く。)が、博士後期課程に入学した場合の区分制博士課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の授業科目について24単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。

4 第1項ただし書及び前項ただし書の規定による在学期間をもって修了する場合の修了の要件としての修得すべき単位数は、別に定める。

(研究科の博士課程修了の要件)

第45条 博士課程医歯学専攻の修了の要件は、当該専攻に4年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 博士課程国際連携専攻の修了の要件は、当該専攻に第6条第1項に定める標準修業年限以上在学し、研究科が定めた所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、修了に必要な単位数には、第40条から第42条までの規定により修得したものとみなす単位を含まないものとする。
- 3 後期3年博士課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の授業科目について20単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年（2年未満の在学期間をもって修士課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年）以上在学すれば足りるものとする。
- 4 一貫制博士課程の修了の要件は、当該課程に5年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、所定の授業科目について38単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。
- 5 前項の規定にかかわらず、標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者及び優れた研究業績を上げ1年以上の在学期間をもって修士課程を修了した者で、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認めるものの在学期間に関しては、当該課程に修士課程における在学期間（2年を限度とする。）を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。

（専門職学位課程修了の要件）

第46条 専門職学位課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、所定の授業科目について40単位以上の修得その他の教育課程の履修により課程を修了することとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、在学期間に関しては、第42条の規定により専門職学位課程に入学する前に修得した単位（学教法第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を当該課程において修得したものとして認定する場合であつて、当該単位の修得により当該課程の教育課程の一部を履修したと教授会が認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で当該課程に在学したものとみなすことができる。

（学位）

第47条 本学大学院を修了した者には、別表2の区分により学位を授与する。

- 2 前項に定めるもののほか、保健衛生学研究科看護先進科学専攻においては、第43条第1項及び第2項に規定する修士課程の修了に相当する要件を満たした者に対しても、修士（看護学）の学位を授与することができる。
- 3 第1項に定めるもののほか、学院においては、学際領域等の分野を専攻した

者で、当該学院が適当と認めるときは、学位に付記する専攻分野の名称を学術とすることができる。

（学位の授与）

第48条 学位の授与については、別に定める東京科学大学（仮称）学位規程（令和 年規程第 号）による。

（教育職員免許状）

第49条 学院において教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は、別表3のとおりとする。

第6章 入学料及び授業料

（入学料）

第50条 入学、再入学、転入学及び編入学の選考に合格した者で入学のため必要の手続きをとろうとする者は、所定の期日までに別に定める入学料を納付しなければならない。ただし、第55条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請した者については、免除又は徴収猶予を許可し、又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

（授業料）

第51条 授業料の額は、別に定めるところによるものとし、各年度に係る授業料について、次の区分で納付しなければならない。この場合において、それぞれの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

納付区分	納期
前期分	5月31日まで
後期分	11月30日まで

2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期分の授業料を徴収するときに、当該年度の後期分の授業料を併せて徴収するものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、研究科の入学を許可される者の申出があったときは、入学年度の前期又は前期及び後期の授業料を、入学を許可するときに併せて徴収するものとする。

（既納の入学料及び授業料）

第52条 一度納付した入学料及び授業料は返還しない。

（休学者及び復学者の授業料）

第53条 学生が休学を許可され、又は命ぜられ、次の各号のいずれかに該当する場合は、月割（前期の最終月は9月1日から前期の最終日まで、後期の初月は後期の開始日から10月末日までとみなす。以下同じ。）により、休学当月の翌月（休学の開始日が月の初日である場合にあっては、休学当月）から復学当月の前月までの授業料を免除する。

- 一 第51条第1項に規定する授業料の納期までに休学を願い出た場合
- 二 第55条の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合

- 2 前項の規定により、授業料の免除を受けた学生が、第 51 条第 1 項に規定する授業料の納期より後に復学した場合にあっては、復学当月から当該学期末までに係る授業料を、直ちに納付しなければならない。

(退学者等の授業料)

第 5 4 条 退学又は除籍の場合であっても、その学期に属する分の授業料は、納付しなければならない。ただし、学生が退学を許可され、次の各号のいずれかに該当する場合は、月割により、退学当月の翌月以降の授業料を免除する。

一 第 51 条第 1 項に規定する授業料の納期までに退学を願い出た場合

二 次条の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合

- 2 停学を命ぜられた場合であっても、その期間中の授業料は、納付しなければならない。

- 3 前 2 項の規定にかかわらず、第 59 条第 7 号に規定する死亡による除籍となった者の除籍日の属する学期の未納の授業料は全額を免除することがある。

(入学料及び授業料の免除又は徴収猶予)

第 5 5 条 入学料及び授業料は、別に定める基準により、免除又は徴収猶予することができる。

(授業料返還の特例)

第 5 6 条 第 52 条の規定にかかわらず、第 51 条第 3 項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の 3 月 31 日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により、当該授業料に相当する額を返還する。

- 2 第 52 条の規定にかかわらず、授業料を納付した者において、当該授業料に係る期間に、休学した者については、月割により、休学当月の翌月（休学の開始日が月の初日である場合にあっては、休学当月）から復学当月の前月までの授業料を、修了、退学又は除籍により在籍しなくなった者については、月割により、修了日、退学日又は除籍日の属する月の翌月以降の授業料を返還する。

第 7 章 表彰及び懲戒並びに除籍

(表彰)

第 5 7 条 学生に表彰に値する行為があったときは、表彰することがある。

- 2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

(懲戒)

第 5 8 条 学生が法令若しくは本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為を行ったときは、懲戒する。

- 2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

- 3 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

(除籍)

第 5 9 条 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

一 学力劣等で成業の見込みがないと認められるとき。

二 在学期間が第 8 条第 1 項から第 4 項までに規定する年数を超えるとき。

三 休学期間が第 25 条第 4 項に基づき別に定める期間を超えるとき。

四 入学料の免除若しくは徴収猶予を許可されなかった者又は半額免除若し

くは徴収猶予を許可された者が、納付すべき入学料を所定の期日までに納付しなかったとき。

五 授業料の納付を怠り、督促しても、なお、納付しなかったとき。

六 第25条第2項の規定により休学を命ぜられた行方不明の学生が、別に定める休学期間を経過しても復学できないとき。

七 死亡となったとき。

第8章 科目等履修生等

(科目等履修生)

第60条 本学大学院の学生以外の者で、本学大学院が開設する授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修することを願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(大学院研究生)

第61条 本学大学院において特定の事項について研究することを願い出る者があるときは、本学が適当と認め、かつ、支障のない場合に限り、大学院研究生として入学を許可することがある。

2 大学院研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第62条 国内の他の大学の大学院等(学院においては協定を締結している大学に限る。)の学生で本学大学院が開設する授業科目を履修することを願い出る者があるときは、当該他の大学の大学院等と協議して定めるところにより、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別研究学生)

第63条 国内の他の大学の大学院等の学生で、本学の学院及び研究科等において研究指導を受けることを志願する者があるときは、当該他の大学の大学院等と協議して定めるところにより、特別研究学生として入学を許可することがある。

2 特別研究学生に関し必要な事項は、別に定める。

(海外交流学生)

第64条 本学と外国の大学との学術交流協定等に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生及び大学院学生から志願がある場合には、海外交流学生として、入学を許可することがある。

2 海外交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

(海外訪問学生)

第65条 本学と外国の大学との相互了解に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生及び大学院学生から志願がある場合には、本学において教育研究上有益と認められ、支障のない場合に限り、海外訪問学生として入学を許可することがある。

2 海外訪問学生に関し必要な事項は、別に定める。

(短期交流学生)

第66条 本学の教員の下で特定の事項について短期の教育研究指導又は研修を受けることについて、国内の他の大学等の学生から志願がある場合には、本学において教育研究上有益と認められ、支障のない場合に限り、短期交流学生として、受入を許可することがある。

2 短期交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 寄宿舍

(寄宿舍)

第67条 本学に、寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 国際連携専攻

(協議及び措置)

第68条 本学大学院に国際連携専攻を設けるときは、国際連携大学と連携した教育課程（以下「国際連携教育課程」という。）を編成し円滑に実施するため、協議の場に関する事項を別に定める。

2 前項の規定による協議の場は、学長又は学長が指名した者により構成する。

3 学長は、博士課程国際連携専攻の維持に関し相手国の状況（天災、騒乱等）により正常な運営を行うことが出来ないと判断した場合には、国際連携大学の長と協議の上、運営に関し緊急に講ずべき措置について決定する。

(共同開設科目)

第69条 博士課程国際連携専攻は、国際連携大学と共同して授業科目（以下「共同開設科目」という。）を開設することができる。

2 前項の共同開設科目を開設した場合、当該国際連携専攻の学生が当該共同開設科目の履修により修得した単位は、5単位を超えない範囲で当該国際連携専攻又は国際連携大学のいずれかにおいて修得した単位とすることができる。ただし、国際連携大学において修得した単位数が第72条の規定により国際連携大学において修得することとされている単位数に満たない場合は、共同開設科目の履修により修得した単位を国際連携大学において修得した単位数とすることはできない。

(国際連携教育課程の単位認定)

第70条 博士課程国際連携専攻は、国際連携大学において履修した国際連携教育課程に係る授業科目について修得した単位を、当該国際連携教育課程に係る授業科目の履修により修得したものとみなす。

(国際連携専攻の研究指導)

第71条 博士課程国際連携専攻は、学生が国際連携大学において受けた国際連携教育課程に係る研究指導を、当該国際連携教育課程に係るものとみなす。

(国際連携専攻修了要件)

第72条 博士課程国際連携専攻の修了要件は、第45条第2項に定めるもののほか、国際連携専攻において国際連携教育課程に係る授業科目の履修により15単位以上を修得するとともに、それぞれの国際連携大学において当該国際

連携教育課程に係る授業科目の履修により 10 単位以上修得する。

(国際連携専攻の転学, 科目等履修生及び大学院研究生に係る規定の適用除外)
第 73 条 博士課程国際連携専攻については, 第 28 条, 第 60 条及び第 61 条の規定は適用しない。

附 則

- この学則は, 令和 6 年 10 月 1 日から施行する。
- 第 4 条第 9 項及び別表第 1 並びに次項に定める専攻のほか, 次表に掲げる研究科に, 同表に定める専攻を置く。

研究科	専攻	課程
医歯学総合研究科	医歯学系専攻	医学又は歯学を履修する博士課程
保健衛生学研究科	共同災害看護学専攻	一貫制博士課程

- 第 2 条第 1 項に定める研究科のほか, 本学大学院に次表に定める研究科を置き, 同研究科に同表に定める専攻を置く。

研究科	専攻	課程
理工学研究科	建築学専攻	区分制博士課程
生命理工学研究科	生体システム専攻	
総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	
	知能システム科学専攻	
	物理情報システム専攻	
社会理工学研究科	価値システム専攻	
	経営工学専攻	
イノベーションマネジメント研究科	イノベーション専攻	後期 3 年博士課程

- 令和 6 年度における保健衛生学研究科共同災害看護学専攻の収容定員は, 2 人(構成大学全体の収容定員は 10 人)とする。
- 第 2 項に定める専攻並びに第 3 項に定める研究科及び専攻(以下「旧研究科等」という。)は, この学則の施行の日(以下「施行日」という。)前に東京工業大学又は東京医科歯科大学(保健衛生学研究科共同災害看護学専攻については同専攻の構成大学)に入学し, 施行日において引き続き当該旧研究科等に在学する者が当該旧研究科等に在学しなくなるまでの間, 存続するものとする。

別表 1 (第 4 条関係)

(1) 学院

学院	系・コース	区分制博士課程				専門職学位	
		修士課程		博士後期課程		課程	
		入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
理学院	数学系	154	308	52	156	—	—

	数学コース 物理学系 物理学コース 化学系 化学コース エネルギー・情報コース ※ 地球惑星科学系 地球惑星科学コース 地球生命コース※						
工学院	機械系 機械コース エネルギー・情報コース ※ エンジニアリングデザインコース※ ライフエンジニアリングコース※ 原子核工学コース※ システム制御系 システム制御コース エンジニアリングデザインコース※ 電気電子系 電気電子コース エネルギー・情報コース ※ ライフエンジニアリングコース※ 原子核工学コース※ 情報通信系 情報通信コース エンジニアリングデザインコース※ ライフエンジニアリングコース※ 経営工学系 経営工学コース エンジニアリングデザインコース※	477	954	169	507	—	—

物質理工学院	材料系 材料コース エネルギー・情報コース※ ライフエンジニアリングコース※ 原子核工学コース※ 応用化学系 応用化学コース エネルギー・情報コース※ ライフエンジニアリングコース※ 原子核工学コース※ 地球生命コース※	347	694	129	387	—	—
情報理工学院	数理・計算科学系 数理・計算科学コース 知能情報コース※ 情報工学系 情報工学コース 知能情報コース※ ライフエンジニアリングコース※ エネルギー・情報コース※	135	270	50	150	—	—
生命理工学院	生命理工学系 生命理工学コース ライフエンジニアリングコース※ 地球生命コース※	168	336	52	156	—	—
環境・社会理工学院	建築学系 建築学コース 都市・環境学コース※ エンジニアリングデザインコース※ 土木・環境工学系 土木工学コース 都市・環境学コース※ エンジニアリングデザ	263	526	115	345	—	—

	インコース※ 融合理工学系 地球環境共創コース エネルギー・情報コース ※ エンジニアリングデザインコース※ 原子核工学コース※ 社会・人間科学系 社会・人間科学コース イノベーション科学系 イノベーション科学コース（博士後期課程のみ）						
環境・社会理工学院	技術経営専門職学位課程	—	—	—	—	40	80
合計		1,544	3,088	567	1,701	40	80
備考：※印は、第4条第5項に規定する複合系コースを示す。							

(2) 研究科

研究科	専攻・コース	修士課程		医学又は歯学を履修する博士課程		一貫制博士課程		後期3年博士課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
医歯学総合研究科	医歯理工保健学専攻	131	257	—	—	—	—	—	—
	医療管理政策学コース （医療管理学コース）	(5)	(5)						
	（医療政策学コース）	(10)	(20)						
	グローバルヘルスリーダー養成コース	(9)	(18)						
	医歯学専攻	—	—	181	724	—	—	—	—
	東京科学大学（仮称）・チリ大学国際連携医学系専攻（＊）	—	—	3	15	—	—	—	—
	東京科学大学（仮称）・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻（＊）	—	—	3	15	—	—	—	—
	東京科学大学（仮称）・マヒドン大学国際連携医学系専攻	—	—	3	12	—	—	—	—

	(*)								
	生命理工医療科学専攻	—	—	—	—	—	—	25	75
保健衛生学研究科	看護先進科学専攻	—	—	—	—	13	65	—	—
合計		131	257	190	766	13	65	25	75
備考：									
・*印は、第4条第7項に規定する国際連携専攻を示す。 ・括弧内の数字は、医療管理政策学コース及びグローバルヘルスリーダー養成コースに係る定員の数を内数で示す。									

別表2（第47条関係）

(1) 修士及び博士

学院又は 研究科	系・コース又は専攻	授与する学位（専攻分野）	
		修士	博士
理学院	数学系		
	数学コース	修士（理学）	博士（理学）
	物理学系		
	物理学コース	〃	〃
	化学系		
	化学コース	〃	〃
	エネルギー・情報コース※	〃	〃
	地球惑星科学系		
工学院	地球惑星科学コース	〃	〃
	地球生命コース※	〃	〃
	機械系		
	機械コース	修士（理学） 修士（工学）	博士（理学） 博士（工学）
	エネルギー・情報コース※	〃	〃
	エンジニアリングデザインコース※	〃	〃
	ライフエンジニアリングコース※	〃	〃
	原子核工学コース※	〃	〃
	システム制御系		
	システム制御コース	〃	〃

	エンジニアリングデザインコース※ 電気電子系 電気電子コース エネルギー・情報コース※ ライフエンジニアリングコース※ 原子核工学コース※ 情報通信系 情報通信コース エンジニアリングデザインコース※ ライフエンジニアリングコース※ 経営工学系 経営工学コース エンジニアリングデザインコース※	〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
物質理工 学院	材料系 材料コース エネルギー・情報コース※ ライフエンジニアリングコース※ 原子核工学コース※ 応用化学系 応用化学コース エネルギー・情報コース※ ライフエンジニアリングコース※ 原子核工学コース※ 地球生命コース※	修士（理学） 修士（工学） 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	博士（理学） 博士（工学） 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
情報理工 学院	数理・計算科学系 数理・計算科学コース 知能情報コース※ 情報工学系 情報工学コース	修士（理学） 〃 〃 修士（理学）	博士（理学） 〃 〃 博士（理学）

	知能情報コース※ ライフエンジニアリングコース※ エネルギー・情報コース※	修士（工学） 〃 〃 〃	博士（工学） 〃 〃 〃
生命理工 学院	生命理工学系 生命理工学コース ライフエンジニアリングコース※ 地球生命コース※	 修士（理学） 修士（工学） 〃 〃	 博士（理学） 博士（工学） 〃 〃
環境・社 会理工学 院	建築学系 建築学コース 都市・環境学コース※ エンジニアリングデザインコース※ 土木・環境工学系 土木工学コース 都市・環境学コース※ エンジニアリングデザインコース※ 融合理工学系 地球環境共創コース エネルギー・情報コース※ エンジニアリングデザインコース※ 原子核工学コース※ 社会・人間科学系 社会・人間科学コース イノベーション科学系 イノベーション科学コース	 修士（工学） 〃 〃 〃 〃 〃 〃 修士（理学） 修士（工学） 〃 〃 〃 〃 ――― ――	 博士（工学） 〃 〃 〃 〃 〃 〃 博士（理学） 博士（工学） 〃 〃 〃 博士（技術経 営） 博士（工学）
医歯学総 合研究科	医歯理工保健学専攻（医療管理政策 学コース及びグローバルヘルスリー	修士（医科学） 修士（歯科学）	

	ダー養成コースを除く。)	修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (保健学) 修士 (口腔保健学)	
	医歯理工保健学専攻 (医療管理政策学コース)	修士 (医療管理学) 修士 (医療政策学)	
	医歯理工保健学専攻 (グローバルヘルスリーダー養成コース)	修士 (グローバル健康医学)	
	医歯学専攻		博士 (医学) 博士 (歯学) 博士 (数理医科学) 博士 (学術)
	東京科学大学 (仮称)・チリ大学国際連携医学系専攻 (*)		博士 (医学)
	東京科学大学 (仮称)・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻 (*)		博士 (歯学)
	東京科学大学 (仮称)・マヒドン大学国際連携医学系専攻 (*)		博士 (医学)
	生命理工医療科学専攻		博士 (理学) 博士 (工学) 博士 (保健学) 博士 (口腔保健学)
保健衛生学研究科	看護先進科学専攻		博士 (看護学)

※印は複合系コース

*印は第4条第7項に規定する国際連携専攻を示す。

(2) 専門職

学院	系・コース等	授与する学位 (専攻分野)
環境・社会理工学院	技術経営専門職学位課程	技術経営修士 (専門職)

別表3 (第49条関係)

学院	免許状の種類	免許教科
理学院	中学校教諭専修免許状	数学，理科
	高等学校教諭専修免許状	数学，理科
工学院	高等学校教諭専修免許状	情報，工業
物質理工学院	中学校教諭専修免許状	理科
	高等学校教諭専修免許状	理科，工業
情報理工学院	中学校教諭専修免許状	数学
	高等学校教諭専修免許状	数学，情報
生命理工学院	中学校教諭専修免許状	理科
	高等学校教諭専修免許状	理科
環境・社会理工学院	高等学校教諭専修免許状	工業

○東京科学大学（仮称）教授会通則（案）

（趣旨）

第1条 この通則は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第93条及び国立大学法人東京科学大学（仮称）組織運営規則（令和 年規則第 号）の規定に基づき、東京科学大学（仮称）（以下「本学」という。）の学院、リベラルアーツ研究教育院及び科学技術創成研究院（以下「学院等」という。）並びに大学院の研究科、学部、教養部、生体材料工学研究所及び難治疾患研究所（以下「研究科等」という。）に置かれる教授会について定めるものとする。

（構成）

第2条 次の各号に掲げる学院等の教授会は、それぞれ当該各号に定める教員で構成する。

- 一 理学院、工学院、物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院及び環境・社会理工学院の各教授会 当該学院に所属する専任の教授、准教授及び講師（以下「教授等」という。）並びに当該学院を担当する専任の教授等。ただし、第4条第1項第3号ハに規定する事項を審議するときは、当該学院に所属する専任の教授等に限る。
 - 二 リベラルアーツ研究教育院（以下「研究教育院」という。）の教授会 研究教育院に所属する専任の教授等及び研究教育院を担当する専任の教授等。ただし、第4条第1項第3号ハに規定する事項を審議するときは、研究教育院に所属する専任の教授等に限る。
 - 三 科学技術創成研究院（以下「研究院」という。）の教授会 研究院に所属する専任の教授等及び研究院を担当する専任の教授等。ただし、第4条第1項第3号ハに規定する事項を審議するときは、研究院に所属する専任の教授等に限る。
- 2 前項第1号及び第3号に定めるもののほか、当該教授会の定めるところにより、当該学院又は研究院に所属する専任の助教及び当該学院又は研究院を担当する専任の助教を加えることができる。ただし、第4条第1項第3号ハに規定する事項を審議するときは、当該学院又は研究院に所属する専任の助教に限るものとする。
- 3 第1項第1号に定めるもののほか、第4条第1項（同条同項第3号ハを除く。）に掲げる事項を審議するときは、当該教授会の議を経て、当該学院に所属する特任教授、特任准教授及び特任講師（以下「特任教授等」という。）並びに当該学院を担当する特任教授等を加えることができる。
- 4 第1項第2号に定めるもののほか、当該教授会の定めるところにより、研究教育院に所属する専任の助教及び研究教育院を担当する専任の助教を加えることができる。ただし、第4条第1項第3号ハに規定する事項を審議するときは、研究教育院に所属する専任の助教に限るものとする。
- 5 第1項第2号に定めるもののほか、第4条第1項第3号イに規定する事項を審議するときは、当該教授会の議を経て、研究教育院に所属する特任教授等を加えることができる。

第3条 次の各号に掲げる研究科等の教授会は、それぞれ当該各号に定める教員で構成する。

一 大学院医歯学総合研究科，大学院保健衛生学研究科，医学部，歯学部及び教養部の各教授会 当該研究科等に所属する専任の教授及び当該研究科等を担当する専任の教授

二 生体材料工学研究所及び難治疾患研究所の各教授会 当該研究所に所属する専任の教授

2 前項に定めるもののほか，当該教授会の定めるところにより，当該研究科等に所属する専任の准教授及び講師並びに当該研究科等を担当する専任の准教授及び講師を加えることができる。

3 第1項に定めるもののほか，特に必要があると認めるときは，当該教授会の議を経て，前2項に定める者以外の本学の専任の教授等を加えることができる。
(審議事項)

第4条 教授会は，学長が次に掲げる事項（研究教育院の教授会にあつては，第3号イ及びハ，研究院並びに生体材料工学研究所及び難治疾患研究所の教授会にあつては，第3号ハに限る。）について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

一 学生の入学，卒業及び課程の修了に関する事項

二 学位の授与に関する事項

三 前2号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

イ 教育課程の編成に関する事項

ロ 学生の在籍に関する事項

ハ 別に定める者の教育研究業績の審査に関する事項

2 教授会は，前項に掲げる事項のほか，学長並びに学院等及び研究科等の長（大学院医歯学総合研究科にあつては，大学院医歯学総合研究科副研究科長を含む。）（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し，及び学長等の求めに応じ，意見を述べることができる。
(会議の運営)

第5条 教授会に議長を置き，当該教授会を置く組織の長をもって充てる。

2 議長は，教授会を主宰する。

3 議長に事故があるときは，当該教授会が議長の職務代行者を定める。

(定足数)

第6条 教授会は，別に定めのあるもののほか，半数以上であつて当該教授会が定める割合以上の構成員が出席しなければ，議事を開き，議決することができない。

(議決)

第7条 教授会の議事は，出席した構成員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

2 前項の規定にかかわらず，別に定めのあるもののほか，当該教授会が特別の

必要があると認めるときは、別段の定めをすることができる。

（構成員以外の出席）

第 8 条 教授会が必要と認めたときは、教授会構成員以外の者を出席させることができる。

（代議員会等）

第 9 条 教授会は、その定めるところにより、教授会構成員のうちの一部の者で構成する代議員会等を置き、当該代議員会等の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

（研究科委員会）

第 10 条 大学院の各研究科に、教授会の審議事項のうち特定の事項について審議を行うため、研究科委員会を置く。

2 前項に定めるもののほか、研究科委員会に関し必要な事項は、当該研究科の長が別に定める。

（雑則）

第 11 条 この通則に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、当該教授会が定める。

附 則

この通則は、令和 6 年 10 月 1 日から施行する。

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	p. 2
2. 学部・学科等の特色	p. 11
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 12
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 13
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	p. 19
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 21
7. 施設、設備などの整備計画	p. 29
8. 入学者選抜の概要	p. 31
9. 取得可能な資格	p. 38
10. 実習の具体的計画	p. 38
11. 企業実習や海外語学研修などの学外実習を実施する場合の具体的計画	p. 53
12. 昼夜開講制を実施する場合の具体的計画	p. 54
13. 編入学定員を設定する場合の具体的計画	p. 54
14. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	p. 54
15. 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス） で実施する場合の具体的計画	p. 54
16. 多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体 的計画	p. 54
17. 通信教育を実施する場合の具体的計画	p. 55
18. 管理運営	p. 55
19. 自己点検・評価	p. 55
20. 情報の公表	p. 56
21. 教育内容等の改善のための組織的な研修等	p. 57
22. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 57

1. 設置の趣旨及び必要性

ア 設置の趣旨

国立大学法人東京工業大学と国立大学法人東京医科歯科大学は、両法人を統合し、両法人がそれぞれ設置する東京工業大学と東京医科歯科大学を統合することに合意し、令和6年度中の可能な限り早期の統合の実現に向けて、各種準備を進めているところである。

今回の設置は、両大学を統合するため、手続き上、存続大学である東京工業大学（東京科学大学に名称変更予定。後述）に、現に東京医科歯科大学に設置されている医学部、歯学部、大学院医歯学総合研究科及び大学院保健衛生学研究科の2学部2研究科を設置するための手続きを行うものである。

統合を実現することにより、両大学のこれまでの伝統と先進性を活かしながら、統合によってこれまでどの大学も為しえなかった新しい大学の在り方を創出することを目的とする。

なお、今回東京工業大学に設置する2学部2研究科は、現在、東京医科歯科大学に設置されているものと教育研究組織や収容定員に変更はなく、教員組織、校地、校舎、施設、設備、学生支援体制も同一性を保持する。東京医科歯科大学に所属する学生は、統合日において存続大学に移行することとなる。

また、国立大学法人東京工業大学及び東京工業大学は、今回の法人統合及び大学統合に伴い、名称を変更する予定としており、令和5年1月に名称変更に係る事前相談を実施しているところである。

イ 設置に至る経緯

（1）設置大学の沿革

①東京工業大学の沿革

東京工業大学は、明治14年に設立された東京職工学校に端を発し、昭和4年に大学に昇格した。「新設工業大学の育英方針は、学生天賦の独創力を涵養し専攻している技術知識を誤りなく自由に使いこなす能力を附与することにある、すなわち根本学理の素養に重きを置きこれを活用して実地の問題に関する判断を誤らない実際の有能の技術家を作ることにある」を建学の精神とし、東京工業大学の輩出してきた多くの理工系人材は、この精神を受け継ぎ日本の産業界を牽引する原動力として活躍している。

平成28年には、学士課程及び大学院課程（修士課程、博士後期課程及び一部に専門職学位課程）を包有する「学院」を設置し、従来の3学部23学科、6研究科45専攻を6学院に改組した。これにより、学士課程と大学院課程を一貫するカリキュラム編成を可能とし、「1

学部1学科制」、「1研究科1専攻制」の考え方をベースとした大くくりの組織とすることで、学生が自らの興味・関心に基づいて、広い視野の下で俯瞰的かつ体系的に学ぶことを重視し、修学過程における学生の志望や適性判断の変化にも迅速に対応し得る体制を確立した。

現在は、正規課程の学士課程学生約5,000人（うち外国人留学生約250人）、大学院課程約5,000人（うち外国人留学生約1,500人）の計約10,000人の学生を有する6学院と、全学のリベラルアーツ教育の中心を担うリベラルアーツ研究教育院、新たな研究領域の創出と世界トップレベルの研究成果の創出を目指す科学技術創成研究院を中心として、教育研究活動を推進している。

②東京医科歯科大学の沿革

東京医科歯科大学は、学問と教育の聖地である湯島・昌平坂において、医学と歯学の融合を通じて、先進的な医療の実践に従事する日本で唯一の医療系総合大学院大学として「知と癒しの匠」を創造し、人々の健康と社会の福祉に貢献している。

当大学は、明治32年に医術開業試験場に附設された東京医術開業試験附属病院（通称永楽病院）に端を発する。その後、昭和3年に日本初の国立の歯科医学校として東京高等歯科医学校が創立され、昭和19年には医学科を併設し東京医学歯学専門学校と改称した。昭和21年に東京医科歯科大学（旧制）となり、昭和26年、東京医科歯科大学（新制）が設置された。

このように、国立大学の中で最古の歴史を持つ歯学部をはじめ、国立大学では初めての4年制の保健衛生学科の設立など、常に医歯学教育・研究のパイオニアとして歩んできており、その経験をもとに、医学・歯学の領域において、世界を舞台に活躍できる人材、さらには幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成するため、優秀な教員と最高の設備、そして世界水準の特色あるカリキュラムを築き上げている。

現在は、大学院学生約1,540人（うち外国人留学生約310人）を有する医歯学総合研究科及び保健衛生学研究科の2大学院研究科、学部学生約1,480人（うち外国人留学生約15人）を有する医学部（医学科、保健衛生学科）及び歯学部（歯学科、口腔保健学科）の2学部4学科、教養教育を担当する教養部、さらに生体材料工学研究所、難治疾患研究所の2研究所を擁し、癒しの心と科学的視点を持った医師、歯科医師、看護師、臨床検査技師、歯科衛生士、歯科技工士の育成は勿論のこと、医療・生命科学領域の研究・学問体系の構築を図りながら、卓越した医療人・研究者の養成に努め、広く人々や社会に貢献することを目指してい

る。

（２）設置に至る経緯

両大学はこれまでも、広く理工学及び医歯学に関する学知と技術、それを自在に応用できる人材の育成を通して、産業の発展と医療の進歩を牽引してきた。

一方、人類は、これまで想像し得なかった地球環境の悪化、新興・再興感染症、少子高齢化など様々な課題に直面している。そして今後さらに未知の問題が起こる可能性も指摘されている。このような地球規模の課題解決に向けて、大学はその知を結集し、より大きな役割を果たすことが社会から期待されている。しかしながら、多様な課題の解決には、各学問分野単独の取組では限界があり、各学問分野及び学内部局等が連携するだけでも不十分である。両大学の強みである理工学及び医歯学の叡智を融合し、さらにそこに両大学が重視するリベラルアーツ・人文社会科学のみならず芸術を含む幅広い観点からの発想も活かすことで様々な学問領域を自由な発想で結合する。それにより、社会の課題解決に直接貢献する新たな学術分野を生み出すことができる。

また、両法人は、文部科学大臣から指定を受けた指定国立大学法人として、大学改革を牽引することはもとより、国内の競争環境の枠組みから出て、国際的な競争環境の中で世界最高水準の教育研究活動を展開し、ひいては社会の成長とイノベーション創出に貢献することが期待されている。

これらの問題意識と両法人が担うべき役割を踏まえ、国立大学法人東京工業大学と国立大学法人東京医科歯科大学は、令和４年８月９日に両法人の統合に向けた協議を開始した。教育、研究、組織文化、財務、病院経営、キャンパス計画など多角的な検討や、それぞれの大学における、大学構成員、同窓生や関係者との意見交換を経て、同年１０月１４日に両法人を統合し、両法人が設置する東京工業大学と東京医科歯科大学を統合することについて合意に至った。

ウ 設置の必要性和統合後の展望

（１）設置の必要性

国立大学法人には、１つの法人に１つの大学を置く方式（１法人１大学）と、国立大学法人東海国立大学機構などのように、１つの法人に複数の大学を置く方式（１法人複数大学）が認められている。

今回の統合においても、法人のみを統合し、統合法人に東京工業大学と東京医科歯科大学の２大学を置くという方式も考えられる。しかしながら、両大学で検討を行った結果、新た

な医歯理工学のグランドデザインの下での組織、研究者、教育の融合が進み、医歯理工連携による新たな教育研究や人材創出などシナジー創出が容易となることや、既存の組織に縛られず、自由でフラットな人間関係で、失敗を恐れず挑戦できる組織を一から作ることが可能となり、大きな改革を実行できるという点を踏まえ、両法人は、1 法人 1 大学方式による統合を決断した。

両大学が 1 つの新しい大学になるために、本設置手続きでは、東京工業大学に、現に東京医科歯科大学に設置されている医学部、歯学部、大学院医歯学総合研究科及び大学院保健衛生学研究科の 2 学部 2 研究科を設置する。

また、新大学が、伝統ある両大学の専門分野、自由な発想や対話から生み出される未知の領域はもとより人文科学・社会科学的視点をも含めた「科学」の発展こそが新大学の目的を達成し、後述する「新大学の目指す姿」を具現化するための原動力となるという認識のもと、これからの「科学」の発展を担い、社会とともに活力ある未来を切り拓いていくという強い意志を表明するため、「東京工業大学」を「東京科学大学」に名称変更する予定としている。

（２）統合後の展望

統合により既存の専門分野の壁を取り払い、多様性、包摂性、公平性を有する環境の中で学生が主体的かつ自由に専門性を極めていく教育を実現するには、教員側の意識改革をはじめ、学生が新学術分野に挑戦したいという高い志を持つための教育体制、すなわち総合知を獲得する教養（リベラルアーツ）教育の提供体制、学士課程から異分野の専門科目を副専門として履修できるなど柔軟な学修機会を提供する体制、学生の多様なキャリアを支援できる学務体制の再編成など、様々な体制整備が必要になる。

統合の理念に基づく新体制の具現化を慎重かつ着実に進める一方で、統合時点では両大学に設置する学位・教育課程及び収容定員については変更せず、統合時点から令和 10 年 3 月まで、すなわち第 4 期中期目標期間の終期までの間は新大学への「移行期間」として位置づけ、教育課程の変更を伴う改組の必要性も含めて、丁寧に議論を進めていく。移行期間中も学生の異分野交流・学修機会を設け、それにより生じる課題にも対応しながら改善を重ね、移行期間後の理想とする形での統合を目指す。

以下では、移行期間中と移行期間後に分けて統合の展望を述べる。

移行期間における展望

統合による教育効果を早く学生に還元できるよう、両大学がこれまで重視してきた初年次からの専門教育、教養・リベラルアーツ教育を中心として、統合以降の新入生に対する、学院・学部の枠を超えた「共に学ぶ」仕組みの速やかな導入を目指す。

具体的には、学院・学部ともに学士課程の 4 年間又は 6 年間を通じた教養教育を実施す

る。アクティブラーニング型・グループワーク形式による学士課程1年次の授業において、異分野の学生が共通の関心領域について深い意見交換・共同作業をする機会を増加させるとともに、教養・リベラルアーツ教育の集大成として完成させる「教養卒論」の取組も共有化を開始する。また、異分野への興味・関心を促す観点から、ノーベル賞受賞者などの著名な科学者の講演から成る「科学・技術の最前線」、地球環境問題や健康被害などについて論じる「環境安全論」、医療データを題材とするプログラム学習である「医療とAI・ビッグデータ」など自然科学系科目の履修選択の幅を拡充する。

こうした導入教育の共有化に加えて、専門教育においても、他の専門分野を体系的に学修することができる副専門制度等の導入により、専門とする分野の幅を広げる仕組みを導入する。さらに、専門分野の選択の幅を広げるという観点から、両大学の学院・学部を跨いだ転学科等の仕組みを導入することについても検討する。

これらにより、将来にわたる人格の陶冶に利するとともに、職業人としての能力を高め、活躍の範囲が拡大することが期待できることから、鋭意準備を進めているところである。

移行期間後における展望

A. 教育組織の在り方について

現在、東京工業大学では、前述のとおり、1学部1学科制／1研究科1専攻制を基本とした「学院」を設置している一方、東京医科歯科大学では、学部・研究科を設置しており、両大学の教育組織の佇まいが異なっている。統合時点においては、在校生や両大学を目指している受験生らの混乱を避けるため、これらの組織が並存することとなるが、移行期間中に、両大学における教育課程の内容等について相互理解を深めたうえで、学生にとって最も望ましい在り方について検討を進め、移行期間後に、新大学として理想とする教育組織を設置する。

B. 学士課程教育について

上述した統合時点での教養・リベラルアーツ教育や自然科学系教育の相互乗り入れをさらに強化し、学士課程1年生全員が一緒に学べる教育体制を整備する。また、専門教育においては副専門制度を充実させ、オンラインでの教育と対面での教育のバランスを勘案し、異なるキャンパス間で学ぶ学生であっても自由にかつ主体的に専門の幅を広げることができる仕組みを導入していく。さらに、学生がより早期に本学の医歯理工学のグランドデザインに立脚した教育を受ける機会を得るための、高大接続の活用方法を検討する。

C. 大学院教育について

我が国の大学院教育は、専門的な研究を究めた科学者を育成してノーベル賞受賞者を輩出するなど、多くの成果を挙げてきた。しかし近年、科学技術の世界的リーダーとして活躍し、社会に変革をもたらす高度専門人材としての博士を育成する仕組みの必要性が急激に増し

ている。その要因として、研究分野が既存の専門分野に限定され、新学術分野を創出する素地が育ちにくいこと、新しい産業や医療の原動力となる総合知の教育体系が充実していないことがある。これらの課題を解決するために、コンバージェンス・サイエンス教育の創設を柱とした大学院教育を行い、後述する「新大学の目指す姿」（特に「総合知に基づき未来を切り拓く高度専門人材を輩出」）の実現を目指す。また今日見られる、若者の経済的困窮や就職への不安による博士課程学生数の伸び悩みの課題に対しても、多面的な支援策とキャリア支援の体制を整備することで解決を図る。以下では、3つの教育について述べる。

I. コンバージェンス・サイエンス教育の創設と浸透

学生が一つの基幹となる専門分野に加えて他の専門分野を修得し、両者の知識を融合することで、既存の専門分野にとらわれない知の発見や価値創造が可能になる人材を育成する。異なる学術領域を専門とする複数の指導教員の下、多様な学術背景をもつ学生が世界に通じるリーダーを目指して切磋琢磨する教育体系を築く。また、コースワークでは、英語によるコミュニケーション、リーダーシップ、アントレプレナーシップなど国際性と総合知の育成をサポートする授業を含むものとし、専門力のみならず、トランスファラブルスキルの修得も支援する。

多様な科学を収斂させて獲得できる総合知に基づく「コンバージェンス・サイエンス」を展開できる人材を育成するため、上記の制度・取組を具体化し、実現していくための議論を進めていく。

II. 医歯理工融合コースの設置

コンバージェンス・サイエンスを展開するための基盤の一つが医歯学と理工学の融合にある。そのため、両専門分野に跨る先端的な課題の解決を目指す人材の育成を目的として、新たな大学院教育プログラムを構築する。具体的には、ライフメディカルエンジニアリングや医療系アントレプレナーシップ教育などを分野横断的に展開する医歯理工融合コース（仮称）の立ち上げを検討していく。

III. ビジネススクールへの展開

新大学は大学院教育の目的とする総合知に基づき未来を切り拓く高度専門人材を輩出するための重要なイニシアティブとして、持続可能社会の実現に貢献する新たな産業を生み出す起業家の育成を計画的に進める。具体的にはイノベーション創出のリーダーの養成を目的として設置されている技術経営専門職学位課程を発展させたビジネススクールの新設を準備する。

大学統合を端緒とした、これらの取組の実現を通じて、大学及び大学院教育の改革を中長期的に進めていく。



図1 コンバージェンス・サイエンス

コンバージェンス・サイエンス教育

特定専門分野の深堀だけでなく、2分野以上の専門力による新たな専門分野の開拓へ
 多様な社会課題を解決するため、理工学、医歯学、さらには情報学、リベラルアーツ・人文社会科学などを収斂させて獲得できる総合知に基づく「コンバージェンス・サイエンス」を展開できる人材を育成

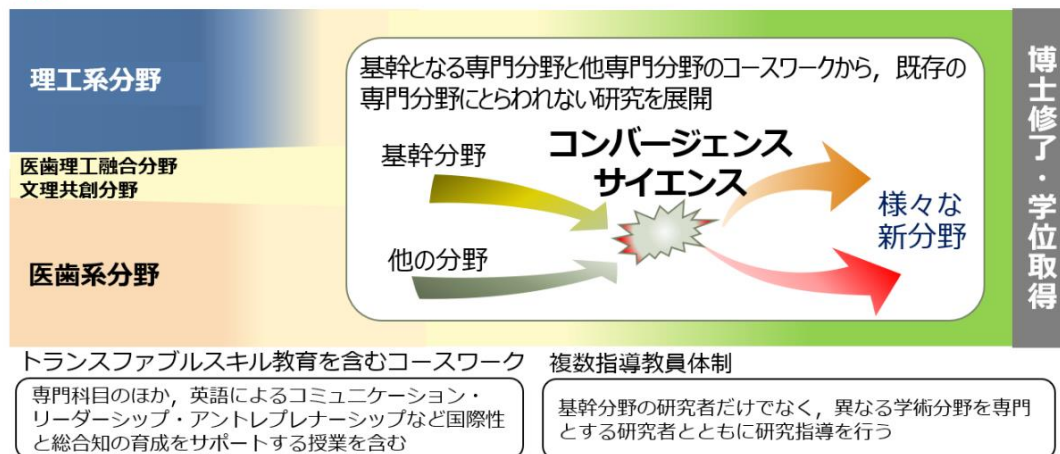


図2 コンバージェンス・サイエンス教育

エ 統合後の大学の目的、養成する人材像等

新大学の目指す姿として、次の4点を掲げている。

(1) 両大学の先端的な研究をさらに推進

根源的な問いに答える研究を尊重し、研究者が自身の興味に根差した研究を行える自

由関連な環境を構築して、両大学の重点分野・戦略分野をさらに強化していく。

(2) 部局等を超えて連携協働し「コンバージェンス・サイエンス」を展開

多様な社会課題に立ち向かうために、理工学、医歯学、さらには情報学、リベラルアーツ・人文社会科学などを収斂させて獲得できる総合知に基づく「コンバージェンス・サイエンス」を展開する。

(3) 総合知に基づき未来を切り拓く高度専門人材を輩出

教養教育と専門教育を有機的に関連させ、現代社会が直面する諸課題に対峙して、真に解決すべき課題を設定し、解決へと導く役割を担う高度専門人材を輩出する。

(4) イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化

すべての構成員に対して、高度な多様性、包摂性と公平性を実現し、世界に開かれた知の創造と人材育成の場を構築する。

また、新大学の目的及び使命は、以下のとおりである。

大学は、科学に立脚して社会の発展に指導的役割を果たすことのできる市民を育成する。この理念のもとに必要な専門的知識を学生に修得させ、かつ人格の陶冶をなすとともに、理学、工学、医学、歯学、人文社会科学及びこれらの融合学術分野の理論と応用を研究し、その深奥を究めて科学と技術の水準を高めることを大学の目的とし、もって文化の進展に寄与し、地球上全ての構成員の福祉に貢献することをその使命とする。

なお、新大学に設置する医学部の目的及び養成する人材像は、今回の設置の趣旨を踏まえ、現在の東京医科歯科大学におけるものと同様であるが、以下に示す。

○医学部医学科・保健衛生学科の目的・養成する人材像

医学科

【養成する人材像】

疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成する。

【教育研究上の目的】

- 1) 幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。
- 2) 自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。
- 3) 世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。

保健衛生学科

【養成する人材像】

看護学、検査技術学の2つの専門領域における知識・技術を教授するにとどまらず、豊かな教養と高い倫理観に裏付けされた医療人としての感性を有し、学際的視野にたち、自ら問題を提起し、これを解決できる能力を備えた医療人を育成する。

【教育研究上の目的】

- 1) 物事を多面的に捉えられる幅広い教養を身に付け、看護学または検査技術学の基礎から応用に至る高い専門知識と技術を修得している。
- 2) 多様な背景を持つ人々の主体性や価値観を理解し、豊かな感性を持って個々を尊重した関係を築くことができる医療人としての人間性が形成されている。
- 3) 社会情勢の影響あるいは業務の特性によって時々刻々と変化する臨床現場の中で、問題を的確に見出し解決に向かわせる柔軟な理解力・洞察力・行動力が養われている。
- 4) 看護または臨床検査の分野におけるスペシャリストを目指して学習を継続する自己学習能力を身に付け、大学院あるいは職場において診療・教育・研究・開発活動を進展させていくことができる創造性が形成されている。
- 5) 国際情勢に関心を示し、看護または臨床検査の分野におけるスペシャリストとして国際貢献に関与できる基礎学力が養われている。

○学位授与の方針

医学部医学科・保健衛生学科の目的に基づく学習成果の目標として、以下の通り学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定める。これらのディプロマ・ポリシーについても東京医科歯科大学医学部における内容を踏襲するものである。

（学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー））

医学科

医学部医学科では、全学共通科目の一部、研究実践プログラムおよび地域医療学習プログラムを除き全ての科目が必修科目であり、学年ごとに設定された進級要件を満たし、卒業までに、所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に学位を授与する。

1. 幅広い教養と豊かな感性

自然科学から人文科学に至る全学共通科目を履修するとともに、医学科専門科目においては生命科学に関する基本的な知識を修得し、実習を通じてその概念への理解を深めることが不可欠となる。さらに、医歯学融合教育科目においては、医歯学の隣接領域の学習を通じて多職種が連携する医学医療への認識を深めることが必要となる。

2. 問題提起、解決能力

全教育課程を通じてその涵養を目指す、殊に自由選択学習（プロジェクトセメスター）は、自ら設定した課題を探究し成果を報告する貴重な機会であり、その履修は必須

となる。

3. 国際性

全学共通科目と医歯学基盤教育を通じて医学を英語で学ぶ基盤を確固たるものとするとともに、海外実習にも積極的に参加することが求められる。

保健衛生学科

医学部保健衛生学科では、全学共通科目、専門科目における講義・演習・実習を通して、学年ごとに設定された進級要件を満たし、卒業までに、所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に、それぞれ学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。

1. 幅広い教養と高い専門知識・技術の修得

物事を多面的に捉えられる幅広い教養を身に付け、看護学または検査技術学の基礎から応用に至る高い専門知識と技術を修得している。

2. 医療人としての豊かな感性と人間性の形成

多様な背景を持つ人々の主体性や価値観を理解し、豊かな感性を持って個々を尊重した関係を築くことができる医療人としての人間性が形成されている。

3. 問題提起・解決能力の修得

社会情勢の影響あるいは業務の特性によって時々刻々と変化する臨床現場の中で、問題の的確に見出し解決に向かわせる柔軟な理解力・洞察力・行動力が養われている。

4. 自己学習能力・創造性の形成

看護または臨床検査の分野におけるスペシャリストを目指して学習を継続する自己学習能力を身に付け、大学院あるいは職場において診療・教育・研究・開発活動を進展させていくことができる創造性が形成されている。

5. 国際性の形成

国際情勢に関心を示し、看護または臨床検査の分野におけるスペシャリストとして国際貢献に関与できる基礎学力が養われている。

オ 研究対象とする学問分野

設置する医学部医学科が研究対象とする学問分野は「医学」、医学部保健衛生学科が研究対象とする学問分野は「保健衛生学（看護学関係）」、「保健衛生学（看護関係及びリハビリテーション関係を除く）」である。

2. 学部・学科等の特色

ア 学部等の特色

医学部は1951年に設立され、現在は医学科と保健衛生学科からなっている。医学科の授業は、生体と病気のメカニズムを学び、半年間の自由選択学習で科学的な考え、結果のまとめ方を学ぶ。また、基礎医学の研究者養成コース、一時学部を離れ大学院で学ぶ MD-PhD コ

ース、多職種間の連携、協調のとれた包括的医療を学ぶ医歯学融合教育を行っている。保健衛生学科は看護学専攻と検査技術学専攻とからなる。看護学専攻の授業は基礎・臨床看護学と地域保健看護学があり、検査技術学専攻の授業は基礎検査学と病因・病態検査学がある。

医学科と保健衛生学科は、国内にとどまらず世界の医療現場においてリーダーとなりうる優秀な学生を歓迎する。さらに、本学は他の人々に深い配慮と豊かな想像力を持ち、国民の健康に貢献しようという強い意志を持った学生を求めている。東京医科歯科大学の3つの教育理念を引継ぎ、医学部の全教職員は学生が学術的・臨床的知識を修得し、臨床の場では高い技術を備えるよう指導するとともに、研究意欲に富み、すぐれた人格と洞察力を持つ医療人を育てるよう努める。

イ 学科などの特色

医学科では、東京医科歯科大学のミッションを踏襲し、“医学の発展を担う指導者を育成する”ことをめざしている。2003年から医学教育改革を本格化し米国ハーバード大学との連携を進め、継続性ある教養教育、早期臨床体験、関連領域をまとめた統合型講義、半年間のプロジェクト・セメスター、米国・英国・タイ・ガーナ・チリへの留学制度、クリニカル・クラークシップの導入、MD-PhD コース、全面的なブロック型授業など大きく発展している。その特徴は着実かつ持続的な革新である。学生は、入学時点より2～6年生から成る縦断チュートリアルグループに所属し、各学年の先輩達と担当教授に学業の指導や生活のアドバイスを受けて、適切な進路決定が可能となり、多くの者が卒業時点で基本的臨床能力を備えた医師となっている。今後はより一層のグローバル化を進め、創造力溢れる学生が世界へ大きく羽ばたくことを期待している。

保健衛生学科は、1989年に日本の国立大学で最初に保健衛生領域における4年制学科として設置された。本学科は看護学専攻および検査技術学専攻の2専攻からなり、豊かな教養と高い倫理観に裏付けられた医療人としての感性を有し、自ら学び研究し、創意工夫することができる人間の形成を目指している。その視点に立ち、それぞれの領域において、専門的知識、技術を教授するとともに、学際的視野に立ち自ら問題を提起し、これを解決する能力を備えた医療人を養成する。また、両領域の教育者・研究者としてリーダーとなれる人材を育成するために、大学院教育へとつながる研究マインドの醸成が重要だと考えている。

すでに2,000名以上の人材を社会に輩出し、医療を中心とする各方面で多くの同窓生が活躍している。本学科は、日本はもちろん、世界の看護および臨床検査領域において中心的役割を担える高度医療技術者、教育者、そして研究者の育成を通じて、社会に貢献することを目指している。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理由

東京医科歯科大学の教育及び研究体制を引き継ぎ、教育及び研究における学問分野を表

す名称として、次のとおり学部・学科・学位の名称を定める。

学部名：医学部 (Faculty of Medicine)

学科名：医学科 (School of Medicine)

学位名：学士 (医学) (Doctor of Medicine)

学科名：保健衛生学科 (School of Health Care Sciences)

学位名：学士 (看護学) (Bachelor of Nursing)

学士 (保健学) (Bachelor of Science)

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

ア 教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

医学科

東京医科歯科大学の教育理念、および医学部医学科の教育理念を引継ぎ、「疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を育成する」を見据え、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラムの策定方針を以下の通り定める。

1. 幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。

専門教育に併走する形で教養教育および医療倫理教育を実施し、時間をかけて幅広い教養と感性を磨くと共に、医学医療に求められる高い倫理観の醸成をはかる。また、歯学科、保健衛生学科、口腔保健学科と共に学ぶ機会を設け、医療における広い視野を獲得する機会を与える。

2. 自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。関連基礎医学分野の講義実習を一体的に実施(モジュール化)し、基礎的知識の統合的理解を促す。さらに、モジュールの配置はマクロからミクロへ基礎医学から臨床医学へと順次性にも配慮し、段階的な理解の深化をはかる。

また、臨床医学教育においては、臓器別に講義・演習・実習を集約し、関連する基礎医学知識の確認、臨床医学の基本的知識を学ぶ講義とその知識の応用演習を通じて、臨床医学に関する基本的知識の深い理解を促す。

以上の教育に関連する医学英語および医学医療統計の講義・演習が行われ、医学・医療情報の批判的吟味能力を養成する。加えて、自由選択研究において研究面での問題提起、解決能力の基礎を固めるとともに、臨床導入実習および臨床実習においても少人数による演習を通じて臨床上の問題発見、解決能力の強化をはかる。

3. 世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。入学当初に国際医療に関する学習機会を設定する他、その後も継続して医学を英語で学ぶ機会を設け、さらに海外の提携大学を中心とした単位互換の短期留学機会を設定

し、国際人としての意識を高めるよう配慮する。

保健衛生学科

《看護学専攻》

東京医科歯科大学の教育理念、および医学部保健衛生学科の教育理念を引継ぎ、全学共通科目、専門科目を系統的、段階的に学習できるように配し、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラムの策定方針を以下の通り定める。

1. 幅広い教養と豊かな人間性と倫理観を涵養するために、一般教育とリベラルアーツを融合した共通教育には、学科・専攻横断的な自由選択科目を配置し、価値観の多様化する現代において看護と関連づけながら学びを深められるよう、看護に関する専門教育科目、医療と人間について学ぶ教養科目を有機的に配置する。
2. 自ら問題を提起し、解決する能力を備えた、看護学の実践、教育、研究者としての基礎を培い、自己の知識や技術の向上を常に目指す研究的姿勢を身につけるために、討論、グループワーク、多職種連携教育、ラーニングマネジメントシステムやシミュレーション・ラボを活用して科目を展開するとともに、論理的思考能力、リテラシー能力、批判的思考、統合的思考、論理的思考の向上を目指して、少人数制の卒業研究ならびに統合的実践科目を配置する。
3. 看護師および保健師としての知識・技術・態度を修得し、将来リーダーを担いうる資質を培うために、看護の科学的根拠となる知識からより専門性の高い各看護学の分野の科目へ、看護の対象を個人、家族、集団、地域、組織へと広げ、看護研究、看護管理へと学習を拡大していけるよう科目を配置する。
4. 多職種との連携を図りながら看護の専門性を発揮できる基礎的能力の獲得を目指して、学習段階に応じた臨地実習科目をすべての学年に配置する。
5. 国際的に活躍でき、医療の国際化に対応できる人材を育成することを目指して、4年間を通じて学習できるよう語学と国際的な看護に関する科目を配置する。
6. 学習成果の評価は、各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明示し、定期試験、レポート提出、講義への参加状況などに基づき、医療人として要求される専門的能力について、多面的に評価する。

《検査技術学専攻》

東京医科歯科大学の教育理念、および医学部保健衛生学科の教育理念を引継ぎ、検査技術学専攻の教育目的を踏まえた教育目標の達成を見据え、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラムの策定方針を以下の通り定める。

1. 臨床検査技師国家試験に必要な科目を含めて、全学共通科目および専門科目を4年間で系統的、段階的に学習できるよう配置する。
2. 臨地実習、インターンシップ、他学科・他専攻との共通科目等により、チーム医療の一

翼として活躍できる臨床検査技師に必要な実践的知識、技術、態度、コミュニケーション能力を修得させる。

3. 国際化、情報化に対応して、英語と情報リテラシー科目は4年間に渡って継続的に学習できるように配置する。
4. 本学大学院医歯学総合研究科、生体材料工学研究所、難治疾患研究所、医学部附属病院、医歯学研究支援センター等の全学的協力および四大学連合複合領域コースの活用により、広い分野にわたる選択科目を開講するとともに、卒業研究等により大学院教育との連携を図る。

イ 教育課程の概要及び特色

医学科

教育課程の編成にあたっては「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び医学科と統合教育機構に所属する責任ある立場の教職員および管理運営者による「医学教育分野別評価基準」に基づき、組織として自律性を持って教育施策を構築し、実施している。

医学科では、責任ある立場の教職員および管理運営者が、組織として自律性を持ってカリキュラムの作成において、教育施策の構築、運営を行い、毎年改善をはかっている。また、各学科の教育委員長及び教養部長を構成員とする学士課程カリキュラム改善チームに卒後臨床研修を担当する教員も加えて、卒前から卒後へシームレスなカリキュラム検討を行なっている。

1年次前期は国府台地区で教養科目を学ぶ。1年次後期より湯島地区で教養科目と並行して専門科目が開始され、MIC (Medical Introductory Course) において、早期臨床体験実習等を通じて医療人としての意識を高めるとともに、一部基礎医学教育を履修する。2年次から4年次にかけて、生体と病気のメカニズムを講義・実習を通じて学ぶ。特に4年次初期にはプロジェクトセメスターと呼ばれる長期の自由選択学習が実施され、自らが興味を持った課題について半年間研究を行い、科学的な考え方、結果のまとめ方を学ぶ。また、基礎医学の研究者養成コースも設けられ、希望者には課外の時間を利用して2年次より研究を開始することも可能となる。さらに、研究を継続したい学生は、一時大学院に進学し医学博士号を取得した後、復学するMD-PhDコースも用意している。

4年次より、臨床導入実習で基本的診察技法を習得する。さらに、共用試験(CBT、Pre-CCOSCE)を経て、大学病院を中心に協力病院、診療所や在宅医療機関を含むさまざまな医療現場で約1年半以上にわたっての診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)が行われる。この実習では医療チームの一員として学ぶために院内携帯電話や学生用電子カルテなどが用意され、臨床推論について徹底的に学ぶほか、リーダーとしてのコミュニケーション能力開発のため、チュートリアル等、少人数で討論を行う機会、プレゼンテーション技法の訓練の機会等も豊富に設けられている。また、医療系総合大学の強みを生かした保健衛生学科(看護学専攻、検査技術学専攻)、歯学科、口腔保健学科(口腔保健衛生学専攻、口腔

保健工学専攻）との融合教育やとチーム医療について学習する機会も用意している。

さらに、首都である東京にある国立大学法人として国際化が進む将来を見据え、英語で医学を学ぶ講義が 1 年次後期から行われ、海外研修奨励制度や海外の一流提携大学で学ぶ機会も用意されているほか、全国最大規模のスキルスラボ（臨床手技習得のためのシミュレーション機器を備えた学習室）、国際的に通用する教科書をオンライン上で参照できる e ラーニング環境など先進的な学習環境が整えられている。

（基礎医学科目）

基礎医学教育においては学体系を基盤としている。その理由としては、特に実習を伴う教育は細分化して長期間にわたり断片的に行うことが物理的に難しい（例えば解剖学であれば系統解剖として一定の期間に集中的に完了する必要がある）ことなどが挙げられる。しかし、その中でも知識の水平的統合のために以下の工夫をしている。

関連して学修することで学修効果・効率が高いものを時期毎に近くに配置するモジュール制をとっており、また 1 年次 10 月～2 年次 12 月にかけての基礎医学最初のモジュールである「人体の構造と機能」では、マクロからミクロへと学修が進むよう科目（解剖学・組織学・細胞生物学・分子遺伝学・生化学・生理学・薬理学）が配置されている。その後、引き続き「神経科学」（神経解剖・神経生理・神経科学）「免疫・感染」（免疫学・感染症学・医動物学）モジュールが配置されている。

各モジュール内では、科目間の水平統合が図られている。例えば「人体の構造と機能」においては、同じ時期に同じ構造の解剖学、組織学、発生学、生理学が学べるよう、配置の工夫を行い、関連する内容を様々な角度から教育できるような水平的統合を図っている。

（臨床医学科目）

2 年次 1 月～3 年次 12 月にかけて臨床医学教育（臨床実習前）を履修する。臓器・器官系を基盤としたブロック教育を提供している。臨床医学教育（臨床実習前）は、問題基盤型学習、症例基盤型学習、チーム基盤型学習など、少人数で知識を実際に応用して学修する機会を盛り込むようプログラムされている。そのような機会を通じて、内科系、外科系といった様々な角度から臓器・器官系を学ぶことができるとともに、必要に応じて関連する基礎医学的事項の教育を加える等、水平統合・垂直統合できるようにしている。

臨床医学教育カリキュラムとしては、臨床医学教育科目群において、その後臨床実習・卒業後臨床研修を経て適切な医療的責務を果たすために礎となる知識の習得機会を提供する。そして、「臨床導入実習」科目（4 年次）において、診療参加型臨床実習を開始するのに十分な知識・技能の習得機会を提供し、その後の「臨床実習」科目（4～6 年次）において、診療参加型臨床実習を通して、卒業後に適切な医療的責務を果たすに十分な知識/技能/態度の習得機会を提供する。また、6 年次における「包括医療統合教育」科目において、専門職連携教育（「チーム医療入門」）を実施している。臨床実習期間は 4 年次 1 月初めより 6 年次 9

月末まで（80 週間）である。

診療参加型臨床実習においては、診療チームの一員として参加し、できる限り入院時より患者を担当し、病歴聴取・身体診察・初期検査計画立案と結果解釈を行い、臨床推論を行なって診断的考察と治療計画策定を指導医の指導のもとで行う。それらは入院時サマリ、日々の診療録、そしてウィークリー・サマリとして文書にまとめられ、また毎日のチーム回診や毎週の診療科回診での発表として提示される。学生には PHS が与えられ、常に診療チームとともに活動できるよう配慮されており、また演習室が与えられ臨床推論や治療計画策定における EBM 実践の支援体制もできている。

特に全ての臨床医が必要とする臨床推論能力の習得については、「臨床導入実習」科目における系統的講義およびその後の少人数形式での演習（10 週間）（医学教育モデル・コア・カリキュラムに挙げられている主要な症候ほぼすべてに関する臨床推論の学修機会を網羅）、「臨床実習」科目における診療参加型臨床実習に加えて行う WoSAC（臨床推論能力強化のための有効なフィードバック提示を可能とするために、Script Concordance Test の要素を一部盛り込んだ改訂版 mini-CEX、学生あたり合計 3～4 回実施）を実施しており、「臨床実習」科目履修修了時に Post-CC OSCE を行い、その習得についての厳密な評価を行なっている。

（社会医学科目）

社会医学教育においては 3 年次 1 月～2 月にかけて関連科目を集中的・統合的に学修するブロック制をとっている。科学的、技術的、臨床的進歩に関連する項目については、行動科学、公衆衛生学、衛生学、法医学、生命倫理、生物統計学の講義のなかで取り上げられている。また、科目を超えたより広い視点からは、医学科教育委員会が統合教育機構とともに、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学において、科学的、技術的、臨床的進歩や、それらを反映した医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂内容も踏まえ、卒業時学修成果（コンピテンシー）、評価方法、学修機会の構成を含めたカリキュラムの見直し・調整・修正を組織として常に行なっている。

保健衛生学科

本学科は看護学専攻及び検査技術学専攻の 2 専攻からなり、教育課程は全学共通科目、専門科目における講義・演習・実習で構成する。カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づき、社会からの要請に応えることが出来るように、看護学専攻は保健師（選択制）と看護師の資格取得、検査技術学専攻は臨床検査技師の資格取得に向けて実践的な知識や技能を着実に身に付けることが出来る編成にする。

単に資格取得だけではなく、豊かな教養と高い倫理観に裏付けられた医療人としての感受性を有し、自ら学び、研究し、創意工夫することができる人間の形成を目指した編成とする。また、学際的視野に立ち自ら問題を提起し、これを解決する能力を備えた、教育者・研

究者としてリーダーとなれる人材を育成するべく編成する。そのために授業時間外の学修時間にも配慮した教育課程とする。

《看護学専攻》

看護学専攻の教育目標は、「高度先進化する科学技術の基礎理解力を持ち、高齢化社会における保健医療・福祉等の様々な職種と連携して、専門職としての役割を果たす人間性豊かな人材を育成する」としている。この目標の下、医療の高度化を支える自然科学・技術並びに生命倫理に関する基礎的な理解を深め、多様化する社会や文化の中で人間が生きることを支える人文科学・社会科学的な素養を併せ持つ看護実践者・研究者を養成する。

看護学の教育・研究・実践を基盤に、あらゆる健康レベルの人々に向けた保健医療福祉に関する専門知識を幅広く修め、省察できる能力を養うことで、関連職種との連携・協働を主体的に担うことのできる対人関係能力を備えた看護師の養成と、生涯学習の支援を重視している。1年次には、教養部で全学共通科目を履修すると共に、後期より専門基礎科目（解剖学、生化学、微生物学など）及び看護専門科目（基盤看護学、看護の統合と実践など）を配置している。2年次前期には、看護学に関連の深い生理学、病態学、薬理学などの専門基礎科目を講義と演習によって集中的に学修できるようにしている。2年次の看護学専門科目の軸は基盤看護学の講義と演習で、成人、精神、小児、地域・在宅看護学の講義は、2～3年次にかけて開講する。母性、老年看護学は3年次前期、保健師資格取得（選択制）に必要な公衆衛生看護学関連の科目は主に4年次と段階的かつ系統的な科目配置にしている。臨地実習は、本大学病院医系診療部門などの医療施設や地域との連携をもとに、あらゆる健康レベルの人々に対応した実習を展開している。具体的には、1年次の基盤看護学実習Ⅰに始まり、2年次の基盤看護学実習Ⅱ、3年次後期の成人、精神、小児、母性、老年、在宅看護学実習、4年次の公衆衛生看護学、看護の統合と実践、総合看護学実習と系統的に配置している。臨地実習では援助的な対人関係を確立する能力の育成にも力を入れ、その準備として、2～3年次に自己理解を深める技法や、相談面接技法の訓練、臨床実習指導者との交流、客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) などを実施している。4年次には少人数制のゼミで卒業論文に取り組み、その準備として、3年次後期より看護学研究方法と理論的背景を学修できるようにしている。このほか、国際的な研究や実践を担う力を高めるため、全学的な取り組みと同時に、各学年で外国語の授業を配置し学習機会を設けている。さらに、大学院の教育科目の先取り履修制度を設けて学部のうちから大学院の単位を修得可能としている。

《検査技術学専攻》

教育課程の編成にあたり、国立大学検査系のパイオニアとして、専門的・学術的な視点に立った検査技術学教育を通して、①医学保健医療についての豊かな教養と幅広い専門知識を持つ医療人を養成すること、②これからの保健医療に対する社会の要請に応えられる人

材を養成すること、③先端医療技術の進展に対応できる学際的視野と研究能力を有し検査技術の発展に寄与できる人材を養成すること、④新たな世代の指導にあたる研究者・教育者を養成することを目的に、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに沿った特色のあるカリキュラムを編成した。

全学共通科目では、1年次前期に理系基礎科目、外国語、人文・社会科学系科目等を履修する。さらに多職種連携プログラム、英語プログラム、AI/データサイエンスのプログラム、グローバルリーダー育成プログラムを実施する。全学共通科目と並行して1～4年次に多彩な選択科目や自由科目を開講し、大学院医歯学総合研究科、難治疾患研究所、生体材料工學研究所と連携した講義も実施する。グローバル社会の実現に向けて海外大学との連携・短期研修を積極的に行う。1年次後期より専門教育（基礎、臨床）を履修する。主要科目は講義と実習を組み合わせた実践的なカリキュラム構成としてある。3年次には、臨地実習により実際の検査の現場を体験し、続いて3～4年次に卒業研究として学内外の様々な関連分野で研究を実施して学問的探究心を養う。4年次の総合講義では、臨床検査学に関する最新の知識を臨床現場の専門家から学び、3年次までに学んだ臨床検査の知識を整理する。模擬試験や補習を実施して国家試験受験に向けた細やかな指導を行う。

学部共通

（全学共通科目）

全学共通科目は、主に1年生を対象とし、自由教育講義系、自由教育実習系、自由教育セミナー系、基礎教育系から構成される。自由教育講義系は、人文科学・社会科学系、自然科学系（数学、物理学、化学、生物学）、英語、第二外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）、フィジカルウェルビーイングの各講義科目で構成され、人文社会科学概論、国際地域文化入門、自然科学系科目、英語等は必修科目として設定されている。自由教育実習系は、自然科学系の実験科目である。自由教育セミナー系は、様々な開講科目から各自の興味関心に合わせて選択する教養選択科目や、医療人として必要な教養を深めるための教養基礎セミナー、2年生以降の高学年で倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）を考える教養セミナーで構成される。基礎教育系は、学科横断の少人数グループでグローバルな問題について議論し解決を目指すグローバル教養総合講座や、情報処理科目から構成されている。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

ア 教員組織編成の考え方

医学科

医学科はディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、具体的に下記の教育研究目的を掲げる。

- 1) 幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観をもつ人間性を培う。
- 2) 自ら問題を提起して解決し、医学のフロンティアを切り開く創造能力を修得する。

3) 世界的規模で働く国際人としての意識を持ち、世界に貢献できる医師・医学研究者を養成する。

この人材育成に関する目的及び教育目標の達成に相応しい効率的な教員組織を編成・配置を行うため、専任教員数は、大学設置基準で定める教員数 140 人に対して、教授 48 名、准教授 28 名、講師 46 名、助教 50 名の計 172 名を配置している。

いずれの授業科目も「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「医学教育分野別評価基準」を満たす、教育上主要と認められるものとして必修科目に設定しており、専任教員の教授、准教授をできるだけ偏りなく配置する。

実習科目についても、教授、准教授を配置することで実習先との円滑な連携、教育効果のモニタリング、学生の安全管理等を総括し指導する体制を構築している。

また、演習、実験、実習・実技を伴う授業科目については、講師や助教、病院実習等に精通した非常勤講師等を多く充てることで指導体制に配慮する。

保健衛生学科

保健衛生学科はディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、具体的に下記の教育研究目的を掲げる。

- 1) 物事を多面的に捉えられる幅広い教養を身に付け、看護学または検査技術学の基礎から応用に至る高い専門知識と技術を修得している。
- 2) 多様な背景を持つ人々の主体性や価値観を理解し、豊かな感性を持って個々を尊重した関係を築くことができる医療人としての人間性が形成されている。
- 3) 社会情勢の影響あるいは業務の特性によって時々刻々と変化する臨床現場の中で、問題の的確に見出し解決に向かわせる柔軟な理解力・洞察力・行動力が養われている。
- 4) 看護または臨床検査の分野におけるスペシャリストを目指して学習を継続する自己学習能力を身に付け、大学院あるいは職場において診療・教育・研究・開発活動を進展させていくことができる創造性が形成されている。
- 5) 国際情勢に関心を示し、看護または臨床検査の分野におけるスペシャリストとして国際貢献に関与できる基礎学力が養われている。

この人材育成に関する目的及び教育目標の達成に相応しい効率的な教員組織を編成・配置を行うため、専任教員数は、大学設置基準で定める教員数 13 人に対して、教授 13 名、准教授 12 名、講師 2 名、助教 15 名の計 42 名を配置している。

イ 専任教員の年齢構成

医学部医学科の専任教員 172 名（令和 6 年 10 月時点）は、教授が 48 名、准教授 28 名、講師が 46 名、助教が 50 名で、年齢構成については、完成年度（令和 13 年 3 月 31 日）時点で 30～39 歳が 2 名、40～49 歳が 31 名、50～59 歳が 84 名、60～65 歳が 31 名である。

医学部保健衛生学科の専任教員 42 名（令和 6 年 10 月時点）は、教授が 13 名、准教授 12

名、講師が2名、助教が15名で、年齢構成については、完成年度（令和11年3月31日）時点で30～39歳が2名、40～49歳が15名、50～59歳が17名、60～65歳が6名となっており、いずれの学科においても、教育研究水準の維持向上及び研究教育の活性化に支障が無い構成となっている。

なお、博士の学位を保有する者のうち、医学科では149名が医学博士または博士（医学）、保健衛生学科では30名が医学博士または博士（医学）、博士（看護学）、博士（保健学）を有しており、非常に専門性高い領域において、学生を教育・指導するのに十分な研究業績・教育指導能力を有している。

いずれの学科においても、完成年度までに教員が退職する場合には、本学では人事の透明性を高め、大学全体の戦略に基づいた優秀な教員採用を進めることを目的として、学長及び理事等で構成される「人事委員会」を設置し、能力を十分有した適切な者が補充される見込みであり、指導力の低下といった学生の不利益は生じない。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

ア 教育方法等

医学科

1年次前期に国府台キャンパスで全学共通科目を学修し、1年次後期より全学共通科目と並行して湯島キャンパスで専門科目（基礎医学科目、臨床医学科目、社会医学科目）を中心に学修を行う。科目ごとに、教育内容に適した学生数の規模で授業を行う。授業形態、教授内容に合わせて講義室、演習室、実習室等を使い分けて行う。

医学科では、国際人としての基盤、医学・科学の発展への貢献、プロフェッショナリズム、コミュニケーション、知識とその応用、診療の実践、様々な制度・資源を考慮した診療の7大領域からなる卒業時学修成果（コンピテンシー）を決定し、その獲得に必要な教育方法を協議し、取り入れている。例えば、知識とその応用に関する学修到達度の評価は、座学の授業に関しては筆記試験によって行っている。

医学・科学の発展への貢献に関する到達度の評価に関しては、学生が医学科授業科目の一環である「自由選択学習（プロジェクトセメスター）」で研究室に配属され、各自が研究を行なった後にその研究の成果や研究発表に対する評価を行なっている。診療の実践に関しては、WoSAC (Mini-CEX)、臨床実習への実習態度で評価を行っている。プロフェッショナリズムに関しては、実習、PBL、TBLなどで知識に加えて態度の評価を行い、WoSAC (Mini-CEX)、臨床実習終了後OSCEでの技能・態度の評価などを組み合わせることによって行われている。このように、教育理念、目標とする卒業時学修成果（コンピテンシー）、カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムの中で、適切な評価法を選択して評価を行なっている。

一授業科目においては、科目責任者を中心に教育・研究において専門性を有した教員によってカリキュラムに沿った講義内容の立案、実施が自由に行われている。教育・研究に関し

ては教員の自由裁量に任されており、学生も自由意思をもって教育を受け、研究を行う環境となっている。

実際に自由な環境かどうかを評価するために、教員研修（ファカルティ・ディベロップメント：FD）では自由に意見を述べることができ、また学生に対しては、科目毎/ブロック毎に到達度、教員の授業態度などに関する項目からなるアンケートを実施し、カリキュラム上の問題点を抽出できるようになっている。

これまで学生からの授業評価のためのアンケート内容が科目ごとに十分統一されていないことが課題として挙げたため、教員の授業実施状況や到達目標達成度の観点から授業内容や成績評価方法等を主として問う「コース評価（全学科共通科目別アンケート）」について全学共通フォーマットを作成し、2018年（平成30年）度から実施している。さらに、卒業時に振り返りを行ってアンケートを行い、カリキュラム全体への学生からの意見聴取を行なっている。

また、クリニカル・クラークシップのカリキュラム策定と改良を検討する臨床実習専門委員会には当該学年の学生代表が委員として参加し、自由な意見を述べる機会がある。加えて、医学科5年次および6年次に実施するハウス・プログラム個人面談においても希望学生の意見を広く聴取している。

また、統合教育機構の教学IR部門の教員によってアンケートの集計結果を自動かつ迅速に変換するために、Excel macro-Access-Rの連携によるデータ集約管理・集計・分析システム「EmAR System」を独自に開発した。これにより、事務職員による集計作業も大幅に短縮され、カリキュラム終了後の適切な時期に、結果を科目責任者へ報告できるようになった。カリキュラムの評価は、統合教育機構の教学IR部門に集約され、解析において匿名性も十分に確保されており、教員および学生の自由を保障した、さらに良質なカリキュラム改善に向けた体制が整っている。

クリニカル・クラークシップ以外は科目担当者を決め、教員の配置に考慮している。講義、実習、演習など、授業の種類により、学生をグループ分けしており、それに必要な教員を以下のように適切に配置している。

- ・個別の部屋（演習室を用いる）PBL：7～8人に1人
- ・Large class PBL：各グループ7～8人で、クラス全体にチューター教員3～5人
- ・TBL：大教室でチューター教員3～5人
- ・プレクリニカル・クラークシップ：各グループ9～10人に対して教員1人
- ・クリニカル・クラークシップ：受け入れ可能人数で適切に学生を配置しており、学外実習や海外大学での実習にも派遣することで適切に配置している。
- ・医学英語：学生10人に対して教員1人

カリキュラムのそれぞれの構成に関連して教員と学生の比率を考慮してプログラムが実施されている。それぞれの授業において学生からの評価を頻回にとることにより、修正を行い、適正な人数を配置するように努めている。

臨床教育の場では非常勤講師の活用を積極的に行い、不足している教員を確保している。特に診療参加型臨床実習においては研修医や医員、指導医、教員が屋根瓦方式で学生と密接にかかわることができるように配慮されている。また、学外実習や海外大学での実習も有効に利用されている。臨床医学はすべてブロック型授業となり、TBL や大教室 PBL を利用し教員不足に対応している。

【資料 1 卒業時学修成果（コンピテンシー）】

保健衛生学科

1 年次前期を主としつつ、全学年を通じた全学共通科目で豊かな教養を養う。全学共通科目では学部・学科を越えて多彩な内容を学ぶ。1 年次後期から専門科目が本格的に開始され、資格取得に向けて学習意欲が高まるような内容へと発展していく。看護学専攻と検査技術学専攻が合同で行う科目や学部学科を越えて行う科目を設定し、協同で問題検討を行い、解決できるような機会を設ける。

《看護学専攻》

1) 教育内容に応じた授業方法

専門知識の理解を目的とする授業は、講義形態とする。技術・態度の修得および論理的思考力や課題解決思考の修得などを目的とする授業は演習形態とする。科学的根拠に基づく適切な判断力と課題解決能力を実践で活用する能力を身につけることを目的とする授業は、実習形態で行う。また、講義や実習等の特性に応じて、統合型教育やアクティブラーニング、e-ラーニング、シミュレーション教育等を積極的に取り入れるとともに、臨床実習では、病院や訪問看護ステーション、地域包括支援センターなど様々な実習先を利用する。

2) 学生数を考慮した適切な授業内容の工夫

講義は学年単位で行うが（1 学年の学生数は 55 名程度）、グループワークを取り入れ 4 ～ 10 名程度のグループで、活発な意見交換ができるようにする。演習や実習においては少人数のグループを編成し、複数名の教員、ティーチングアシスタント、臨床指導者による効果的できめ細やかな指導を行う。学生の学習状況や理解度に応じた適切な教育指導のため、学習教材の配信、成績の管理、課題の提供、課題の提出管理、e ラーニングサポート等の機能を搭載している学習管理システム（LMS: Learning Management System）等を用いて、学生の学修を支援し、効果効率の良い教育方法を展開する。

3) 効果的な学習順序を考慮したカリキュラム編成

いずれの授業科目も、人材養成の方針、ディプロマ・ポリシーに基づく看護師の養成にあたり最大限の授業効果を上げるべく、授業形態及び授業時間数を設定している。また、授業時間数は学生の自主学習の時間を考慮して、過度な負担とならないように計算しているた

め、それぞれの授業科目における単位数は適切である。また、学生の意欲や関心に基づき、全学年共通自由科目や大学院の科目、複合領域コースの科目が履修できるよう時間割が工夫されている。

1 年次前期は幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養のために教養部で他学科他専攻の学生とともに学び、後期より、人々の健康の維持増進、疾病からの回復、安全安楽な療養の支援を行う看護職に必要な専門科目を学修する。2 年次以降は人々の発達段階に応じた看護学の科目、療養状況や場に応じた看護学の科目、更には、看護管理学、国際看護学の広い目で看護を捉えた科目や、公衆衛生看護学、健康教育学演習等、地域に暮らす人々の健康にかかわる看護の科目について、それぞれ講義・演習のみならず実習を通して学修を進める。臨地実習では、1 年次の基盤看護学実習Ⅰに始まり、2 年次の基盤看護学実習Ⅱ、3 年次後期の成人、精神、小児、母性、老年、在宅看護学実習、4 年次の公衆衛生看護学、看護の統合と実践、学習の経験を積み上げる。臨床看護技術の到達点を確認しながら学修できる独自の教育システムを用いて、本大学病院医系診療部門などの医療施設や地域との連携をもとに、あらゆる健康レベルの人々に対応した看護を展開する。

多職種連携教育は、1 年次、2 年次、各専攻の最高学年次、すべての学科・専攻の学生が混合でグループを編成し、専門職連携の重要性、患者中心の医療の重要性をワークショップ形式で学ぶ。

卒業論文は3 年次から取り組む。研究に関する基礎を学んだ後、大学院保健衛生学研究科の各分野に分かれ、少人数制のゼミ形式で各自のテーマで看護研究に取り組み、4 年次には発表会、卒業論文の執筆を経験し研究に関する学びを深める。

《検査技術学専攻》

豊かな教養を身につけさせるために、1 年次前期を主とする全学共通科目において、人文社会科学系科目（哲学、歴史学、文学、政治学、社会学等）、自然科学系科目（数学、物理学、化学、生物学）、外国語系科目（英語、第2 言語）、保健体育学系科目、グローバル教養総合講座、サイエンス PBL（課題解決型学習）入門より必修科目と選択科目を履修する。さらに多職種連携教育プログラム、英語プログラム、AI/データサイエンスのプログラム、グローバルリーダー育成プログラムを実施する。1 年次後期より専門教育（基礎、臨床）を履修する。医療人としての高いモチベーションを持たせるために病院見学や基礎医学を主体とする講義を行う。2 年次後期よりは臨床医学を主体とする講義を行う。形態・病態制御学系、物質・代謝学系、機能調節・制御学系、病因・病態学系に大別された主要科目では、講義と実習を組み合わせた実践的なカリキュラムとしてある。さらに、検査管理・社会医学系、関係法規、総合分野、外国語の科目を加えて、広く臨床検査学について学ばせる。各授業を履修する学生数は原則として入学定員 35 名を上限として細かい教育指導により十分な教育効果を上げることができる。授業の単位数は厚生労働省「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」が示す教育内容・目標を考慮し、授業時間外の学習時間に配慮した上で適切に定めて

おり、学生が無理なく理解できるようカリキュラムに配慮している。

3年次後期には、大学病院における臨地実習により実際の臨床検査の現場を体験する。臨地実習に先立ち、臨床検査に必要な技術の修得度を評価するために全教員による技能修得到達度評価試験を実施する。続いて3～4年次に卒業研究として学内外の様々な関連分野に分かれて研究指導を受け、研究発表や研究論文の作成を行い、学問的探究心を養うとともに研究の基礎を学ぶ。本専攻で臨床検査学の教育を受けた証として卒業時に臨床検査技師の資格取得を目指す。4年次の総合講義では、臨床現場の専門家より臨床検査学に関する最新の知識を学び、3年次までに学んだ臨床検査の知識、技術を整理する。模擬試験や補習講義を実施し、国家試験受験に向けた細やかな指導を行う。

多様化する臨床検査に対する社会のニーズに対応するために、全学共通科目と並行して1～4年次に多彩な選択科目や自由科目を開講し、大学院医歯学総合研究科、難治疾患研究所、生体材料工学研究所と連携した講義が組んでいる。また複合領域コースとして他大学（東京外国語大学、一橋大学）の科目を受講することができる。グローバル社会の実現に向けて英語教育や海外留学の支援に力を入れており、アメリカワシントン大学、フィンランドセイナヨキ応用科学大学、ラオス保健科学大学、タイチュラロンコーン大学、台北医学大学、ガーナ大学との学生の相互短期研修プログラムを実施している。

イ 履修指導方法

医学科

1) オリエンテーション

各年次において、大学の理念、教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて説明し、それに従って行われる必要な履修内容について具体的に説明する。卒業時学修成果（コンピテンシー）についても、入学直後（医学科1年カリキュラム説明会）ならびに各年次開始時に周知している。卒業時学修成果（コンピテンシー）については、各学年及び授業ごとにマイルストーンを設定しており、学生が自己の学修過程とその次の目標を認識できるよう設定してある。

低学年においてキャリア形成取組としてロールモデルとなりうる医師や研究者の講演を聞き、またシャドウイングする機会を提供している。

ハウス・プログラムにおけるアカデミック・アドバイジング（第5・6学年で1回ずつ）に際して、あらかじめ学生は卒業時学修成果（コンピテンシー）の到達状況を振り返り、項目ごとに自身の到達度を確認する。その後の取り組み方法について記載し、担当教員が確認し、必要に応じてフィードバック提供・個人面談での指導を行っている。

2) 縦断チュートリアル

担任制（1人の教授が各学年2人程度の学生を担当する）にもとづく少人数学年混合チュートリアルセッション（縦断チュートリアル）を行い、成績や自己振り返り資料などにもとづ

き定期的に面談・メンタリングを行っている。出席や成績、行動などから懸念点のある学生に対して医学科教育委員が適宜面談を行っている。本学として学生・女性支援センターを整備し、生活・修学・就職・メンタルヘルスおよびハラスメント等に関する支援を行っている。

保健衛生学科

入学時に教養部と保健衛生学科でガイダンスを実施し、専門科目の授業が本格化する1年後期時にもガイダンスを実施する。

また、看護学専攻、検査技術学専攻それぞれ1年から4年に担任を配置し、きめ細かい指導を実施する。

教員に相談をしづらい内容である場合は、学生支援室等、教育部門とは独立した部署に相談することもでき、匿名性が担保される。

《看護学専攻》

1) 新入生ガイダンス

履修方法については、入学時に教養部でのガイダンス、保健衛生学科看護学専攻でのガイダンスを実施し、履修モデルを示し、履修登録方法、履修上の留意点について必要な事項を説明する。保健師国家試験受験資格取得学生の選抜方法、看護師国家試験受験資格取得のみの者、保健師国家試験受験資格取得を選択する者、養護教諭二種免許状取得のための履修モデルについても説明する。

2) オフィスアワー

授業科目の内容等に関して学生が質問・相談できるように、教員が必ず学生対応できる時間帯をオフィスアワーとして設ける。専任教員はシラバスにオフィスアワーの曜日・時間を記載し、その時間帯であれば学生は基本的に予約なしで研究室を訪ねることができる。その時間帯以外であっても、あらかじめ教員に連絡し予約を取れば、質問・相談ができることとする。非常勤講師の場合は、原則、授業終了後の時間をオフィスアワーとする。

3) 科目責任者・担任・教育委員会

各科目責任者が学生の履修状況を把握し、出席や課題提出等に問題がある学生に対し、指導を行う。問題を把握した場合は保健衛生学科教育委員会において情報を共有し、必要に応じて担任と個別面談を行い、相談可能な場を設ける。

《検査技術学専攻》

1) ガイダンス

入学時に、4年間の履修スケジュール、履修上の注意、履修科目の内容、試験方法、個人面談、各種手続きについて説明する。

1年次後期より専門科目が開始されるため、後期開始前に、専門課程の履修に必要な履修上の注意や各種手続きについて説明する。この他に、各学年への進級時、臨地実習および卒

業研究の開始時にガイダンスおよび研修等を実施する。

2) 学年担任

各学年に担任を配置し、履修相談や、それ以外の学生生活や就職に相談に随時応じる体制を整えている。専攻内の教員間で学生情報を共有し、成績不良者については担任を含む複数教員による面談と履修相談を行う。希望者は本学の学生・女性支援センターによる各種サポートやカウンセリングを受けることができる。

3) 進路相談

専攻内に進路指導担当、国家試験対策担当、卒業研究担当等の委員会を設置し、複数教員による指導体制を整えている。3 年次後期より進路指導、履修相談を随時実施する。成績不良者については指導教員を含む複数教員による面談による履修相談および補習講義を実施する。

ウ 卒業要件

医学科

卒業要件となる単位数は、全学共通科目 36 単位、専門科目 183 単位とする。教育理念を実践する医師の養成・形成の観点から、各授業科目はいずれも非常に重要であり欠かすことができないものであるため、一部の授業科目を除き、すべての授業科目を必修科目として設定している。なお、医学科では学生に対して学位論文の作成を課していない。

(各学年共通)

進級に必要な履修単位があり、それらの単位を取得できなければ進級することができない。

(4 年生)

共用試験 (CBT、Pre-CC OSCE) に合格しなければ、次年度に臨床導入実習を再履修するほか、当該年度における 4 年次後半より開講する臨床実習を履修することはできない。

(6 年生)

卒業試験 (共用試験 (Post-CC OSCE) を含む。) に合格しなければ、次年度に臨床実習を再履修するほか、卒業を認めない。

保健衛生学科

卒業要件は全学共通科目、専門科目を合わせ、看護学専攻が 130.5 単位以上、検査技術学専攻が 142 単位とする。

全学共通科目では医療人の基盤となる幅広い教養と、豊かな人間性と倫理観、自ら問題提起し解決する創造力を養う。専門科目では資格取得に向けて、専門的な知識、技能に関する学びを深める。

《看護学専攻》

医学部保健衛生学科看護学専攻においては、4年以上在学し、全学共通科目28.5単位以上、専門科目102単位以上の合計130.5単位以上を修得する必要がある。

全学共通科目は、国際的に通用する医療人の基盤となる、さまざまな文化や多様な世界を理解できる幅広い教養と、他者を理解するための豊かな人間性と倫理観、自ら問題提起し解決する創造力を兼ね備えた人材を育成するため、幅広い科目を履修する。

専門科目では指定規則の基礎分野14単位、専門基礎分野22単位、専門分野の講義演習科目は43単位、臨床実習科目は23単位として、単一の看護師養成指定校としての要件を満たす。

【資料2 教育課程と指定規則との対比表】

《検査技術学専攻》

全学共通科目が33.5単位、専門科目が102.5単位、選択科目が6単位の計142単位以上とする。選択科目は6単位以上が要件になっており、第2学年から第4学年で履修することができる。6単位のうち2単位以上は第4学年で履修する必要がある。また、6単位のうち4単位を上限として、複合領域コース開講科目のうち、一橋大学が開講する授業科目の単位を算入できる。

エ 履修モデル

医学科

別紙のとおり【資料3 医学科カリキュラム概要】

保健衛生学科

《看護学専攻》

別紙のとおり【資料4 専門科目履修モデル（看護学専攻）】

《検査技術学専攻》

別紙のとおり【資料5 専門科目履修モデル（検査技術学専攻）】

オ 多様なメディアの使用

多様なメディアを使用する授業（以下「遠隔授業」という。）であっても、面接授業と同様に全ての授業科目についてシラバスを作成する。シラバスには、遠隔授業であることを明記し、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画、予習・復習に関する指示をあらかじめ明示する。また、学修の成果に係る評価の客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準を明記する。シラバスは学生がいつでもその内容を確認出来るよう、オンライン上で全ての授業科目について公開する。卒業判定基準は、学則、学部規則に明記するとともに毎年作成する学生便覧に記載し、周知する。

カ 履修科目の上限設定

履修科目の上限（CAP）は設定しない。履修単位の上限（CAP）を設定しない理由として、医学科は、殆どを必修科目として設定しており、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に掲げられる項目を適切に実行する観点から、全ての授業科目を非常に重要かつ欠かせないものとして必修科目に設定していること、保健衛生学科について、看護学専攻は、文部科学大臣が指定する看護師学校、検査学専攻は、臨床検査技師の養成所として厚生労働大臣からの承認を受けた承認校であり、医学科と同様看護師・臨床検査技師等の養成にあたり重要な科目として殆どを必修科目としているためである。両学科において、個々の授業科目の単位数については学生の自主的な学修時間の確保も踏まえつつ、医師等の養成にあたり最大限の効果をあげるべく設定している。

キ 他大学における授業科目の履修等

教育上有益と認めるときは、学生が他の大学（外国の大学等を含む）において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。この制度を利用し、選択必修科目である第二外国語では、東京外国語大学で実施されるフランス語の履修を可能とする。また、本学、東京外国語大学、一橋大学がそれぞれの大学の特色ある授業科目を提供する「複合領域コース」を設定し、これまでの高等教育が育てることのできなかった新しい人材を育成することを目指している。

医学科

専門科目について、他大学における授業科目等の履修は単位として認めない。

保健衛生学科

看護学専攻においては専門科目について、他大学における授業科目等の履修は単位として認めていないが、検査技術学専攻において、上記複合領域コース開講科目における、一橋大学が開講する授業科目の単位を修得した場合、4単位を上限として単位を修得したものとみなすことができる。

7. 施設、設備などの整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

東京医科歯科大学の校地、運動場等をそのまま引継ぐ。

湯島地区、駿河台地区、国府台地区の3地区において、校地面積 109,757 m²を有しており、その中に、121,080 m²の校舎面積を保有し、教育研究等に必要な施設及び設備を整えている。湯島地区、駿河台地区には、講義室、研究室、病院、附置研究所、図書館、各種実験施設等が整備されており、国府台地区には、講義室や研究室などに加えて図書館分館、屋外

運動場、プール、体育館、国際交流会館、国際学生宿舎等が整備されている。

屋外運動場は、19,972 m²を有し、その他学生が利用できるスポーツ施設として、体育館、プール、弓道場、テニスコート、武道館、柔剣道場を備えている。

イ 校舎等施設の整備計画

東京医科歯科大学の校舎等施設をそのまま引継ぐ。湯島地区、駿河台地区、国府台地区の3地区で、校舎面積 121,080 m²を有し、教育研究等に必要な施設及び設備を整えている。湯島キャンパス及び駿河台キャンパスにおいては、学部の専門教育、大学院の教育研究を中心とした学舎として利用する。それぞれの授業を実施するため、それぞれの学科で使用する講義室や演習室、実習室を複数配置している。また、研究における研究や実験等のスペースが確保できるように、それぞれの分野における研究室や実験スペースを確保している（1号館、2号館、3号館、5号館、7号館、10号館、D棟、M&Dタワー）。国府台キャンパスにおいては、1学年を対象とした教養教育を中心に利用する。教室やセミナールームを複数設置するだけでなく、談話室や休憩室等の学生が休憩したり、学生同士でコミュニケーションを取ったりする空間も十分に確保している。

さらに、施設の有効活用を促進し、教育研究活動の活性化を図るため、共用スペースの確保やスペースの再配分を行っており、施設点検評価に関する内規及び施設有効活用に関する施設点検評価実施要項に基づき、施設の有効活用に関する調査を行い、大学全体の戦略の実現に向け、既存施設の有効活用を進めていくための学長裁量スペースを確保した。また、不断の見直しによる再分配で、再生医療研究センター、リサーチ・ユニバーシティ推進機構、スポーツサイエンス機構及び長寿・健康人生推進センター（病院）等のスペースも確保している。

ウ 図書などの資料及び図書館の整備計画

湯島キャンパスの図書館及び国府台キャンパスの図書館については、東京医科歯科大学図書館の施設設備をそのまま引き継ぐ。総面積は 5,327 m²、閲覧座席数は 443 席で、PC を常置した情報検索室等を備えている。蔵書数（製本雑誌を含む）は、272,788 冊、学術雑誌 3,530 種、電子ジャーナル 12,381 タイトル、視聴覚資料 359 点である。これらの資料は、図書館業務システムで管理されており、OPAC で学内外から所蔵場所や貸出状況が確認できるようになっている。

資料は、閲覧室と自動書庫等に配架され、自動貸出機またはカウンターで館外貸出手続きを行っている。本学に所蔵の無い資料については、相互利用協定を締結した大学での貸出や閲覧が可能なほか、NACSIS-ILL を利用してそれ以外の大学図書館からも資料の取り寄せを行っている。資料の依頼や、図書の貸出期間の延長などは MyLibrary によって行うことができる。電子ジャーナルやデータベース等の Web サービスについては、学内はもちろん、学外からも VPN で利用することができる。

また、湯島キャンパスの図書館では、自主的学習設備として、静謐な学習空間に加えて、有料コピー機2台（プリンター兼用）、無線LAN等を整備しているほか、活発かつ能動的に学習ができるラーニングコモンズを設置している。開館時間は平日 8:30-22:00、土日祝は 10:00-18:30 で、年末年始と計画停電時を除き休館日は設けていない。

国府台キャンパスの図書館は、グループ学習に適した可動式のテーブルとチェアを配置し、情報検索・e-Learning 用の PC と無線 LAN 環境を整えたコラボレーションエリアを設置している。一方、活発な空間からの音漏れがないようにした静謐な場に、ソーシャルディスタンスを十分に配慮した配置で学習用デスクを設置し、授業外の学習時間の質の向上も図った。開館時間は平日 8:45-18:45（休暇中及び授業のない曜日は 8:45-17:00）、土日祝、年末年始は休館である。

なお、学術情報資源を有効に活用してもらうため、毎年、図書館職員が授業やオリエンテーションに赴き、学部生、大学院生、留学生に向けて文献検索を中心とした資料の活用方法の説明を行っている。さらに、個別のデータベースや文献管理ツール等のより詳細な講習会も開催している。

8. 入学者選抜の概要

ア アドミッション・ポリシー

○医学部医学科

《求める学生像》

【一般選抜（前期日程）】

1. 医学・医療に深い関心をもち、生涯にわたり学習し、知識と技能を向上させる意志を有している。
2. 卓越した知的能力、科学的思考能力とそれを発展させる潜在力を有している。
3. 優秀な能力を他者・社会のために活用する利他・奉仕の心を有している。
4. 他者への思いやりや協調性があり、国内外の多種多様な状況を理解して分析し、未来を想像する力を備えている。
5. コミュニケーション能力とそのための語学的素養を有している。

【一般選抜（後期日程）】

1. 医療や生命科学に対し旺盛な好奇心を有し、それを医学研究に進展させる意志を有している。
2. 卓越した知的能力、科学的思考能力とそれを発展させる潜在力を有している。
3. 優秀な能力を他者・社会のために活用する利他・奉仕の心を有している。
4. 多彩な情報から問題点を抽出し、解決するとともに、それを表現する能力を有している。
5. 他者への思いやりや協調性があり、国内外の多種多様な状況を理解して分析し、未来を想像する力を備えている。

6. コミュニケーション能力とそのための語学的素養を有している。

【私費外国人留学生特別選抜】

1. 医学・医療に深い関心を持ち、生涯にわたり学習し、知識と技能を向上させる意志を有している。
2. 卓越した知的能力、科学的思考能力とそれを発展させる潜在力を有している。
3. 優秀な能力を他者・社会のために活用する利他・奉仕の心を有している。
4. 他者への思いやりや協調性があり、国内外の多種多様な状況を理解して分析し、未来を想像する力を備えている。
5. 本学医学科の教育に耐えうる日本語能力を有するとともに、将来は国際語を駆使し、国際的に貢献、活躍する意志と能力を有している。

【地域特別枠推薦選抜】

1. 医学・医療に深い関心を持ち、生涯にわたり学習し、知識と技能を向上させる意志を有している。
2. 卓越した知的能力、科学的思考能力とそれを発展させる潜在力を有している。
3. 優秀な能力を他者・社会のために活用する利他・奉仕の心を有している。
4. 他者への思いやりや協調性があり、国内外の多種多様な状況を理解して分析し、未来を想像する力を備えている。
5. コミュニケーション能力とそのための語学的素養を有している。
6. 卒後は当該地域で臨床医学の発展に貢献するという決意を有している。

【2年次学士編入学試験】

1. 医学・医療に深い関心をもつとともに成熟した人格を備え、高校卒業後に得た知識や経験を医学研究に発展させる意志を有している。
2. 卓越した知的能力、科学的思考能力とそれを発展させる意欲を有している。
3. 優秀な能力を他者・社会のために活用する利他・奉仕の心を有している。
4. 多彩な情報から問題点を抽出し、解決するとともに、それを表現する能力を有している。
5. 他者への思いやりや協調性があり、国内外の多種多様な状況を理解して分析し、未来を想像する力を備えている。
6. コミュニケーション能力とそのための語学的素養を有している。
7. 常に新しい医療環境に対応し、医学・医療の発展に寄与する次世代指導者としての資質を有している。
8. 多様な分野が関与する現代医学の中で、独自性の高い分野で活躍し、新しい分野を開拓する能力を有している。

【特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜）】

1. 医学・医療に深い関心をもち、高い基礎学力と倫理観を備えている。
2. 協調性とコミュニケーション能力に優れ、患者の思いを慮ることができるバランスのとれた人格を備えている。
3. 創造性とチャレンジ精神に富み、自然科学領域におけるきわめて優れた特性・学科能力または国内外の課外活動などにおける特筆すべきリーダーシップ能力を備えている。

【特別選抜Ⅰ（国際バカロレア選抜）】

1. 医学・医療に深い関心をもち、高い基礎学力と倫理観を備えている。
2. 協調性に優れ、患者の思いを慮ることができるバランスのとれた人格を備えている。
3. 創造性とチャレンジ精神に富み、自然科学領域におけるきわめて優れた特性・学科能力または国内外の課外活動などにおける特筆すべきリーダーシップ能力を備えている。
4. 日本語および英語を用いたコミュニケーション能力に優れ、領域横断的な思考に基づく高い問題解決能力を備えている。

【特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）】

1. 医学・医療に深い関心をもち、高い基礎学力と倫理観を備えている。
2. 協調性とコミュニケーション能力に優れ、患者の思いを慮ることができるバランスのとれた人格を備えている。
3. 創造性とチャレンジ精神に富み、きわめて優れた語学力と豊かな国際感覚を有している。

《入学試験の基本方針》

【一般選抜、私費外国人留学生特別選抜】

面接では、医学・医療への関心と医療人としての適性、コミュニケーション能力、積極性および協調性を評価する。

特に、一般選抜（後期日程）では、小論文により、論理的思考能力や文章構成能力などを評価し、面接により、基礎・臨床医学への興味・関心および社会や大学に貢献する意志・能力などを評価する。

【地域特別枠推薦選抜】

小論文では、問題発見および解決に必要な批判的・創造的・協働的思考力に加えて、課題を整理・要約し、自らの考えを提示する能力などを評価する。

面接および提出書類では、当該地域の医療に貢献する熱意、能力を高く評価する。

【2年次学士編入学試験】

面接および提出書類により、大学以降の学習や研究成果を踏まえて、論理的思考能力、リーダーシップ能力、コミュニケーション能力などを評価し、特に、医学・医療の発展に貢献する潜在性や熱意、独自の視点などを確認する。

【特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜）】

小論文では、問題発見および解決に必要な批判的・創造的・協働的思考力に加えて、課題を整理・要約し、自らの考えを提示する能力などを評価する。

面接および提出書類では、優れた科学的思考能力やコミュニケーション能力、リーダーシップ能力などを高く評価する。

【特別選抜Ⅰ（国際バカロレア選抜）】

小論文では、問題発見および解決に必要な批判的・創造的・協働的思考力に加えて、課題を整理・要約し、自らの考えを提示する能力などを評価する。

面接および提出書類では、科学的思考能力やコミュニケーション能力、リーダーシップ能力、日本語・外国語能力などを評価する。

【特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）】

面接および提出書類により、コミュニケーション能力、日本語・外国語能力、国際的視点などを評価する。

○医学部保健衛生学科

《求める学生像》

【一般選抜（前期日程）、私費外国人留学生特別選抜】

1. 保健医療および看護学または検査技術学を修得して社会に貢献したいという熱意を有している。
2. 探究心が旺盛で、自ら考え、自ら問題に取り組み解決しようとする姿勢を有している。
3. 専門的知識や技術を学ぶための基礎学力を有している。
4. 国際性の形成に必要な、広い視野と外国語の運用能力を有している。
5. 医療人としての人間性を育むために必要な、コミュニケーション能力、他者への思いやり、責任感、倫理観を備えている。

【一般選抜（後期日程）】※検査技術学専攻のみ

1. 保健医療および検査技術学への強い関心があり、それを研究開発等の幅広い分野で活かしていく意志がある。
2. 探究心が旺盛で、自ら考え、自ら問題に取り組み解決しようとする姿勢を有している。
3. 専門的知識や技術を学ぶための基礎学力を有している。

4. 国際性の形成に必要な、広い視野と外国語の運用能力を有している。
5. 医療人としての人間性を育むために必要な、コミュニケーション能力、他者への思いやり、責任感、倫理観を備えている。

【特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜）】

1. 保健医療および看護学または検査技術学に深い関心を持ち、他者への思いやり、責任感、倫理観を備えている。
2. 観察力、科学的思考力、問題解決力、総合判断力を備えている。
3. 人間性が豊かで、継続的に自己啓発し、探究心が旺盛である。
4. コミュニケーション能力が優れ、リーダーシップを発揮して課題に取り組むことが期待できる。

【特別選抜Ⅰ（国際バカロレア選抜）】

1. 保健医療および看護学または検査技術学に深い関心を持ち、他者への思いやり、責任感、倫理観を備えている。
2. 観察力、科学的思考力、問題解決力、総合判断力を備えている。
3. 人間性が豊かで、継続的に自己啓発し、探究心が旺盛である。
4. 外国語によるコミュニケーション能力が優れ、多様な文化への理解と関心を有している。

【特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）】※検査技術学専攻のみ

1. 保健医療および検査技術学に深い関心を持ち、他者への思いやり、責任感、倫理観を備えている。
2. 観察力、科学的思考力、問題解決力、総合判断力を備えている。
3. 人間性が豊かで、継続的に自己啓発し、探究心が旺盛である。
4. 国際感覚に優れ、保健医療を巡る国際的諸課題の解決に貢献することが期待できる。

《入学試験の基本方針》

学力検査以外の評価方針を記載する。

【一般選抜、私費外国人留学生特別選抜】

小論文では、日本語の文章を読んで理解する力、それに基づいて自分の考えをまとめて文章で表現する力などを評価する。

面接では、保健医療および看護学または検査技術学への関心、探究心やコミュニケーション能力などを確認する。

【特別選抜Ⅰ（学校推薦型選抜）】

小論文では、問題発見および解決に必要な批判的・創造的・協働的思考力に加えて、文章を読んで内容を理解する力、それについての自分の意見を記述する力、物事を科学的に分析する思考力などを評価する。

面接および提出書類では、与えられたテーマについて自分なりの考えをまとめ、分かりやすく人に説明する力、人の意見を聞いて議論する力などを評価する。

【特別選抜Ⅰ（国際バカロレア選抜）】

小論文では、問題発見および解決に必要な批判的・創造的・協働的思考力に加えて、日本語の読解力、作文力などを評価する。

面接および提出書類では、人間性や思考力などに加え、言語能力や文化への理解などを評価する。

【特別選抜Ⅱ（帰国生選抜）】※検査技術学専攻のみ

面接および提出書類では、特に、国際感覚や世界的な保健医療への関心などを評価する。

イ 入学者選抜の方法と体制

○一般選抜

・前期日程募集人員：医学部医学科 69 名、医学部保健衛生学科看護学専攻 35 名、医学部保健衛生学科検査技術学専攻 20 名、

・後期日程募集人員：医学部医学科 10 名、医学部保健衛生学科検査技術学専攻 7 名、

入学者の選抜は、調査書の内容と大学入学共通テストの成績により第 1 段階の選抜（前期日程は、医学部医学科募集人員の約 4 倍、その他の学科・専攻では実施しない。後期日程は、医学部医学科で募集人員の約 12 倍、保健衛生学科検査技術学専攻では実施しない。）を行い、その合格者について更に個別学力検査等を前期日程、後期日程により実施し、各々総合判定により入学者を選抜する。

○地域特別枠推薦選抜（医学部医学科）（募集人員：茨城県 5 名（茨城県内対象 2 名、全国対象 3 名）、長野県 5 名（全国対象）、埼玉県 5 名（全国対象）、計 15 名）

入学者の選抜は、志願者が提出した出願書類の評価、小論文試験、面接試験の成績を総合して判定する。

なお、志願者数が募集人員を大幅に上回る場合（募集人員の約 2 倍）には、出願書類により第 1 段階選抜を実施する。

また、令和 5 年度大学入学共通テストにおいて、以下に記載する「本学が指定する教科・科目」を全て受験しなければならない。1 科目でも受験していない場合は、合格の対象とならない。

なお、合格と判断する際の目安の得点は、「本学が指定する教科・科目」の得点の総合計が原則 8 割以上とする。

○特別選抜 I（学校推薦型選抜）（募集人員：医学部医学科 5 名、医学部保健衛生学科看護学専攻 20 名、医学部保健衛生学科検査技術学専攻 8 名）

入学者の選抜は、志願者が提出した出願書類の評価、小論文試験、面接試験の成績を総合して判定する。（医学部医学科については大学入学共通テストを課す。）

なお、特別選抜国際バカロレア選抜）と合わせて（医学部医学科は特別選抜 I（学校推薦型選抜）のみの）志願者数が募集人員を大幅に上回る場合（募集人員の約 4 倍）には、出願書類により第 1 段階選抜を実施する。（医学部保健衛生学科看護学専攻及び検査技術学専攻は第 1 段階選抜を実施しない。）

※医学部医学科を志願する者は、大学入学共通テストにおいて、本学が指定する教科・科目を全て受験しなければならない。1 科目でも受験していない場合は、合格の対象とならない。なお、合格と判断する際の目安の得点は、「本学が指定する教科・科目」の得点の総合計が、医学部医学科は原則 8 割以上とする。

○特別選抜 I（国際バカロレア選抜）（募集人員：医学部医学科 2 名、医学部保健衛生学科看護学専攻 若干名、医学部保健衛生学科検査技術学専攻 若干名、）

入学者の選抜は、志願者が提出した出願書類の評価、小論文試験、面接試験の成績を総合して判定する。

○特別選抜 II（帰国生選抜）（募集人員：医学部医学科若干名、医学部保健衛生学科検査技術学専攻 若干名）（医学部保健衛生学科看護学専攻、では募集していない。）

入学者の選抜は、志願者が提出した出願書類の評価、学力試験（本学の一般選抜 前期日程）の個別学力検査における英語、数学及び理科（物理、化学、生物から 2 科目）、面接試験の成績を総合して判定する。ただし、医学部医学科においては英語の試験を課さない。

なお、志願者については、出願書類により選考を行い、3 名を上限として第 1 段階選抜を実施する。

○私費外国人留学生特別選抜（募集人員：全学科、全専攻 若干名）

入学者の選抜は、日本留学試験及び学力検査の成績により第 1 段階選抜を行う。その合格者についてさらに面接試験を実施し、各々総合判定により入学者を選抜する。なお、日本留学試験と学力検査の配点比率は 1：1 とする。大学入学共通テストは課さない。

①日本留学試験

出願資格に必要な独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」において、本学の学部・学科・専攻が指定する受験科目を全て受験することとする。

②学力検査

本学の前期日程試験と同一の個別学力検査等を実施する。

③面接試験

第1段階選抜を合格した者に対し、面接試験を行う。

○2 年次学士編入学学生募集要項（医学部医学科）（募集人員：5 名）

入学者の選抜は、学力検査（自然科学総合問題）、面接試験の成績、出願書類を総合して判定する。

9. 取得可能な資格

設置する医学部医学科・保健衛生学科を卒業することで、以下の受験資格を得ることができる。

医学科

医師国家試験受験資格

保健衛生学科

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格

臨床検査技師国家試験受験資格

10. 実習の具体的計画

A 実習の目的

医学科

臨床医学教育（臨床実習）においては、診療科ごとのローテーション構造をとり、提供する学修機会は医学教育モデル・コア・カリキュラム G 章に沿うものである。内科や外科については、専門内科・専門外科診療科の提供するプログラムを、第5学年の必須ローテーションとして、そして第6学年の選択ローテーションとしてローテートする。第5学年での履修においては、内科系診療科教員および外科系診療科教員がそれぞれで共通カリキュラムを作成し、ローテートするプログラムに関わらず重要な症候・疾患を全学生が学べるよう、学生を対象とした症例基盤型学修機会を多数用意し、また手術室見学ツアーや臨床スキル獲得のためのセッションも用意し、モデル・コア・カリキュラム G 章の内科系・外科系臨床実習の内容を学生が網羅できるような実習方法・学修機会を提供している。

臨床医学教育（臨床実習）では、診療参加型臨床実習とともに、臨床技能教育（シミュレーション教育）、地域実習経験が盛り込まれている。さらに、臨床実習中に行われるハウス・プログラム集合学習セッションにおいて、各学生が、過去に担当した症例を「EBM」および「社会医学（広義）（この中には行動科学も含む）」の両観点から深く掘り下げて、双方向的に症例分析・学修を行う（学生相互教育）形を取り入れている。担当した症例における、行

動科学を含む「社会医学（広義）」の効果的な学修・復習につながる問題点を選び出し、教科書や論文、その他エビデンスなどを盛り込み、双方向的に学修する。各学生は、自身および他学生によるものを含め、第5学年において10症例程度における「社会医学（広義）」トピック・問題の実例を通じた学修をする。

保健衛生学科

《看護学専攻》

（1）実習の概要

本学における実習は、上述のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに従い、1年次から4年次に段階的に配置された臨地実習科目を習得し、実習目標を達成する。

1年次の「基盤看護学実習Ⅰ」では、①専門科目の学習初期段階に、本学大学病院において看護活動の見学や入院患者との関わりを通して、看護の機能と役割を理解する。専門知識の少ない時期に医療の場に触れることで、患者と同じように生活者としての視点から患者の療養環境の実際を知り、看護師として全人的なかかわりができるための基礎的能力を培う。②他職種の活動内容や多職種連携の実際を知ること看護の専門性の理解につなげる。③自律的な実習への参加を通して、専門職の一員としての態度と素養を養うことを目的とする。

2年次の「基盤看護学実習Ⅱ」では、患者への日常生活援助技術を中心にした看護過程を実際の臨床現場において展開することで、既習の知識・技術を統合して看護実践の場面に適用し、看護の理論と実践を結び付けて理解できる能力を養う。医療を受ける人々と取り巻く環境を理解し、個別性を考慮した看護実践の基礎を学ぶ。また、自律的な実習への参加を通して、専門職の一員としての態度と倫理的な判断の素養を養うことを目的とする。

3年次は、ライフサイクル各期の対象の特徴を理解し、それぞれのもつ健康課題（Health Task）に対し、系統的かつ具体的な看護活動を実践することを目的としており、「成人・老年看護学実習Ⅰ」、「成人・老年看護学実習Ⅱ」、「小児看護学実習」、「周産看護学実習」、「精神看護学実習」、「在宅看護学実習」の計6科目の実習を行っている。

4年次の「成人・老年看護学実習Ⅲ」では、さまざまな健康段階にある成人・老年期の入院患者に対し、既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により、必要な看護を指導者とともに実践し、看護実践能力を高める力を培う。チーム医療における看護の役割・責任・倫理について臨床場面から考察を深め、看護師としてリーダーシップ、メンバーシップを発揮する上での基本的能力を修得する。看護専門職として成長を続けるために必要な自己課題に向き合う姿勢を養うことを目的に、「看護と統合実践実習」では、病院機能全体において看護職が果たす役割を総合的な体験・実践を通して理解することを目的とし、病棟（夜勤を含む）、外来や専門診療部門における看護職の機能や役割、医療安全のための行動や、チーム医療における多職種との連携や協働に看護職が果たす役割について、見学、シャドーイン

グ、ミーティングへの参加などを通して習得する。さらに、既習の知識や技術を基盤として、病棟におけるパートナーシップ・ナーシングや、クリティカルケア部門における重症患者のケアのマネジメント、歯科看護、外来患者の療養生活の支援を経験し、優先性を考慮した多重課題への対応や、チームにおける協働、災害やグローバル化に伴って生じる諸問題に注目し、看護職として果たすべき役割について理解するとともに、シミュレーションを通して、必要な知識とスキルを修得する。「総合看護学実習」では、これまでに習得した知識、技術、態度を統合し、様々な病状・病期にある対象が持つ健康問題を保健・医療・福祉の視点、及び、国際的な視点を踏まえ、総合的に看護実践を提供できる力を高める。多職種との連携、医療安全、管理的な視点を踏まえ、チーム医療の中での看護師の役割を実践の中で学ぶことを目的とする。

保健師国家試験受験資格を選択する学生は、4年次に「公衆衛生看護学実習」を履修する。「公衆衛生看護学実習」は、地域における人々の健康状態、ヘルスケアニーズを生活や環境との関係からアセスメントし、個人・家族・集団・地域を単位とする看護計画の立案、実践、評価の過程を学ぶ。人々の健康を守る保健・医療・福祉の地域ケアシステムを理解し、公衆衛生看護の機能を学ぶことを目的とする。

《検査技術学専攻》

臨床検査技師として必要な基本的実践技術を習得するとともに、検査機器の取扱法、精度管理法、検査情報管理法など、検査室の運営に関する必要な知識を習得する。また、臨床検査の現場を体験することによって、医療における検査室の重要性を理解し、あわせて患者への対応の仕方を学び、医療チームの一員としての自覚と責任感を養う。

(2) 実習単位、主な内容、実習施設、時期、学生の配置、週間計画等

※保健衛生学科のみ

保健衛生学科

《看護学専攻》

実習単位、主な内容、実習施設、時期、学生の配置、週間計画は、以下のとおりであり、各実習については、実習要項を作成している。

1年次：「基盤看護学実習Ⅰ」1単位

- ・実習施設：本学大学病院
- ・時期：1年次後期
- ・学生の配置：全11病棟に分かれ、各病棟5名ずつを配置
- ・週間計画：初日に学内でのオリエンテーションならびに本学大学病院看護部によるオリエンテーションを実施し、2日目から各病棟でシャドーイング実習を行う。最終日は、学内で実習のまとめの会を行う。

2年次：「基盤看護学実習Ⅱ」2単位

- ・実習施設：本学大学病院
- ・時期：2年次通年（8～9月）
- ・学生の配置：全11病棟に分かれ、各病棟5名ずつを配置
- ・週間計画：初日の午前中に学内でのオリエンテーションを行い、午後、病棟挨拶ならびに実習で担当する患者情報の概要を収集する。2日目から各病棟で受け持ち患者実習を行う。1週目の終わりに中間カンファレンス、病棟実習の最終日には各病棟で最終カンファレンスを実施。実習最終日に学内で実習のまとめの会を行う。

3年次：

「成人・老年看護学実習Ⅰ」3単位

- ・実習施設：本学大学病院
- ・時期：3年次後期
- ・学生の配置：2クールで実施する。各クール8病棟に分かれ1病棟4名程度を配置
- ・週間計画：初日に学内でのオリエンテーションの後、病棟オリエンテーションならびに実習で担当する患者情報の概要を収集する。2日目から3週目まで各病棟で受け持ち患者実習を行う。毎日カンファレンスを実施、週1回は看護過程カンファレンスにて看護計画等への助言を受ける。病棟実習の最終日には各病棟で最終カンファレンスを実施。実習最終日に学内で実習のまとめの会を行う。病棟実習他、実習初日に手術部にてオリエンテーションを受け、3週目に手術室見学実習を行う。

「成人・老年看護学実習Ⅱ」3単位

- ・実習施設：九段坂病院、浴風会病院、初台リハビリテーション病院、浴風会、龍岡介護老人保健施設、介護老人保健施設ひかわした
- ・実習時期：3年次後期
- ・学生の配置：2クールで実施する。各クール3病院（計14病棟）に分かれ、1病棟1～4名程度を配置
- ・週間計画：初日には、学内でのオリエンテーション・実技演習後、実習で担当する患者を決定し患者概要を収集し自己学習を行う。2日目から3週目まで各病棟で患者を1名担当し実習を行う。実習3から4日目に中間カンファレンスを行って病棟指導者から看護計画等への助言を受け、計画を修正する。毎日学生カンファレンスを行い学生の学びを深め、病棟実習の最終日には最終カンファレンスを行う。病棟実習前・中・後に、老人保健施設実習を1日行う。全クール終了後、学内で実習のまとめの会を行い実習施設全体の学びの共有と統合を行う。

「小児看護学実習」

- ・実習施設：（病院）本学大学病院、国立国際医療研究センター病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、（保育園）文京区立保育園（17カ所）
- ・実習時期：3年次後期
- ・学生の配置：保育園実習は、17園に2～3名ずつ配置し、2日間半の実習を行う。病棟は、

2週間×4クールで実施する。各クール3病院に分かれ、4-5名ずつ配置する。

- ・週間計画：保育園実習では、事前に半日のオリエンテーションを行う。2日間異なる年齢のクラスに配置し、実習を行う。病棟実習では、初日より病棟に行き、病棟オリエンテーションを行い、受け持ち患者の情報収集をする。看護計画の立案を行い、2-5日目に計画の実施、評価を行う。5日目に病棟で最終カンファレンスを行う。

「周産看護学実習」

- ・実習施設：本学大学病院、賛育会病院
- ・実習時期：3年次後期
- ・学生の配置：2週間×4クールで実施する。各クール2病院に別れ、7-8名ずつ配置する。さらに各病院で2グループに分かれ、1週間ごとに病棟受け持ち実習と見学実習を交互に実施する。
- ・週間計画：1週目初日に学内での実技テスト・オリエンテーションを行う。病棟受け持ち実習は2日目から実施し、原則として産褥期の母児1組を受け持ち看護過程および退院支援として保健指導を計画・実施する。見学実習では、産科外来、NICU、母親学級、および分娩室での見学実習を実施する。2週目の最終日に最終カンファレンスを実施し、学びのまとめを行う。

「精神看護学実習」

- ・実習施設：本学大学病院精神科病棟、井之頭病院、精神障害者社会復帰施設等（6カ所）、精神科デイケア（2カ所）
- ・実習時期：3年次後期
- ・学生の配置：病棟実習では、2病院に分かれ、計4病棟で実習。各病棟あたりの学生数は3-6名。地域施設実習では、社会復帰施設およびデイケア8ヶ所のうち7ヶ所に2-3名ずつ配置。
- ・週間計画：病棟実習では、初日より病棟に行き、病棟オリエンテーションを行い、受け持ち患者を決定。3日目までに情報収集、看護計画の立案を行い、4-5日目に計画の実施、評価を行う。5日目に病院で最終カンファレンスを行う。6日目に学内で2病院の学生が全員集合し、まとめの会を行う。地域施設実習では、初日に学内でオリエンテーションと事前学習を行い（半日）、2日目に各施設で実習を行う。3日目に学年全体でまとめの会を学内で実施（半日）。

「在宅看護学実習」

- ・実習施設：訪問看護ステーション（3カ所）、地域包括支援センター（4カ所）、本学大学病院（入退院支援センター）
- ・実習時期：3年次後期
- ・学生の配置：本実習は、「入退院支援実習」、「地域包括支援実習」、「訪問看護実習」の3つの実習で構成されている。「入退院支援実習」では、学生を2グループ（3-4人/グループ）に分け、外来の2つのセクションで実習を行う。「地域包括支援実習」では、学生を3グル

ープに分け（2 - 3 人/グループ）、1 施設に 1 グループ 3 時間の実習を行い、待機学生は学内実習を行う。「訪問看護実習」では、学生を 2 グループ（3 - 4 人/グループ）に分け、2 施設で実習を行う。

・週間計画：2 週間の実習で「入退院支援実習」、「地域包括支援実習」、「訪問看護実習」の 3 つの実習を行う。1 週目は、「入退院支援実習」と「地域包括支援実習」を予定している。

「入退院支援実習（2 日間）」では、入院前のオリエンテーションの見学、退院調整看護師のシャドーイング、退院調整の困難な事例についてグループワークを行う。「地域包括支援実習（2 日間）」では、地区診断のフィールドワーク、地域包括支援センターの課題に対しグループワークを行う。2 週目は、「訪問看護実習（4 日間）」を予定しており、利用者 1-2 名を担当し、在宅訪問を行う。各実習の最終日は、施設の指導者に参加いただき最終カンファレンスを行う。

4 年次：

「看護の統合と実践実習」 3 単位

・実習施設：本学大学病院

・実習時期：4 年次通年

・学生の配置：看護管理実習、多重課題実習、夜勤実習では大学病院の全病棟に 4-5 名を配置し、クリティカルケア看護実習では集中治療部、ER センターに 1 グループ 3-4 名を配置、災害看護実習、医療安全実習では、学生を 8 グループに分け、1 グループ 6-7 名を配置し、実習を行う。

・週間計画：看護管理実習、多重課題実習、夜勤実習として、各 1 日ずつ、リーダー看護師またはスタッフ看護師のシャドーイングを行う。「クリティカルケア看護実習」として、2 日間の集中治療部、ER センターの看護師のシャドーイング、カンファレンス参加、グループディスカッションを行う。災害看護実習として、2 日間、大学病院の災害設備、災害対策の実際を見学し、大災害発生時の病院、避難所での看護活動のシミュレーションを行う。医療安全実習として、1 日のグループワークと発表会を行う。以上については、シフトを組んで実施する。最終日にまとめの会を行う。

「成人・老年看護学実習Ⅲ」 2 単位

・実習施設：本学大学病院

・実習時期：4 年次通年（10～11 月）

・学生の配置：全 11 病棟に分かれ、各病棟 4 名程度配置

・週間計画：初日の午前中に学内でのオリエンテーションを行い、午後、病棟オリエンテーションならびに実習で担当する患者情報の概要を収集する。2 日目から看護チームの一員として実地指導者とともに日勤帯の一連の看護活動に参加する。実地指導者の指導・指示に従いながら、看護師とともに複数の患者を担当し、既存の看護計画に従ってケアを実施する。実習最終日に学内で実習のまとめの会を行う。

「総合看護学実習」 1 単位

- ・実習施設：本学大学病院
- ・実習時期：4年次通年（9～10月）
- ・学生の配置：学生を3グループに分け、外来、多職種連携チーム等に2、3名ずつ配置
- ・週間計画：オリエンテーションを行い、病院の外来や多職種連携チームにおいてシャドーイング実習やグループワークを行う。これらは学生のシフトを組んで実施する。毎日カンファレンスを行い、学生は日々の学びの共有や指導の機会を得る。最終日に学内で実習のまとめの会を行い、学びの共有と統合を行う。

「公衆衛生看護学実習」4単位

- ・実習施設：東京都特別区の保健所、保健センター
- ・実習時期：4年次通年（9～11月）
- ・学生の配置：8施設に分かれ、各センター2、3名ずつ配置
- ・週間計画：実習初日にオリエンテーションを行い、以降各実習施設および関連機関が行う各種事業、家庭訪問・健康相談等の場において実習を行う。また、2週目終わりに中間カンファレンス、4週目の実習最終日前後に最終カンファレンスを実施する。その他、毎日カンファレンスを行い、学生は日々の学びの共有や指導の機会を得る。全8実習施設の実習日程が終了後には学内で実習報告会を行い、実習施設全体の学びの共有と統合を行う。

《検査技術学専攻》

上記の目標を達成するために臨地実習を設定する。実習単位、実習施設、時期、学生の配置、週間計画等は、以下のとおりである。実習要項を基に実施している。

3年次：「臨地実習」12単位

- ・実習施設：本学大学病院
- ・時期：3年次後期
- ・学生の配置：約35名の学生を5グループに分け、検査部、輸血・細胞治療センター、病理部に配置
- ・週間計画：臨地実習に先立ち、臨床検査に必要な技術の修得度を評価するために技能修得到達度評価試験を課す（1単位）。十分な知識と技術を修得した学生は、その後に病院での各部門の実習指導者と専任教員のもと、実践的な臨床検査技術やチーム医療を学ぶ（11単位）。

イ 実習先の確保の状況

医学科

①早期臨床実習 1、3年

1、3年生対象：主として大学病院を確保している。3年生では地域医療教育の一環として、高齢者福祉施設にて見学型実習先を確保している。

②診療参加型実習 4～6年（クリニカル・クラークシップ）

4～5 年生対象：大学病院 各診療科（協力病院を含む。）

6 年生対象：大学病院 各診療科（協力病院、協力施設を含む。）

【資料 6 実習施設一覧（医学科）】

【資料 7 臨床実習に関する協定書の写し（医学科）】※一病院のみ。

保健衛生学科

《看護学専攻》

看護学専攻における実習施設については、本学大学病院、井之頭病院、賛育会病院のほか、介護老人保険施設 3 施設、訪問看護ステーション等 7 施設、保育園/幼稚園/小中高校等など 19 施設の合計 84 施設である。保健師国家試験受験資格を選択する者の実習施設として、文京保健所等の合計 32 施設を確保している（上記 84 施設を含む）。

【資料 8 実習施設一覧（保健衛生学科看護学専攻）】

《検査技術学専攻》

実習施設は本学大学病院のみである。

ウ 実習先との契約内容

医学科

大学病院を除く臨床実習を実施する医療機関と「協定書」を交わす。具体的内容として、医行為の範囲、学習の目標、学習の方略、学習の評価、実習費、安全配慮、賠償責任の対応等について記載する。

保健衛生学科

《看護学専攻》

実習施設所定の契約書もしくは看護学専攻との間で合意した内容の文書を取り交わし、実習に関する協定や契約を結ぶ。実習施設と大学にて協定する内容としては、実習内容、実習期間、受け入れ人数、実習謝金、順守義務（個人情報保護に関する事項を含む）、事故防止、事故の取扱などが含まれる。

《検査技術学専攻》

実習開始前に、実習先と期間、人数、内容、順守義務（個人情報保護に関する事項を含む）、事故防止、連絡体制等を協議する会議を開催し、双方で確認する。

エ 実習水準の確保の方策

医学科

1 年生を対象に実施する早期臨床実習はインタビューを行う実習である。大学病院に勤務

する医師、看護師及び診療に参加している5年生の学生を対象に実施する。シャドウイングを通して医療の現場を体験し、社会における医療従事者の役割を説明できる。医師というプロフェッションに必要な態度を習得するための基盤を形成する。

3年生を対象に実施する早期臨床実習は、高齢者福祉施設実習にて見学型実習を行う。医療現場とは異なる高齢者の生活の実態の理解、利用者との可能な範囲でのコミュニケーション能力の習得を主な目的とする

4～6年生を対象に実施する診療参加型実習は、診療チームの一員として参加し、できる限り入院時より患者を担当し、病歴聴取・身体診察・初期検査計画立案と結果解釈を行い、臨床推論を行なって診断的考察と治療計画策定を指導医の指導のもとで行う。それらは入院時サマリ、日々の診療録、そしてウィークリー・サマリとして文書にまとめられ、また毎日のチーム回診や毎週の診療科回診での発表として提示される。学生にはPHSが与えられ、常に診療チームとともに活動できるよう配慮されており、また演習室が与えられ臨床推論や治療計画策定におけるEBM実践の支援体制もできている。

特に全ての臨床医が必要とする臨床推論能力の習得については、「臨床導入実習」科目における系統的講義およびその後の少人数形式での演習（10週間）（医学教育モデル・コア・カリキュラムのF章に挙げられている主要な症候はほぼすべてに関する臨床推論の学修機会を網羅）、「臨床実習」科目における診療参加型臨床実習に加えて行うWoSAC（臨床推論能力強化のための有効なフィードバック提示を可能とするために、Script Concordance Testの要素を一部盛り込んだ改訂版mini-CEX、学生あたり合計3～4回実施）を実施しており、「臨床実習」科目履修終了時に臨床実習終了後OSCEを行い、その習得についての厳密な評価を行なっている。

保健衛生学科

《看護学専攻》

医学部保健衛生学科看護学専攻「看護学臨地実習 実習指導者ガイドライン」を作成し、学生への有意義な実習が行われるよう指導内容、学生への倫理的配慮、問題の予防と対応等の指導体制を整備して実施している。

【資料9 看護学臨地実習 実習指導者ガイドライン】

《検査技術学専攻》

日本臨床衛生検査技師会および日本臨床検査学教育協議会の「臨地実習ガイドライン2021」を踏まえて、実習先の各部門に配置した専任教員が中心となって各実習指導者と実施内容、指導体制等を協議し、効果的な実習を行えるようにしている。また、各部門の実習指導者と専任教員が学生の成績を評価した後、その成績や実習内容・形態等を振り返る会議も開催し、適宜、実習内容や指導体制等の改善に繋げることで実習水準を適切に確保している。

オ 実習先との連携体制

医学科

全ての診療科に臨床実習担当のクリニカル・クラークシップ・ディレクター（CD）とクリニカル・クラークシップチューター（CT）を1名ずつ配置している。臨床実習中は各診療科のクリニカル・クラークシップ・ディレクター（CD）が学生教育の責任を持ち、クリニカル・クラークシップチューター（CT）がそれを補佐する体制をとっている。臨床実習の問題点に関しては、臨床実習専門委員会において協議している。各診療科の実地の教育においてはクリニカル・クラークシップ・ディレクター（CD）とクリニカル・クラークシップチューター（CT）の指示のもとで、外来・病棟担当医（教員・医員）や研修医が屋根瓦式に学生教育に参加している。実習協力病院の指導者には、臨床教授、臨床准教授、臨床講師の称号を授与している。外部の教育担当医も本学の教育体制を熟知した本学出身者等が多く、教育方針をよく理解して教育に当たっている。

保健衛生学科

《看護学専攻》

（1）実地指導者との連携体制

専任教員と実地指導者の指導役割分担をガイドラインに明示している。実習中のカンファレンスは、専任教員と実習補助者・実地指導者・病棟師長等が出席し、学生の学びを共有している。

（2）実習の主な施設である東京科学大学病院との連携

- ・ 主な実習施設である本学大学病院においては、看護部・保健衛生学科連携会議で定期的に実習を含む教育内容の質の向上について検討している。
- ・ 各病棟、各領域においても、実習に関連する病棟・部署での研修、病棟師長・実地指導者との打ち合わせ会や説明会を行って実習に臨み、実習終了後のまとめの会ならびに報告会を実施している。さらに、実習前の看護実践能力試験では、実地指導者等も評価者となり、実習前の看護技術の習得状況を一緒に確認し、実習にむけたフィードバックを行っている。

平成23年度からの「看護職 IKASHIKA キャリアパスの開発」事業において、本学大学病院看護部と本学看護学専攻教員と人材交流の継続的な確立を図り、相互の教育体制の充実を目指した連携交流制度を導入した。すなわち、本学教員が「臨床連携教員」として大学病院の継続教育・研究協力を寄与している。さらに、本学から大学病院看護部の看護部長をはじめ管理職を中心とした看護師に「臨床教授」等の名称を付与し、学生への講義や研修講師として、臨床的な教育・指導が行われる体制を築いた。このような連携体制により、学生にとっての継続的で円滑な臨地実習への協力体制を構築している。

《検査技術学専攻》

実習開始前及び終了後に各部門の実習指導者と専任教員が情報共有を含めて協議する場を設け、次回の実習を充実・改善に繋げている。また、専攻内に実習・臨地実習担当委員会を常時設置し、事故を含む様々な問題等に対応・共有する体制も構築されている。

カ 実習前の準備状況

(1) 実習までの抗体検査、予防接種等

実習で学生が医療機関に立ち入る場合の感染対策として、学生が感染症を実習現場に持ち込まず、実習現場から持ち帰らないよう、「日本環境感染学会医療関係者のためのワクチンガイドライン」および「結核院内（施設内）感染対策の手引き」に沿って、小児感染症（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘）・B型肝炎抗体検査・結核感染診断検査（QFT 検査）を入学後に行い、抗体価が低い場合は、ワクチン接種を必須としている。また、毎年の定期健康診断を必須として、胸部 X 線読影による結核感染判定を行っている。

(2) 損害賠償責任保険、傷害保険等の対策等

学生自身の傷害に対応するために公益財団法人日本国際教育支援協会が提供している「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に全学部学生を対象に入学時に最短修業年限の加入を義務付ける。

実習中に実習施設へ損害を与えた場合の補償のため「学研災付帯賠償責任保険」の賠償責任保険にも同様に加入を義務付ける。但し、医学部医学科においては、保険内容を考慮し、「学研災付帯賠償責任保険」ではなく、生活協同組合が提供している「学生賠償責任保険」に加入を義務付ける。

キ 事前・事後における指導計画

(1) 学生へのオリエンテーションの内容、方法

医学科

臨床導入実習（プレクリニカル・クラークシップ）において、Standard precaution の講義と感染対策実習を実施している。臨床実習（クリニカル・クラークシップ）においては、主たる医行為についての「到達目標度」「実施許容度（「指導医の指導・監視の下で実施も可能」または「指導医の実施の介助・見学まで）」「必要とする同意」を規定し、それらを「医学部医学科臨床実習医行為実施ガイドライン」に明記し、医学生の医行為に対しては指導医による適切な監督・指導を行なっている。

また、医療安全や質の高い医療提供のための専門職連携のための学修機会「チーム医療入門」を、第 6 学年次に設けている。

保健衛生学科

《看護学専攻》

各臨地実習を提供する前には、実習ごと（3年次は学年全体でも実施）オリエンテーションを実施し、実習目的、実習目標、実習方法等について学生に提示し、事前学習を促す。また、各実習施設においても、オリエンテーションを実施し、各施設の概要や構造、機能、物品配置、患者（対象者）の特徴などを理解した上で、実習に臨めるようにしている。

《検査技術学専攻》

専任教員は臨地実習を提供する前にオリエンテーションを実施し、実習目的、実習目標、実習方法等について学生に説明し、事前学習を十分に促す。

（２）各段階における学生へのフィードバック、アドバイスの方法等

医学科

患者安全の観点からも、プロフェッショナリズム、つまり「医師になるものとしてふさわしい価値観・態度・振る舞い」に関する卒業時学修成果（コンピテンシー）獲得が重要だが、そのためには診療参加型臨床実習の現場での観察に基づくフィードバックと振り返りが重要であり、プロフェッショナリズムの観点から問題があると思われる振る舞いが観察された場合には診療科指導医から「臨床実習」科目責任者へ報告がされる仕組みとしている。科目責任者は該当学生より事情聴取・事実確認を行い、適切な助言や介入を行う。そしてそれらに対する該当学生の対応や改善の有無などにもとづき、進級判定・科目合否判定を精神科教員や外部委員（弁護士、医学教育専門家、患者団体代表）も含めた臨床実習科目評価判定委員会において行なっている。

保健衛生学科

《看護学専攻》

各実習科目を提供する前には、前述のとおり、学生へのオリエンテーションを実施し、実習目的や実習方法について学生に提示し、事前学習を十分に促す。学生が主体的に学習目標や学習計画を立てることを重視し、指導を行う。

また、実習中に学生がチームの一員として適切な行動や態度をとれるよう、配慮する。実習中は、実習担当教員は実地指導者と連携して、実習目標や行動計画、実習記録を確認する。適宜、カンファレンスを開催し、学生の学習状況を把握するとともに学生にフィードバック・アドバイスをを行う。その他、必要に応じて個人面談を行い、個々の学生の状況に合わせた指導を行い、学生の主体的な学びを支援する。

実習最終日もしくは実習終了後に実習のまとめの会（名称は各実習により異なる）を開催し、実習における学びや実習目標の達成状況、課題を確認・共有し、次の実習に向けて準備学習を行うよう指導する。臨地実習委員会において、学生の実習状況を共有し、学生が学習を積み重ねていけるよう、継続的に指導を行う。

《検査技術学専攻》

実習中には実習指導者と専任教員が連携して、適宜、学生の学習状況を把握するとともに学生にフィードバック・アドバイスを行う。その他、必要に応じて個人面談を行い、個々の学生の状況に合わせた指導を行い、学生の主体的な学びを支援する。

実習後には学習内容の到達度を確認する課題を課し、それを学生と共有または助言する機会を設けることで、臨地実習のより深い理解を促す。

(3) 学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等

※看護学専攻のみ

保健衛生学科

《看護学専攻》

実習中の記録は、毎日、指導教員や実地指導者が確認し、学生にフィードバックとアドバイスを行う。実習後は、実習記録やレポートを作成し、期日までに提出する。実習中・実習終了後の記録やレポート作成のプロセスを通じて、学生のリフレクションを促し、翌日もしくは次の実習の看護実践につながるよう指導する。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

医学科

診療参加型臨床実習においては研修医や医員、指導医、教員が屋根瓦方式で学生と密接にかかわることができるように配慮されている。また、学外実習や海外大学での実習も有効に利用されている。

また、定期的に研修病院長/臨床研修担当者を招集し学修内容・学修機会について協議する卒後臨床研修管理委員会/研修委員会、医科同窓会、学外教授の会（医科同窓会が年1回開催）、基礎系教授の会（年1回開催）など、卒業生が将来働くであろう様々な環境における指導者から、学修成果とそれらへの到達のための学修機会の適切性に関するフィードバックを受け、カリキュラムの継続的改善を図っている。これらの情報にもとづき、医学科教育委員会は教育プログラムの適切な、そして速やかな改良につとめている。

診療参加型実習では、受け入れ可能人数で適切に学生を配置しており、学外実習や海外大学での実習にも派遣することで適切に配置している。

保健衛生学科

《看護学専攻》

各実習は、2～8名程度のグループに分けてグループに分けて実習を行う。

各実習の時期、学生配置等については「10.ア(1) 実習単位、主な内容、実習施設、時期、学生の配置、週間計画等」に記している。

各臨床実習施設に対して専任教員を1名以上配置し、実地指導者と指導方法や評価方法

の確認を行うと共に、実習日程及び内容等の実習調整と実習指導を行う。専任教員の実習指導では、実習指導と講義等に重ならないように時間割や実習計画を配慮する、実習指導補助者および TA（ティーチングアシスタント）を適時配置するなど、教員の負担が加重にならないように調整する。専任教員は、実習施設を定期的に訪問し、学生指導、実習の進捗状況の把握に努めつつ、指導者と密な連携を図り円滑な実習遂行を支援する。また、実習期間中の学生の相談役として、学習面はもちろんのこと健康管理、生活指導等の役割を担う。

《検査技術学専攻》

各実習は、3～7名程度のグループに分けてグループに分けて実習を行う。各実習の時期、学生配置等については「10.ア（2）実習単位、主な内容、実習施設、時期、学生の配置、週間計画等」に記している。

実習先の各部門に1名以上の専任教員を配置し、実習指導者と指導方法や評価方法の確認を行うと共に、実習日程及び内容等の実習調整と実習指導を行う。専任教員は、実習施設を定期的に訪問し、学生指導、実習の進捗状況の把握に努めつつ、実習指導者と密な連携を図り円滑な実習遂行を支援する。また、実習期間中の学生の相談役として、学習面はもちろんのこと健康管理、生活指導等の役割を担う。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

医学科

十分な臨床実技経験を担保するためのスキルスラボの整備や、臨床実習の質、量、種類の充実のために学外実習病院の整備を行っている。

臨床実習・臨床研修病院の臨床教授、臨床准教授、臨床講師の任命については、各診療科からの希望調査に応じて医学科教育委員会、医学系教授会にて決定する。

保健衛生学科

《看護学専攻》

学内外の実習施設において、本学規程に基づき実地指導者を選任し、教育の質を担保する。適時、臨床実習を担当する実地指導者には、臨床教授、臨床准教授、臨床講師等の称号を付与し、その要件として豊富な実務経験を有することを定めることで、学生指導の質の担保に注力する。さらに、実習先でのきめ細やかな指導が受けられるように、実地指導者が担当する学生は少人数になるよう配置を配慮する。また、実地指導者はじめ実習関係者とは定期的に情報共有及び臨床実習についての意見交換等を行い、今後の看護教育の充実・改善に繋げるための会議等を通して、実地指導者に対する研修効果を生み出すとともに、実習の達成目標等の共有を図る。また、実地指導者には講義や演習に非常勤講師等として協力をお願いすることで講義と実習の連動を図る。

《検査技術学専攻》

各部門において、豊富な実務経験を有する実習指導者を複数名選任し、教育の質を担保する。さらに、実習先でのきめ細やかな指導が受けられるように、指導者が担当する学生は少人数になるよう配慮する。また、実習指導者はじめ実習関係者とは定期的に情報共有及び臨地実習についての意見交換等を行い、今後の教育の充実・改善に繋げるための会議等を通して、実習指導者に対する研修効果を生み出すとともに、実習の達成目標等の共有を図る。また、実習指導者には学内講義や実習で行われた内容を共有することで臨地実習の内容との連動を図る。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

医学科

臨床実習については外部有識者を交えた臨床実習評価判定委員会を設けて、卒業試験の受験資格や臨床実習の進級の可否や Unprofessional behavior への教育などについて吟味されている。総合試験形式である卒業試験においては、試験分野のカテゴリー（内科分野、外科分野など）ごとに複数の診療科からなる出題・評価委員会を構成し、問題内容、試験結果について吟味している。

臨床実習開始時に学生に配布される「Clinical Clerkship シラバス」には、臨床実習を通しての成績評価についての詳細に加え、進級基準（第5学年から第6学年）、卒業試験受験資格取得基準、合格基準が記載されている。

臨床実習における学生の単位認定については、医学科教育委員会及び医学系教授会の審議を経て医学部長が認定する。学生の成績評価については、医学科教育委員会委員長が責任を負う。

【資料 10 Clinical Clerkship シラバス（抜粋）】

保健衛生学科

《看護学専攻》

各実習で設定された実習目標に基づき、実地指導者等からの評価を参考にして各実習施設を担当する専任教員が成績評価を行い、単位認定者の教員が最終確認し単位認定を行う。学生の実習目標の達成状況を確認する機会として、実習体験記録表、自己評価表等の記入を実習中間もしくは実習終了時に設けており、カンファレンス等でも実習目標の達成状況や学びなどを発表することで、学生、専任教員、実地指導者間で情報共有する。また、患者等、実習に関わった各担当者からの評価も適宜行い、各実習目標が求める知識、技能、態度などについて多角的に総合的評価を行う。各実習の実習目標、実習評価項目については、各実習の実習要項に記載し、学生に実習オリエンテーションなどを通して実習前から確認するよう指導する。また、各実習終了時には、今後の臨床実習に向けてのフィードバック及び総括的評価を行うことで、さらに充実した臨床実習が受けられるようにする。併せて、学生に実

習終了時にアンケートを行い、実習内容や指導体制についての意見を聞き、次年度の実習運営の参考とする。

《検査技術学専攻》

各部門の実習指導者の評価表を参考にして担当する専任教員が成績評価を行い、臨地実習の科目責任者が最終的に単位認定を行う。

学生の学習目標に対する達成状況は、実習終了時の自己評価表や課題に加え、実習指導者と担当専任教員の評価も参考にして、知識、技能、態度などの面から多角的に判断する。また、学習目標や実習評価項目については事前に実習要項に記載し、学生に実習オリエンテーションなどを通して確認するよう指導する。併せて、学生に実習終了時にアンケートを行い、実習内容や指導体制についての意見を聞き、次年度の実習運営の参考とする。

1 1. 企業実習や海外語学研修などの学外実習を実施する場合の具体的計画

(1) 実習の目的

本学では、全学部学生に対して、医療・ヘルスケア系ベンチャー・スタートアップ企業で約2～5か月間、インターンシップに参加できる機会を提供する。このインターンシップは、実習科目の一部として実施され、所定の要件を満たすことで単位を修得できる。本実習は、学生が大学外に飛び出して社会の中で経験と学びを得ることで、学内では決して得られない新しい視点や考え方を獲得し、それにより自己変革が促され学生の未来に多様性が生まれることを目的としている。

(2) 実習先の確保の状況

国内の医療・ヘルスケア系ベンチャー・スタートアップ企業計13社、合計90名以上の受入可能人数を確保しており、履修を希望する学生全員を受け入れることが十分に可能である。

(3) 実習内容

学生は、実習先企業の取組を事前に把握し、検討課題を前もって他の参加学生とディスカッションしたうえで、実習期間中に企業の取り組みやマインドを肌で体感しながら、取組に関する課題や仮設などを抽出、研究課題を策定して解析を行う。

研究成果については、実習先企業の担当者や本学担当教員のサポートのもと、秘密保持契約などコンプライアンスを遵守しつつ他の学生と同様に発表・レポート提出を行う。

(4) 実習先との連携体制

実習先企業の担当者を、非常勤講師として委嘱し、客員准教授又は客員助教の名称を付与する。

本学担当教員と協力しながら、実習目的、実習方法、到達目標、評価方法など具体的な実施計画案を策定し、より学生が安全かつ効果的な実習を行えるように準備する。

実習中は、本学担当教員は実習先企業の担当者及び学生と連絡を取りながら、実習の進行状況を確認し、必要であれば実習計画や実習内容の変更を行う。実習後は、本学担当教員は実習先企業の担当者と実習状況や評価を共有し、今後の課題等について協議する。

(5) 成績評価体制・単位認定方法

実習先企業からの評価、事前事後指導における評価、レポートなどに基づいて、本学担当教員が総合的に評価し、単位を付与する。

1 2. 昼夜開講制を実施する場合の具体的計画

該当なし

1 3. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

該当なし

1 4. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

主に1年次前期は教養教育を国府台地区（千葉県市川市）で実施し、1年次後期以降は専門教育を湯島地区（東京都文京区）で実施する。原則として、国府台地区に配置されている専任教員が教養教育を担当し、湯島地区に配置されている専任教員が専門教育を担当する。両地区の間は、公共交通機関を利用して約1時間程度の距離があるが、教員・学生ともに両地区の移動時間に配慮した時間割としており、履修上の支障は生じないとする。

また、両地区に図書館、保健管理センター、学生相談室、事務室を整備し、国府台地区に共用可能な体育館とグラウンドを整備している。教員、学生ともに両地区から教学情報へのアクセスが可能であり、横断的なネットワークが構築されている。

1 5. 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合の具体的計画

該当なし

1 6. 多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、平常時の面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第25条第2項および本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用し、同時に双方向に行うことができる遠隔授業を実施できることとすることから、カリキュラムの改善等により、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき、実施するものとする。

17. 通信教育を実施する場合の具体的計画

該当なし

18. 管理運営

(1) 教授会

学院、学部又は教養部に教授会を設置し、以下の事項について教授会の議を経て学長が決定する。

教授会は、学長が次に掲げる事項（研究教育院の教授会にあつては、第3号イ及びハ、研究院並びに生体材料工学研究所及び難治疾患研究所の教授会にあつては、第3号ハに限る。）について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- 一 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- 二 学位の授与に関する事項
- 三 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- イ 教育課程の編成に関する事項
- ロ 学生の在籍に関する事項
- ハ 別に定める者の教育研究業績の審査に関する事項

教授会は、前項に掲げる事項のほか、学長並びに学院等及び研究科等の長（大学院医歯学総合研究科にあつては、大学院医歯学総合研究科副研究科長を含む。）（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

19. 自己点検・評価

(1) 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

収容定員の充足率やカリキュラムの実施状況、教員充足率が十分であることから、設置の趣旨・目的を達成していると考えている。

(2) 自己点検・評価報告書

- ア. 公表（予定）時期
 - ・令和3年7月公表済み
- イ. 公表方法
 - ・大学ホームページ上に公開

(3) 認証評価を受ける計画

認証評価は令和3年度に大学改革支援・学位授与機構による審査を受審した。

20. 情報の公表

教育研究活動等の状況に関する情報の公表（学校教育法第113条）

以下①～⑨について下記アドレスで公開している。

大学HP (<https://www.tmd.ac.jp/outline/disclosure/education/>)

①大学の教育研究上の目的に関すること

- ・ ミッション・教育理念等

②教育研究上の組織に関すること

- ・ 教育・研究組織

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・ 教員組織・教員数、教員の有する学位及び業績等

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・ アドミッション・ポリシー、入学案内、入学者数、学生数・収容定員数、外国人留学生在籍者数、学生数、卒業後の進路及び卒業生数

⑤授業科目、授業方法、及び内容並びに年間の授業計画に関すること

- ・ カリキュラム・ポリシー、教育要項等

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・ ディプロマ・ポリシー、学則、履修規則等

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・ キャンパスマップ、交通アクセス、運動施設等、課外活動、福利厚生施設

⑧授業料、入学料、その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・ 授業料、入学料、授業料・入学長免除

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・ 保健管理センター、学生支援室、障害学生支援室、奨学金、アルバイト、学生寮、留学生宿舍、学生保険制度、就職支援

その他下記のとおり大学HPで公開している。

- ・ 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

(<https://www.tmd.ac.jp/faculties/>)

- ・ 学則等各種規程

(<https://www.tmd.ac.jp/cmn/rules/houki/shokisokutop.html>)

- ・ 設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書

(<https://www.tmd.ac.jp/faculties/>)

・自己点検・評価報告書、認証評価の結果

(<https://www.tmd.ac.jp/outline/plan-evaluation/>)

2 1. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

統合教育機構に「教育技法開発チーム」を設置し、ディプロマ・ポリシーに定める人材の教育に必要な資質・能力を習得させるために、本学教職員を対象に、様々な教育技法の修得、教材作成技術の向上、講義のための英語力向上等を目的とした能力や属性に応じた教員研修・キャリア教育などを「統合教育機構教員教育研修」として実施した。

その他、教員の教育能力の向上及び教育の質の改善と向上のため、各部局においても独自のFDや部局を跨った合同FDを実施したほか、学外の教員研修に統合教育機構教員、歯学部教員から複数回にわたって計20名程度が参加した。

2 2. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組として、学生支援室において学内就職支援イベントを年間7～10回程度、全学学生向けに実施し、就職活動の概要説明、就職活動対策講座（エントリーシート、インターンシップ、グループディスカッション、面接）、業界・企業研究会を行っている。

また、各学科の就職担当教員や学生支援室を中心に、各学科より要請のあった場合、学科が授業の一環として実施する就職対策講座に関し、講師側と内容を精査・当該学科に確認のうえ、手配を行っている。

資料目次

資料 1	卒業時学修成果（コンピテンシー）	p. 2
資料 2	教育課程と指定規則の対比表	p. 3
資料 3	医学科カリキュラム概要	p. 4
資料 4	保健衛生学科履修モデル（看護学専攻）	p. 7
資料 5	保健衛生学科履修モデル（検査技術学専攻）	p. 9
資料 6	実習施設一覧（医学科）	p. 10
資料 7	臨床実習に関する協定書の写し（医学科）	p. 14
資料 8	実習施設一覧（保健衛生学科看護学専攻）	p. 16
資料 9	2022 年度看護臨地実習指導者ガイドライン	p. 19
資料 10	Clinical Clerkship シラバス（抜粋）	p. 32

卒業時コンピテンシー

東京医科歯科大学医学部医学科は卒業時に修得しておくべきコンピテンシーとして7領域90項目を規定しています。

I 国際人としての基礎

- 1 健康/医療/歯科医療に貢献する者として必要な、幅広い教養と豊かな感性を持つ。
- 2 世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる。
- 3 医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する。

II 医学/科学の発展への貢献

- 1 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
- 2 基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して研究を実施できる
- 3 未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。
- 4 臨床や科学の興味ある領域での研究を、指導・監督のもとで実施できる
- 5 自由研究で明らかになった新しい知見を、口頭および書面で明確に説明できる

III プロフェッショナルリズム

- 1 他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
- 2 専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる
- 3 専門職務非遂行時においても、専門職種にふさわしい振舞いができる
- 4 患者側要素に配慮した最適なアプローチにて常に良好な医師・患者関係を築くことができる。
- 5 患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる。
- 6 医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる。
- 7 診療において、患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動をとることができる。
- 8 患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)における適切な距離を維持することが困難な場合あるいは維持できなかった場合に、それを認識でき、相談し、解決策や予防策を立てることができる。
- 9 個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる。
- 10 自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる。
- 11 臨床実習において、技能、知識、患者情報の欠如を認識し、必要に応じて援助を求めることができる。
- 12 メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解消処置をとれる。
- 13 医療従事者の健康管理(予防接種を含む)を実践できる。
- 14 時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。
- 15 文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。
- 16 本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる。
- 17 常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる。
- 18 他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる。
- 19 医療過誤、患者情報収集におけるエラーや、データの誤った説明などを、指導・監督者に報告できる。
- 20 他人による職務上の不正を認識し、省察やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる。
- 21 患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。
- 22 臨床実習において、適切なインフォームドコンセントの取得に関与することができる。
- 23 記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
- 24 利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる。
- 25 企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる。
- 26 自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。
- 27 自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる。
- 28 他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる。
- 29 ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる。

IV コミュニケーション

- 1 口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を統合し、わかりやすく要約することができる。
- 2 様々な状況において、問題解決のための適切なアプローチ法を用いて、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示でき、関連する情報にもとづきアセスメント・プランを考察し提示できる。
- 3 診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、期限に遅れることなく作成することができる。
- 4 多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる。
- 5 診療の引き継ぎ(ローテーション終了時、転科、転院等)に際して、引き継ぎ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。
- 6 患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる。
- 7 重大で繊細な難しいトピック(sexual history、疾患名告知、退院計画議論、ターミナルケアなど)についての患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する。
- 8 監督・指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列挙・整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる。
- 9 患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える案件を理解し対処できる。

V 知識とその応用

- 1 基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる。
- 2 頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に応用できる。
- 3 様々な症候/問題の原因評価において、適切な評価法を選定し、所見を適切に解釈できる。
- 4 様々な疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を診療に応用できる。
- 5 社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる。
- 6 世界の保健・医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる。
- 7 頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を診療に応用できる。
- 8 住民の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な医療および保健指導を説明できる。
- 9 歯科医学的側面を考慮した診療ができる。

VI 診療の実践

- 1 全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる。
- 2 臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる。
- 3 臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる。
- 4 臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる。
- 5 適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる。
- 6 監督・指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断し、個々の患者への適用可能性を判断できる。
- 7 診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる。
- 8 適切な用語を用いて、患者の疾患可能性にもとづく診断的検査の意義を検討できる。
- 9 実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切で漏れない鑑別疾患を挙げられ、適切な診断的検査法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる。
- 10 臨床実習の学習項目に挙げられる特定の状況(例、急性疼痛、高齢、小児、術前など)に応じた病歴を聴取できる。
- 11 救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、的を絞った病歴聴取ができる。
- 12 身体診察を網羅的に、系統立てて、適切な順序で滑らかに効率よく行える。
- 13 高齢者の機能的評価を行える。
- 14 小児の成長／発達の評価を行える。
- 15 状況に応じた、的を絞った身体診察を、効率よく行える。
- 16 診察において異常所見を認識・説明・記録でき、必要な病歴・診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる。
- 17 コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を実施できる。
- 18 初診診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる。
- 19 日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる。
- 20 再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に簡潔に記載できる。
- 21 監督・指導のもとで、急性・慢性疾患を患う患者の、外来・病棟診療での管理ができる。
- 22 安全で質の高い医療の提供の為に、状況に応じて指導医による監督・指導の必要性を適切に判断でき、求めることができる。
- 23 監督・指導のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理・予防計画の策定ができる。
- 24 診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる。
- 25 感染に対する標準予防策(Standard precaution)にしたがい、清潔操作を行うことができる。
- 26 感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる。
- 27 針刺し事故、針刺し創等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる。
- 28 医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる。

VII 様々な制度・資源を考慮した診療

- 1 医療機関内インフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を活用できる。
- 2 多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉制度を、指導/監督のもと、活用できる。
- 3 臨床実習において、指導/監督のもとで、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる。
- 4 様々な情報源(かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など)から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる。
- 5 医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる。
- 6 医療保険、コスト、医療の質、そして医療アクセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる。
- 7 医療政策の有効性が吟味でき、診療への影響を説明できる。



国立大学法人
東京医科歯科大学

教育課程と指定規則との対比表

[illegible]

医学科カリキュラムマップ

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生						
カリキュラム内容	教養教育ブロック	基礎医学ブロック	臨床医学ブロック	社会医学ブロック	自由選択（研究室配属）実習	臨床導入実習・共用試験	臨床実習（クリニカル・クラークシップ）	卒業試験				
			解剖学実習	病理学実習					社会医学実習			
		基礎医学統合実習										
		教養教育、リテラシー教育、語学/グローバル教育										
		社会医学、AI/データサイエンス教育、ELSI教育、行動科学										
	医学導入、早期体験実習、多職種連携教育、キャリア教育											
	自由選択科目（研究実践プログラム、HSLP、アントレプレナー教育、地域医療教育）											

医学科各ブロック詳細

(基礎医学ブロック)

人体構造総論、細胞生物学、生理学、組織学、
人体解剖学、薬理学、生化学、分子遺伝学、神
経解剖学、免疫学、神経科学・基礎、感染・基
礎、病理学、医動物学、腫瘍学、基礎医学実習

(臨床医学ブロック)

臨床医学導入、循環器、呼吸器、消化器、腎臓・泌尿器、
内分泌・代謝、血液・腫瘍、一般外科、神経科学・臨床、
骨・関節・脊椎、膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、
皮膚・アレルギー、感染・臨床、頭頸部・臨床、生殖・発達、
救急・麻酔・集中治療

(社会医学ブロック)

法医学、衛生学、公衆衛生学、行動科学、生物統計学、
選択社会医学実習、生命倫理

保健衛生学科看護学専攻 履修モデル

	1年生	2年生	3年生	4年生
【全学共通科目】	教養基礎セミナー グローバル教養総合講座 情報科学 統計学 化学基礎 生物学基礎 科学基礎実験 人社・第二外国語・体育(3科目選択) 人文社会科学概論 国際地域文化入門 教養選択科目 英語Ⅰ	教養セミナーⅠ		教養セミナーⅡ
	28.5単位			
【専門科目】	AI・ビッグデータのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 国際保健看護学Ⅰ 看護制度論 アカデミックリテラシー 解剖学 微生物学 生化学 病理学 栄養学 人間の健康と看護 看護の統合と実践 多職種連携Ⅰ 基盤看護学実習Ⅰ	保健医療福祉制度論 健康教育学演習 生理学 薬理学Ⅰ・Ⅱ 病態学 基盤看護学Ⅰ・Ⅱ フィジカルアセスメント 成人の健康と看護 成人看護学 心の健康と看護Ⅰ・Ⅱ 小児の健康と看護 小児看護学Ⅰ 公衆衛生看護学Ⅰ 在宅看護学Ⅰ 災害看護学 多職種連携Ⅱ 基盤看護学実習Ⅱ	卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 疫学 System-based medical terminologyⅠ クリティカルケア看護学 成人看護学演習 緩和ケア看護学 精神看護学演習 小児看護学Ⅱ・演習 性と生殖と健康と看護 周産期看護学Ⅰ・Ⅱ・演習 高齢者の健康と看護 老年看護学・演習 リハビリテーション看護学*Ⅰ 公衆衛生看護学Ⅱ 在宅看護学Ⅱ・演習 成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ 精神看護学実習 小児看護学実習 周産期看護学実習 在宅看護学実習	国際保健看護学Ⅱ 産業保健学 卒業論文Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅲ・演習*Ⅱ クリニカルシンキング・クリイティブシンキング 看護マネジメント学 看護の統合と実践実習 成人・老年看護学実習Ⅲ*Ⅰ 総合看護学実習*Ⅰ 公衆衛生看護学実習*Ⅱ
	102単位			
【自由科目】	憲法*Ⅲ、実践看護英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国際保健福祉A・B・C・D、インディペンデントスタディA・B・C、他、全学自由科目等 (卒業要件には含まれない)			
	計 130.5単位以上			

保健師国家試験受験資格取得を選択する者は、*Ⅰの3科目を選択すること。
 保健師国家試験受験資格取得を選択しない者は、*Ⅱの3科目を選択すること。
 保健師免許取得後、養護教諭二種申請予定の者は、*Ⅲの科目を履修すること。

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目 (33.5単位)	<必須科目> 数学Ⅰ 物理学Ⅰ 統計学 化学 生物学 科学基礎実験 英語 情報科学 グローバル教養総合講座 人文社会科学概論 国際地域文化入門 教養基礎セミナー <選択科目> 自然系入門科目 物理学Ⅱ 人文科学・社会科学系科目 スポーツ健康科学 ファitnessマナーシメント 第二外国語	教養基礎セミナーⅠ	教養基礎セミナーⅡ	
専門科目 (108.5単位)	<必須科目：102.5単位> <u>形態・病態制御学系</u> 人体構造学講義 病理検査学講義(Ⅰ) <u>物質・代謝学系</u> 生化学講義(Ⅰ) 分析化学検査学Ⅰ <u>機能調節・制御学系</u> 医用システム情報学講義(Ⅰ) <u>病因・病態学系</u> 病原体検査学講義(Ⅰ) <u>検査管理・社会医学系</u> 臨床検査総合管理学 <u>総合</u> 多職種連携Ⅰ AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 アカデミック・リテラシー <選択科目：6単位※¹> 遺伝学 生体工医学 生命理工学概論 分子生物学 心臓生理学 アドバンスド生理機能検査学 心電図判読 AI 実践演習 医療とAI・ビッグデータ応用 英語Ⅱ Learning Medical English 四大学連合複合領域コース開講科目	人体構造学実習 病理検査学講義(Ⅱ) 病理検査学実習 血液検査学講義 生化学講義(Ⅱ) 生化学実習 薬理学 分析化学検査学Ⅱ 医用システム情報学実習(Ⅰ) 生理学講義 臨床生理検査学講義(Ⅰ) 生理学実習 臨床生理検査学実習(Ⅰ) 病原体検査学実習(Ⅰ) 免疫検査学講義 遺伝子・染色体検査学講義 医学情報処理演習(Ⅰ) 臨床病態学(Ⅰ) 多職種連携Ⅱ	血液検査学実習 分析化学検査学Ⅲ 医用システム情報学講義(Ⅱ) 医用システム情報学実習(Ⅱ) 臨床生理検査学講義(Ⅱ) 臨床生理検査学実習(Ⅱ) 病原体検査学講義(Ⅱ) 病原体検査学実習(Ⅱ) 免疫検査学実習 遺伝子検査学実習 臨床実習 卒業研究(Ⅰ) System-based medical terminologyⅠ	医学情報処理演習(Ⅱ) 公衆衛生学講義 公衆衛生学実習 医療概論・関係法規 臨床病態学(Ⅱ) 多職種連携Ⅲ 総合講義 卒業研究(Ⅱ) Diagnostic Procedures in English
自由科目 ※ ²	短期海外研修A 短期海外研修B 短期海外研修C 短期海外研修D IMRAD Format Presentation in English			

※¹選択科目の履修

- 卒業要件として選択科目の中から6単位以上を修得しなければならない。第4学年ではそのうち2単位以上を修得しなければならない。
- 選択科目6単位のうち2単位以上は外国語科目を修得しなければならない。
- 四大学連合複合領域コース開講科目は、同コースで開講する授業科目のうち、東京工業大学又は一橋大学が開講する授業科目の単位を修得した場合、4単位を上限として単位を修得したものとみなす。

※²自由科目の履修

- 自由科目は卒業要件に含まれない。

保健衛生学科検査技術学専攻 履修モデル

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目 (33.5単位)	<必須科目> 数学Ⅰ 物理学Ⅰ 統計学 化学 生物学 科学基礎実験 英語 情報科学 グローバル教養総合講座 人文社会科学概論 国際地域文化入門 教養基礎セミナー <選択科目> 自然系入門科目 物理学Ⅱ 人文科学・社会科学系科目 スポーツ健康科学 ファitnessマナーシメント 第二外国語	教養基礎セミナーⅠ	教養基礎セミナーⅡ	
専門科目 (108.5単位)	<必須科目：102.5単位> 形態・病態制御学系 人体構造学講義 病理検査学講義(Ⅰ) 物質・代謝学系 生化学講義(Ⅰ) 分析化学検査学Ⅰ 機能調節・制御学系 医用システム情報学講義(Ⅰ) 病因・病態学系 病原体検査学講義(Ⅰ) 検査管理・社会医学系 臨床検査総合管理学 総合 多職種連携Ⅰ AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 アカデミック・リテラシー <選択科目：6単位※1> 遺伝学 生体工医学 生命理工学概論 分子生物学 心臓生理学 アドバンスド生理機能検査学 心電図判読 AI 実践演習 医療とAI・ビッグデータ応用 英語Ⅱ Learning Medical English 複合領域コース開講科目	人体構造学実習 病理検査学講義(Ⅱ) 病理検査学実習 血液検査学講義 生化学講義(Ⅱ) 生化学実習 薬理学 分析化学検査学Ⅱ 医用システム情報学実習(Ⅰ) 生理学講義 臨床生理検査学講義(Ⅰ) 生理学実習 臨床生理検査学実習(Ⅰ) 病原体検査学実習(Ⅰ) 免疫検査学講義 遺伝子・染色体検査学講義 医学情報処理演習(Ⅰ) 臨床病態学(Ⅰ) 多職種連携Ⅱ	血液検査学実習 分析化学検査学Ⅲ 医用システム情報学講義(Ⅱ) 医用システム情報学実習(Ⅱ) 臨床生理検査学講義(Ⅱ) 臨床生理検査学実習(Ⅱ) 病原体検査学講義(Ⅱ) 病原体検査学実習(Ⅱ) 免疫検査学実習 遺伝子検査学実習 臨床実習 卒業研究(Ⅰ) System-based medical terminologyⅠ	医学情報処理演習(Ⅱ) 公衆衛生学講義 公衆衛生学実習 医療概論・関係法規 臨床病態学(Ⅱ) 多職種連携Ⅲ 総合講義 卒業研究(Ⅱ) Diagnostic Procedures in English
自由科目※2	短期海外研修A 短期海外研修B 短期海外研修C 短期海外研修D IMRAD Format Presentation in English			

※1選択科目の履修

- 卒業要件として選択科目の中から6単位以上を修得しなければならない。第4学年ではそのうち2単位以上を修得しなければならない。
- 選択科目6単位のうち2単位以上は外国語科目を修得しなければならない。
- 複合領域コース開講科目は、同コースで開講する授業科目のうち、一橋大学が開講する授業科目の単位を修得した場合、4単位を上限として単位を修得したものとみなす。

※2自由科目の履修

- 自由科目は卒業要件に含まれない。

相手先	都道府県	締結年月日	謝金額	期間更新
J Aトリデソウゴウイリョウセンター JAとりで総合医療センター	茨城	年月日 & 押印無し	通常	自動
J Aナガノコウセイレンホクシンソウゴウビョウイン JA長野厚生連北信総合病院	長野	2017/3/31	通常	自動
N T Tヒガシニホン カントウビョウイン NTT東日本 関東病院	東京			
アワチイキイリョウセンター 安房地域医療センター	千葉	2019/3/12	通常	自動
アンウンドウビョウイン 杏雲堂病院	東京	2019/4/1	通常	自動
イバラキケンコウセイレンソウゴウビョウインミトキョウドウビョウイン 茨城県厚生連総合病院水戸協同病院	茨城	2018/4/1	学生一名につき1日3,000円とする	自動
イバラキケンリツチュウオウビョウイン 茨城県立中央病院	茨城	2018/4/1	実習費は別に定めるとおりにする（別紙添付無し）	2018年4月1日～2019年3月31日まで
エイジュソウゴウビョウイン 永寿総合病院	東京	2019/3/27	通常	自動
エドガワビョウイン 江戸川病院	東京	2016/4/1	通常	自動
エバラビョウイン 荏原病院	東京	年月日記載無し（押印有）	通常	自動
オウメシリツソウゴウビョウイン 青梅市立総合病院	東京	2016/4/1	通常	自動
オオクボビョウイン 大久保病院	東京	2016/4/1	通常	自動
オオタニシノナイビョウイン 太田西ノ内病院	福島	2017/3/28	通常	自動
オオミヤコウセイビョウイン 大宮厚生病院	埼玉	2016年のみ（日付記載無し・押印有）	通常	自動
オンダダイニビョウイン 恩田第二病院	千葉	2016/3/23	通常	自動
カシワシリツカシワビョウイン 柏市立柏病院	千葉	2017/3/21	通常	自動
カメダソウゴウビョウイン 亀田総合病院	千葉	2016/4/28	通常	自動
カワグチシリツイリョウセンター 川口市立医療センター	埼玉	2017/3/21	通常	自動
カワサキシリツイダビョウイン 川崎市立井田病院	埼玉	2017/4/27	通常	自動
ガンケンアリアケビョウイン がん研有明病院	東京	2017/7/12	通常	自動
カントウチュウオウビョウイン 関東中央病院	東京	2017/3/28	通常	自動
キバコウエンクリニック 木場公園クリニック	東京	2018/8/4	通常	自動
クリタビョウイン 栗田病院	神奈川	2017/3/28	通常	自動
ゲンマケンリツガンセンター 群馬県立がんセンター	群馬	2017/3/28	通常	自動
コウリツショウワビョウイン 公立昭和病院	東京	2017/3/23	通常	自動
コウレイシャイリョウセンターヨクフウカイビョウイン 高齢者医療センター浴風会病院	東京	年月日記載無し（押印有）	通常	自動

コクホ アサヒチュウオウビョウイン 国保 旭中央病院	千葉	2017/3/14	通常	自動
コクリツガンケンキュウセンターチュウオウビョウイン 国立がん研究センター中央病院	東京	2019/3/1	通常	自動
コクリツガンケンキュウセンターヒガシビョウイン 国立がん研究センター東病院	千葉	2017/4/7	通常	自動
コクリツセイシン シンケイリョウケンキュウ ビョウイン 国立精神・神経医療研究センター病院	東京			
コクリツビョウイキコウ サイガイリョウ 国立病院機構 災害医療センター	東京			
コクリツビョウイキコウ トウキョウビョウイン 国立病院機構 東京病院	東京			
コクリツビョウイキコウ サイガイリョウ 国立病院機構災害医療センター	東京			
コシカワビョウイン 越川病院	東京	2017/3/21	通常	自動
コッカコウムインキョウサイクミアイレンゴウカイクダンザカビョウイン 国家公務員共済組合連合会九段坂病院	東京	2017/3/13	通常	自動
サイセイカイカワグチソウゴウビョウイン 済生会川口総合病院	埼玉	2017/3/29	通常	自動
サイタマケンリツガンセンター 埼玉県立がんセンター	埼玉	2017/4/1	通常	自動
サイタマセキジュウジビョウイン さいたま赤十字病院	埼玉	2016/4/18	通常	自動
サクソウゴウビョウイン 佐久総合病院	長野	2016/4/7	指導者への報酬欄について記載無し	自動
サクラガオガキョウオウビョウイン 桜ヶ丘中央病院	神奈川			
サンラクビョウイン 三楽病院	東京			
シズオカケンリツシズオカガンセンター 静岡県立静岡がんセンター	静岡	2017/3/21	通常	自動
シュウワソウゴウビョウイン 秀和総合病院	埼玉	2016/4/19	通常	自動
シンアオカイカワグチコウギョウソウゴウビョウイン 新青会川口工業総合病院	埼玉	2017/3/31	通常	自動
シンジュクゲカクリニック 新宿外科クリニック	東京	2016/4/1	通常	自動
シンマツドチュウオウソウゴウビョウイン 新松戸中央総合病院	千葉	2017/3/29	通常	自動
シンユリガオカソウゴウビョウイン 新百合ヶ丘総合病院	神奈川	2016/4/1	通常	自動
スワチュウオウビョウイン 諏訪中央病院	長野	2016/4/1	指導者への報酬欄について記載無し	自動
セイロカコクサイビョウイン 聖路加国際病院	東京	2017/4/1	通常	自動
セキシンカイサイタマセキシンカイビョウイン 石心会埼玉石心会病院	埼玉	2017/3/30	通常	自動
ソウカシリツビョウイン 草加市立病院	埼玉	2016/3/5	通常	自動
タイトウク リツタイトウビョウイン 台東区立台東病院	東京			

タマナンプチイキビョウイン 多摩南部地域病院	東京	2017/4/1	通常	自動
タマホクブイリョウセンター 多摩北部医療センター	東京	2017/3/21	通常	自動
タマホクブイリョウセンター 多摩北部医療センター	東京			
ツクパケツカンセンター（モリヤケイユウビョウイン） つくば血管センター（守谷慶友病院）	茨城	2017/4/1	通常	自動
ツクバセントラルビョウイン つくばセントラル病院	茨城			
ツチウラキョウドウビョウイン 土浦協同病院	茨城	年月日 & 押印無し	通常	自動
デンエントシレディースクリニック 田園都市レディースクリニック	東京	2017/3/28	通常	自動
ドウアイキネンビョウイン 同愛記念病院	東京	2016/5/26	通常	自動
トウキョウアダチビョウイン 東京足立病院	東京	2016/3/18	通常	自動
トウキョウウサビョウイン 東京共済病院	東京			
トウキョウツナガワビョウイン トウシンビョウイン 東京品川病院（東芝病院）	東京	2019/3/21	通常	自動
トウキョウジョシイカダイカクヒガシイリョウセンター 東京女子医科大学東医療センター	東京	2017/3/27	通常	自動
トウキョウテイシンビョウイン 東京通信病院	東京	2017/3/16	通常	自動
トウキョウトケンコウチョウジュイリョウセンター 東京都健康長寿医療センター	東京	2016/3/23	通常	自動
トウキョウトホケンイリョウコウシャツシマビョウイン 東京都保健医療公社豊島病院	東京	2017/4/2	通常	自動
トウキョウトリツオオツカビョウイン 東京都立大塚病院	東京	2020/3/26	指導者への報酬欄について記載無し	2020年4月1日～2021年3月31日までとする
トウキョウトリツショウニソウゴウイリョウセンター 東京都立小児総合医療センター	東京	2018/4/1	通常	自動
トウキョウツリツ スミヒガビョウイン 東京都立墨東病院	東京	2016/4/1	通常	自動
トウキョウトリツタマソウゴウイリョウセンター 東京都立多摩総合医療センター	東京	2016/4/8	通常	自動
トウキョウドリツヒロオ ビョウイン 東京都立広尾病院	東京	2016/3/15	通常	2016年4月1日～2017年3月31日までとする
トウキョウトリツマツザワビョウイン 東京都立松沢病院	東京	2017/3/21	通常	自動
トウキョウベイ・ウラヤスイチカワイリョウセンター 東京ベイ・浦安市川医療センター	千葉	2016/5/9	通常	自動
トウキョウヤマノテメディカルセンター 東京山手メディカルセンター	東京	2016/3/29	通常（謝金は学生一人当たり1日1000円病院へ支払う）	自動
トリツコマゴメビョウイン 都立駒込病院	東京	2016/3/31	通常	自動
ナドジュンビョウイン 等潤病院	東京	2016年のみ（日付記載無し・押印有）	通常	自動
ナリタレディスクリニック 成田レディスクリニック	埼玉	2017/3/15	通常	自動

ナリマスコウセイビョウイン 成増厚生病院	東京	2016/3/18	通常	自動
ニイガタケンリツトオカマチビョウイン 新潟県立十日町病院	新潟	2016/3/18	通常	自動
ニッサンコウセイカイタマガワビョウイン 日産厚生会玉川病院	東京	2016年のみ（日付記載無し・押印有）	通常	自動
ニトベキネンナカノソウゴウビョウイン 新渡戸記念中野総合病院	東京	2016/4/1	通常	自動
ニホンセキジュウジシャオオモリセキジュウジビョウイン 日本赤十字社大森赤十字病院	東京	2017/4/20	通常	自動
ネリマヒカリガオカビョウイン 練馬光が丘病院	東京	2020/2/19	通常	自動
ハスダビョウイン 蓮田病院	埼玉			
ヒラツカキョウサイビョウイン 平塚共済病院	神奈川	2020/5/11	通常（謝金は学生一人当たり1日1000円病院へ支払う）	2020年4月1日～2021年3月31日までとする
マツドシリツビョウイン 松戸市立病院	千葉	2017/4/1	通常	自動
ミシマソウゴウビョウイン 三島総合病院	静岡	2017/3/21	通常	自動
ミトイリョウセンター 水戸医療センター	茨城	2018/4/1	学生一名につき1日2,160円とする	自動
ミトサイセイカイソウゴウビョウイン 水戸済生会総合病院	茨城			
ムサシノ　セキジュウジビョウイン 武蔵野赤十字病院	東京	2016年のみ（日付記載無し・押印有）	謝金は学生一人当たり1日2000円病院へ支払う	自動
ユウアイキネンビョウイン 友愛記念病院	茨城	2016/3/18	通常	自動
ヨコスカキョウサイビョウイン 横須賀共済病院	神奈川	2017/3/31	通常	自動
ヨコハマシリツミナトセキジュウジビョウイン 横浜市立みなと赤十字病院	神奈川	2016/4/13	通常	自動
ヨコハマミナミキョウサイビョウイン 横浜南共済病院	神奈川	2016/4/1	通常	自動

医科学学生の臨床実習に関する協定書

青梅市立総合病院（以下「甲」という。）と東京医科歯科大学医学部（以下「乙」という。）は、次の条項により、乙の学生（以下「学生」という。）の卒前医学教育（以下「臨床実習」という。）に関する協定を締結する。

（目的）

第1条

1. この協定は、甲の施設における乙の学生の臨床実習が円滑かつ効果的に実施されるよう必要な事項を定めることを目的とする。
2. この協定は、青梅市立総合病院長（以下「病院長という。」と東京医科歯科大学医学部長（以下「学部長」という。）との間で結ぶものである。

（学生の資格）

第2条 甲で臨床実習を行うことのできる学生は、その能力を有するものであることを、学部長が適切な方法で適正に資格認定したものでなければならない。

（甲及び乙の役割）

第3条 甲及び乙は、円滑な臨床実習の実施のため、それぞれ次の各号に定める役割を果たすよう努めるものとする。

- （1）甲は、本来業務に支障のない範囲で、学生の臨床実習について支援及び協力を行う。
- （2）乙は、甲の施設における学生の臨床実習に当たっては、事前に甲と十分調整のうえ実施する。

（手続き）

第4条

1. 学部長は甲で臨床実習を希望する学生の氏名、学年と臨床実習を行いたい診療科および期間を文書（第1号様式）で病院長に依頼する。
2. 病院長は担当する診療科および関係者との協議のうえ、諾否を文書（第2号様式）で学部長に回答する。

（指導責任者と指導者）

第5条

1. 病院長は臨床実習の指導責任者を決定する。原則として、当該部門の常勤医師で、乙より臨床教授・臨床准教授・臨床講師の称号を付与された者がその任に当たるものとする。
2. 臨床実習の場面に応じて、研修医を含む指導責任者以外の医師ならびに、状況によっては看護師やその他の病院職員が、指導者として直接の指導・監督に当たることがある。その場合も指導責任は指導責任者にあり、最終的には病院長の管理責任とする。

（学習の目標）

第6条

1. 学生は乙の発行する「臨床実習シラバス」に具体的に明示されている学習目標に到達するように学習する。
2. 学習目標は甲の診療上の必要や現実的制約によって、甲と乙とで協議し、妥当な範囲で変更することがある。
3. 指導者は「臨床実習シラバス」に則った学生の学習を支援するものとする。

（学習の方略）

第7条

1. 学生は「臨床実習シラバス」に則った方略で学習する。甲の診療上の必要や現実的制約によって、甲と乙とで協議し、妥当な範囲で変更することがある。
2. 学生に許容される医行為の範囲は、原則として乙の定めるガイドライン（東京医科歯科大学医学部医学科臨床実習医行為実施ガイドライン）に準拠するものとする。
3. 医行為は学生が目標に到達するための方略として許容されるものであって、その経験や修練が目標とされるものではない。
4. 乙のガイドラインに準拠する医行為であっても、甲の診療上の必要や現実的制約または指導者の判断

で、見学に止まることもある。

5. 学生は臨床実習において、初対面の患者には自己紹介し、指導者の口添えのもとに学生であることを告げて、患者の承諾を得るものとする。
6. 学生は指導者の指導・監督のもとに医行為を行う。学生の単独の判断で医行為を行ってはならない。
7. 臨床実習の時間は週50時間を目安とする。学習上適切と甲が考える場合には、学生の同意のもとに、夜間帯/休祝日の臨床実習も可とする。

（臨床実習の参加状況等報告）

第8条 甲は、学生の臨床実習の参加状況を乙に報告するものとする。

- 2 甲は、学生に事故等があった場合は、速やかに乙に報告するものとする。

（学習の評価）

第9条

1. 評価の目的、対象、方法、時期、測定者などについては「臨床実習シラバス」に明示される。
2. 甲は「臨床実習シラバス」に則って評価を実施するように努めるものとする。
3. 甲の診療上の必要な現実的制約によって、評価の方法や測定者を、甲と乙とで協議し、妥当な範囲で変更することがある。

（臨床実習に関する資源、報酬等）

第10条

1. 臨床実習のための資源を用意するに当たって必要な予算は、甲と乙とで協議して措置を講ずる。
2. 白衣および名札とスチューデント・ドクターカードが入ったカードホルダーは学生が用意する。
3. 学生は甲の図書館またはそれに準する施設を利用できる。
4. 臨床実習の指導に対する甲ならびに指導者への報酬は、乙の定めるところとする。

（遵守事項）

第11条

1. 学生が甲において臨床実習を行うときは、白衣および名札（甲より提供されるものがない場合は乙で用いているもの）とスチューデント・ドクターカードが入ったカードホルダーを着用し、甲の定める諸規定等を遵守するものとする。
2. 白衣の下での服装については、学生は「臨床実習シラバス」に記載される、乙の定める規定に従う。甲から指定・指示がある場合はそれに従う。
3. 守秘義務、および患者個人情報漏洩を防ぐための具体的な注意事項に関しては、学生は「臨床実習シラバス」に記載される、乙の定める規定に従う。甲から指定・指示がある場合はそれに従う。
4. 学生は災害傷害保険および賠償責任保険について、「臨床実習シラバス」に記載される、乙の定める規定に従う。
5. 学生は感染症対策について、「臨床実習シラバス」に記載される、乙の定める規定に従う。甲から指定・指示がある場合はそれに従う。

（安全配慮）

第12条 甲は、当該研修期間中における学生の臨床実習につき、安全配慮義務を有するものとする。

（賠償責任）

第13条

1. 学生が、甲において医療過誤を生じさせた場合は、甲と乙は学生と連携して、法令の定めるところにより、その損害を賠償するものとする。
2. 学生が、甲の施設において、故意又は重大な過失により、施設・設備等に損害を与えたり、又は、第三者に損害を与えた場合は、乙は法令の定めるところにより、その損害を賠償するものとする。

（災害補償）

第14条 学生が、臨床実習の期間中又は通学途上に災害を受けた場合は、乙が補償を行うものとする。

（問題の処理）

第15条

1. 臨床実習に際して、何らかの問題が生じた場合には、その問題の種類と程度に応じて指導者、指導責任者、病院長など適切なものが処理に当たる。

2. 法的な問題が生じた場合には、病院長と学部長とで協議し、またはその両者が適切と認める専門の担当者または専門機関において処理する。

3. 学生の臨床実習中の事故については、病院職員の職務遂行中の事故に準じて取り扱う。

第16条

1. 病院長は学生が臨床実習で学習するのに相応しくないと認められた場合には、学部長と協議して、臨床実習を続けることを取り消すことができる。

2. 臨床実習の続行を取り消す場合、病院長は学部長に取り消しを文書で通知するものとする。

（協定の解除）

第17条 甲又は乙は、相手方が本協定に違反するとき、又はやむをえない事由があるときは、本協定を解除することができるものとする。

（協定の期間）

第18条 協定の期間は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までとする。ただし、協定期間満了の日の1ヶ月前までに、甲乙いずれかからの文書による解除の意思表示がないときは、この期間は、更に1年間延長するものとし、次年度以降についても同様とする。

上記の協定書は、2通作成し、甲・乙双方が各1通を所持するものとする。

附則

この取り決めは28年4月1日から施行する。

平成28年 4月 1日

東京都青梅市東青梅4-16-5

青梅市立総合病院

病院長

原 義 人 印

東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学

医学部長

江 石 義 信 印

【実習施設一覧（看護師）】

No	実習先一覧			備考
	実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	
1	東京医科歯科大学病院	病院	基盤看護学実習Ⅰ	
			基盤看護学実習Ⅱ	
			成人・老年看護学実習Ⅰ	
			成人・老年看護学実習Ⅲ	
			精神看護学実習	
			小児看護学実習	
			在宅看護学実習	
			周産看護学実習	
			看護の統合と実践実習	
			総合実習Ⅰ	
			国際看護学実習	
			総合看護学実習	
2	・財団法人 井之頭病院	病院	精神看護学実習	
3	・特定非営利活動法人 色えんぴつみどりの歩み	その他	精神看護学実習	
4	・特定非営利活動法人 T&E企画	その他	精神看護学実習	
5	・特定非営利活動法人 やっとこ障害者就労継続支援B型事業所ハーモニー	その他	精神看護学実習	
6	・社会福祉法人 權 Navioけやき	社会福祉施設	精神看護学実習	
7	・NPO法人エナジー本舗 地域活動支援センター エナジーハウス	その他	精神看護学実習	
8	・特定非営利活動法人 あおば福祉会	その他	精神看護学実習	
9	・特定非営利活動法人 NPOあおぞら	その他	精神看護学実習	
10	・東京ベイ・浦安市川医療センター	病院	小児看護学実習	
11	・独立行政法人 国立国際医療研究センター病院	病院	小児看護学実習	
12	・藍染保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
13	・青柳保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
14	・駒込保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
15	・さしがや保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
16	・水道保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
17	・千石西保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
18	・千石保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
19	・久堅保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	

20	・本郷保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
21	・本駒込西保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
22	・本駒込保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
23	・本駒込南保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
24	・向丘保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
25	・目白台保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
26	・大塚保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
27	・こひなた保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
28	・しおみ保育園	保育園/幼稚園/小中高校等	小児看護学実習	
29	・社会福祉法人 賛育会 賛育会病院	病院	周産看護学実習	
30	・社会福祉法人 浴風会 浴風会病院	病院	成人・老年看護学実習Ⅱ	
31	・社会福祉法人 浴風会	介護老人保健施設	成人・老年看護学実習Ⅱ	
32	・医療法人社団 輝生会 初台リハビリテーション病院	病院	成人・老年看護学実習Ⅱ	
33	・医療法人社団 龍岡会 龍岡介護老人保健施設	介護老人保健施設	成人・老年看護学実習Ⅱ	
34	・東京保健生活協同組合 介護老人保健施設ひかわした	介護老人保健施設	成人・老年看護学実習Ⅱ	
35	・国家公務員共済組合連合会 九段坂病院	病院	成人・老年看護学実習Ⅱ	
36	・特別養護老人ホーム みずべの苑	介護老人福祉施設	成人・老年看護学実習Ⅱ	
37	・社団法人東京在宅看護協和会 訪問看護ステーションきょうわ	訪問看護ステーション	在宅看護学実習	
38	・株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	在宅看護学実習	
39	・株式会社ケアーズ 東久留米白十字訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	在宅看護学実習	
40	・医療法人社団龍岡会 本富土地域包括支援センター	社会福祉施設	在宅看護学実習	
41	・社会福祉法人福音会 富坂地域包括支援センター	社会福祉施設	在宅看護学実習	
42	・社会福祉法人信愛報恩会 大塚地域包括支援センター	社会福祉施設	在宅看護学実習	
43	・社会福祉法人桜栄会 駒込地域包括支援センター	社会福祉施設	在宅看護学実習	
44	・社会福祉法人聖風会 たいとう地域包括支援センター	社会福祉施設	在宅看護学実習	
45	・社会福祉法人清峰会 福祉プラザ台東清峰会	社会福祉施設	在宅看護学実習	
46	・おんぴっと株式会社 おんぴっと訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	在宅看護学実習	
47	・訪問看護ステーションコスモス	訪問看護ステーション	在宅看護学実習	
48	・らふえる訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	総合実習Ⅱ	
49	・訪問看護ステーション ダイジョブ	訪問看護ステーション		
50	・大川こども&内科クリニック	診療所		
51	・がん研究会有明病院	病院		
52	・坂町ミモザの家	社会福祉施設		

【実習施設一覧（保健師）】

1	・文京区 文京保健所	保健所	公衆衛生看護学実習	
2	・墨田区 本所保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
3	・墨田区 向島保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
4	・筑波大学附属小学校	保育園/幼稚園/小中高校等	公衆衛生看護学実習	
5	・お茶の水女子大学附属小学校	保育園/幼稚園/小中高校等	公衆衛生看護学実習	
6	・キャノン電子株式会社人事部人事課健康管理室	工場・事業所	公衆衛生看護学実習	
7	・株式会社 J A L グランドサービス健康相談室	工場・事業所	公衆衛生看護学実習	
8	・株式会社 日立製作所 情報・通信システム社 健康管理センタ	工場・事業所	公衆衛生看護学実習	
9	・日本航空株式会社健康管理部	工場・事業所	公衆衛生看護学実習	
10	・台東区台東保健所	保健所	公衆衛生看護学実習	
11	・台東区浅草保健相談センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
12	・足立区江北保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
13	・足立区東部保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
14	・足立区竹の塚保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
15	・船橋市保健所	保健所	公衆衛生看護学実習	
16	・（船橋市）北部保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
17	・（船橋市）東部保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
18	・（船橋市）西部保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
19	・（葛飾区）青戸保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
20	・（葛飾区）新小岩保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
21	・金町保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
22	・北区保健所	保健所	公衆衛生看護学実習	
23	・王子健康支援センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
24	・赤羽健康支援センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
25	・滝野川健康支援センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
26	・障害者福祉センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
27	・足立保健所中央本町地域・保健総合支援課	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
28	・松戸市役所 高齢者支援課 地域包括ケア推進担当室（基幹型地域包括支援センター）	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
29	・ヤマトシステム開発株式会社	工場・事業所	公衆衛生看護学実習	
30	・TOTOハイリビング株式会社	工場・事業所	公衆衛生看護学実習	
31	・鹿児島市中央保健センター	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	
32	・柏市保健所	市町村（保健センター含む）	公衆衛生看護学実習	

看護学臨地実習 指導者ガイドライン

2022年度

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻

I. 実習生に対する基本的指導項目

初学者である学生は看護について実習を行うと同時に、医療に関わる専門職としての倫理観や社会規範も学んでいる。以下の事柄についても学生個々の状況を見極めながら関わり、指導を行う。

以下に指導に含まれる項目とその内容を示す。

1. 日本看護協会「看護師の倫理綱領」に基づいた医療人としての倫理の遵守

学生の不用意な発言により、受け持ち患者が不快な思いをすることがある。学生の身だしなみや態度、言動が受け持ち患者に与える影響については、オリエンテーションを十分行い、予防に努める。また、学生のケアや言動が、受け持ち患者にとって身体的・精神的苦痛を与えないよう十分配慮する。

1) 受け持ち患者の人格の尊重

- ・ 受け持ち患者は人格をもった一人の人間であることを十分認識したうえで、人権やプライバシーの保護に留意できるよう指導する。
- ・ 受け持ち患者を呼び捨てにすることや愛称で呼ぶ(小児看護領域では可)等の言葉遣いや実習態度の乱れがないように注意する。丁寧な言葉遣いで接するよう促す。
- ・ 医療的なケアに関しては十分に事前学習を行い、指導者とともに実施するよう調整を行う。
- ・ 受け持ち患者の理解力に合わせた説明を行ってからケアを開始するなどし、ケアをただ実行するのではなく、不安軽減に努めるような工夫ができるよう指導する。

2) 守秘義務

- ・ 実習中に得た受け持ち患者の情報は、エレベーターや図書館、電車の中などの学内および学外において、口外しないよう指導する。
- ・ 受け持ち患者の個人情報流出を防止する。電子メールや Web サイト、SNS (Facebook 等) などにより、インターネット上に発信しないよう指導する。また、ベッドサイドへの持ち物はメモ帳程度にすることなどを説明し、紛失等による個人情報流出について注意を促す。
- ・ 病棟の記録類の閲覧場所、持ち出し等に関するオリエンテーションを徹底する。

※参考資料 実習要項内、実習記録およびメモ類の取り扱いについて

2. 職業人としての社会性および学習態度

1) 清潔感のある身だしなみの徹底

- ・ 指定された清潔なユニフォームを着用し、ネームプレートを左胸の正しい位置に装着するよう指導する。
- ・ 髪型や化粧は清潔感のあるものとするように指導する。

2) 社会性の保持

- ・ 受け持ち患者や病棟スタッフへの挨拶など、社会的なマナーを徹底させる。
- ・ 指導を受ける際の態度についても、学生自身が自己を客観的に評価し、望ましい態度を身につけられるよう促す。

3) 継続学習による自己開発

医療専門職として、常に自己のもつ能力の維持・開発に努めるように指導する。

4) 時間厳守

実習開始時刻、申し送りやカンファレンス開始時刻、受け持ち患者との約束時刻、記録類の提出期限を厳守するよう指導する。

3. 事故防止、感染予防、患者の安全の確保

1) 事故防止および事故時の報告

- ・ 起こりうる事故を常に予測し、事故予防の視点が持てるよう指導する。
- ・ 次の内容に関して即時に指導教員または実習補助者（以下、指導教員）、実地指導者または指導看護師（以下、実地指導者）に報告をするように指導する。

① 事故に関する情報

- ・ 受け持ち患者の身体に関する事故（転倒、転落、誤薬等）
- ・ 学生の身体に関する事故（通学途中の事故、針刺し等）
- ・ 物品、設備の汚染や破損、紛失（記録物の紛失も含む）、等

② 事故を予防するための情報

検査の付き添い、受け持ち患者との散歩、昼食時などに病棟を離れる際には、指導教員、実地指導者、師長のいずれかへの報告を義務づける。

2) 感染予防

- ・ 手洗い、物品の取り扱いに注意し、院内感染の予防を心がけるよう指導する。
- ・ 指導教員は、基本的に抗体価検査を実施したうえで、指導にあたることとする。抗体価検査の結果は、教員個人が把握し、必要時に提示や状況に応じた対応ができるようにしておき、院内感染の予防に努める。

3) 健康管理

日頃より自己の健康管理に努め、健康状態が不良の際には、早めに指導教員・実地指導者に相談するように指導する。

Ⅱ. 学生への倫理的配慮について

1. アカデミックハラスメントについて

アカデミックハラスメントとは、教員・実地指導者が学生に対して指導者という立場の優位性を利用して行うハラスメントであり、意図せず行った言動であっても、学生が不快感や羞恥心などをもつことも含まれる。短期間の実習であることなどから、指導者が普段どおりの言動で接しても学生にとっては脅威を感じる場合がある。学生の人格やプライバシーを尊重しつつ、人的・物理的学習環境を整えるよう配慮すると共に、過剰な反応を示す可能性のある学生に対してはアカデミックハラスメントと見なされないように、指導時の言動に注意することが求められる。

<具体例>

1) 指導者の言動や対応が、学生への脅しと見なされる場合

「このままでは単位をあげられない」等、単位・成績等について言及し、学習を促す。「看護師に向かないのでは」等、看護師としての資質について、疑念を表明したり評価したりすること。学生が「ケアの邪魔」であることを表明する言動、学生が話しかけにくい雰囲気を作る、言動に不必要な厳しさや威圧感を漂わせる事も含まれる。

2) 精神的虐待・言葉の暴力にあたる行為

学生個人の人格に対して侮蔑する言葉や、「(指導しても)時間の無駄」等の発言。実習記録をきちんと読まないなど、学生の努力を評価しない態度。学生の話や報告を最後まで聞かない、あたまから否定する、大声で叱責するなど、学生の人格を傷つけるような言動。学生を発奮させるため、他の学生や同じ受け持ち患者を受け持った以前の学生と比較し、その学生の方が良くできたと誉める、などの発言。

3) 不適切な環境下での指導の強制

実習時間外や他人の目が行き届かない状況で個人指導を行う、指導者は着席しているが学生

は立たせた状態で指導する、面接などの時間が他の学生と比較して異常に長い、カンファレンスなどで同じ事について繰り返し叱責するなど。

4) 学生のプライバシーの侵害

学生にとって指導意図が伝わらない状態で、家族や友人関係、日常生活などプライベートについて情報を得ようとする。教育指導上直接関係のない情報を、他の実地指導者や教員・同僚と共有する。学生の記録類やそれに対する指導者のコメントが書かれているものなど、成績や実習内容に関わるものについて、ナースステーション等を開けたまま席を立つなど配慮の不足。

Ⅲ. 看護過程と看護技術

1. 指導役割分担

指導教員、実地指導者及び師長との間で目的を共有し、十分に連携をとりながら協同して実習指導にあたる。

1) 実地指導者の役割

原則として、実地指導者は受け持ち患者の看護ケアの内容に責任をもち、看護職者としてのモデル提示、技術指導を行う。

2) 指導教員の役割

学生の学習状況と学習内容の充実に責任をもつ。また、実地指導者と調整を行い、了解を得た上で看護ケアも実施し、具体的指導も行う。

① 事前の指導教員の研修について

- ・ 教員は研修前に研修届けを提出する。実地指導者は師長とともに研修内容を確認し、効果的な研修を行えるよう調整する。
- ・ 指導教員と実地指導者は、研修期間中に受け持ち患者予定者等のケアを共に実施する。
- ・ 実地指導者は病棟の一日の業務やケア内容等について指導教員に情報を提供し、実習の運営方法について具体的な打ち合わせを行う。
- ・ 受け持ち患者の選定は、実地指導者と指導教員とで相談をしながら行う。患者の同意がある、看護上の問題が顕在している、コミュニケーションに大きな障害がない、症状が安定し急変が少ないと思われる患者など、初学者の実習にふさわしい患者が望ましい。
- ・ 学生の受け持ちを決定する際には、実地指導者または師長が学生の実習目的や内容について十分説明したうえで同意を得る。説明の際には、受け持ち患者がそれを拒否することや途中で中断する権利などがあることも加えておく。

② 実習の進め方について

- ・ 看護過程においては実地指導者、指導教員とで連携をとって指導を行うが、計画立案、修正、実施については実地指導者が中心となって指導を行う。
- ・ 一日の行動計画の調整は、実習開始時に実地指導者と指導教員とで行う。実習中は必要に応じ互いに連携をとる。実地指導者は効果的な学習ができるように、適宜ケアのアレンジメントを行う。
- ・ ケアの実施については、実地指導者、もしくは指導教員が学生に付いて指導をする。学生が見学のみ行うか、指導のもとで指導者と一緒に行うか、自立して一人で行うかについてはケアの種類や実地指導者の判断によって異なる（「領域における打合せ等資料」を参照）。
- ・ 実地指導者及び指導教員は、ケアの質が確保されるように指導、確認を行う。
- ・ 実習に関する記録物に関しては、原則として指導教員が指導責任をもつ。
- ・ カンファレンスについては学生が主体的に運営を行う。実地指導者と指導教員は、可能な

限りカンファレンスに出席し、学生が日々の学びを振り返り、学習内容を深められるよう指導を行う。

③ 学生の評価について

- ・ 評価については実地指導者からの意見を反映し、指導教員が総合的に評価する。

2. 学習機会の設定

- 1) 学生の修得段階や学習目標に応じて、できるだけ多くの看護技術の実施、もしくは見学の機会を設定することが望ましい。
- 2) 技術の実施水準については、各領域における申し合わせ事項を参照する。

3. 学生の看護ケアの安全性の保証

- 1) 学生の各技術の修得状況を正確に把握し、それに合わせた個別指導を行い、受け持ち患者及び学生の安全を守る。
- 2) 特に身体侵襲を伴う看護ケアについては、状況に応じて補助業務を行いながらの見学実習となる場合もある。

IV. 学生に関する問題の予防および問題発生時の対応

1. 事前対策

- 1) 必要時、指導教員は学生に関する以下の事項について確認しておく。
 - ① 緊急連絡先（自宅の電話番号、携帯の電話番号・メールアドレスなど）
一人暮らしの場合、伝言等を頼める友人がいれば、その学生の氏名など
 - ② 健康状態
持病、服用中の薬の有無とその内容、健康管理センター・附属病院などの受診経験の有無
 - ③ その他
実習や学生生活に関する悩みや不安など
- 2) 得られた情報については、学生個人のプライバシーを守ることを保障する旨を伝える。
- 3) 必要に応じて、上記の情報を実地指導者に情報提供する。
実習を休む、あるいは遅刻する場合は、必ず当日の実習開始時刻までに実地指導者あるいは指導教員へ連絡をするよう説明する。連絡を受けた者は相互連絡するよう指示する。

2. 病棟実習日に連絡なく学生が来棟しない場合

- 1) 指導教員は、当該学生に連絡を入れ欠席理由などについて状況を把握する。
- 2) 連絡がつかない場合、連絡がつくまで2時間毎に連絡を入れる。但し、前日の様子や他の学生からの情報により緊急性があると判断した場合は、当該分野の責任者（教授または准教授）に報告し、対応について指示を受ける。
- 3) 2) の後に学生が来学した際には担当教員が面接を行い、健康状態を確認するとともに、理由等について把握する。必要に応じて再発防止のための指導を行う。

3. 病棟実習中に学生に健康上の問題が発生した場合

- 1) 基本的に指導教員が対応する。実地指導者は、他の学生の指導を優先する。
- 2) 起立性の貧血など、少し横になるなどの対処で回復が見込める場合は、師長等の許可を得て、看護相談室などで一時的に休養させる。
- 3) 頭痛、生理痛など、鎮痛薬の内服が有効と思われる場合で学生が所持していない場合は、保健管理センターへの受診を促す。
- 4) 風邪、消化器症状などにより、当日の実習の継続が困難と判断される場合は、当該学生に対し

以下の対応をするとともに、実地指導者あるいは指導教員より受け持ち患者へ、学生が実習を中断することを説明する。また必要に応じて図1を参考に報告を行い、指示を受ける。

- ① 独歩が可能と判断できる場合は、帰宅および受診（近医あるいは保健管理センター）を促す。
 - ② 健康状態が不安定あるいは、精神的な問題が根底にあると考えられる場合は、指導教員が付き添って保健管理センターを受診させる。
- 5) 実習中の出来事（受け持ち患者、看護師等とのコミュニケーションの問題、技術面での失敗体験など）が引き金となって精神的に不安定となっている場合、指導教員が個別面接を行うなど状況を把握する。状況によっては、当該分野の責任者に連絡し、相談の上必要があれば、保健管理センターなどへの受診を勧める。
 - 6) 学生が実習での体験を機に進路について深く悩んでいる場合などの情報を得た場合は、当該分野の責任者に報告し対応について話しあう。

V. 事故対応

1. 起こりうる事故

1) 学生

針刺し、火傷、転倒、感染、盗難

2) 受け持ち患者

転倒、転落、誤薬、熱傷、火傷、凍傷、擦傷、チューブ類の抜去、感染

3) 物品破損

患者の私物、病棟の備品、実習施設の備品

大学からの持ち込み物品（血圧計、パルスオキシメーター等）

4) 紛失

実習記録、実習メモ、学生証（診療録にアクセス可能な場合）、患者の私物、病棟の備品、実習施設の備品

大学からの持ち込み物品（血圧計、パルスオキシメーター等）

5) その他

事故に相当すると判断されたもの

2. 発生時の対応

- 1) 学生は直ちに実地指導者、および指導教員に報告するようオリエンテーションを行っておく。（図1参照）

- 2) 指導教員は被害者（対象者）、破損被害等の状況を把握し、図1に従って報告し、指示を受けて対応する。

- 3) 学生に検査や治療が必要な場合は、保健管理センターおよび診療の手続きをとる。

3. 事故後の対応

1) 報告書作成

- ・ 指導教員は学内用の報告書を作成し、速やかに当該分野の責任者に報告する（様式1）。
- ・ 実地指導者は、所属施設の規則にしたがって報告する（図1）。
- ・ 実地指導者、指導教員（状況に応じて当該分野の責任者も含まれる）は学生自身が事故発生状況を分析・考察し、今後の事故予防のための学習課題を明らかにできるよう指導する。
- ・ インフルエンザに罹患した場合も、事故発生時に準じて対応する。

2) 検査・治療費・賠償が発生した場合

- ・保健衛生教務係に連絡する。教務係より学生・女性支援センターに連絡、学生・女性支援センターより学生に書式が渡されるので指定期間内に提出する。
- ・針刺し事故を含む医療事故、実習中のけがは学生教育研究災害傷害保険（通称；学研災）にて費用は補填される。
- ・対学物品、対人物の破損等は学研災付帯賠償責任保険にて費用は補填される。
- ・上記 2 保険においては、医療事故は対象外であるが、本学においては、B 型肝炎患者（もしくはキャリア）に使用後の針刺し事故を起こした場合の免疫グロブリン注射の費用のみ（検査費用は適用外）学研災で補填される契約となっている。

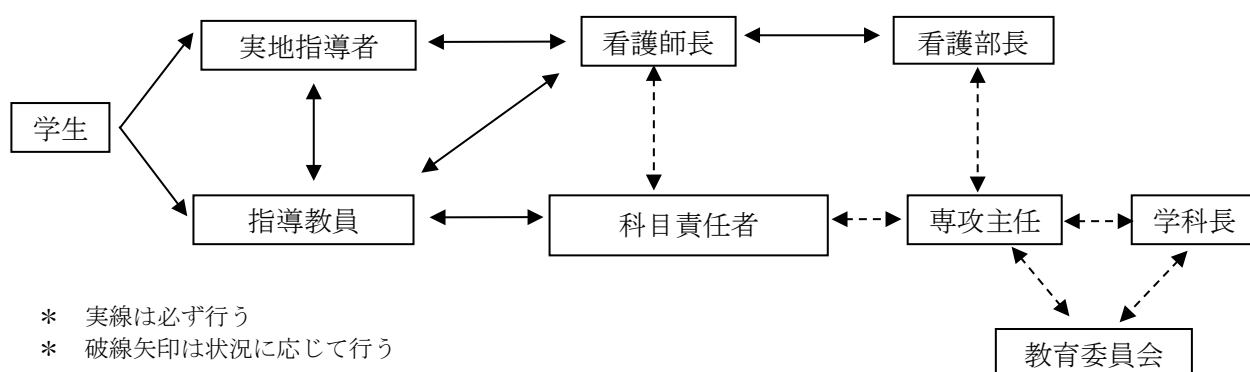


図1 事故発生時の報告・指示系統図

VI. 大規模災害時の対応

実習中に大規模災害が発生した場合には、常時携行する「大規模地震ポケットマニュアル」に従って行動するよう実習要項およびオリエンテーション等で学生に指導する。

1. 学生への周知事項

1) 自分の身を守る

周囲の状況に注意し、落ち着いて身の安全を確保すること。また、平時より避難場所や避難経路を確認しておくこと。

2) 安否状況の連絡および情報収集

安全な場所に移動した後、必ず大学へ安否を連絡すること。その際、安否確認システムを用いること。また、大学からの連絡も随時確認すること。

3) 実習施設内にいる場合の対応

教員や実地指導者、施設管理者の指示に従って行動すること。基本的に患者対応が優先となるため、学生は主体的に報告・連絡・相談を行い、教員や実地指導者の指示を仰ぐこと。

2. 実地指導者に求められる対応

学生が実習時間中に院内で被災した場合には、病院で定める災害対策マニュアルに基づき、学生に指示を与える。（患者の避難介助や救護活動に学生を動員する場合も含む）

3. 指導教員に求められる対応

学生の安否確認に責任を持ち、周囲の状況に応じて学生に指示を出す。

VII. 台風等の自然災害や交通機関運休等により実習中の学生の実習施設への移動が困難となることが予測される場合の対応について

1. 実習休講の判断について

- 1) 原則として、東京医科歯科大学のウェブサイトに掲載される休講に関する通知に沿って当日の実習が休講となるかどうかを判断する（注：午前の授業の判断は6時30分、午後の授業の判断は10時にウェブサイトに掲載される）
- 2) 実習休講の判断がつかかねる場合あるいは上記の時間を待つことで学生への連絡が遅れると思われる場合、各領域の実習担当教員は、実習施設の地域、学生の居住地等を考慮して、実習休講の有無を判断する。

2. 連絡について

- 1) 台風等により実習中の学生の実習施設への移動が困難となることが予測される場合、実習委員長は保健衛生教務係と連携し、メールで実習中の学生に移動時の注意事項等を配信し注意を喚起する。

＊文例：平成26年10月10日配信

「ご存知のとおり、来週10月14日(火)頃に台風が来ることが予測されていますので、以下のことを通知いたします。

授業が休講となる場合には当日朝6:30（午後については10:00）までに大学のウェブサイトで通知されますので、学生の皆さんは各自確認して下さい。

(<http://www.tmd.ac.jp/faculties/kyukou/index.html>)

ただし、実習中の学生の皆さんについては、ご自身の居住地域の状況等によっては通学が困難となることもあると思います。その場合、自身の安全確保を最優先し無理に通学はせず、実習担当教員に連絡してください。また、実習ごとに個別の指示がある場合はその指示に基づいて判断・行動してください。

以上です。不明な点があれば連絡してください。安全の確保には重々注意してください。」

- 2) 各領域の実習担当教員は実習休講について、速やかに学生に連絡をする。

3. 出欠の取り扱い

- 1) 本件の状況で休講が決まった場合、欠席扱いにならない。
- 2) 学生が自分の判断で身の安全を優先して行動した結果、実習を欠席した場合も事前・事後に実習責任・担当教員および実習施設の責任者に合理的な判断根拠を説明できれば欠席扱いとはしない。

4. 実習先への説明

- 1) 上記の内容は実習施設の担当者に説明をし、情報を共有しておく。
- 2) 実習施設が遠方である場合は実習先の担当者に連絡を密にとり、学生の身の安全が守られる方法を確保する。

5. 学生への説明

- 1) 各領域の実習担当者は学生に実習オリエンテーション、学内演習時に本件について周知する。
- 2) 必要時、担当教員や学生間で連絡をとり、対応について相談することを周知する。

VIII. 新型コロナウイルスへの対応について

1. 学生への周知事項

実習要項に感染症対策に関して以下の内容を記載した。

臨地実習における感染症対策に関する注意事項

(実習開始日前日から起算して 14 日前から実習終了日まで) (2022/6/2 時点)

- ・ 新型コロナウイルスワクチンの接種回数が 2 回以下の者は、抗原検査などの対応が必要となる場合があるため、指導教員の指示に従うこと。
- ・ 第 1 クールの実習開始日の前日から起算して 14 日前より、WebClass にて、体温・体調報告を行う。実習期間中の WebClass への報告の要否、時期、方法などについては、指導教員の指示に従う。
- ・ 毎朝、検温、健康チェックを行い、健康調査表に記録する。出席停止基準にのみならず、発熱、喉の痛み、咳、痰、鼻汁、息切れ、倦怠感、味覚嗅覚異常など、何らかの症状がある場合にはすべて指導教員・教務係へ連絡し、指示を仰ぐ。
- ・ 実習中に学内に入る場合、キャンパス入館時（3 号館 1 階入口など）に顔認証体温測定システムによる体温測定を行う。37℃以上と測定された場合は、速やかに実習分野の指導教員に報告後、指定された場所で待機し、指示を仰ぐ。平常体温が高めで 37℃の基準では登校できなくなる心配がある学生は、事前に指導教員、教務係に申し出ること。
- ・ 常時マスクの着用・手洗い・手指消毒を徹底する。マスクはサージカルマスクやそれに準ずる不織布の使い捨てマスク（布やウレタン製は不可）とし、カラーは白とする。

1. 病院・施設内における注意事項

- 1) 更衣室が過密にならないように、十分に時間に余裕を持って通学する。滞在時間は最短とし、常にマスクをし、会話は必要性の高い最小限の範囲にとどめる。
- 2) 実習場所での感染症対策を遵守する。看護ケア時は、状況に応じて適切な PPE（サージカルマスク・エプロン・フェイスシールド・手袋など）を着用する。
常時サージカルマスクを着用し、実地指導者や指導教員の指示に従いフェイスシールドまたはアイガードを着用する。
- 3) 実習に関係のない会話は控える（エレベーター内など病棟までの移動時も含む）。
- 4) 不要なものは実習場所に持ち込まない。
- 5) 共有備品等を使用する際には、使用前後の適切な消毒や手洗いを徹底する。
- 6) 携帯用アルコールを携帯し、適切に使用する。
- 7) 休憩は指定された場所でとり、換気を十分にし、1 m 以上の十分な距離をとる。
- 8) 食事中はマスクを外すため、学生同士で十分な距離をとり、黙食を徹底する。
歯磨きの際は他者と同じタイミングで行わないようにし、同じタイミングにならざるを得ない場合には十分な距離を保ち、歯磨きをしながら会話をしない。

2. 病院・施設外における注意事項

- 1) 実習開始日の前日から起算して 14 日以内において、やむを得ない事情がある場合
(渡航しないことで学業に深刻な影響が予想される場合や家族等の事情などにより

渡航せざるを得ないような場合)を除いて、すべての海外渡航を禁止する。

- 2) 実習開始日の前日から起算して14日以内(実習期間中を含む)において原則アルバイトを禁止とする。
- 3) やむを得ず、県をまたいで移動する場合は移動中・移動先での感染予防対策を徹底する。
- 4) 実習時間以外の不要不急の外出を控える。サークル活動を含む課外活動については本学の活動制限を遵守する(level 1は全面禁止)。課外活動における懇親会(会食)は禁止。特にクラスターが発生している場所への外出、複数人での飲食は行わない。
- 5) 実習開始14日以前であっても国内外への旅行は控えることが望ましい。やむを得ず、県外・海外に滞在する家族が帰省するなどの場合は、感染予防対策を徹底する。
- 6) 風邪症状やCOVID-19感染が疑われる症状(37度以上の発熱、咳、呼吸苦、下痢、腹痛、味覚嗅覚異常など)がある場合は、直ちに指導教員・教務係に連絡し、指示に従う。
- 7) 同居する家族・アルバイト先などで体調不良者(感染を疑われる症状発症)が発生した場合には速やかに指導教員・教務係に報告する。
- 8) 自身の行動履歴を記録し、必要に応じて、即座に提出できるようにしておく(感染が発覚した場合、「誰とどの程度どこで接触したか」「どこに行ったか」が重要となる)。
- 9) 実習施設までの交通機関内でも過密を避け、マスクを着用する。

【参考】

- ・ 本学の出席停止の判断基準^{1,2)}

A) 37.0度以上の発熱がある。

B) ①喉の痛み、②咳・痰等の呼吸器症状、③倦怠感のいずれか1つ以上ある。

上記のAとBを満たすときは、“出席停止”とする。

*体温は、朝、通学前に腋窩で測った体温を基準とする。

※注意※

- ・ B)の症状がない場合でも、37.5℃以上を超える発熱が続いている場合は、通学せずに指導教員・教務係へ電話で相談すること。
- ・ 体温は、朝の通学前を基準とするが、休日や夜間に発熱し、A) B)を満たす場合も出席停止となる。
- ・ 何らかの症状があり、判断に迷う場合は、通学せずに指導教員・教務係へ電話で相談すること。

- ・ 出席開始の判断²⁾

症状が出現したのち8日を経過し、かつ薬剤*を服用していない状態で、解熱後および症状**が消失した後3日を経過した日から

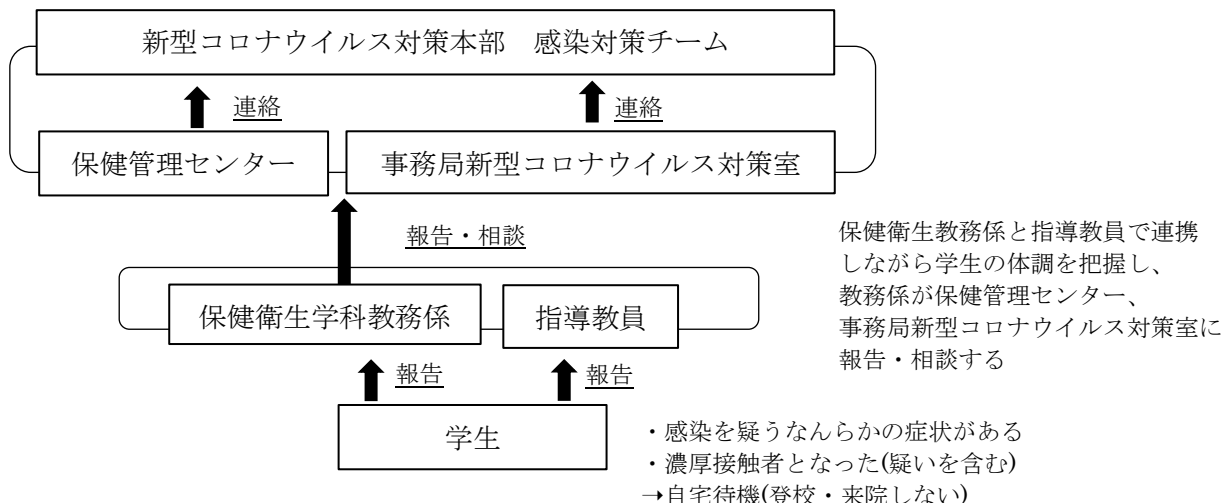
*解熱剤を含む症状を緩和させる薬剤

**咽頭痛・咳・息切れ・全身倦怠感など。新型コロナウイルス肺炎と診断されたものは、主治医が出席可能と診断した日から。

2. 実習中に学部学生が COVID-19 が疑われる場合の対応

以下の本学の新型コロナウイルス対策本部の指示に従い対応する。

・ 症状・PCR 結果等の報告体制図（一部改変）³⁾（学生）



下記のケースの場合にも、指導教員、教務係に報告し指示を仰ぐこと⁴⁾

- ① 本人が陽性の確定診断を受けた場合
- ② 本人が濃厚接触者となった場合
- ③ 同居家族等が陽性の確定診断を受けた場合
- ④ 同居家族等が濃厚接触者となり、症状がある場合
- ⑤ 同居家族等に症状があり、PCR 検査を受検することになった場合

※ 濃厚接触者¹⁾

「患者（確定例）」（「無症状病原体保有者」を含む。以下同じ。）の感染可能期間(※1)に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。

- ・ 患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ・ 適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者
- ・ 患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・ その他：手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なし(※2)で、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）。

※1 「患者（確定例）の感染可能期間」とは、発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含めた新型コロナウイルス感染症を疑う症状（以下参照）を呈した2日前から入院、自宅や施設等待機開始までの間、とする。

* 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など

「無症状病原体保有者の感染可能期間」とは、陽性確定に係る検体採取日の2日前から入院、自宅や施設等待機開始までの間、とする。

※2 サージカルマスクの着用の有無など

- 1) 保健管理センター・職員健康管理室：【第 11 報】新型コロナウイルス感染症による出席・出勤停止及び学内で PCR 陽性者が発生した場合について

https://www1.tmd.ac.jp/archive-tmdu/soumusoumu/20200713_hokencenter.pdf

- 2) 出勤（出席）停止の取り扱いについて

<https://www1.tmd.ac.jp/files/user/www1.tmd.ac.jp/Criteria%20for%20refraining%20from%20coming%20to%20the%20university.pdf>

- 3) 本学における症状・PCR 結果等の報告体制図（一部改変）

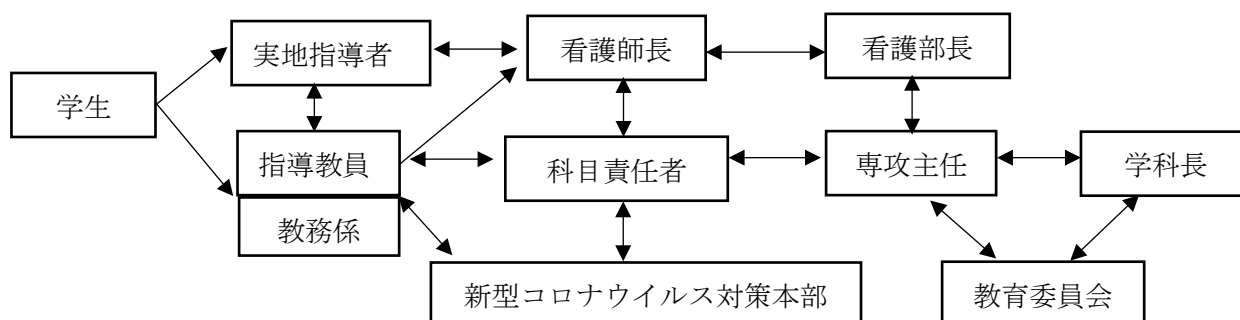
https://www1.tmd.ac.jp/files/user/www1.tmd.ac.jp/20211025_taiseizu.pdf

- 4) 身近で RT-PCR 検査で新型コロナウイルス感染症の確定診断者が出たとき等の措置
(2022 年 3 月 22 日)

https://www1.tmd.ac.jp/archive-tmdu/soumusoumu/20220322_betten.pdf

3. 感染（濃厚接触・疑いを含む）発生時の報告・指示系統

学生の感染（濃厚接触・疑いを含む）が判明した際は、事故発生時の報告・指示系統図（p.6）に準じて対応する（図 2 様式 1）。



事故報告書(教員用)

提出日： 年 月 日

教員氏名： 印

事 故 発 生 日 時	年 月 日 時 分頃
事 故 発 生 場 所	
学 生 氏 名	学年： 年生 学籍番号： 氏名：
実 習 科 目 名	
事 故 の 種 類	人的（ 患者・学生自身） 物的 情報的
事故発生状況・経緯	
事故への対応	
学生と患者等の状況	
再発防止のための課題・今後の対策	
実習教員（実習補助者）氏名	教育実習責任者名
印	印

第 15 クール:	10/31~11/11
第 16 クール:	11/14~11/25
第 17 クール:	11/28~12/9
第 18 クール:	12/12~12/23
《冬季休暇》:	12/28~1/3
第 19 クール:	1/4~1/13
第 20 クール:	1/16~1/27
第 21 クール:	1/30~2/10
第 22 クール:	2/13~2/24
第 23 クール:	2/27~3/10
第 24 クール:	3/13~3/24

2022 年度第 6 学年カリキュラム（第 25~35 クール、2 週間/クール）

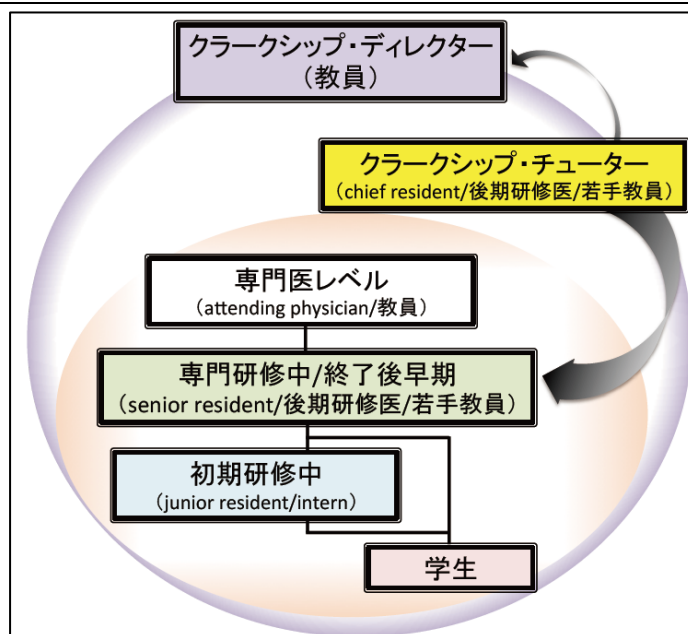
第 25 クール:	4/11~4/22
第 26 クール:	4/25~5/13
《GW 休日》:	5/3~5/8
第 27 クール:	5/16~5/27
第 28 クール:	5/30~6/10
第 29 クール:	6/13~6/24
包括医療統合教育:	6/27~7/8
第 30 クール:	7/11~7/22
第 31 クール:	7/25~8/5
第 32 クール:	8/8~8/19
第 33 クール:	8/22~9/2
第 34 クール:	9/5~9/16
第 35 クール:	9/20~9/30

臨床実習の指導／評価体制

1) 臨床現場における指導体制

第 5 学年での臨床実習の主たる形態は病棟実習です。病棟実習では、皆さんは初期研修医とともに適切な数・複雑度の症例を担当します。初期研修医は、病棟実習をサバイブするためのノウハウ、一般臨床医としての病棟での業務や振る舞い、そして一般臨床医が解決できるべき臨床問題へのアプローチなどを指導してくれます。そして、担当する症例の専門科的臨床問題へのアプローチを指導してくれるのは後期研修医や若手教員です。

また、臨床各診療科には、学生教育および評価責任者である診療科長の他に、統括責任者として臨床実習プログラムの計画・実施を行うクラークシップ・ディレクター、そして診療チームに参加しての学習をより効果的なものとするために、診療チームで皆さんの指導にあたる初期研修医・後期研修医をサポートし、そして担当症例を超えた皆さんの学習をサポートするクラークシップ・チューターが、1 名ずついます（科によってはいずれかのみまたは同一人物が両者を兼ねる場合もある）。



2) 臨床実習の評価

評価には、皆さんが期待される資質を獲得したか否かの、いわゆる「合否判定」を行うための総括的評価と、フィードバックと振り返りの機会を提供し主体的な更なる取り組みによるレベルアップを図るための形成的評価の 2 種類があります。以下に、臨床実習に関連するそれらの例を記します。

総括的評価

- ◇ 臨床実習開始前の CBT と OSCE
- ◇ 各ローテーションでの成績判定

各ローテーションにおける成績判定は、学生に求められる「知識」「技能」「プロフェッショナリズム（医療人としてふさわしい価値観・言動）」の到達目標のうち、本総合評価判定は、「知識」および「技能」の 2 つに関する到達度について、以下の尺度に基づき下されます。

- A(合格)：積極的に学習機会を自ら求め、主体的に学習し、プログラムの到達目標を達成した
- B(合格)：プログラムの到達目標を達成した
- C(不合格)：プログラムの到達目標を達成できず、補修・補講が必要である。

「プロフェッショナリズム」については各ローテーションでの成績判定には含めず、各ローテーション指導医から口頭指導を行うとともに、各ローテーションから臨床実習科目評価判定委員会に報告されます。そして同委員会が、蓄積された「プロフェッショナリズム」に関する報告ほか情報にもとづき、調査・指導・補講・進級判定などを行います。

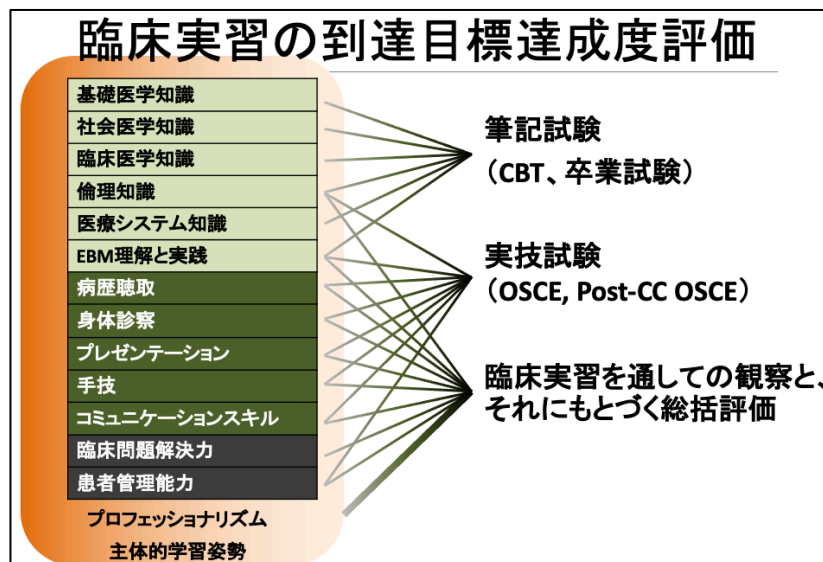
- ◇ 臨床実習科目評価判定委員会による卒業試験および OSCE 受験資格判定
- ◇ 卒業試験（筆記）
- ◇ 卒業試験（Post-CC OSCE）

形成的評価

- ◇ WoSAC（第 5 学年）

第 5 学年の臨床実習期間中に、Workplace-based Student Assessment with Clinical reasoning focus（以下、WoSAC と略）（2021 年度まで mini-CEX と呼ばれていたものを改名）という「臨床推論に主眼を置いた診療現場における学習者評価」を行います。2022 年度は、内科および小児科ローテーション（2 週間

× 8) 中に各学生あたり合計 3 回ずつ行う予定でいます。「患者さんの訴える症状を踏まえて、臨床推論を行いながら病歴聴取と身体診察を行い、直近の評価・治療計画を策定し、それを効果的・効率的に口頭プレゼンテーションする」という初期診療の一連の流れを、指導医の観察下で皆さんが行い、指導医からのフィードバックを得て、自己振り返りを通して技能向上を図ることを目的としたものです。合否判定をするためのものではなく、いわゆる「形成的評価」に属します。新型コロナウイルス感染蔓延の影響で、指導医が模擬患者役をやり、オンラインで行う場合もあります。



◇ 各ローテーションにおけるオリエンテーション

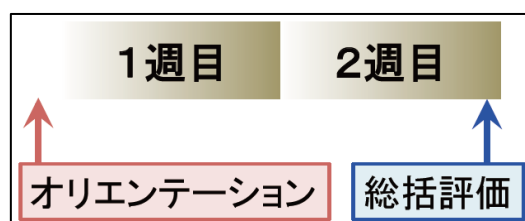
臨床実習では、まず実習開始前に主としてクラークシップ・ディレクターによるオリエンテーションが行われます。オリエンテーションに先んじて、WebClass「学習と振り返りの記録」の「オリエンテーション」欄に以下を記入してください。

- 当該プログラムでの実習開始に際しての、あなたの抱負・意気込み
- クラークシップディレクター／チューターに伝えたいこと
- シラバスに記載されている到達目標以外であなたが本実習で達成したい個別目標

オリエンテーションでは、各プログラムの到達目標の説明、学習内容の説明、そして評価方法や合否判定基準の説明がされます。皆さんにおいて、当該プログラム到達目標に加え、特別に取組みたい目標があれば、この場でクラークシップ・ディレクターに伝えます。オリエンテーションの具体的な日時については、各診療科シラバスにて確認してください。シラバスに記載の無い場合には、次週ローテート予定学生間で調整の上当該診療科クラークシップ・ディレクターに遅くとも前週前半までには連絡し、オリエンテーションの日時/場所の指示を仰いでください。

◇ 各ローテーションにおける総括評価

各ローテーションの最後に、主としてクラークシップ・ディレクターによる「総括評価」が行われます。実習を通しての皆さんのパフォーマンスおよび目標への最終到達度合いについて、ここでも同じくまず皆さん自身が振り返り、それに対するフィードバックが行われます。なおこの後、指導医はそれらを踏まえて最終成績判定を行い、その結果が医学教務係に報告され、「臨床実習」科目の成績換算に用いられます。



2週間ローテーションの場合の評価工程



自分から積極的にフィードバックを求めることの重要性

しかし、『「診療参加」とは』の項で述べたように、臨床資質の獲得は教科書や見学、動画から学べるものではなく、実際に診療現場に参加し、指導・監視のもとに経験し、経験を振り返り省察することを繰り返し行って初めて達成されるものであり、そのための場を提供するのが臨床実習です。ですので、皆さんから主体的に、そして積極的に、一緒に実習する仲間や、研修医、指導医、そして診療チームの様々な医療専門職のスタッフに、自身のパフォーマンスに対するフィードバックを求め、振り返り、レベルアップをはかることが、極めて重要です。

3) 学習と振り返りの記録

臨床実習においては、「学習と振り返りの記録」を WebClass を用いて行います。各プログラムの到達目標の明示・周知、到達目標達成状況に関する学生自身の振り返りと指導医によるフィードバック、およびそれらの把握・情報共有、出欠記録と状況把握、WoSAC 実施記録および状況把握、などを目的としたものです。以下に従い、期限以内に記入してください。臨床実習に関わる教職員が使用状況確認目的で予告なく皆さんの使用状況を確認し、指示に従わず適切な記入がされていない場合は、必要な指示・指導を行います。また、卒業までに 3 回予定されるハウス担当教員との個人面談では、本記録記載内容にもとづいた振り返りも行います。

スペシャルティ・プログラム・ブロック以外のローテーション (WebClass 使用)

- 1) 上述したように、オリエンテーションに先んじて、各プログラムのシラバスを十分に読んだ上で、「オリエンテーション」欄に以下を記入してください。
 - 当該プログラムでの実習開始に際しての、あなたの抱負・意気込み
 - クラークシップディレクター／チューターに伝えたいこと
 - シラバスに記載されている到達目標以外であなたが本実習で達成したい個別目標
- 2) 総括評価に臨む前に、「総括評価（学生記載欄）」に記載してください。
- 3) その後、同評価担当教員が「総括評価（教員記載欄）」を記載します。
- 4) ほかに、プログラムによっては上記以外の事項に関する記載が必要な場合がありますので、プログラム担当教員の指示に従ってください。

スペシャルティ・プログラム・ブロック ローテーション (WebClass 使用)

- 1) 上述したように、オリエンテーションに先んじて、各プログラムのシラバスを十分に読んだ上で、「オリエンテーション」欄に以下を記入してください。
 - 当該プログラムでの実習開始に際しての、あなたの抱負・意気込み
 - クラークシップディレクター／チューターに伝えたいこと
 - シラバスに記載されている到達目標以外であなたが本実習で達成したい個別目標
- 2) ほかに、プログラムによっては上記以外の事項に関する記載が必要な場合がありますので、プログラム担当教員の指示に従ってください。

※SPB プログラムにおいては、1 週間ということもあり、総括評価欄は設けていませんので、オリエンテーション欄の記載のみをお願いします。

WoSAC Log への記入 (WebClass 使用)

WoSAC を実施したら、「WoSAC Log」に実施日、実施診療科名、指導医名を記入してください。そして、WoSAC 評価シートに指導医が記載した「指導医コメント」および「評価尺度レベル」を、自らの振り返りの目的も兼ねて入力した上で、WoSAC 評価シート原本を 3 号館 6 階の医学教務係へ提出して下さい。また、提出期限などの詳細は本要項「**臨床実習に関する他の重要な事項**」の第 4 項に記載してありますので、必ず読み従ってください。評価シートは医学教務係にて PDF 化後、「WoSAC Log」にアップロードされます。PDF 版評価シートを使用した場合には、完成したシートを医学教務係にメール送付いただく形で構いません。

4) CC-EPOC

順次追記予定

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	マス カズヤ 益 一哉 ＜平成30年4月1日＞		工学博士		東京工業大学学長 (平成30. 4. 1～R6. 3. 31)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(医学部医学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
1	専任	教授	トヤマ サトシ 遠山 悟史 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		救急・麻酔・集中治療	3後		2	1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年11月)	5日
2	専任	教授	ヨコタ タカリ 横田 隆徳 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医学導入 神経科学・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3前 4前 4後・5通 6前		6.5 4 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年8月)	5日
3	専任	教授	オカダ カズキ 岡田 幸之 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 自由選択学習 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4前 4後・5通 6前		4 12 8 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年9月)	5日
4	専任	教授	オカダ シュウショウ 岡田 就将 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医学導入 公衆衛生学 選択社会医学実習 自由選択学習	1後 3後 3後 4前		6.5 1.5 1 12	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年7月)	5日
5	専任	教授	オカモト リョウイチ 岡本 隆一 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		消化器 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前		3 12 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年4月)	5日
6	専任	教授	オキヤマ ナホ 沖山 奈緒子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		匠講話 免疫学 膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー） 膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病） 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 2後 3後 3後 4前 4後・5通 6前		1 2.5 1 1 12 40 15	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年1月)	5日
7	専任	教授	ヨシムラ リョウイチ 吉村 亮一 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		腫瘍学 頭頸部・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2後 3後 4前 4後・5通 6前		1 4 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年4月)	5日
8	専任	教授	ミヤザキ ナオキ 宮坂 尚幸 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		生殖・発達 自由選択学習 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域医療学習プログラム	3後 4前 4前 4後・5通 6前 1～6通		4 12 8 40 15 1	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成28年8月)	5日

9	専任	教授	ミヤザキ タナシ 宮崎 泰成 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		呼吸器 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	2 12 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
10	専任	教授	ハシモト マサヨシ 橋本 正良 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域医療学習プログラム	4前 4後・5通 6前 1～6通	12 40 15 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年4月）	5日
11	専任	教授	ケイ ヨシアキ 具 芳明 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 薬理学 感染・基礎 感染・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 2前 2後 3前 4前 4後・5通 6前	6.5 2 2 1 12 40 15	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	5日
12	専任	教授	キタダ シュウスケ 絹笠 祐介 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 一般外科 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3前 自由選択学習 4後・5通 6前	6.5 1 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年9月）	5日
13	専任	教授	コガネ ヒデユキ 古賀 英之 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		匠講話 骨・関節・脊椎 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3前 4前 4後・5通 6前	1 2 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年5月）	5日
14	専任	教授	サトウ タカシ 佐藤 荘 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		免疫学 基礎医学実習 基礎医学実習 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 2後 4前 2通 3通 4通 5通 6通	2.5 1 1 12 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年7月）	5日
15	専任	教授	ササノ テツオ 笹野 哲郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 自由選択学習 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2後 4前 4前 4後・5通 6前	3 12 8 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和元年6月）	5日
16	専任	教授	ヤマダ テツヤ 山田 哲也 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		薬理学 内分泌・代謝 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2前 3前 4前 4後・5通 6前	2 2 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成30年4月）	5日
17	専任	教授	ヤマワキ マサナガ 山脇 正永 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 膠原病・総合診療・地域 医療・東洋医学・皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学） 自由選択学習 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 包括医療統合教育Ⅰ 包括医療統合教育Ⅱ 地域医療学習プログラム	1後 3後 4前 4前 4後・5通 6前 5後 6前 1～6通	6.5 3 12 8 40 15 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年12月）	5日
18	専任	教授	テラタ スミオ 寺田 純雄 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経解剖学 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 4前 2通 3通 4通 5通 6通	3 12 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
19	専任	教授	ワカバヤシ ケンジ 若林 健二 ＜令和6年10月＞		医学博士		匠講話 救急・麻酔・集中治療 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3後 4前 4後・5通 6前	1 2 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年10月）	5日

20	専任	教授	アキタ ケイイチ 秋田 恵一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	医学導入 人体構造総論 人体解剖学 呼吸器 消化器 頭頸部・臨床 自由選択学習 臨床導入実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ 地域医療学習プログラム	1後 1後 2前 3前 3前 3後 4前 4前 2通 3通 4通 5通 6通 1～6通	6.5 1.5 7.5 2 3 4 12 8 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
21	専任	教授	モリ タケヒコ 森 毅彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	匠講話 血液・腫瘍 自由選択学習 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3前 4前 4前 4後・5通 6前	1 2 12 8 40 15	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	5日
22	専任	教授	モリ ヒロキ 森 弘樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	頭頸部・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	4 12 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成30年10月）	5日
23	専任	教授	イシノ トモコ 石野 智子 ＜令和6年10月＞		博士 （薬学）	医動物学 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 4前 2通 3通 4通 5通 6通	2 12 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年8月）	5日
24	専任	教授	マエハラ タカツシ 前原 健寿 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	神経科学・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	4 12 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
25	専任	教授	オオノボ ケンイチ 大久保 憲一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	呼吸器 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	2 12 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
26	専任	教授	オオハシ ケンイチ 大橋 健一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	病理学 腫瘍学 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 4前 2通 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 12 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年7月）	5日
27	専任	教授	オオノ キョウコ 大野 京子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	頭頸部・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	4 12 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年8月）	5日
28	専任	教授	オオトモ ヤスヒロ 大友 康裕 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	医学導入 救急・麻酔・集中治療 生命倫理 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3後 3通 3前 4後・5通 6前	6.5 2 2 12 40 15	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
29	専任	教授	カミムラ ケイコ 中村 桂子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	匠講話 公衆衛生学 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 3後 4前 2通 3通 4通 5通 6通	1 1.5 12 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年4月）	5日
30	専任	教授	ナカタ タカオ 中田 隆夫 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）	細胞生物学 組織学 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 2前 4前 2通 3通 4通 5通 6通	1 3.5 12 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日

31	専任	教授	アサカゲ タカヒロ 朝隆 孝宏 ＜令和6年10月＞		博士 （生物 科学）		頭頸部・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	4 12 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年4月）	5日
32	専任	教授	ツツミ タツシ 堤 剛 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		匠講話 頭頸部・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3後 4前 4後・5通 6前	1 4 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年4月）	5日
33	専任	教授	タカ ケンタロウ 田中 颯太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		頭頸部・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	4 12 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成30年10月）	5日
34	専任	教授	タカ シンジ 田中 真二 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		腫瘍学 基礎医学実習 消化器 衛生学 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 3前 3後 4前 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 3 1 12 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年11月）	5日
35	専任	教授	タハミ ミル 田邊 稔 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		消化器 一般外科 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 3前 4前 4後・5通 6前	3 1 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
36	専任	教授	トリダ シュウジ 東田 修二 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		腫瘍学 臨床医学導入 血液・腫瘍 自由選択学習 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2後 2後 3前 4前 4前 4後・5通 6前	1 1 2 12 8 40 15	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年9月）	5日
37	専任	教授	フジイ ヤスヒサ 藤井 靖久 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		匠講話 腎臓・泌尿器 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3前 4前 4後・5通 6前	1 3 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年8月）	5日
38	専任	教授	フジワラ タカ 藤原 武男 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医学導入 腫瘍学 公衆衛生学 行動科学 選択社会医学実習 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ ポストコロナ社会におけ る感染症対策 疫学基礎	1後 2後 3後 3後 3後 4前 2通 3通 4通 5通 6通 1・2・3・ 4・5・6通 1前	6.5 1 1.5 1 1 12 2 2 2 2 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年4月）	5日
39	専任	教授	ウチダ シンイチ 内田 信一 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		匠講話 薬理学 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 2前 4前 4後・5通 6前	1 2 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年8月）	5日
40	専任	教授	ウチダ トシロウ 内田 篤治郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		匠講話 救急・麻酔・集中治療 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3後 4前 4後・5通 6前	1 2 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年5月）	5日

41	専任	教授	フシミ キョウテツ 伏見 清秀 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		公衆衛生学 自由選択学習	3後 4前	1.5 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年3月)	5日
42	専任	教授	ヤスダ シンサク 保田 晋助 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		免疫学 膠原病・総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病） 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2後 3後 4前 4後・5通 6前	2.5 1 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年1月)	5日
43	専任	教授	ヤサヅキ トモコ 矢沢 知子 ＜令和6年10月＞		学士 (薬学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年6月)	5日
44	専任	教授	タケイ ウキヒデ 立石 宇貴秀 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		匠講話 臨床医学導入 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 2後 4前 4後・5通 6前	1 1 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年10月)	5日
45	専任	教授	スミタ カズヲ 壽美田 一貴 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		匠講話 神経科学・臨床 自由選択学習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3前 4前 4後・5通 6前	1 4 12 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年10月)	5日
46	専任	教授	アサハラ ヒロシ 浅原 弘嗣 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		匠講話 生化学 分子遺伝学 基礎医学実習 骨・関節・脊椎 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 2前 2前 2後 3前 4前 2通 3通 4通 5通 6通	1 2 1 1 2 12 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	5日
47	専任	教授	イノムラ ヨシカズ 磯村 宜和 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		匠講話 生理学 神経科学・基礎 基礎医学実習 自由選択学習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 2前 2後 2後 4前 2通 3通 4通 5通 6通	1 3 3.5 1 12 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	5日
48	専任	教授	タカハシ ヒデアキ 高橋 英彦 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		匠講話 神経科学・基礎 神経科学・臨床 行動科学 自由選択学習 臨床導入実習	1後 2後 3前 3後 4前 4前	1 3.5 4 1 12 8	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年2月)	5日
49	専任	准教授	シヅカ ヒロキ 塩飽 裕紀 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和4年10月)	5日
50	専任	准教授	キノ ミチヒロ 岸野 充浩 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床医学導入	2後	1	1	東京医科歯科大学 准教授 (令和2年4月)	5日
51	専任	准教授	ヨシイ トシカ 吉井 俊貴 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		骨・関節・脊椎	3前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成28年7月)	5日
52	専任	准教授	ヨシダ ソウイチロウ 吉田 宗一郎 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		腎臓・泌尿器 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	3 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和4年4月)	5日

53	専任	准教授	ヨシキ ナオキ 吉木 尚之 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年10月）	5日
54	専任	准教授	クサウ トシフミ 工藤 敏文 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成29年7月）	5日
55	専任	准教授	コウヤ マサヒコ 合屋 雅彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2後 4前 4後・5通 6前	3 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成27年4月）	5日
56	専任	准教授	ネモト マスヒロ 根本 泰宏 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	5日
57	専任	准教授	カシマタ ケンイチ 鹿島田 健一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年10月）	5日
58	専任	准教授	アキ トシヒコ 秋 利彦 ＜令和6年10月＞		博士 （学術）		法医学 選択社会医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	3後 3後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成28年10月）	5日
59	専任	准教授	ミズノ トモヒロ 水野 友裕 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	5日
60	専任	准教授	スギハラ ケンイチ 杉原 玄一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成31年4月）	5日
61	専任	准教授	スギナリ ユリコ 杉内 友理子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・基礎 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 2通 3通 4通 5通 6通	3.5 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	5日
62	専任	准教授	ニシダ ヨウイチロウ 西田 陽一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年5月）	5日
63	専任	准教授	イシバシ ヒロナリ 石橋 洋則 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		呼吸器 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	2 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	5日
64	専任	准教授	カシマ ヨシユキ 川島 慶之 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成28年5月）	5日
65	専任	准教授	マエジマ マスヒロ 前嶋 康浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年10月）	5日
66	専任	准教授	ソハラ エイエイ 蘇原 映誠 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生理学 腎臓・泌尿器 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2前 3前 4前 4後・5通 6前	3 3 8 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成27年11月）	5日
67	専任	准教授	イケガ ケンジ 池田 賢司 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生理学 内分泌・代謝 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2前 3前 4前 4後・5通 6前	3 2 8 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	5日

68	専任	准教授	タケチ タシ 竹内 崇 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	5日
69	専任	准教授	ナカム トモサ 中村 智祐 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	5日
70	専任	准教授	タカ ヨシ 田中 洋次 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年1月）	5日
71	専任	准教授	ナノ ノブシ 那波 伸敏 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 医療とAI・ビッグデータ 入門 公衆衛生学 選択社会医学実習 ポストコロナ社会における感染症対策	1後 1後 3後 3後 1・2・3・ 4・5・6通	6.5 2 1.5 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	5日
72	専任	准教授	タケチ ヒロキ 武内 寛明 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		感染・基礎 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 2通 3通 4通 5通 6通	2 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	5日
73	専任	准教授	ヒラ リイロウ 平 理一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生理学 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2後 2通 3通 4通 5通 6通	3 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	5日
74	専任	准教授	ナミキ タケ 並木 剛 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー） 臨床導入実習	3後 4前	1 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成29年4月）	5日
75	専任	准教授	スエナカ ミツニ 末永 光邦 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 血液・腫瘍 臨床導入実習	3前 3前 4前	3 2 8	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	5日
76	専任	准教授	トクカ マサリ 徳永 正則 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		一般外科	3前	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成31年4月）	5日
77	専任	講師	イトウ マイ 伊藤 真以 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床医学導入 臨床導入実習	2後 4前	1 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	5日
78	専任	講師	イトウ タ 伊藤 卓 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	4 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	5日
79	専任	講師	イヅリ ヨシコ 伊澤 佳子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・基礎 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 2通 2通 3通 4通 5通 6通	3.5 1 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年4月）	5日
80	専任	講師	イタケ タシ 磯田 健志 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		血液・腫瘍 生殖・発達 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 3後 4前 4後・5通 6前	2 4 8 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	5日

81	専任	講師	イシノ モチ 稲次 基希 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	4 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	5日
82	専任	講師	ウカシン ツカサ 宇賀神 つかさ ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー） 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	1 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	5日
83	専任	講師	ウスマ カ 鶴沼 香奈 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		法医学 選択社会医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	3後 3後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年9月）	5日
84	専任	講師	オカダ エリコ 岡田 英理子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 医療とAI・ビッグデータ 入門 消化器 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 包括医療統合教育Ⅰ 包括医療統合教育Ⅱ	1後 1後 3前 4前 4後・5通 6前 5後 6前	6.5 2 3 8 40 15 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成26年4月）	5日
85	専任	講師	オカモト ケンタロウ 岡本 健太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		一般外科 生殖・発達 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 3後 4後・5通 6前	1 4 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成28年4月）	5日
86	専任	講師	カナウ ヨシヒト 加納 嘉人 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 血液・腫瘍	3前 3前	3 2	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	5日
87	専任	講師	カナガチ タカシ 叶内 匡 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床医学導入 神経科学・臨床 臨床導入実習	2後 3前 4前	1 4 8	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成28年1月）	5日
88	専任	講師	カモイ コウジ 鴨居 功樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年4月）	5日
89	専任	講師	ミヤタケ カズマサ 宮武 和正 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	5日
90	専任	講師	クリモト リョウタ 栗本 遼太 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		分子遺伝学 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	5日
91	専任	講師	クワハラ ヒロヤ 桑原 宏哉 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4前 4後・5通 6前	4 8 8 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和2年8月）	5日
92	専任	講師	フルサワ ハルヒコ 古澤 春彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		呼吸器 臨床導入実習 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4前 4後・5通 6前	2 8 8 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	5日

93	専任	講師	トダ カズマ 戸田 一真 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		血液・腫瘍 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	2 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成27年4月)	5日
94	専任	講師	ホリタ タカシ 細矢 匡 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		膠原病・総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病） 臨床導入実習	3後 4前	1 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年4月)	5日
95	専任	講師	ミツムラ タカヒロ 三ツ村 隆弘 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		呼吸器 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	2 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年10月)	5日
96	専任	講師	ヤマモト コウヘイ 山本 浩平 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		病理学 血液・腫瘍 頭頸部・臨床 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 3前 3後 2通 3通 4通 5通 6通	1 2 4 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	5日
97	専任	講師	ヤマモト マサヒデ 山本 正英 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		血液・腫瘍	3前	2	1	東京医科歯科大学 講師 (平成30年4月)	5日
98	専任	講師	アキヤマ ヨシミツ 秋山 好光 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		腫瘍学 基礎医学実習 衛生学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 3後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成15年7月)	5日
99	専任	講師	ハルキ シゲオ 春木 茂男 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	5日
100	専任	講師	コミヤ ナカ 小宮 力 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		内分泌・代謝 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	5日
101	専任	講師	オノ ヒロキ 小野 宏晃 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		消化器 一般外科 臨床導入実習	3前 3前 4前	3 1 8	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年11月)	5日
102	専任	講師	モリタ アキコ 森田 彩子 ＜令和6年10月＞		博士 (生物 科学)		公衆衛生学 選択社会医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	3後 3後 2通 3通 4通 5通 6通	1.5 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成30年11月)	5日
103	専任	講師	セイノ カオル 清野 薫子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2通 3通 4通 5通 6通	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成25年8月)	5日
104	専任	講師	イシイ トモヒロ 石井 智浩 ＜令和6年10月＞		博士 (理 学)		細胞生物学 組織学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 2前 2通 3通 4通 5通 6通	1 3.5 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成28年4月)	5日
105	専任	講師	アカホ ケイイチ 赤星 径一 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年11月)	5日

106	専任	講師	クラモト 倉田 盛人 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	腫瘍学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2通 3通 4通 5通 6通	1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成25年8月)	5日
107	専任	講師	オイケイジ 大井 啓司 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	循環器 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2後 4前 4後・5通 6前	3 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成25年4月)	5日
108	専任	講師	オノカズチ 大野 十央 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 講師 (平成30年10月)	5日
109	専任	講師	タニユウコ 谷 友香子 ＜令和6年10月＞		博士 (生物科学)	公衆衛生学 選択社会医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ 疫学基礎 疫学応用	3後 3後 2通 3通 4通 5通 6通 1前 1後	1.5 1 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年7月)	5日
110	専任	講師	ナカガリツシ 中川 剛士 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	一般外科	3前	1	1	東京医科歯科大学 講師 (平成27年4月)	5日
111	専任	講師	ナガオトシカゲ 長尾 俊景 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	血液・腫瘍	3前	2	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	5日
112	専任	講師	タナハジメ 田中 一 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 講師 (令和2年4月)	5日
113	専任	講師	タカシラヤスキ 田頭 保彰 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年8月)	5日
114	専任	講師	ワタナベリョウスケ 渡邊 亮輔 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	臨床医学導入	2後	1	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	5日
115	専任	講師	フジノジュンヤ 藤野 純也 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	5日
116	専任	講師	ヒライカシ 平井 高志 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	医学導入 骨・関節・脊椎 臨床導入実習	1後 3前 4前	6.5 2 8	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和2年4月)	5日
117	専任	講師	ベツツマシ 別府 正志 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学）	3後	3	1	東京医科歯科大学 講師 (平成16年11月)	5日
118	専任	講師	ノカノブキ 野坂 宜之 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	5日
119	専任	講師	アリイズミヨウスケ 有泉 陽介 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 講師 (平成28年4月)	5日

120	専任	講師	サイノウ テツヤ 齋藤 鉄也 ＜令和6年10月＞		博士 (薬学)		膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（膠原病）	3後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	5日
121	専任	講師	サイノウ ケンタ 齋藤 健太 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		神経解剖学	2前	3	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	5日
122	専任	講師	タカセ ヒロシ 高瀬 博 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		頭頸部・臨床 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	4 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成24年4月）	5日
123	専任	助教	ニイハ アヤノ 新部 彩乃 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		腫瘍学 基礎医学実習 衛生学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 3後 2通 3通 2通 4通 5通 6通	1 1 1 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和1年6月）	5日
124	専任	助教	アライン アントニオス タビ ラ ALAIN ANTONIO RIOS ＜令和6年10月＞		博士 (学術)		生理学 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2後 2通 3通 4通 5通 6通	3 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年10月）	5日
125	専任	助教	イトウ タカシ 伊藤 崇 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		消化器 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	3前 2通 3通 4通 5通 6通	3 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成22年4月）	5日
126	専任	助教	セキガチ マサキ 関口 将軌 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成21年1月）	5日
127	専任	助教	イワハラ ユキ 岩原 由樹 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		生殖・発達 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	4 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年4月）	5日
128	専任	助教	ヨシハラ ショウゴ 吉原 壮悟 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		組織学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2通 3通 4通 5通 6通	3. 5 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
129	専任	助教	ミヤジマ ミホ 宮島 美穂 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年4月）	5日
130	専任	助教	クマガイ タカシ 熊谷 貴 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医動物学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2通 3通 4通 5通 6通	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	5日
131	専任	助教	クリタ タカシ 栗田 崇史 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年1月）	5日
132	専任	助教	ハラタケ マサヨ 原田 理代 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		人体構造総論 人体解剖学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 2前 2通 3通 4通 5通 6通	1. 5 7. 5 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日

133	専任	助教	イナシ タエ 五十嵐 多恵 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年7月）	5日
134	専任	助教	サトウ ケイタ 佐藤 啓介 ＜令和6年10月＞		博士 （農学）		神経解剖学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2通 3通 4通 5通 6通	3 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
135	専任	助教	ミヨシ マサト 三好 正人 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年5月）	5日
136	専任	助教	サエグサ ヒロナオ 三枝 弘尚 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		神経科学・基礎 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 2通 3通 4通 5通 6通	3. 5 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	5日
137	専任	助教	ヤマウチ シンイチ 山内 慎一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年10月）	5日
138	専任	助教	ヤマモト クララ 山本 くらら ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病理学 腫瘍学 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 4後・5通 6前 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 40 15 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年10月）	5日
139	専任	助教	カシマカ アヤコ 鹿島田 彩子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 医療とAI・ビッグデータ 入門 臨床導入実習	1後 1後 4前	6. 5 2 8	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	5日
140	専任	助教	ムロウ サトル 室生 暁 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		人体構造総論 人体解剖学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 2前 2通 3通 4通 5通 6通	1. 5 7. 5 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	5日
141	専任	助教	シバタ ショウ 柴田 翔 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		呼吸器	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年10月）	5日
142	専任	助教	スカガワ サヤカ 助川 明香 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		感染・基礎 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 2通 3通 4通 5通 6通	2 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	5日
143	専任	助教	マツダキ キョウコ 松崎 京子 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		細胞生物学 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 2後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年5月）	5日

144	専任	助教	マツシマ タカヒデ 松島 隆英 ＜令和6年10月＞		博士 (薬学)	分子遺伝学 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年1月)	5日
145	専任	助教	ウエタケ ヒロキ 上田 浩樹 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 (令和2年6月)	5日
146	専任	助教	シンザワ ナオキ 新澤 直明 ＜令和6年10月＞		博士 (薬学)	医動物学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2通 3通 4通 5通 6通	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成29年7月)	5日
147	専任	助教	モリ ミチ 森 美央 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	臨床医学導入	2後	1	1	東京医科歯科大学 助教 (令和元年6月)	5日
148	専任	助教	スズ コウイチロウ 須佐 紘一郎 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	腎臓・泌尿器 臨床導入実習	3前 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成26年11月)	5日
149	専任	助教	アカシ ユウ 赤石 雄 ＜令和6年10月＞		博士 (医学教育)	膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学） 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	3 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年10月)	5日
150	専任	助教	チハ トモキ 千葉 朋希 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	分子遺伝学 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成28年5月)	5日
151	専任	助教	カキギシ マサヒコ 川岸 将彦 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)	神経解剖学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2通 3通 4通 5通 6通	3 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成19年4月)	5日
152	専任	助教	カバタ マサリ 川端 政則 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)	生理学 基礎医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2前 2後 2通 3通 4通 5通 6通	3 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年4月)	5日
153	専任	助教	アサノ トシユミ 浅野 豪文 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)	細胞生物学 組織学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	1後 2前 2通 3通 4通 5通 6通	1 3.5 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成27年1月)	5日
154	専任	助教	フナコシ タカシ 船越 丈司 ＜令和6年10月＞		博士 (医工学)	法医学 選択社会医学実習 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	3後 3後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成25年8月)	5日

155	専任	助教	ツジモト カズカ 辻本 和峰 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		内分泌・代謝 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	2 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	5日
156	専任	助教	カブラキ ヒデトシ 鎌木 秀俊 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	5日
157	専任	助教	タガチ トワコ 田口 登和子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病理学 神経科学・臨床 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 3前 4後・5通 6前 2通 3通 4通 5通 6通	1 4 40 15 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
158	専任	助教	タムラ カオル 田村 郁 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成24年4月）	5日
159	専任	助教	タオ ススム 田尾 進 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年1月）	5日
160	専任	助教	シマダ シュウ 島田 周 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		腫瘍学 基礎医学実習 衛生学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 3後 2通 3通 4通 5通 6通	1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
161	専任	助教	フジワラ モトヒロ 藤原 基裕 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
162	専任	助教	フジワラ タツキ 藤原 立樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	5日
163	専任	助教	フジカワ タロウ 藤川 太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	4 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年10月）	5日
164	専任	助教	ウメザワリ ヨシヒロ 梅澤 佳央 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		血液・腫瘍	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	5日
165	専任	助教	ウメザワリ ナツカ 梅澤 夏佳 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病） 臨床導入実習	3後 4前	1 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	5日
166	専任	助教	ヤギ ヨシカ 八木 洋輔 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	4 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	5日
167	専任	助教	フクダ ショウヘイ 福田 翔平 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	5日
168	専任	助教	カタラ マイ 片倉 麻衣 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年8月）	5日

169	専任	助教	キノキ ユウコ 木脇 祐子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		膠原病・総合診療・地域医療・東洋医学・皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学） 生殖・発達 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	3後 3後 4後・5通 6前 2通 3通 4通 5通 6通	3 4 40 15 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年4月)	5日
170	専任	助教	ナガミ アヤコ 野上 彩子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 (平成28年4月)	5日
171	専任	助教	タカハシ マユ 高橋 真有 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・基礎 基礎医学実習 頭頸部・臨床 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ	2後 2後 3後 2通 2通 4通 5通 6通	3.5 1 4 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成25年4月)	5日
172	専任	助教	タケギ シュンスケ 高木 俊輔 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成28年4月)	5日
173	兼任	教授	バウ ミン BAO MIN ＜令和6年10月＞		修士 (社会福祉学)		国際地域文化入門 人文社会科学特論 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	2 2 2 2 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	
174	兼任	教授	パーク ヒウォン PARK HEEWON ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2前 1後	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年6月)	
175	兼任	教授	イトウ マサノリ 伊藤 正則 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		生物学入門 生物学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成22年4月)	
176	兼任	教授	イトウ ノブトシ 伊藤 暢聡 ＜令和6年10月＞		DEGREE OF DOCTOR OF PHILOSOPHY		自由選択学習 自由選択学習	4前 4前	12 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
177	兼任	教授	イタキ ケイジ 位高 啓史 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		骨・関節・脊椎 自由選択学習	3前 4前	2 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成29年4月)	
178	兼任	教授	ヨダ テツヤ 依田 哲也 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		頭頸部・臨床 自由選択学習	3後 4前	4 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	

179	兼担	教授	イセキ サチコ 井関 祥子 ＜令和6年10月＞		博士 （学 術）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
180	兼担	教授	イサヅリ ショウジ 稲澤 譲治 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年4月）	
181	兼担	教授	ウオ モトヒロ 宇尾 基弘 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成23年4月）	
182	兼担	教授	カゲチカ ヒロユキ 影近 弘之 ＜令和6年10月＞		博士 （薬 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
183	兼担	教授	ナガタ テツヤ 永田 哲也 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年8月）	
184	兼担	教授	オサヅリ ヒトシ 岡澤 均 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
185	兼担	教授	カキスマ セイ 柿沼 晴 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年6月）	
186	兼担	教授	スミ ユウキ 角 勇樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医学導入 医療とAI・ビッグデータ 入門 生理学 組織学 医療とAI・ビッグデータ 応用 呼吸器 臨床導入実習 AI実践演習	1後 1後 2前 2前 2前 3前 4前 2通	6.5 2 3 3.5 1 2 8 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年4月）	
187	兼担	教授	カシノ ヒロカズ 梶 弘和 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年10月）	
188	兼担	教授	カバサツ ユウジ 權沢 勇司 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	
189	兼担	教授	セキヤ イチロウ 関矢 一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		骨・関節・脊椎 自由選択学習	3前 4前	2 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
190	兼担	教授	マルカリ エリコ 丸川 恵理子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年8月）	
191	兼担	教授	キタノ アキオ 岸田 晶夫 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
192	兼担	教授	イワナギ ショウ 岩永 譲 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年7月）	
193	兼担	教授	イワタ タカノリ 岩田 隆紀 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年2月）	
194	兼担	教授	イワモト ツトム 岩本 勉 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		生殖・発達 自由選択学習	3後 4前	4 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年5月）	

195	兼任	教授	ヨシタ マサユキ 吉田 雅幸 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		生理学 薬理学 生化学 生命倫理 自由選択学習	2前 2前 2前 3通 4前	3 2 2 2 12	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
196	兼任	教授	ヨシタ ナミ 吉田 直美 ＜令和6年10月＞	博士 (歯学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成29年9月)	
197	兼任	教授	オキチ カシ 興地 隆史 ＜令和6年10月＞	博士 (歯学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年1月)	
198	兼任	教授	タムラ ヒロカズ 玉村 啓和 ＜令和6年10月＞	博士 (薬学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
199	兼任	教授	カナイ マサミ 金井 正美 ＜令和6年10月＞	博士 (農学)		匠講話 自由選択学習	1後 4前	1 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
200	兼任	教授	カネハネ ヒロカズ 金兼 弘和 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		生理学 生殖・発達 臨床導入実習	2前 3後 4前	3 4 8	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成30年7月)	
201	兼任	教授	ハラタ ヒロユキ 原田 浩之 ＜令和6年10月＞	博士 (歯学)		頭頸部・臨床 自由選択学習	3後 4前	4 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	
202	兼任	教授	フルカワ テツシ 古川 哲史 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		生理学 循環器 自由選択学習	2前 2後 4前	3 3 12	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和3年4月)	
203	兼任	教授	トハラ ハルカ 戸原 玄 ＜令和6年10月＞	博士 (歯学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
204	兼任	教授	アラカワ シトコ 荒川 聡子 ＜令和6年10月＞	博士 (理学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年5月)	
205	兼任	教授	コウチ ユウタ 高地 雄太 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		薬理学 免疫学 基礎医学実習 自由選択学習	2前 2後 2後 4前	2 2.5 1 12	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和元年6月)	
206	兼任	教授	ササキ ヨシコ 佐々木 吉子 ＜令和6年10月＞	博士 (看護学)		多職種連携Ⅲ	6前	1	1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年4月)	
207	兼任	教授	ササキ タケヒロ 佐々木 雄彦 ＜令和6年10月＞	博士 (薬学)		薬理学 基礎医学実習 自由選択学習	2前 2後 4前	2 1 12	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成30年3月)	
208	兼任	教授	ホソヤ カミツ 細谷 孝充 ＜令和6年10月＞	博士 (理学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
209	兼任	教授	ハンナイ ヒデアオ 坂内 英夫 ＜令和6年10月＞	博士 (情報理工学)		医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用 自由選択学習	1後 2前 4前	2 1 12	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
210	兼任	教授	ミウラ マサヒコ 三浦 雅彦 ＜令和6年10月＞	博士 (歯学)		血液・腫瘍 自由選択学習	3前 4前	2 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	

211	兼任	教授	ミツハヤシ コウジ 三林 浩二 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
212	兼任	教授	サシヅョウ ノブオ 三條 伸夫 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
213	兼任	教授	テラウチ マサズ 寺内 公一 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年4月）	
214	兼任	教授	ワカバヤシ リュキ 若林 則幸 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
215	兼任	教授	コイケ リュウジ 小池 竜司 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年3月）	
216	兼任	教授	オノ タカシ 小野 卓史 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
217	兼任	教授	マツダ リュキ 松田 憲之 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		薬理学 基礎医学実習 自由選択学習	2前 2後 4前	2 1 12	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年1月）	
218	兼任	教授	ウエサカ ナオミ 上阪 直史 ＜令和6年10月＞		博士 （生 物 科学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
219	兼任	教授	ニッタ ヒロシ 新田 浩 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		頭頸部・臨床 自由選択学習	3後 4前	4 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年4月）	
220	兼任	教授	モリ マサアキ 森 雅亮 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病）	3後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
221	兼任	教授	モリヤマ ケイジ 森山 啓司 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
222	兼任	教授	ニシナ ヒロシ 仁科 博史 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		細胞生物学 薬理学 基礎医学実習 自由選択学習	1後 2前 2後 4前	1 2 1 12	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
223	兼任	教授	セカヰリ カツミ 瀬川 勝盛 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		薬理学 免疫学 基礎医学実習 自由選択学習	2前 2後 2後 4前	2 2.5 1 12	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
224	兼任	教授	シミス ヒデユキ 清水 秀幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医学導入 医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用 公衆衛生学 生物統計学応用Ⅱ	1後 1後 2前 3後 1後	6.5 2 1 1.5 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年2月）	
225	兼任	教授	アオキ アキラ 青木 章 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年2月）	
226	兼任	教授	アオキ カスミヒロ 青木 和広 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ	1前	0.5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	

227	兼担	教授	イシカワ キンヤ 石川 欽也 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 地域医療学習プログラム	3前 1～6通	4 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年1月)	
228	兼担	教授	カワシタ マサカズ 川下 将一 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		骨・関節・脊椎 自由選択学習	3前 4前	2 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	
229	兼担	教授	カワバタ シゲノリ 川端 茂徳 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		骨・関節・脊椎	3前	2	1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	
230	兼担	教授	カワブチ コウイチ 川淵 孝一 ＜令和6年10月＞		修士 (経営学)		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学） 自由選択学習	3後 4前	3 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
231	兼担	教授	マエダ シゲル 前田 茂 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (令和3年4月)	
232	兼担	教授	アイダ シュン 相田 潤 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		公衆衛生学 自由選択学習 口腔疫学基礎 疫学応用	3後 4前 1前 1後	1.5 12 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年8月)	
233	兼担	教授	オオカワ リュウノスケ 大川 龍之介 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	
234	兼担	教授	オシマ シゲル 大島 茂 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年5月)	
235	兼担	教授	イケウチ マサシ 池内 真志 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (令和3年10月)	
236	兼担	教授	タケウチ カツユキ 竹内 勝之 ＜令和6年10月＞		修士 (医科学)		アントレプレナー教育	2・3・4・ 5・6通	1	1	東京医科歯科大学 教授 (令和3年4月)	
237	兼担	教授	ナカシマ ヨシカズ 中島 義和 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (平成29年4月)	
238	兼担	教授	ナカシマ トモキ 中島 友紀 ＜令和6年10月＞		博士 (薬学)		免疫学 骨・関節・脊椎 自由選択学習	2後 3前 4前	2.5 2 12	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成28年3月)	
239	兼担	教授	ナカハヤシ シュン 中林 潤 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		数学Ⅰ 数学Ⅱ サイエンスPBL入門 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 AI・データサイエンスの ための数学 医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用	1前 1前 1後 1通 1後 1通 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後 1後 2前	1 1 1.5 1 2 1 1 1 1 1 1 1.5 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
240	兼担	教授	オオデキ トシアキ 樗木 俊聡 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		薬理学 免疫学 基礎医学実習 自由選択学習	2前 2後 2後 4前	2 2.5 1 12	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	

241	兼任	教授	アサヒナ イスヒロ 朝比奈 靖浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	3 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成24年4月）	
242	兼任	教授	ツシノ ケイカズ 辻 邦和 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎	3前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年8月）	
243	兼任	教授	フエキ ケンジ 笛木 賢治 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年9月）	
244	兼任	教授	タガ テツヤ 田賀 哲也 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
245	兼任	教授	タカ コウイチ 田中 光一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・基礎	2後	3.5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
246	兼任	教授	タナ マコト 田中 真琴 ＜令和6年10月＞		博士 （生物科学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年6月）	
247	兼任	教授	タナ トシロ 田中 敏博 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		分子遺伝学 公衆衛生学 自由選択学習	2前 3後 4前	1 1.5 12	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年4月）	
248	兼任	教授	ワタベ テツロウ 渡部 徹郎 ＜令和6年10月＞		博士 （生物科学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年7月）	
249	兼任	教授	シマダ ヤスシ 島田 康史 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年9月）	
250	兼任	教授	フジイ タカオ 藤井 達夫 ＜令和6年10月＞		修士 （政治学）		人文社会科学概論 国際地域文化入門 政治学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	2 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年1月）	
251	兼任	教授	ナラ マサユキ 奈良 雅之 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		化学入門 化学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年4月）	
252	兼任	教授	ニカトウ イトシ 二階堂 愛 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
253	兼任	教授	ニムラ アキホト 二村 昭元 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		人体解剖学 骨・関節・脊椎 臨床導入実習	2前 3前 4前	7.5 2 8	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	

254	兼担	教授	クロナギ カズヨ 畔柳 和代 ＜令和6年10月＞		修士 （学 術）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 多職種連携Ⅰ 英語Ⅱ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1通 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1前 2・3・4・ 5・6通 3前 6前	6 1 2 1 1 1 1 1 1.5 0.5 1～4 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年12月）		
255	兼担	教授	イトダ カオリ 飯田 香緒里 ＜令和6年10月＞		博士 （学 術）		自由選択学習	4前	12	1		東京医科歯科大学 教授 （平成25年9月）	
256	兼担	教授	タケハ タカノ 武部 貴則 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医学導入 細胞生物学 自由選択学習	1後 1後 4前	6.5 1 12	1 1 1		東京医科歯科大学 教授 （平成30年2月）	
257	兼担	教授	ヒラカ アキヒロ 平川 晃弘 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		医療とAI・ビッグデータ 応用 臨床試験方法論基礎 臨床試験方法論応用	2前 1前 1後	1 1 1	1 1 1		東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
258	兼担	教授	トヨク アキラ 豊福 明 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		自由選択学習	4前	12	1		東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
259	兼担	教授	アソウ ヨシノリ 麻生 義則 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		骨・関節・脊椎	3前	2	1		東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
260	兼担	教授	キノシタ アツヒロ 木下 淳博 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用	1後 2前	2 1	1 1		東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
261	兼担	教授	キタニ マキコ 木谷 真紀子 ＜令和6年10月＞		博士 （国 文 学）		人文社会科学概論 国際地域文化入門 民俗学 文学 社会心理学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラ シー	1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後	2 2 2 2 2 1 2 1 1 1 1 1.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）		
262	兼担	教授	ヤギシタ カズヨシ 柳下 和慶 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		フィジカルウェルビーイ ング フィットネスマネジメン ト 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 骨・関節・脊椎 衛生学	1前 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 3前 3後	2 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年7月）		
263	兼担	教授	アイ マスミ 藍 真澄 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生命倫理	3通	2	1		東京医科歯科大学 教授 （平成25年7月）	

264	兼任	教授	スギキ トシヒコ 鈴木 敏彦 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		感染・基礎 自由選択学習	2後 4前	2 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年7月)	
265	兼任	教授	ヒダツ ミツリ 檜枝 光憲 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		物理学入門 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ 入門	1前 1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後	1 1 1 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	
266	兼任	教授	サクラダ コウイチ 櫻田 宏一 ＜令和6年10月＞		博士 (生物科学)		法医学 自由選択学習	3後 4前	1 12	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年3月)	
267	兼任	教授	シブヤ ヒロシ 澁谷 浩司 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		自由選択学習	4前	12	1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
268	兼任	教授	サイトリ リョウイチ 齋藤 良一 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)		多職種連携Ⅰ 感染・臨床 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 3前 6前	0.5 1 0.5 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年7月)	
269	兼任	教授	タカハシ クニヒコ 高橋 邦彦 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		医療とAI・ビッグデータ 入門 生物統計学 自由選択学習 生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1後 3後 4前 1前 1後 1後	2 1 12 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
270	兼任	教授	タカダ カツキ 高田 和生 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医学導入 System-based medical terminologyⅠ Moral and Political Philosophy for Medicine System-based medical terminologyⅡ IMRAD Format Presentation in English FOCUS (Fit for Overseas Clerkship opportunities)	1後 1・2・3・ 4・5・6通 1・2・3・ 4・5・6通 1・2・3・ 4・5・6通 1・2・3・ 4・5・6通 1・2・3・ 4・5・6通	6.5 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成24年12月)	
271	兼任	教授	タカギ マサトシ 高木 正稔 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		血液・腫瘍 生殖・発達 臨床導入実習	3前 3後 4前	2 4 8	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年10月)	
272	兼任	准教授	キャネル デビッド CANNELL DAVID ＜令和6年10月＞		PhD East Asian Languages and Literatures		教養選択科目	1通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成26年6月)	
273	兼任	准教授	ジャンネル ルネ モロス JANELLE RENEE MOROSS ＜令和6年10月＞		准学士 (看護)		医学導入 System-based medical terminologyⅠ System-based medical terminologyⅡ IMRAD Format Presentation in English FOCUS (Fit for Overseas Clerkship opportunities)	1後 3前 3後 3・4通 5後	6.5 1 1 1 2	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成26年2月)	

274	兼任	准教授	ジ'エネット デ'ニソン JEANETTE DENNISSEON <令和6年10月>	修士 (理 学)		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 2・3・4・ 5・6通	6 1 2 1 1 1 1 1 1.5 1～4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成27年4月)	
275	兼任	准教授	パ'トリック フォス PATRICK FOSS <令和6年10月>	博士 (言'語 学)		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 2・3・4・ 5・6通	6 1 2 1 1 1 1 1 1.5 1～4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成22年4月)	
276	兼任	准教授	ア'シタ' ヒロシ 芦田 浩 <令和6年10月>	博士 (医 学)		感染・基礎	2後	2	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成29年4月)	
277	兼任	准教授	カ'イ シ'ナリ 永井 重徳 <令和6年10月>	博士 (医 学)		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成25年9月)	
278	兼任	准教授	カ'イ シ'タシ 永石 宇司 <令和6年10月>	博士 (医 学)		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成29年4月)	
279	兼任	准教授	カ'タ マ'シ 永田 将司 <令和6年10月>	博士 (医 学)		薬理学 基礎医学実習 感染・臨床	2前 2後 3前	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成25年8月)	
280	兼任	准教授	コ'シ カ'ズ'キ 越野 和樹 <令和6年10月>	博士 (理 学)		物理学入門 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ 入門	1前 1前 1前 1前 1後 2 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後	1 1 1 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成19年4月)	
281	兼任	准教授	ヨ'ヤマ ミ'ナト 横山 みなと <令和6年10月>	博士 (医 学)		腎臓・泌尿器 臨床導入実習	3前 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和3年8月)	
282	兼任	准教授	カ'タ' タ'ヤ 岡田 卓也 <令和6年10月>	博士 (医 学)		Fundamentals of Global Health	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 (令和3年4月)	
283	兼任	准教授	カ'モト ツ'カサ 岡本 師 <令和6年10月>	博士 (医 学)		免疫学 呼吸器 臨床導入実習	2後 3前 4前	2.5 2 8	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和2年10月)	
284	兼任	准教授	イ'ナ' マ'イコ 岩城 麻衣子 <令和6年10月>	博士 (歯 学)		多職種連携Ⅱ	3前	0.5	1	東京医科歯科大学 准教授 (令和4年4月)	

285	兼任	准教授	ヨシタ ケジ 吉田 武史 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成30年4月）	
286	兼任	准教授	ミヤヅキ シンタ 宮崎 晋介 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
287	兼任	准教授	カネコ エイジ 金子 英司 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		多職種連携Ⅰ 医学導入 循環器 多職種連携Ⅱ 臨床導入実習 多職種連携Ⅲ	1前 1後 2後 3前 4前 6前	0.5 6.5 3 0.5 8 1	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
288	兼任	准教授	クドウ アツシ 工藤 篤 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年10月）	
289	兼任	准教授	エガリ マチコ 江川 真希子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成31年4月）	
290	兼任	准教授	イマヅ ヨコ 今津 陽子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
291	兼任	准教授	サカイ トモコ 酒井 朋子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎	3前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
292	兼任	准教授	マツヤマ ユウスケ 松山 祐輔 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		公衆衛生学 研究実践プログラムⅠ 研究実践プログラムⅡ 研究実践プログラムⅢ 研究実践プログラムⅣ 研究実践プログラムⅤ 口腔疫学基礎 疫学応用	3後 2通 3通 4通 5通 6通 1前 1後	1.5 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	
293	兼任	准教授	モリシタ コウジ 森下 幸治 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 救急・麻酔・集中治療	3前 3後	3 2	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	
294	兼任	准教授	モリタ ケイイチ 森田 圭一 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年11月）	
295	兼任	准教授	ニシオ ミコ 西尾 美和子 ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年5月）	
296	兼任	准教授	イシカワ トモリ 石川 智則 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年10月）	
297	兼任	准教授	オウカ カズオ 大塚 和朗 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
298	兼任	准教授	オオキ メイコ 大木 明子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成23年4月）	
299	兼任	准教授	イケガキ サダカツ 池田 貞勝 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 血液・腫瘍	1後 3前	6.5 2	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成31年1月）	

300	兼任	准教授	ナカガワ ミナ 中川 美奈 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		多職種連携Ⅰ 医学導入 消化器 多職種連携Ⅱ 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 包括医療統合教育Ⅰ 包括医療統合教育Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 1後 3前 3前 4後・5通 6前 5後 6前 6前	0.5 6.5 3 0.5 40 15 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
301	兼任	准教授	ナカガワ ユウスケ 中川 裕介 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	
302	兼任	准教授	イノケ ケイコ 猪熊 恵子 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 3通 5後 4通 6通 1前 2・3・4・5・6通	6 1 2 1 1 1 1 1 1 1.5 1～4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成24年4月）	
303	兼任	准教授	イノエ ヒロキ 猪瀬 弘之 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
304	兼任	准教授	ハセガワ タカヲ 長谷川 嵩矩 ＜令和6年10月＞		博士 （情報学）		医学導入	1後	6.5	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年9月）	
305	兼任	准教授	ナガホリ マサカズ 長堀 正和 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 消化器 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	1後 3前 4後・5通 6前	6.5 3 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成30年4月）	
306	兼任	准教授	ツルタ ジュン 鶴田 潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
307	兼任	准教授	フジイ トシミツ 藤井 俊光 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	
308	兼任	准教授	フジイ トモキ 藤岡 友之 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床医学導入	2後	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	
309	兼任	准教授	トクカワ シンイチ 徳永 伸一 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		数学Ⅰ 数学Ⅱ サイエンスPBL入門 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 情報処理 医療とAI・ビッグデータ入門	1前 1前 1後 1通 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1前 1後	1 1 1.5 1 2 1 1 1 1 1 1 1.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
310	兼任	准教授	ナノウ ショウタロウ 内藤 省太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		腎臓・泌尿器 臨床導入実習	3前 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
311	兼任	准教授	イセリ ツウイチロウ 飯盛 聡一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		腎臓・泌尿器 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	3 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	

312	兼担	准教授	ヒライ ノブヒデ 平井 伸英 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医学導入 神経科学・臨床	1後 3前	6.5 4	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
313	兼担	准教授	ヨネツ タシ 米津 太志 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
314	兼担	准教授	アカシ タクミ 明石 巧 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		呼吸器 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	2 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
315	兼担	准教授	ユイ シロウ 油井 史郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年10月）	
316	兼担	准教授	タテシ トモヤ 立石 知也 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		呼吸器 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	
317	兼担	准教授	サワノ ヨリコ 澤野 頼子 ＜令和6年10月＞		博士 （農学）		化学入門 化学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
318	兼担	講師	アンザイ タツヒコ 安齋 達彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医療 マネジメント学）		生物統計学 生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	3後 1前 1後 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年9月）	
319	兼担	講師	イスマイ アヤ 伊角 彩 ＜令和6年10月＞		博士 （国際 公共政策）		選択社会医学実習 疫学応用	3後 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年10月）	
320	兼担	講師	イツノ キズヒロ 井津井 康浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		多職種連携Ⅰ 医学導入 医療とAI・ビッグデータ 入門 消化器 多職種連携Ⅱ 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 1後 1後 3前 3前 4後・5通 6前 6前	0.5 6.5 2 3 0.5 40 15 1	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年4月）	
321	兼担	講師	ウツノ ハジメ 宇都野 創 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		法医学	3後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年7月）	
322	兼担	講師	オウ ヨウトリ 王 耀東 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	
323	兼担	講師	カンバラ ミチコ 梶原 道子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床医学導入 生命倫理 臨床導入実習	2後 3通 4前	1 2 8	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	
324	兼担	講師	ヨシタケ ヒロユキ 儀武 啓幸 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年12月）	
325	兼担	講師	エバナ ユウスケ 江花 有亮 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 生命倫理	2後 3通	3 2	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成27年5月）	

326	兼担	講師	タカダ リョウヘイ 高田 亮平 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	
327	兼担	講師	サトウ シンゴ 佐藤 信吾 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		血液・腫瘍 一般外科 骨・関節・脊椎 生命倫理 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 3前 3前 3通 4前 4後・5通 6前	2 1 2 2 8 40 15	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成28年1月)	
328	兼担	講師	ホノカワ ススム 細川 奨 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		循環器 呼吸器 生殖・発達 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2後 3前 3後 4前 4後・5通 6前	3 2 4 8 40 15	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年6月)	
329	兼担	講師	ヤマガチ クミコ 山口 久美子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		多職種連携Ⅰ 医学導入 人体構造総論 人体解剖学 頭頸部・臨床 多職種連携Ⅱ 包括医療統合教育Ⅰ 包括医療統合教育Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 1後 1後 2前 3後 3前 5後 6前 6前	0.5 6.5 1.5 7.5 4 0.5 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成23年4月)	
330	兼担	講師	ヤマガチ ヒロフミ 山口 啓史 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		細胞生物学	1後	1	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年7月)	
331	兼担	講師	ヤマタ トオル 山田 徹 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学） 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	3 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成31年4月)	
332	兼担	講師	ヤマノウチ ヒデアキ 山内 英雄 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		救急・麻酔・集中治療 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	2 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年4月)	
333	兼担	講師	ヤマモト ヒロト 山本 寛人 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		救急・麻酔・集中治療 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	2 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年4月)	
334	兼担	講師	ジトク タイスケ 治徳 大介 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和2年4月)	
335	兼担	講師	ワカナ キミオ 若菜 公雄 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 講師 (平成29年1月)	
336	兼担	講師	コフシ サトシ 小藤 智史 ＜令和6年10月＞		博士 (薬学)		薬理学 基礎医学実習	2前 2後	2 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和元年12月)	
337	兼担	講師	モリ シュウスケ 森 周介 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		救急・麻酔・集中治療 臨床導入実習	3後 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	
338	兼担	講師	スガハラ タシ 菅原 貴志 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 頭頸部・臨床	3前 3後	4 4	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年12月)	

339	兼担	講師	シミス マサキ 清水 正樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年10月）	
340	兼担	講師	カダツ ケンロウ 川田 研郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 臨床導入実習	3前 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成27年4月）	
341	兼担	講師	ワセタ ユウマ 早稲田 悠馬 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	
342	兼担	講師	オベヰ ノブタケ 大関 信武 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年5月）	
343	兼担	講師	オヤマ シュン 大山 潤 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床医学導入	2後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
344	兼担	講師	タケカ ケント 竹中 健人 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	3 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	
345	兼担	講師	ナガオカ エイキ 長岡 英気 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 講師 （令和元年7月）	
346	兼担	講師	ハセガワ ヒサリ 長谷川 久紀 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病）	3後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
347	兼担	講師	ツシマ フミコ 津島 文彦 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	
348	兼担	講師	タカ ダイスケ 田中 大介 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		神経科学・基礎	2後	3.5	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
349	兼担	講師	フジタ コウジ 藤田 浩二 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎	3前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和2年4月）	
350	兼担	講師	ハツトリ タカアキ 服部 高明 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和2年4月）	
351	兼担	講師	ホリエ シンタロウ 堀江 真太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成30年4月）	
352	兼担	講師	キムラ ナオキ 木村 直樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病） 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	1 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
353	兼担	講師	ハヤシ タカヤ 林 隆也 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		感染・基礎	2後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	
354	兼担	講師	セキ ナホ 關 奈央子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		Applied Critical Thinking for Health Sciences オンライン異文化交流	1・2・3・ 4・5・6通 1・2・3・ 4・5・6通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	

355	兼担	助教	ウダガワ トモヒロ 宇田川 智宏 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成24年4月）	
356	兼担	助教	ウスイ エイサク 臼井 英祐 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年7月）	
357	兼担	助教	アクネ ツバサ 阿久根 翼 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
358	兼担	助教	アベ タイスウ 阿部 大数 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
359	兼担	助教	アントウ フミナキ 安藤 史顕 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
360	兼担	助教	イトウ カズキ 伊藤 一之 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
361	兼担	助教	イトウ ケイ 伊藤 慧 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
362	兼担	助教	イトウ コウ 伊藤 剛 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	3 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年9月）	
363	兼担	助教	イラブ ヒロシ 伊良部 仁 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	
364	兼担	助教	イデ サトシ 井手 聡 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
365	兼担	助教	ウラモト ケンゴ 浦本 賢吾 ＜令和6年10月＞		修士 （工学）		頭頸部・臨床 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
366	兼担	助教	エンドウ アキフミ 遠藤 明史 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年8月）	
367	兼担	助教	シオジ シンゴ 塩路 慎吾 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
368	兼担	助教	オカダ ケイコ 岡田 啓五 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		血液・腫瘍	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和元年9月）	
369	兼担	助教	オカダ リュウヘイ 岡田 隆平 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
370	兼担	助教	オノ トクシユ 岡野 徳壽 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		基礎医学実習	2後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年3月）	
371	兼担	助教	ハナカ マリエ 花岡 まりえ ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 一般外科 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 3前 4後・5通 6前	3 1 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	

372	兼任	助教	カヤマ コウ 栢森 高 ＜令和6年10月＞	博士 （歯 学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
373	兼任	助教	イワタ リコ 岩田 乃理子 ＜令和6年10月＞	学士 （医 学）		消化器 一般外科 臨床導入実習	3前 3前 4前	3 1 8	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年1月）	
374	兼任	助教	イワサキ ヨウヘイ 岩崎 陽平 ＜令和6年10月＞	学士 （医 学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
375	兼任	助教	ヨシオカ コウタロウ 吉岡 耕太郎 ＜令和6年10月＞	博士 （医 学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
376	兼任	助教	ヨシダ ショウコ 吉田 尚子 ＜令和6年10月＞	学士 （医 学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学）	3後	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
377	兼任	助教	ヨシダ ショウコ 吉藤 康太 ＜令和6年10月＞	博士（医 学）		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年11月）	
378	兼任	助教	キムラ ススム 桐村 進 ＜令和6年10月＞	博士 （医 学）		呼吸器 腎臓・泌尿器	3前 3前	2 3	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年4月）	
379	兼任	助教	カナヤマ マサシ 金山 剛士 ＜令和6年10月＞	博士 （医 学）		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年6月）	
380	兼任	助教	カネコ シュン 金子 俊 ＜令和6年10月＞	博士 （医 学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
381	兼任	助教	カサハラ アスサ 金澤 あずさ ＜令和6年10月＞	学士（医 学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー）	3後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
382	兼任	助教	クマキ ユウイチ 熊本 裕一 ＜令和6年10月＞	学士（医 学）		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
383	兼任	助教	ハラ ショウコ 原 祥子 ＜令和6年10月＞	博士（医 学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
384	兼任	助教	ゴトウ ケンタロウ 後藤 健太郎 ＜令和6年10月＞	学士（医 学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
385	兼任	助教	エガワ サトル 江川 聡 ＜令和6年10月＞	博士（医 学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
386	兼任	助教	タカハシ ヒロキ 高橋 洋如 ＜令和6年10月＞	学士（医 学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
387	兼任	助教	タカヤマ ワカル 高山 渉 ＜令和6年10月＞	学士（医 学）		救急・麻酔・集中治療 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	2 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
388	兼任	助教	クロシマ タケシ 黒嶋 雄志 ＜令和6年10月＞	博士 （歯 学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年7月）	

389	兼担	助教	ササキ ヒロキ 佐々木 広和 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（膠原病） 臨床導入実習	3後 4前	1 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
390	兼担	助教	サトリ ヒロキ 佐藤 宏征 ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		臨床試験方法論応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
391	兼担	助教	サトリ ユウヤ 佐藤 雄哉 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
392	兼担	助教	サカシタ チスヰコ 坂下 千瑞子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		血液・腫瘍 生命倫理	3前 3通	2 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年4月）	
393	兼担	助教	サキハラ リエ 榊原 里江 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		呼吸器	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	
394	兼担	助教	ミウラ ケロ 三浦 圭子 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（膠原病）	3後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
395	兼担	助教	ミヤケ ケンスケ 三宅 健介 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	
396	兼担	助教	シマ ムコ 三島 有華 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		救急・麻酔・集中治療 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	2 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
397	兼担	助教	ヤマカ ユイ 山岡 祐衣 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		公衆衛生学 選択社会医学実習	3後 3後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年6月）	
398	兼担	助教	ヤマグチ ヨウヘイ 山口 洋平 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	4 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年7月）	
399	兼担	助教	ヤマグチ カスヤ 山口 和哉 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		一般外科 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	1 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
400	兼担	助教	ヤマモト タスク 山本 佑 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
401	兼担	助教	ヤマモト ユウタ 山本 雄大 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年2月）	
402	兼担	助教	シバ クミコ 柴 久美子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
403	兼担	助教	サカイ カツタ 酒井 勝太 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年9月）	

404	兼任	助教	カワタ トシユキ 勝又 敏行 ＜令和6年10月＞	博士 (理学)		化学入門 化学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成19年4月)	
405	兼任	助教	コマツダ ケイコ 小松崎 恵子 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		臨床導入実習 呼吸器	4前 3前	8 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	
406	兼任	助教	オノ タシキ 小野 大介 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 助教 (令和2年8月)	
407	兼任	助教	コバヤシ マサリ 小林 正典 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
408	兼任	助教	マツイ ヒロキ 松井 宏樹 ＜令和6年10月＞	学士 (医学)		救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年1月)	
409	兼任	助教	マツクラ ユウ 松倉 遊 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		骨・関節・脊椎 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和2年4月)	
410	兼任	助教	マツダ ユウジ 松田 祐治 ＜令和6年10月＞	学士 (医学)		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年4月)	
411	兼任	助教	マツモト ユキヒサ 松本 幸久 ＜令和6年10月＞	博士 (理学)		生物学入門 生物学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成25年2月)	
412	兼任	助教	マツモト ユキコ 松本 有紀子 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和元年12月)	
413	兼任	助教	ヌマザワ ミツユキ 沼沢 益行 ＜令和6年10月＞	学士 (医学) 学 士(薬学)		多職種連携Ⅰ 医学導入 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 1後 3前 6前	0.5 6.5 0.5 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年4月)	
414	兼任	助教	ウエムラ リコ 植村 法子 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 (平成26年4月)	
415	兼任	助教	ウエキ ユカ 植木 穰 ＜令和6年10月＞	学士 (医学)		救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	
416	兼任	助教	シシタ ヒロシ 新宅 洋 ＜令和6年10月＞	学士 (医学)		病理学 神経科学・臨床	2後 3前	1 4	1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	
417	兼任	助教	ニツタ サユリ 新田 沙由梨 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		臨床医学導入 消化器 臨床導入実習	2後 3前 4前	1 3 8	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年5月)	

418	兼担	助教	モリカ 千夏子 森丘 千夏子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
419	兼担	助教	モリ 崇寧 森 崇寧 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	
420	兼担	助教	モリ ユウタロウ 森 雄太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		腎臓・泌尿器 臨床導入実習	3前 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年2月）	
421	兼担	助教	カミヤ タカヒロ 神谷 尚宏 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		血液・腫瘍 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
422	兼担	助教	カミヤ マリ 神谷 麻理 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病） 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	1 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
423	兼担	助教	ストウ タカキ 須藤 毅顕 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		AI・データサイエンスの ための数学 医療とAI・ビッグデータ 入門 組織学 医療とAI・ビッグデータ 応用 AI実践演習	1後 1後 2前 2前 2通	2 2 3.5 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年9月）	
424	兼担	助教	フキノ ケイコ 吹野 恵子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		人体構造総論 人体解剖学	1後 2前	1.5 7.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年7月）	
425	兼担	助教	ミズノ トモ 水野 朋子 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		生殖・発達 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	
426	兼担	助教	スギエ マナブ 杉江 学 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成24年4月）	
427	兼担	助教	セウリ ユウコ 瀬川 裕子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	2 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成28年4月）	
428	兼担	助教	オシノ チサト 星野 ちさと ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		骨・関節・脊椎	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
429	兼担	助教	オシノ タカシ 星野 傑 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
430	兼担	助教	シミス カズヒデ 清水 一秀 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	4 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年6月）	
431	兼担	助教	ニシムラ タカヨシ 西村 卓郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
432	兼担	助教	ニシオ アヤコ 西尾 綾子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	

433	兼任	助教	ニシザリ マサト 西澤 真人 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 一般外科 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	2後 3前 4前 4後・5通 6前	3 1 8 40 15	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
434	兼任	助教	イシイ タカ 石井 卓 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年9月）	
435	兼任	助教	イシマル ミホ 石丸 美穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習 口腔疫学基礎 疫学応用	1後 1後 2前 2通 1前 1後	2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
436	兼任	助教	イシグロ タロウ 石黒 太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床 臨床導入実習	3前 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
437	兼任	助教	イシカワ ヨシヤ 石川 喜也 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4前 4後・5通 6前	8 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和元年11月）	
438	兼任	助教	イシカワ ユウタ 石川 雄大 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
439	兼任	助教	イシタ ユウジ 石田 雄之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
440	兼任	助教	アカサ ミホ 赤座 実穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	
441	兼任	助教	アカキ ユウイチロウ 赤木 祐一朗 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
442	兼任	助教	センタ アツシ 千田 篤 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
443	兼任	助教	フナuchi ユウキ 船内 雄生 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		骨・関節・脊椎 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	2 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
444	兼任	助教	ソウ ヒタン 曹 日丹 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	1後 1後 2前 2通	2 2 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	
445	兼任	助教	マサダ タカヒロ 増田 孝広 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	
446	兼任	助教	リタケ カナコ 則武 加奈子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
447	兼任	助教	ムラコシ ミキ 村越 未希 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4前 4後・5通 6前	8 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	

448	兼任	助教	ムラカミ マサリ 村上 正憲 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		内分泌・代謝	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
449	兼任	助教	ムラカミ ミヨ 村川 美也子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 臨床導入実習	3前 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成28年4月）	
450	兼任	助教	オオシ イチロウ 大西 威一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		腫瘍学	2後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成28年7月）	
451	兼任	助教	オオシ ユカ 大西 由花 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年1月）	
452	兼任	助教	オオイ キョウト 大石 清寿 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
453	兼任	助教	オオタケ リナ 大竹 里奈 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		膠原病・総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー） 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	1 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
454	兼任	助教	オオシマ リコ 大島 乃里子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
455	兼任	助教	タケカワリ マサテル 滝川 正晃 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
456	兼任	助教	タニガハ シロウ 谷岡 利朗 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器 一般外科 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 3前 4後・5通 6前	3 1 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年2月）	
457	兼任	助教	タケシタ マサシ 竹下 斉史 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年1月）	
458	兼任	助教	タケシタ ハナ 竹下 八菜 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		膠原病・総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー）	3後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
459	兼任	助教	タケモト アキラ 竹本 暁 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		腎臓・泌尿器 頭頸部・臨床	3前 3後	3 4	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年5月）	
460	兼任	助教	タケモト アヤ 竹本 彩 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		救急・麻酔・集中治療 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	2 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
461	兼任	助教	ナカスジ タカシ 中筋 貴史 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4前 4後・5通 6前	4 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年10月）	
462	兼任	助教	ナカムラ ユキ 中村 祐基 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		腎臓・泌尿器 臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4前 4後・5通 6前	3 8 40 15	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
463	兼任	助教	ナカツツミ ケイタ 中堤 啓太 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		救急・麻酔・集中治療 臨床導入実習	3後 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	

464	兼担	助教	ナガノ タケヤ 長野 拓也 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		血液・腫瘍	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年4月)	
465	兼担	助教	クキモト タクマ 釘本 琢磨 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 (令和2年7月)	
466	兼担	助教	タケノ アキヒサ 田崎 彰久 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年4月)	
467	兼担	助教	タムラ タケヒロ 田村 起紘 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		行動科学 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	1 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成28年7月)	
468	兼担	助教	ワタナベ シュウイチ 渡邊 秀一 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 (令和元年10月)	
469	兼担	助教	トイ サトミ 土井 理美 ＜令和6年10月＞		博士 (臨床心理学)		行動科学 選択社会医学実習 疫学応用	3後 3後 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年10月)	
470	兼担	助教	ヒガシ ミチ 東 美和 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年5月)	
471	兼担	助教	フジワラ ヒサシ 藤原 尚志 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		消化器 一般外科	3前 3前	3 1	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
472	兼担	助教	フジエ サトシ 藤江 聡 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
473	兼担	助教	フジシロ ヒトミ 藤代 瞳 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		人体解剖学	2前	7.5	1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	
474	兼担	助教	フジキ タカミ 藤木 珠美 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		腎臓・泌尿器 臨床導入実習	3前 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
475	兼担	助教	ヒビヤ シュウジ 日比谷 秀爾 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
476	兼担	助教	ヒダカ タケアキ 日高 剛朗 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		頭頸部・臨床 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	4 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
477	兼担	助教	イリヤマ テツジ 入山 哲次 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
478	兼担	助教	マブチ スケル 馬淵 卓 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		膠原病・総合診療・地域 医療・東洋医学・皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学） 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	3 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年1月)	
479	兼担	助教	ウメト トモキ 梅本 朋幸 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年4月)	

480	兼任	助教	シライ ヲヨシ 白井 剛 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		呼吸器 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	
481	兼任	助教	ヤシマ マサフミ 八島 正文 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
482	兼任	助教	イタダ ヨリツグ 飯田 頼嗣 ＜令和6年10月＞		修士 （理学）		アントレプレナー教育	2・3・4・ 5・6通	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年1月）	
483	兼任	助教	オグイ タカミ 尾臺 珠美 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
484	兼任	助教	フトノ アヤコ 不殿 絢子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達 臨床導入実習	3後 4前	4 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
485	兼任	助教	フカダ マサヨシ 福田 将義 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成28年4月）	
486	兼任	助教	ヒラタ コウセイ 平田 浩聖 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年8月）	
487	兼任	助教	ヒラサワ ケンスケ 平澤 憲祐 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年10月）	
488	兼任	助教	キタハタ フキコ 北畑 富貴子 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		消化器 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	3 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
489	兼任	助教	キタジマ ヨリ アキコ 北條 亜樹子 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		救急・麻酔・集中治療 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3後 4後・5通 6前	2 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年7月）	
490	兼任	助教	ホンダ カサキ 本多 隆行 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		呼吸器 臨床導入実習	3前 4前	2 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
491	兼任	助教	ホンダ ケイジ 本田 圭司 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年3月）	
492	兼任	助教	キノ シホ 木野 志保 ＜令和6年10月＞		PhD in Epidemi- ology and Public Health		口腔疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
493	兼任	助教	ノグチ アヤコ 野口 綾子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		多職種連携Ⅲ	6前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
494	兼任	助教	ノダ セイジ 野田 聖二 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
495	兼任	助教	オチカミ ミエ 落田 美瑛 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		循環器 臨床導入実習	2後 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	

496	兼任	助教	タイシ ユミコ 立石 優美子 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		臨床導入実習	4前	8	1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
497	兼任	助教	スズキ モトヒロ 鈴木 基弘 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	4 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年10月)	
498	兼任	助教	スズキ ヒトミ 鈴木 瞳 ＜令和6年10月＞		博士 (口腔 保健福祉学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	
499	兼任	助教	スズキ リサ 鈴木 里彩 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		膠原病・総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学）	3後	3	1	東京医科歯科大学 助教 (令和2年4月)	
500	兼任	助教	クニヨシ カナコ 國吉 佳奈子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年4月)	
501	兼任	助教	クニエダ シュンコ 國枝 純子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		消化器	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
502	兼任	助教	ヒロセ アスカ 廣瀬 明日香 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 (平成28年4月)	
503	兼任	助教	マツダイ シンタロウ 萬代 新太郎 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		腎臓・泌尿器 臨床導入実習	3前 4前	3 8	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和2年4月)	
504	兼任	助教	サイノウ エイコ 齊藤 詠子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4前 4後・5通 6前	8 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成26年4月)	
505	兼任	助教	サイノウ カズキ 齊藤 和毅 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年4月)	
506	兼任	助教	タカハシ アユミ 高岡 亜弓 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		消化器 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	3前 4後・5通 6前	3 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
507	兼任	助教	タカハシ マリエ 高橋 麻里絵 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4後・5通 6前	40 15	1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成25年8月)	
508	兼任	助教	タカオ マチ 高尾 茉希 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
509	兼任	助教	タカサキ ケイ 高澤 啓 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床導入実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ	4前 4後・5通 6前	8 40 15	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成29年4月)	
510	兼任	看護部長	アサカ エミコ 浅香 えみ子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医学導入	1後	6.5	1	東京医科歯科大学 看護部長 (令和3年10月)	
511	兼任	非常勤講師	カールソン レベッカ リン Carlson Rebecca Lynn ＜令和6年10月＞		博士 (人類学)		Biosocial Research Topics	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
512	兼任	非常勤講師	アンドウ クミコ 安藤 久美子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床 行動科学	3前 3後	4 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

513	兼任	非常勤務 講師	イ マサコ 井伊 雅子 ＜令和6年10月＞		博士 （経済 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
514	兼任	非常勤務 講師	イノベ テツ 磯部 哲 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		ポストコロナ社会におけ る感染症対策	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
515	兼任	非常勤務 講師	イチジョウ マサヒコ 一條 真彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
516	兼任	非常勤務 講師	ウツカワ マコト 宇田川 誠 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ	2通 3通 5後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
517	兼任	非常勤務 講師	ウノ ヨウタ 宇野 洋太 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
518	兼任	非常勤務 講師	エダタ コキコ 永田 夕紀子 ＜令和6年10月＞		修士 （グ ローバ ル研 究）		スペイン語Ⅱ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
519	兼任	非常勤務 講師	オチ サエ 越智 小枝 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医学導入	1後	6.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
520	兼任	非常勤務 講師	オシモト カズトシ 押元 一敏 ＜令和6年10月＞		修士 （芸術 学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
521	兼任	非常勤務 講師	ヨコテ ヒロアキ 横手 裕明 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
522	兼任	非常勤務 講師	ヨコノ メグミ 横野 恵 ＜令和6年10月＞		修士 （法 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
523	兼任	非常勤務 講師	カシ シンヤ 加地 真也 ＜令和6年10月＞		学士 （体 育）		フィットネスマネジメン ト	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
524	兼任	非常勤務 講師	カトリ ヒロアキ 加藤 浩晃 ＜令和6年10月＞		修士 （経営 学）		医学導入	1後	6.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
525	兼任	非常勤務 講師	カマタ トモキ 鎌田 智幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
526	兼任	非常勤務 講師	クボタ コト 久保田 木都 ＜令和6年10月＞		学士 （美 術）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
527	兼任	非常勤務 講師	ミヤザキ サチエ 宮崎 幸江 ＜令和6年10月＞		博士 （Lingu istics ）		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
528	兼任	非常勤務 講師	ミヤカウ タケヤ 宮川 拓也 ＜令和6年10月＞		博士 （農 学）		化学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
529	兼任	非常勤務 講師	ミヤタ ヨシヤ 宮田 義矢 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		宗教学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	

530	兼任	非常勤務 講師	ミヤモト トシキ 宮本 俊明 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		法医学 公衆衛生学	3後 3後	1 1.5	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
531	兼任	非常勤務 講師	ゴライ アサ 牛来 明日香 ＜令和6年10月＞		修士 (体育 科学)		フィジカルウェルビー イング フィットネスマネジメン ト	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
532	兼任	非常勤務 講師	ハシモト コウシ 橋本 貢士 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		内分泌・代謝	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
533	兼任	非常勤務 講師	クリタ ケイ 栗田 圭子 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
534	兼任	非常勤務 講師	ハラダ ソウヘイ 原田 壮平 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
535	兼任	非常勤務 講師	フルイチ ミホ 古市 美穂子 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
536	兼任	非常勤務 講師	フルカワ タカコ 古川 高子 ＜令和6年10月＞		修士 (学術)		ポストコロナ社会におけ る感染症対策	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
537	兼任	非常勤務 講師	フルタ コウ 古田 光 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
538	兼任	非常勤務 講師	コイ ヒデキ 己斐 秀樹 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
539	兼任	非常勤務 講師	ゴトリ アツコ 後藤 敦子 ＜令和6年10月＞		博士 (人文 科学)		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
540	兼任	非常勤務 講師	コウガ マサヒロ 甲賀 真広 ＜令和6年10月＞		博士 (日本 語教育 学)		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
541	兼任	非常勤務 講師	アラカワ ヒロノリ 荒川 裕紀 ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
542	兼任	非常勤務 講師	タカク レオ 高久 玲音 ＜令和6年10月＞		博士 (商 学)		ポストコロナ社会におけ る感染症対策	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
543	兼任	非常勤務 講師	クワナ サトシ 忽那 賢志 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
544	兼任	非常勤務 講師	ササキ ミツヤ 佐々木 充文 ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		スペイン語Ⅰ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
545	兼任	非常勤務 講師	サトウ マイ 佐藤 舞 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		心理学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
546	兼任	非常勤務 講師	サカノ テツペイ 坂野 哲平 ＜令和6年10月＞		学士 (理工)		公衆衛生学	3後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	

547	兼任	非常勤務 講師	ササノイ モモ 佐野井 もも ＜令和6年10月＞		修士 (美術 学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
548	兼任	非常勤務 講師	サシカ マサヒロ 三家 雅弘 ＜令和6年10月＞		修士 (理工 学)		情報処理	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
549	兼任	非常勤務 講師	ミヨシ ヒロシ 三好 洋 ＜令和6年10月＞		博士 (理 学)		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
550	兼任	非常勤務 講師	ミカミ リョウ 三上 亮 ＜令和6年10月＞		修士 (美術 学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
551	兼任	非常勤務 講師	ミヤケ シロウ 三宅 司郎 ＜令和6年10月＞		博士 (工 学)		衛生学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
552	兼任	非常勤務 講師	ミチニ シュンコ 三谷 純子 ＜令和6年10月＞		修士 (Commu nicatio ns学)		文化人類学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
553	兼任	非常勤務 講師	ミキ ヨシオ 三木 義男 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
554	兼任	非常勤務 講師	ヤマダ フジコ 山田 不二子 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		公衆衛生学	3後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
555	兼任	非常勤務 講師	イチカワ タダシ 市川 忠 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
556	兼任	非常勤務 講師	ウシヰ イェ ムケン 氏家 無限 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
557	兼任	非常勤務 講師	テラサワ ユウヤ 寺澤 佑哉 ＜令和6年10月＞		学士 (医 学)		神経科学・臨床 行動科学	3前 3後	4 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
558	兼任	非常勤務 講師	トキモト ナオコ 時本 楠緒子 ＜令和6年10月＞		博士 (理 学)		生物学入門	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
559	兼任	非常勤務 講師	ムロタ ナオコ 室田 尚子 ＜令和6年10月＞		修士 (芸術 学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
560	兼任	非常勤務 講師	ムロフシ コウジ 室伏 広治 ＜令和6年10月＞		博士 (体育 学)		医学導入 骨・関節・脊椎	1後 3前	6.5 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
561	兼任	非常勤務 講師	ワカツ コウイチロウ 若松 功一郎 ＜令和6年10月＞		修士 (文 学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラ シー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
562	兼任	非常勤務 講師	シゲミツ ヒデアキ 重光 秀信 ＜令和6年10月＞		学士 (医 学)		医学導入	1後	6.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
563	兼任	非常勤務 講師	コヤマ カトシ 小山 高敏 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		血液・腫瘍	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	

564	兼任	非常勤務 講師	コホ トシノブ 小室 歳信 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		法医学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
565	兼任	非常勤務 講師	ワヅリ ムカシ 小川 有閑 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
566	兼任	非常勤務 講師	オノ キョウコ 小野 恭子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		衛生学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
567	兼任	非常勤務 講師	マツモト ミチ 松本 美耶 ＜令和6年10月＞		博士 （文 学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラ シー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
568	兼任	非常勤務 講師	ウエサト アキヒト 上里 彰仁 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		行動科学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
569	兼任	非常勤務 講師	モリ ナリト 森 千里 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		衛生学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
570	兼任	非常勤務 講師	スギヤマ トオル 杉山 徹 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		内分泌・代謝	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
571	兼任	非常勤務 講師	スガナミ カヨシ 菅波 孝祥 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		内分泌・代謝	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
572	兼任	非常勤務 講師	セオ コウジ 瀬尾 港二 ＜令和6年10月＞		学士 （教 養）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学）	3後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
573	兼任	非常勤務 講師	ナリタ ヒロキ 成田 大起 ＜令和6年10月＞		修士 （政治 学）		社会思想史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
574	兼任	非常勤務 講師	シミス トシアキ 清水 俊明 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
575	兼任	非常勤務 講師	シミス チカ 清水 千佳子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅱ	3前	0.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
576	兼任	非常勤務 講師	シミス サトシ 清水 智史 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラ シー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
577	兼任	非常勤務 講師	ニシカワ ラン 西川 蘭 ＜令和6年10月＞		博士 （文 学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラ シー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
578	兼任	非常勤務 講師	イシイ ヒデアト 石井 秀人 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
579	兼任	非常勤務 講師	イシカワ タカウ 石川 太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		神経科学・基礎	2後	3.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	

580	兼任	非常勤務 講師	イズミヤマ ハジメ 泉山 肇 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		内分泌・代謝	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
581	兼任	非常勤務 講師	マダガ ヒロシ 前田 浩利 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
582	兼任	非常勤務 講師	クマチ ショウ 倉持 稔 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
583	兼任	非常勤務 講師	クマチ ジン 倉持 仁 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
584	兼任	非常勤務 講師	オオタ タクト 太田 岳人 ＜令和6年10月＞		博士 （文学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
585	兼任	非常勤務 講師	オオタ マサト 太田 正人 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		人体解剖学	2前	7.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
586	兼任	非常勤務 講師	オオカキ コウキ 大賀 祐樹 ＜令和6年10月＞		博士 （学術）		哲学 倫理学	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
587	兼任	非常勤務 講師	オオクボ タケ 大久保 卓哉 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
588	兼任	非常勤務 講師	オオカミ リノオ 大曲 貴夫 ＜令和6年10月＞		博士 （臨床 感染症学）		感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
589	兼任	非常勤務 講師	オオシロ アキヒロ 大柴 晃洋 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
590	兼任	非常勤務 講師	オオモリ タケ 大森 多恵 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
591	兼任	非常勤務 講師	オオイシ ミコ 大石 由美子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		衛生学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
592	兼任	非常勤務 講師	オオクラ ヒロキ 大倉 颯 ＜令和6年10月＞		修士 （社会学）		社会学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
593	兼任	非常勤務 講師	オオシマ カズナリ 大島 一成 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
594	兼任	非常勤務 講師	サカベ モトシ 沢辺 元司 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
595	兼任	非常勤務 講師	タケシタ ハルオ 竹下 治男 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		法医学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
596	兼任	非常勤務 講師	タケハヤシ ヒロオ 竹林 裕直 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		行動科学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	

597	兼任	非常勤務 講師	ナカグチ エツシ 中口 悦史 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		細胞生物学	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
598	兼任	非常勤務 講師	ナカヤマ トシテツ 中山 俊秀 ＜令和6年10月＞		博士 （言語 学）		ポストコロナ社会におけ る感染症対策	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
599	兼任	非常勤務 講師	ナカムラ フクミ 中村 ふくみ ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医動物学	2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
600	兼任	非常勤務 講師	ナガサキ ケンジ 長坂 憲治 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病）	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
601	兼任	非常勤務 講師	ハセガワ アツヒロ 長谷川 温彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー）	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
602	兼任	非常勤務 講師	ツカダ ケイヒロ 塚田 岳大 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		生物学入門	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
603	兼任	非常勤務 講師	ツカダ ケニヒサ 塚田 訓久 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		感染・臨床	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
604	兼任	非常勤務 講師	ツバタタ ケン 鏑田 武志 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
605	兼任	非常勤務 講師	タハラ シンジ 田原 慎二 ＜令和6年10月＞		博士 （経済 学）		経済学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
606	兼任	非常勤務 講師	タナカ アサヒ 田中 丹史 ＜令和6年10月＞		修士 （学 術）		科学史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
607	兼任	非常勤務 講師	ワタナベ ヒロミ 渡部 洋実 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		行動科学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
608	兼任	非常勤務 講師	ワタナベ カズキ 渡辺 数基 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		サイエンスPBL入門 グローバル教養総合講座	1後 1前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
609	兼任	非常勤務 講師	ワタナベ ツグイロウ 渡邊 総一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		化学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
610	兼任	非常勤務 講師	トイ マサル 土井 賢 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		内分泌・代謝	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
611	兼任	非常勤務 講師	フジイ シュンゴ 藤井 俊吾 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
612	兼任	非常勤務 講師	フジエタ フミ 藤枝 史江 ＜令和6年10月＞		博士 （人文 学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラ シー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
613	兼任	非常勤務 講師	トクミサ ミヨ 徳久 美生子 ＜令和6年10月＞		博士 （社会 学）		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	

614	兼任	非常勤務 講師	ミナミ イサオ 南 勲 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		内分泌・代謝	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
615	兼任	非常勤務 講師	ウメサキ ケイショウ 梅崎 馨章 ＜令和6年10月＞		修士 (理学)		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
616	兼任	非常勤務 講師	ハギヤマ ヒロユキ 萩山 裕之 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（膠原病）	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
617	兼任	非常勤務 講師	シライシ アツシ 白石 淳 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
618	兼任	非常勤務 講師	ヤギノ ママ ヒロユキ 八木沼 洋行 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経解剖学	2前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
619	兼任	非常勤務 講師	ソリマチ リコ 反町 典子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
620	兼任	非常勤務 講師	イタコシ マサヒコ 板越 正彦 ＜令和6年10月＞		修士 (国際 経営 学)		アントレプレナー教育	2・3・4・ 5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
621	兼任	非常勤務 講師	ハントウ トオル 板東 徹 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		呼吸器	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
622	兼任	非常勤務 講師	イタダ スケル 飯田 卓 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ	2通 3通 5後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
623	兼任	非常勤務 講師	トビタ アヤコ 飛田 綾子 ＜令和6年10月＞		修士 (政治 学)		法学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
624	兼任	非常勤務 講師	オサキ シゲル 尾崎 茂 ＜令和6年10月＞		博士 (精神 医学)		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
625	兼任	非常勤務 講師	オモテ タカリ 表 孝憲 ＜令和6年10月＞		修士 (経営 学)		アントレプレナー教育	2・3・4・ 5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
626	兼任	非常勤務 講師	トミシ ヒロユキ 富満 弘之 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
627	兼任	非常勤務 講師	フセ ヤスコ 布施 泰子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		行動科学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
628	兼任	非常勤務 講師	タケイ ヨシタ 武井 陽介 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		神経解剖学	2前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
629	兼任	非常勤務 講師	タケチ マサキ 武智 正樹 ＜令和6年10月＞		博士 (生命 科学)		人体解剖学	2前	7.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
630	兼任	非常勤務 講師	ヒラハタ コウイチ 平畑 光一 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		ポストコロナ社会におけ る感染症対策	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	

631	兼任	非常勤務 講師	ヒヲ セシロウ 平野 靖史郎 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		衛生学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
632	兼任	非常勤務 講師	カタノ コウタ 片野田 耕太 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		公衆衛生学	3後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
633	兼任	非常勤務 講師	ミヅ トビコ 峰尾 俊彦 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラ シー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
634	兼任	非常勤務 講師	ホンダ マサカズ 本田 雅一 ＜令和6年10月＞		学士 (経済)		フィジカルウェルビー イング フィットネスマネジメン ト	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
635	兼任	非常勤務 講師	ホンダ ヨウコ 本田 陽子 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
636	兼任	非常勤務 講師	オモテ カズヤ 面 一也 ＜令和6年10月＞		修士 (政治学)		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ	2通 3通 5後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
637	兼任	非常勤務 講師	モクシ カオル 茂楠 薫 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		アントレプレナー教育	2・3・4・ 5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
638	兼任	非常勤務 講師	ノグチ ヒロト 野口 大斗 ＜令和6年10月＞		修士 (学術)		英語Ⅰ	1通	6	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
639	兼任	非常勤務 講師	スズキ ヤスヒロ 鈴木 康弘 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー）	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
640	兼任	非常勤務 講師	ワタナベ タカシ 和田 忠志 ＜令和6年10月＞		医学士		医学導入	1後	6.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
641	兼任	非常勤務 講師	クニイ オサム 國井 修 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		ポストコロナ社会におけ る感染症対策	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
642	兼任	非常勤務 講師	クワン テツ子 権 大聖 ＜令和6年10月＞		博士 (現代 アジア 研究)		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
643	兼任	非常勤務 講師	ウズラハシ タツナリ 鵜橋 辰成 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラ シー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
644	兼任	非常勤務 講師	タカハシ ムネホ 高橋 優美穂 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		アカデミック・リテラ シー	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
645	兼任	非常勤務 講師	ベールヂャ アドリアン BERCEA ADRIAN ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		Japanese Culture and Society	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
646	兼任	非常勤務 講師	コーリス ジョナサン CORLISS JONATHAN ＜令和6年10月＞		修士 (人類学)		英語Ⅰ	1通	6	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
647	兼任	非常勤務 講師	リットン クリストファー トンプソン LITTON CHRISTOPHER T ＜令和6年10月＞		修士 (教育学)		英語Ⅰ	1通	6	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	

648	兼任	非常勤務 講師	ミヤ マルツカ MIYA MARUT SUKA ＜令和6年10月＞		学士 (環境 資源科 学)		英語Ⅰ	1通	6	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
649	兼任	非常勤務 講師	リート ジェシー ライアン Reed Jesse Ryan ＜令和6年10月＞		修士 (教育 学)		英語Ⅰ	1通	6	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
650	兼任	非常勤務 講師	ウマリ アンハロ アデルナ Umalir Adelina ＜令和6年10月＞		博士 (国文 学)		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
651	兼任	非常勤務 講師	エン ヤキ YANJIAQI ＜令和6年10月＞		修士 (言語 学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
652	兼任	非常勤務 講師	アベ ヤスコ 阿部 庸子 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
653	兼任	非常勤務 講師	イツカ イジューン 磯貝 純 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		臨床医学導入	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
654	兼任	非常勤務 講師	イツベ ミツアキ 磯部 光章 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
655	兼任	非常勤務 講師	ハクノ ヨシロウ 羽田野 義郎 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		膠原病・総合診療・地域 医療・東洋医学・皮膚・ アレルギー（総合診療・地域 医療・東洋医学）	3後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
656	兼任	非常勤務 講師	オクツ コウスケ 奥津 康祐 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		公衆衛生学	3後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
657	兼任	非常勤務 講師	ヨコヤマ イズミ 横山 泉 ＜令和6年10月＞		博士 (経済 学)		ポストコロナ社会におけ る感染症対策	1・2・3・ 4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
658	兼任	非常勤務 講師	オカト トモカズ 岡戸 丈和 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
659	兼任	非常勤務 講師	カサハラ リョウキ 笠原 典之 ＜令和6年10月＞		医学博 士		医学導入	1後	6.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
660	兼任	非常勤務 講師	マル ミツエ 丸 光恵 ＜令和6年10月＞		博士 (看護 学)		生殖・発達	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
661	兼任	非常勤務 講師	キタ エリコ 菊池 絵梨子 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		腎臓・泌尿器	3前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
662	兼任	非常勤務 講師	ヨシタ ノブオ 吉池 信男 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		公衆衛生学	3後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
663	兼任	非常勤務 講師	ミヤヅノ ケンイチ 宮園 健一 ＜令和6年10月＞		博士 (農 学)		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	
664	兼任	非常勤務 講師	タカハシ ユミホ 高橋 優美穂 ＜令和6年10月＞		修士 (文 学)		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 (令和6年10月)	

665	兼任	非常勤務 講師	イマイ コウスケ 今井 耕輔 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		免疫学	2後	2.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
666	兼任	非常勤務 講師	ネト シゲル 根本 繁 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
667	兼任	非常勤務 講師	サノ ケンジ 佐野 研二 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
668	兼任	非常勤務 講師	スガワ トミマ 砂川 富正 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		衛生学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
669	兼任	非常勤務 講師	ミキ カズノリ 三木 一徳 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
670	兼任	非常勤務 講師	シタ タカシ 七田 崇 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		薬理学	2前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
671	兼任	非常勤務 講師	ウケシハラ ヒサシ 漆原 尚巳 ＜令和6年10月＞		博士 （社会 健康医学）		生物統計学応用Ⅱ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
672	兼任	非常勤務 講師	ササオカ タロウ 篠岡 太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
673	兼任	非常勤務 講師	カワマタ ミチオ 勝保 道夫 ＜令和6年10月＞		博士 （皮膚 科学）		膠原病、総合診療・地域 医療・東洋医学、皮膚・ アレルギー（皮膚・アレルギー）	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
674	兼任	非常勤務 講師	コクホウ ヨシヒロ 小久保 喜弘 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		公衆衛生学	3後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
675	兼任	非常勤務 講師	アライ ノブタカ 新井 信隆 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		法医学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
676	兼任	非常勤務 講師	ミズシマ ノボル 水島 昇 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		細胞生物学	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
677	兼任	非常勤務 講師	ミズノ テツヤ 水野 哲也 ＜令和6年10月＞		修士 （体育 学）		フィジカルウェルビー イング	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
678	兼任	非常勤務 講師	ホシノ タカヒロ 星野 崇宏 ＜令和6年10月＞		博士 （学 術）博士（経 済学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
679	兼任	非常勤務 講師	キヨカワ コウスケ 清川 佑介 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
680	兼任	非常勤務 講師	ニシムラ エミ 西村 栄美 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		細胞生物学	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
681	兼任	非常勤務 講師	カワカミ テハル 川上 千春 ＜令和6年10月＞		博士 （看護 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	

682	兼任	非常勤務 講師	アシカ ^ホ ヒロシ 足利 洋志 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
683	兼任	非常勤務 講師	オオタケ カズヨシ 大竹 一嘉 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		神経解剖学	2前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
684	兼任	非常勤務 講師	タケナチ ヤスヒロ 竹内 靖博 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		内分泌・代謝	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
685	兼任	非常勤務 講師	ナカザワ マサタカ 中澤 正孝 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		人体解剖学	2前	7.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
686	兼任	非常勤務 講師	マサダ ヨウイチ 町田 洋一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床医学導入	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
687	兼任	非常勤務 講師	ナカミネ ユイコ 長嶺 由衣子 ＜令和6年10月＞		博士 （公衆衛生学）		膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（総合診療・地域医療・東洋医学）	3後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
688	兼任	非常勤務 講師	タナ アツシ 田中 敦 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		細胞生物学	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
689	兼任	非常勤務 講師	タナ アツコ 田中 敦子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		公衆衛生学	3後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
690	兼任	非常勤務 講師	ワタナベ キョウコ 渡邊 京子 ＜令和6年10月＞		博士 （皮膚科学）		膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー）	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
691	兼任	非常勤務 講師	ウチダ サトシ 内田 智士 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		薬理学	2前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
692	兼任	非常勤務 講師	ヒラノ テツヤ 樋口 哲也 ＜令和6年10月＞		博士 （皮膚科学）		膠原病、総合診療・地域医療・東洋医学、皮膚・アレルギー（皮膚・アレルギー）	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
693	兼任	非常勤務 講師	フカリ アユミ 布川 あゆみ ＜令和6年10月＞		博士 （社会学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
694	兼任	非常勤務 講師	ハツトリ サトシ 服部 聡 ＜令和6年10月＞		博士 （臨床統計学）		生物統計学応用 I	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
695	兼任	非常勤務 講師	ノマ ヒロシ 野間 久史 ＜令和6年10月＞		博士 （統計数理学）		生物統計学応用 I	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
696	兼任	非常勤務 講師	ノムラ フミノリ 野村 文敬 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		頭頸部・臨床	3後	4	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
697	兼任	非常勤務 講師	スズキ ケイスケ 鈴木 啓介 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		救急・麻酔・集中治療	3後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	
698	兼任	非常勤務 講師	ハマヤ リクタ 濱谷 陸太 ＜令和6年10月＞		修士 （疫学）		循環器	2後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤務講師 （令和6年10月）	

699	兼任	非常勤講師	タカハシ チカ 高橋 ちか <令和6年10月>		学士 (口腔保健学)		公衆衛生学	3後	1. 5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
700	兼任	非常勤講師	スサワ ヨシユキ 沼沢 祥行 <令和6年10月>		博士 (医学)		医学導入	1後	6. 5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
701	兼任	非常勤講師	ノサカ テツヤ 野阪 哲哉 <令和6年10月>		博士 (医学)		感染・基礎	2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
702	兼任	非常勤講師	イチシヨウ トモヤス 一條 智康 <令和6年10月>		博士 (医学)		神経科学・臨床	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

教 員 の 氏 名 等												
(医学部保健衛生学科看護学専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
1	専任	教授	コトノ アキ 近藤 暁子 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		国際保健看護学Ⅰ 国際保健看護学Ⅱ 卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ 実践看護英語Ⅰ 実践看護英語Ⅱ 実践看護英語Ⅲ 国際保健福祉A 国際保健福祉B 国際保健福祉C 国際保健福祉D 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ クリティカルシンキン グ・クリエイティブシン キング 総合看護学実習	1後 4前 3通 3・4通 2前 3前 4前 1通 2通 3通 4通 1前 2前 4前 4通	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 0.5 0.5 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	5日
2	専任	教授	ツキノ ルミ 月野木 ルミ ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		憲法 卒業論文Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅰ 公衆衛生看護学Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅲ 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1～4前 3・4通 2前 3前 4前 4通 4通 1前 2前	2 2 1 1 2 3 4 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和3年4月)	5日
3	専任	教授	サキ ヨシコ 佐々木 吉子 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		卒業論文Ⅱ クリティカルケア看護学 看護の統合と実践 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 災害看護学 クリティカルシンキン グ・クリエイティブシン キング 看護の統合と実践実習	3・4通 3前 1後 1前 2前 2後 4前 4通	2 1 1 0.5 0.5 1 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年4月)	5日
4	専任	教授	オガタ ヤス 緒方 泰子 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)		卒業論文Ⅱ フィジカルアセスメント 高齢者の健康と看護 老年看護学 老年看護学演習 成人・老年看護学実習Ⅱ リハビリテーション看護学 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ クリティカルシンキン グ・クリエイティブシン キング 看護マネジメント学 成人・老年看護学実習Ⅲ	3・4通 2前 3前 3前 3前 3後 3前 1前 2前 4前 4前 4通	2 1 1 2 1 3 1 0.5 0.5 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	5日

5	専任	教授	タカ マコト 田中 真琴 ＜令和6年10月＞		博士 (生物学)	病態学 卒業論文Ⅱ インディペンデントスタ ディA インディペンデントスタ ディB インディペンデントスタ ディC フィジカルアセスメント 成人の健康と看護 成人看護学 成人看護学演習 成人・老年看護学実習Ⅰ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ クリティカルシンキン グ・クリエイティブシン キング 成人・老年看護学実習Ⅲ	2通 3・4通 2通 3通 4通 2前 2後 3前 3後 1前 2前 4前 4通	5 2 1 1 1 1 2 2 1 3 0.5 0.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成28年6月)	5日
6	専任	教授	カシキ マサヨ 柏木 聖代 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)	看護制度論 卒業論文Ⅱ 人間の健康と看護 基盤看護学Ⅰ 基盤看護学Ⅱ 基盤看護学演習Ⅰ 基盤看護学演習Ⅱ 基盤看護学実習Ⅰ 基盤看護学実習Ⅱ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ クリティカルシンキン グ・クリエイティブシン キング	1後 3・4通 1後 2前 2通 2前 2後 1通 2通 1前 2前 4前	1 2 1 1 1 2 1 1 2 0.5 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成30年6月)	5日
7	専任	教授	フクイ サキコ 福井 小紀子 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)	卒業論文Ⅱ 緩和ケア看護学 在宅看護学Ⅰ 在宅看護学Ⅱ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ クリティカルシンキン グ・クリエイティブシン キング	3・4通 3前 2後 3前 3前 3後 1前 2前 4前	2 1 2 2 1 2 0.5 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年7月)	5日
8	専任	准教授	カミシ モトコ 岡光 基子 ＜令和6年10月＞		修士 (保健学)	卒業論文Ⅱ フィジカルアセスメント 小児の健康と看護 小児看護学Ⅰ 小児看護学Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	3・4通 2前 2前 2後 3前 3前 3後 1前 2前	2 1 1 1 1 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成28年4月)	5日
9	専任	准教授	タノ アユミ 高野 歩 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)	卒業論文Ⅱ 実践看護英語Ⅰ 実践看護英語Ⅱ 実践看護英語Ⅲ 国際保健福祉A 国際保健福祉B 国際保健福祉C 国際保健福祉D 心の健康と看護Ⅰ 心の健康と看護Ⅱ 精神看護学演習 精神看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	3・4通 2前 3前 4前 1通 2通 3通 4通 2前 2後 3前 3後 1前 2前	2 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成31年4月)	5日

10	専任	准教授	イマヅ ヨコ 今津 陽子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 卒業論文Ⅱ クリティカルケア看護学 看護の統合と実践 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 災害看護学 看護の統合と実践実習	2後 2後 3・4通 3前 1後 1前 2前 2後 4通	1 1 2 1 1 0.5 0.5 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	5日
11	専任	准教授	ササキ ミチ 佐々木 美樹 ＜令和6年10月＞		修士 （人間科学）		卒業論文Ⅱ フィジカルアセスメント 高齢者の健康と看護 老年看護学 老年看護学演習 成人・老年看護学実習Ⅱ リハビリテーション看護学 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 看護マネジメント学 成人・老年看護学実習Ⅲ	3・4通 2前 3前 3前 3前 3後 3前 1前 2前 4前 4通	2 1 1 2 1 3 1 0.5 0.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年10月）	5日
12	専任	准教授	マツカバ アサミ 松長 麻美 ＜令和6年10月＞		博士 （社会科学）		卒業論文Ⅱ 心の健康と看護Ⅰ 心の健康と看護Ⅱ 精神看護学演習 精神看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	3・4通 2前 2後 3前 3後 1前 2前	2 2 1 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年5月）	5日
13	専任	准教授	モリタ クミコ 森田 久美子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		産業保健学 保健医療福祉制度論 健康教育学演習 卒業論文Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅰ 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	4前 2後 2前 3・4通 2前 4通 4通 1前 2前	1 2 1 2 1 3 4 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	5日
14	専任	准教授	カカミ アキ 川上 明希 ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		病態学 卒業論文Ⅱ 国際保健福祉A 国際保健福祉B 国際保健福祉C 国際保健福祉D フィジカルアセスメント 成人の健康と看護 成人看護学 成人看護学演習 成人・老年看護学実習Ⅰ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ クリティカルシンキング・クリエイティブシンキング 成人・老年看護学実習Ⅲ	2通 3・4通 1通 2通 3通 4通 2前 2前 2後 3前 3後 1前 2前 4前 4通	5 2 1 1 1 1 1 1 2 2 1 0.5 0.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成29年5月）	5日
15	専任	准教授	ノグチ マコ 野口 麻衣子 ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		卒業論文Ⅱ 在宅看護学Ⅰ 在宅看護学Ⅱ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	3・4通 2後 3前 3前 3後 1前 2前	2 2 2 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	5日

16	専任	准教授	ヒロカ 加 廣岡 佳代 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		卒業論文Ⅱ 国際保健福祉A 国際保健福祉B 国際保健福祉C 国際保健福祉D 緩和ケア看護学 在宅看護学Ⅰ 在宅看護学Ⅱ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 総合看護学実習	3・4通 1通 2通 3通 4通 3前 2後 3前 3前 3後 1前 2前 4通	2 1 1 1 1 1 2 2 1 2 0.5 0.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和4年4月)	5日
17	専任	講師	ミズ ジュンコ 三隅 順子 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		卒業論文Ⅱ フィジカルアセスメント 性と生殖と健康と看護 周産看護学Ⅰ 周産看護学Ⅱ 周産看護学演習 周産看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	3・4通 2前 3前 3前 3前 3前 3後 1前 2前	2 1 1 1 1 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成21年4月)	5日
18	専任	講師	カンノ ユウスケ 菅野 雄介 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		卒業論文Ⅱ 緩和ケア看護学 在宅看護学Ⅰ 在宅看護学Ⅱ 在宅看護学演習 在宅看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	3・4通 3前 2後 3前 3前 3後 1前 2前	2 1 2 2 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年6月)	5日
19	専任	助教	モリオカ リコ 森岡 典子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		看護制度論 卒業論文Ⅱ 人間の健康と看護 基盤看護学Ⅰ 基盤看護学Ⅱ 基盤看護学演習Ⅰ 基盤看護学演習Ⅱ 基盤看護学実習Ⅰ 基盤看護学実習Ⅱ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1後 3・4通 1後 2前 2通 2前 2後 2後 1通 2通 1前 2前	1 2 1 1 1 2 1 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年10月)	5日
20	専任	助教	カサモト ユウコ 川本 祐子 ＜令和6年10月＞		修士 (看護学)		病態学 卒業論文Ⅱ フィジカルアセスメント 成人の健康と看護 成人看護学 成人看護学演習 成人・老年看護学実習Ⅰ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ クリティカルシンキン グ・クリエイティブシン キング 成人・老年看護学実習Ⅲ	2通 3・4通 2前 2前 2後 3前 3後 1前 2前 4前 4通	5 2 1 2 2 1 3 0.5 0.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成20年4月)	5日
21	専任	助教	オカワラ ヒロフミ 大河原 啓文 ＜令和6年10月＞		修士 (看護学)		看護制度論 卒業論文Ⅱ 人間の健康と看護 基盤看護学Ⅰ 基盤看護学Ⅱ 基盤看護学演習Ⅰ 基盤看護学演習Ⅱ 基盤看護学実習Ⅰ 基盤看護学実習Ⅱ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1後 3・4通 1後 2前 2通 2前 2後 1通 2通 1前 2前	1 2 1 1 1 2 1 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	5日

22	専任	助教	ツタノ シヲ 津田 紫緒 <令和6年10月>		博士 (看護学)		憲法 健康教育学演習 卒業論文Ⅱ 国際保健福祉A 国際保健福祉B 国際保健福祉C 国際保健福祉D 公衆衛生看護学Ⅰ 公衆衛生看護学Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅲ 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1～4前 2前 3・4通 1通 2通 3通 4通 2前 3前 4前 4通 4通 1前 2前	2 1 2 1 1 1 1 1 1 2 3 4 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成25年8月)	5日
23	専任	助教	ユモト ヨシエ 湯本 淑江 <令和6年10月>		修士 (看護学)		卒業論文Ⅱ フィジカルアセスメント 高齢者の健康と看護 老年看護学 老年看護学演習 成人・老年看護学実習Ⅱ リハビリテーション看護学 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 看護マネジメント学 成人・老年看護学実習Ⅲ	3・4通 2前 3前 3前 3前 3後 3前 1前 2前 4前 4通	2 1 1 2 1 3 1 0.5 0.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成27年4月)	5日
24	専任	助教	ノグチ アヤコ 野口 綾子 <令和6年10月>		博士 (看護学)		卒業論文Ⅱ クリティカルケア看護学 緩和ケア看護学 看護の統合と実践 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 災害看護学 看護の統合と実践実習	3・4通 3前 3前 1後 1前 2前 2後 4通	2 1 1 1 0.5 0.5 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年4月)	5日
25	専任	助教	ヤコウリ サトシ 矢郷 哲志 <令和6年10月>		修士 (看護学)		卒業論文Ⅱ フィジカルアセスメント 小児の健康と看護 小児看護学Ⅰ 小児看護学Ⅱ 小児看護学演習 小児看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	3・4通 2前 2前 2後 3前 3前 3後 1前 2前	2 1 1 1 1 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成28年4月)	5日
26	専任	助教	ヒロヤマ ナツコ 廣山 奈津子 <令和6年10月>		修士 (看護学)		卒業論文Ⅱ 周産看護学演習 周産看護学実習 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	3・4通 3前 3後 1前 2前	2 1 2 0.5 0.5	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成27年10月)	5日
27	兼任	教授	ホウ ヒロシ BAO MIN <令和6年10月>		修士 (社会福祉学)		国際地域文化入門 人文社会科学特論 フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 4通 1前	2 2 2 2 2 2 1 2 1 1 1.5	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	

28	兼任	教授	ﾊﾟｸ ｹｰｳﾝ PARK HEEWON ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2前 1後	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年6月）	
29	兼任	教授	ｲﾄｳ ｻｻﾘ 伊藤 正則 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1通 1後 2通 4通 1前	1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年4月）	
30	兼任	教授	ｵｶﾀﾞ ｸﾅﾔ 岡田 幸之 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年9月）	
31	兼任	教授	ｷｷﾏﾏ ｾｲ 柿沼 晴 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	2通 1前 2前	5 0.5 0.5	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年6月）	
32	兼任	教授	ｽﾐ ｴﾅｷ 角 勇樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学 医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用 AI実践演習	2通 1後 2前 2通	5 2 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年4月）	
33	兼任	教授	ｶﾊﾞｻﾜ ｴｳｼﾞ 樺沢 勇司 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	
34	兼任	教授	ｻｼﾀﾞﾏ ｵﾅﾐ 吉田 直美 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年9月）	
35	兼任	教授	ﾐﾔｶﾞﾅ ｵﾅﾔ 宮坂 尚幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		周産看護学Ⅰ	3前	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年8月）	
36	兼任	教授	ｶﾅｻﾞﾜ ﾏﾅﾌﾞ 金澤 学 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年5月）	
37	兼任	教授	ｸﾞ ｵｼｱｷ 具 芳明 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		微生物学	1後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
38	兼任	教授	ﾊﾝﾅｲ ﾋﾃﾞｵ 坂内 英夫 ＜令和6年10月＞		博士 （情 報 工 学）		医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用	1後 2前	2 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
39	兼任	教授	ｻｻﾉ ｹﾞﾝｼﾞｵ 笹野 哲郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 教授 （令和元年6月）	
40	兼任	教授	ﾓﾘ ﾋﾛｷ 森 弘樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成30年10月）	
41	兼任	教授	ｵｼ ﾵﾏ 星 治 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		解剖学 生理学	1後 2前	3 3	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	

42	兼担	教授	シミス ヒデユキ 清水 秀幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2前 1後	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年2月）	
43	兼担	教授	アホキ カスヒロ 青木 和広 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	
44	兼担	教授	アイダ シュン 相田 潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		口腔疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年8月）	
45	兼担	教授	オオハシ ケンイチ 大橋 健一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病理学	1後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年7月）	
46	兼担	教授	オオカワ リュウノスケ 大川 龍之介 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年4月）	
47	兼担	教授	オシマ シゲル 大島 茂 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年5月）	
48	兼担	教授	タケナカ カツユキ 竹内 勝之 ＜令和6年10月＞		修士 （医科学）		アントレプレナー教育	2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
49	兼担	教授	ナカムラ ケイコ 中村 桂子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		国際保健看護学Ⅱ	4前	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年4月）	
50	兼担	教授	ナカバヤシ シュン 中林 潤 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 AI・データサイエンスの ための数学 医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用	1通 1後 2通 4通 1前 1後 1後 2前	1 2 1 1 1.5 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
51	兼担	教授	アサカガキ カスヒロ 朝蔭 孝宏 ＜令和6年10月＞		博士 （生物科学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年4月）	
52	兼担	教授	ツツミ タケシ 堤 剛 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年4月）	
53	兼担	教授	フジイ タツオ 藤井 達夫 ＜令和6年10月＞		修士 （政治学）		人文社会科学概論 国際地域文化入門 政治学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1後 2通 4通 1前	2 2 2 1 2 1 1 1.5	2 2 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年1月）	

54	兼担	教授	フジワラ タケオ 藤原 武男 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策 疫学基礎	1・2・3・4通 1前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年4月）	
55	兼担	教授	ナラ マサユキ 奈良 雅之 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年4月）	
56	兼担	教授	ウチダ トクシロウ 内田 篤治郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年5月）	
57	兼担	教授	クロヤナキ カズヨ 畔柳 和代 ＜令和6年10月＞		修士 （学術）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1通 1通 1後 2通 4通 1前 2・3・4通 1前 2前	6 1 2 1 1 1.5 1～4 0.5 0.5	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年12月）	
58	兼担	教授	ヒラカワ アキヒロ 平川 晃弘 ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		医療とAI・ビッグデータ 応用 臨床試験方法論基礎 臨床試験方法論応用	2前 1前 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
59	兼担	教授	ヤスタク シンスケ 保田 晋助 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年1月）	
60	兼担	教授	キノシタ アツヒロ 木下 淳博 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用	1後 2前	2 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
61	兼担	教授	キノミ マキコ 木谷 真紀子 ＜令和6年10月＞		博士 （国文学）		人文社会科学概論 国際地域文化入門 民俗学 文学 社会心理学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 4通 1前 1後	2 2 2 2 2 1 2 1 1 1.5 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
62	兼担	教授	ヤギシタ カズヨシ 柳下 和慶 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 4通 1前	2 2 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年7月）	
63	兼担	教授	タテシ ウキヒデ 立石 宇貴秀 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年10月）	

64	兼担	教授	ヒエガ° ミツリ 檜枝 光憲 ＜令和6年10月＞		博士 (理 学)		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ 入門	1前 1通 1後 2通 4通 1前 1後	1 1 2 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	
65	兼担	教授	サイトウ リョウイチ 齋藤 良一 ＜令和6年10月＞		博士 (保健 学)		微生物学 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1後 1前 2前	1 0.5 0.5	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年7月)	
66	兼担	教授	タカハシ クニヒコ 高橋 邦彦 ＜令和6年10月＞		博士 (理 学)		医療とAI・ビッグデータ 入門 生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1後 1前 1後 1後	2 1 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
67	兼担	教授	タカタ° カヅキ 高田 和生 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		Moral and Political Philosophy for Medicine Leadership Negotiation Design Thinking オンライン異文化交流	1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成24年12月)	
68	兼担	准教授	キャネル デビッド CANNELL DAVID ＜令和6年10月＞		PhD East Asian Languag es and Literat ures		教養選択科目	1通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成26年6月)	
69	兼担	准教授	ジャンネル ルネ モロス JANELLE RENEE MOROSS ＜令和6年10月＞		准学士 (看 護)		System-based medical terminologyⅠ Nurse-Patient Communication IMRAD Format Presentation in English Diagnostic Procedures in English	3前 4前 3,4通 4通	1 1 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成26年2月)	
70	兼担	准教授	ジャンネット デニソン JEANETTE DENNISSON ＜令和6年10月＞		修士 (理 学)		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 4通 1前 2・3・4 通	6 1 2 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成27年4月)	
71	兼担	准教授	パトリック フォス PATRICK FOSS ＜令和6年10月＞		博士 (言語 学)		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 4通 1前 2・3・4 通	6 1 2 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成22年4月)	
72	兼担	准教授	ナガタ マサシ 永田 将司 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ	2後 2後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成25年8月)	

73	兼担	准教授	コシノ カズキ 越野 和樹 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ 入門	1前 1通 1後 2通 4通 1前 1後	1 1 2 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
74	兼担	准教授	シラキ ヒロキ 塩飽 裕紀 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年10月）	
75	兼担	准教授	オカダ タケヤ 岡田 卓也 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		国際保健看護学Ⅱ Fundamentals of Global Health	4前 1・2・ 3・4通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
76	兼担	准教授	イワキ マコ 岩城 麻衣子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	
77	兼担	准教授	カネコ エイジ 金子 英司 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
78	兼担	准教授	フジウラ トシフミ 工藤 敏文 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成29年7月）	
79	兼担	准教授	サカイ トモコ 酒井 朋子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		リハビリテーション看護 学	3前	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
80	兼担	准教授	マツヤマ ユウスケ 松山 祐輔 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	
81	兼担	准教授	ミズノ トモヒロ 水野 友裕 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
82	兼担	准教授	ニシオ ミヅコ 西尾 美和子 ＜令和6年10月＞		博士 （保 健 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年5月）	
83	兼担	准教授	イシカワ トモリ 石川 智則 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		性と生殖と健康と看護	3前	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年10月）	
84	兼担	准教授	オオキ マコ 大木 明子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成23年4月）	
85	兼担	准教授	タケウチ タシ 竹内 崇 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
86	兼担	准教授	ナカガワ ミナ 中川 美奈 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
87	兼担	准教授	イノケマ ケイコ 猪熊 恵子 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 4通 1前 2・3・4 通	6 1 2 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成24年4月）	

88	兼担	准教授	ツルタ ジュン 鶴田 潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
89	兼担	准教授	トクナガ シンイチ 徳永 伸一 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 情報科学 医療とAI・ビッグデータ入門	1通 1後 2通 4通 1前 1前 1後	1 2 1 1 1.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
90	兼担	准教授	ナカ ノブトシ 那波 伸敏 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門 ポストコロナ社会における感染症対策	1後 1・2・ 3・4通	2 1	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	
91	兼担	准教授	イモリ ソウロウ 飯盛 聡一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	
92	兼担	准教授	スズキ ノブハル 鈴木 喜晴 ＜令和6年10月＞		博士 （地球環境科学）		生化学	1後	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年2月）	
93	兼担	准教授	サワノ ヨリコ 澤野 頼子 ＜令和6年10月＞		博士 （農学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
94	兼担	講師	アンザイ タツヒコ 安齋 達彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医療マネジメント学）		生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1前 1後 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年9月）	
95	兼担	講師	イスマ アヤ 伊角 彩 ＜令和6年10月＞		博士 （国際公共政策）		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年10月）	
96	兼担	講師	イツイ ヤスヒロ 井津井 康浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1後 1前 2前	2 0.5 0.5	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年4月）	
97	兼担	講師	イナヅマ モトキ 稲次 基希 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	
98	兼担	講師	ウカヅン ツカサ 宇賀神 つかさ ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	
99	兼担	講師	オウ エイトウ 王 耀東 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	
100	兼担	講師	オカダ エリコ 岡田 英理子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成26年4月）	

101	兼担	講師	カシハラ ミチ 梶原 道子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		小児看護学Ⅰ	2後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	
102	兼担	講師	サトリ シンゴ 佐藤 信吾 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		緩和ケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 講師 （平成28年1月）	
103	兼担	講師	ホシカワ スム 細川 奨 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		小児看護学Ⅰ	2後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年6月）	
104	兼担	講師	ヤマギチ クミコ 山口 久美子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成23年4月）	
105	兼担	講師	ヤマモト マサヒデ 山本 正英 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 講師 （平成30年4月）	
106	兼担	講師	ジトク タイスケ 治徳 大介 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和2年4月）	
107	兼担	講師	コミヤ チカラ 小宮 力 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	
108	兼担	講師	オノ ヒロアキ 小野 宏晃 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年11月）	
109	兼担	講師	タニ ユカ 谷 友香子 ＜令和6年10月＞		博士 （生物科学）		疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年7月）	
110	兼担	講師	ナカガワ ツヨシ 中川 剛士 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 講師 （平成27年4月）	
111	兼担	講師	セキ ナホ 關 奈央子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		Applied Critical Thinking for Health Sciences オンライン異文化交流	1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
112	兼担	助教	イワタ ノリコ 岩田 乃理子 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年1月）	
113	兼担	助教	クワハラ ヒロフミ 桑原 宏文 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （令和元年10月）	
114	兼担	助教	イガラシ タケ 五十嵐 多恵 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年7月）	
115	兼担	助教	サトリ ヒロユキ 佐藤 宏征 ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		臨床試験方法論応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
116	兼担	助教	ヤマギチ カスヤ 山口 和哉 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
117	兼担	助教	カシマダ アヤコ 鹿島田 彩子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ 入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	

118	兼担	助教	カヅマ トシユキ 勝又 敏行 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
119	兼担	助教	マツモト ユキヒサ 松本 幸久 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		生物学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 4通 1前	2 1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年2月）	
120	兼担	助教	マツモト ユキコ 松本 有紀子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和元年12月）	
121	兼担	助教	ヌマサワ ミツユキ 沼沢 益行 ＜令和6年10月＞		学士 （医 学）学 士（薬 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
122	兼担	助教	ウエキ ユカ 植木 穰 ＜令和6年10月＞		学士 （医 学）		災害看護学	2後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
123	兼担	助教	スサ コウイチロウ 須佐 紘一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年11月）	
124	兼担	助教	ストウ タクアキ 須藤 毅顕 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		AI・データサイエンスの ための数学 医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用 AI実践演習	1後 1後 2前 2通	2 2 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年9月）	
125	兼担	助教	シミズ カス・ヒデ 清水 一秀 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年6月）	
126	兼担	助教	イシマル ミホ 石丸 美穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		AI・データサイエンスの ための数学 医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用 AI実践演習 口腔疫学基礎 疫学応用	1後 1後 2前 2通 2通 1前 1後	2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
127	兼担	助教	イシカワ ユウタロウ 石川 雄大 ＜令和6年10月＞		学士 （医 学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
128	兼担	助教	アカサ ミホ 赤座 実穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	
129	兼担	助教	ソウ ヒタン 曹 日丹 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		AI・データサイエンスの ための数学 医療とAI・ビッグデータ 入門 医療とAI・ビッグデータ 応用 AI実践演習	1後 1後 2前 2通	2 2 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	

130	兼担	助教	リタケ カナ 則武 加奈子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
131	兼担	助教	オオハシ メグミ 大畑 めぐみ ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
132	兼担	助教	タニガハ トシロウ 谷岡 利朗 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年2月）	
133	兼担	助教	タムラ タケヒロ 田村 起紘 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成28年7月）	
134	兼担	助教	トイ サトミ 土井 理美 ＜令和6年10月＞		博士 （臨床心理学）		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	
135	兼担	助教	フジシロ ヒトミ 藤代 瞳 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		解剖学 生理学	1後 2前	3 3	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
136	兼担	助教	イタダ ヨリツグ 飯田 頼嗣 ＜令和6年10月＞		修士 （理学）		アントレプレナー教育	2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年1月）	
137	兼担	助教	ソエジマ ユリエ 副島 友莉恵 ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		病理学	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年4月）	
138	兼担	助教	キノ シホ 木野 志保 ＜令和6年10月＞		PhD in Epidemiology and Public Health		口腔疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
139	兼担	助教	ノザト ジュンコ 野里 洵子 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		緩和ケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	
140	兼担	助教	スズキ ヒトミ 鈴木 瞳 ＜令和6年10月＞		博士 （口腔保健福祉学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
141	兼担	助教	サイノウ カズキ 齊藤 和毅 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		周産看護学Ⅰ	3前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
142	兼担	医療技術職員	ムラセ ユキコ 村瀬 有紀子 ＜令和6年10月＞		修士 （教育学）		小児看護学Ⅱ	3前	1	1	東京医科歯科大学 医療技術職員 （平成26年4月）	
143	兼担	看護師長	イワクラ トシコ 岩倉 俊子 ＜令和6年10月＞		短大士号（看護学）		緩和ケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 看護師長 （令和4年4月）	
144	兼担	看護師長	ヤマグチ サオリ 山口 さおり ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		看護マネジメント学	4前	1	1	東京医科歯科大学 看護師長 （平成30年4月）	
145	兼担	看護師長	オササ ユカ 小笹 由香 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		卒業論文Ⅰ	3通	1	1	東京医科歯科大学 看護師長 （平成28年4月）	
146	兼担	看護師長	マツカ ヒロミ 松岡 裕美 ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 看護師長 （令和2年4月）	

147	兼担	看護部長	アカ エミコ 浅香 えみ子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		看護マネジメント学	4前	1	1	東京医科歯科大学 看護部長 （令和3年10月）	
148	兼担	言語聴覚士	イズミダ リカ 泉田 陸 ＜令和6年10月＞		専門士		リハビリテーション看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 言語聴覚士 （平成30年3月）	
149	兼担	主任精神保健福祉士	カネコ ヨシミ 金子 慈史 ＜令和6年10月＞		学士 （人間福祉学）		心の健康と看護Ⅱ	2後	1	1	東京医科歯科大学 主任精神保健福祉士 （令和3年4月）	
150	兼担	助産師	タムラ ユキ 高村 ゆ希 ＜令和6年10月＞		学士 （教育学）		災害看護学	2後	1	1	東京医科歯科大学 助産師 （令和2年4月）	
151	兼担	副看護師長	アマミヤ テルミ 雨宮 輝美 ＜令和6年10月＞		専門士		老年看護学演習	3前	1	1	東京医科歯科大学 副看護師長 （令和3年4月）	
152	兼担	理学療法技師長	オカヤス タシ 岡安 健 ＜令和6年10月＞		専門士		基盤看護学演習Ⅰ リハビリテーション看護学	2前 3前	2 1	1 1	東京医科歯科大学 理学療法技師長 （平成31年4月）	
153	兼担	助教	ウダガワリ トモヒロ 宇田川 智宏 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		小児看護学Ⅰ	2後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成24年4月）	
154	兼任	非常勤講師	アノ エル エックハート Ann L Eckhardt ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		国際保健看護学Ⅱ	4前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
155	兼任	非常勤講師	カールソン レベッカ リン Carlson Rebecca Lynn ＜令和6年10月＞		博士 （人類学）		Biosocial Research Topics	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
156	兼任	非常勤講師	オム スンジェ EOM SEUNGJAE ＜令和6年10月＞		修士 （理学）		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
157	兼任	非常勤講師	リュウ ヤリ シジャステイ LIU Yat Wa Justina ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		実践看護英語Ⅰ 実践看護英語Ⅱ 実践看護英語Ⅲ	2前 3前 4前	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
158	兼任	非常勤講師	アヤハセ アキエ 綾部 明江 ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		健康教育学演習 公衆衛生看護学演習	2前 4通	1 3	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
159	兼任	非常勤講師	イセダ アキコ 伊勢田 暁子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		看護制度論	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
160	兼任	非常勤講師	イムラ マスミ 井村 真澄 ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		周産看護学Ⅰ 周産看護学演習	3前 3前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
161	兼任	非常勤講師	イツハセ テツ 磯部 哲 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
162	兼任	非常勤講師	ウダガワリ マコト 宇田川 誠 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 4通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
163	兼任	非常勤講師	ウラオ ユウコ 浦尾 悠子 ＜令和6年10月＞		博士 （小児発達学）		精神看護学演習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

164	兼任	非常勤講師	ナカヨシ ミチエ 永吉 美智枝 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		小児看護学Ⅱ	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
165	兼任	非常勤講師	ナカタ ユキコ 永田 夕紀子 ＜令和6年10月＞		修士 (グローバル研究)		スペイン語Ⅱ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
166	兼任	非常勤講師	エノモト リョウコ 榎本 涼子 ＜令和6年10月＞		学士 (社会福祉学)		公衆衛生看護学Ⅱ	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
167	兼任	非常勤講師	オシモト カズトシ 押元 一敏 ＜令和6年10月＞		修士 (芸術学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
168	兼任	非常勤講師	カシノ シンヤ 加地 真也 ＜令和6年10月＞		学士 (体育)		フィットネスマネジメント	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
169	兼任	非常勤講師	カワイ ラン 河合 蘭 ＜令和6年10月＞		高等学校卒業		周産看護学演習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
170	兼任	非常勤講師	ハナデ マサミ 花出 正美 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		成人看護学	2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
171	兼任	非常勤講師	マルヤマ アカネ 丸山 あかね ＜令和6年10月＞		修士 (経営学)		公衆衛生看護学Ⅲ	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
172	兼任	非常勤講師	イワモト タイキ 岩本 大希 ＜令和6年10月＞		修士 (看護学)		在宅看護学Ⅰ	2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
173	兼任	非常勤講師	キクチ ヒロユキ 菊池 宏幸 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		公衆衛生看護学Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅲ	3前 4前	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
174	兼任	非常勤講師	クボタ コト 久保田 木都 ＜令和6年10月＞		学士 (美術)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
175	兼任	非常勤講師	ミヤザキ サチエ 宮崎 幸江 ＜令和6年10月＞		博士 (Linguistics)		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
176	兼任	非常勤講師	ミヤタ ヨシヤ 宮田 義矢 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		宗教学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
177	兼任	非常勤講師	ミヤモト ユキ 宮本 有紀 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)		心の健康と看護Ⅱ	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
178	兼任	非常勤講師	コライ アスカ 牛來 明日香 ＜令和6年10月＞		修士 (体育科学)		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
179	兼任	非常勤講師	コマカ タモコ 駒形 朋子 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		国際保健看護学Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
180	兼任	非常勤講師	クマガイ ユミ 熊谷 祐美 ＜令和6年10月＞		修士 (看護学)		小児看護学Ⅱ	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

181	兼任	非常勤講師	ｸﾘﾀ ｹｲｺ 栗田 圭子 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
182	兼任	非常勤講師	ｺﾝﾉｶﾐ ﾏﾔﾐ 権守 礼美 ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		小児看護学Ⅱ	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
183	兼任	非常勤講師	ﾌﾙﾏﾔ ﾄﾓﾐ 古厩 智美 ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		クリティカルケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
184	兼任	非常勤講師	ﾌﾙｶﾜ ｹｲｺ 古川 高子 ＜令和6年10月＞		修士 （学術）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
185	兼任	非常勤講師	ｺﾄﾚ ﾏﾂｺ 後藤 敦子 ＜令和6年10月＞		博士 （人文科学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
186	兼任	非常勤講師	ｺｳﾓﾄ ｹｲｺ 幸本 敬子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		小児の健康と看護	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
187	兼任	非常勤講師	ｺｳｶﾞﾏ ﾏﾅﾋﾛ 甲賀 真広 ＜令和6年10月＞		博士 （日本語教育学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
188	兼任	非常勤講師	ｱﾗｶﾜ ﾋﾛﾘ 荒川 裕紀 ＜令和6年10月＞		博士 （文学）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
189	兼任	非常勤講師	ｱﾗｷ ﾏﾂｼ 荒木 聡 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		小児看護学Ⅰ	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
190	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾏﾙ ｹｲ 高丸 慶 ＜令和6年10月＞		修士 （健康管理学・デジタルコンテンツマネジメント）		在宅看護学Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
191	兼任	非常勤講師	ﾀｶｹ ﾚﾅ 高久 玲音 ＜令和6年10月＞		博士 （商学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
192	兼任	非常勤講師	ｺｼﾓﾄ ﾏｵﾘ 腰本 さおり ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		栄養学	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
193	兼任	非常勤講師	ﾈﾂﾄ ﾏｷ 根本 真紀 ＜令和6年10月＞		学士 （法学）		公衆衛生看護学Ⅱ	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
194	兼任	非常勤講師	ｻｷｷ ﾐﾂﾔ 佐々木 充文 ＜令和6年10月＞		博士 （文学）		スペイン語Ⅰ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
195	兼任	非常勤講師	ｻﾄｳ ﾏｲ 佐藤 舞 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		心理学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
196	兼任	非常勤講師	ｻｻﾉｲ ﾓﾓ 笹野井 もも ＜令和6年10月＞		修士 （美術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

197	兼任	非常勤講師	サカ マサヒロ 三家 雅弘 ＜令和6年10月＞		修士 (理工学)		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
198	兼任	非常勤講師	ミカミ リョウ 三上 亮 ＜令和6年10月＞		修士 (美術学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
199	兼任	非常勤講師	ミタニ ジュンコ 三谷 純子 ＜令和6年10月＞		修士 (Communications学)		文化人類学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
200	兼任	非常勤講師	ミキ タカヒロ 三木 崇弘 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
201	兼任	非常勤講師	サンショウ マキコ 三條 真紀子 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		緩和ケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
202	兼任	非常勤講師	ヤマグチ シノブ 山口 忍 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		公衆衛生看護学Ⅲ	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
203	兼任	非常勤講師	ヤマカ モトハル 山中 源治 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		クリティカルケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
204	兼任	非常勤講師	カシマダ ユウコ 鹿島田 祐子 ＜令和6年10月＞		学士 (看護学)		公衆衛生看護学Ⅰ	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
205	兼任	非常勤講師	ムロタ ナホ 室田 尚子 ＜令和6年10月＞		修士 (芸術学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
206	兼任	非常勤講師	ワカマツ コウイチロウ 若松 功一郎 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
207	兼任	非常勤講師	コイケ ユキコ 小出 由紀子 ＜令和6年10月＞		博士 (人間学)		小児の健康と看護	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
208	兼任	非常勤講師	オノ マコト 小野 真 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		小児看護学Ⅰ	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
209	兼任	非常勤講師	マツモト トシヒコ 松本 俊彦 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		心の健康と看護Ⅱ	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
210	兼任	非常勤講師	マツモト ミヤ 松本 美耶 ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
211	兼任	非常勤講師	アライ クミコ 新井 久美子 ＜令和6年10月＞		修士 (人間科学)		公衆衛生看護学Ⅲ	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
212	兼任	非常勤講師	ジンダテ リョウタ 陣立 良太 ＜令和6年10月＞		修士 (看護学)		心の健康と看護Ⅱ	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
213	兼任	非常勤講師	スギノ ユウコ 杉野 祐子 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		成人看護学	2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

214	兼任	非常勤講師	セト マミ 瀬戸 愛 ＜令和6年10月＞		短期大学卒業		周産看護学演習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
215	兼任	非常勤講師	ナリタ ヒロキ 成田 大起 ＜令和6年10月＞		修士 （政治学）		社会思想史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
216	兼任	非常勤講師	シミズ サトシ 清水 智史 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
217	兼任	非常勤講師	シミズ ヨコ 清水 洋子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		公衆衛生看護学Ⅲ	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
218	兼任	非常勤講師	ニシカワ ラン 西川 蘭 ＜令和6年10月＞		博士 （文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
219	兼任	非常勤講師	アオキ リエコ 青木 利江子 ＜令和6年10月＞		修士 （福祉総合）		保健医療福祉制度論	2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
220	兼任	非常勤講師	アサヒ クルミ 浅海 くるみ ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		緩和ケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
221	兼任	非常勤講師	マエタ コウスケ 前田 耕助 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		基盤看護学Ⅰ 基盤看護学演習Ⅰ	2前 2前	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
222	兼任	非常勤講師	クラモチ ジン 倉持 仁 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
223	兼任	非常勤講師	ムラヤマ リコ 村山 紀子 ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		老年看護学	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
224	兼任	非常勤講師	ムラタ チサエ 村田 知佐恵 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		小児看護学Ⅰ	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
225	兼任	非常勤講師	オオタ ケイト 太田 岳人 ＜令和6年10月＞		博士 （文学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
226	兼任	非常勤講師	オオカ ヨキ 大賀 祐樹 ＜令和6年10月＞		博士 （学術）		哲学 倫理学	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
227	兼任	非常勤講師	オオクラ ヒロキ 大倉 韻 ＜令和6年10月＞		修士 （社会学）		社会学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
228	兼任	非常勤講師	オオタ アキコ 大田 章子 ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		在宅看護学Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
229	兼任	非常勤講師	タニグチ ユキコ 谷口 由紀子 ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		在宅看護学Ⅰ 在宅看護学Ⅱ	2後 3前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
230	兼任	非常勤講師	ナカガチ エツシ 中口 悦史 ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		統計学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

231	兼任	非常勤講師	カネ ナコ 中根 直子 ＜令和6年10月＞		修士 (助産学)		周産看護学演習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
232	兼任	非常勤講師	カヤマ トシテ 中山 俊秀 ＜令和6年10月＞		博士 (言語学)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
233	兼任	非常勤講師	カノ アイコ 中野 愛子 ＜令和6年10月＞		修士 (看護学)		産業保健学	4前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
234	兼任	非常勤講師	カズマ ヨシイ 長沼 洋一 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
235	兼任	非常勤講師	ハセガワ コスエ 長谷川 梢 ＜令和6年10月＞		学士 (看護学)		産業保健学	4前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
236	兼任	非常勤講師	ナガオ サチコ 長尾 祥子 ＜令和6年10月＞		修士 (看護学)		老年看護学	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
237	兼任	非常勤講師	ツギキ マサオ 津垣 正男 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
238	兼任	非常勤講師	タハラ シンジ 田原 慎二 ＜令和6年10月＞		博士 (経済学)		経済学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
239	兼任	非常勤講師	タナカ アサヒ 田中 丹史 ＜令和6年10月＞		修士 (学術)		科学史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
240	兼任	非常勤講師	ワタナベ ジュンイチ 渡辺 純一 ＜令和6年10月＞		修士 (看護学)		心の健康と看護Ⅰ	2前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
241	兼任	非常勤講師	ワタナベ カズキ 渡辺 数基 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
242	兼任	非常勤講師	フジイ シュンゴ 藤井 俊吾 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
243	兼任	非常勤講師	フジワラ ナオキ 藤原 直之 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
244	兼任	非常勤講師	フジエタケ フミエ 藤枝 史江 ＜令和6年10月＞		博士 (人文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
245	兼任	非常勤講師	トケヒサ ミコ 徳久 美生子 ＜令和6年10月＞		博士 (社会学)		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
246	兼任	非常勤講師	ウメダ アヤ 梅田 亜矢 ＜令和6年10月＞		博士 (看護学)		成人看護学	2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
247	兼任	非常勤講師	イタゴシ マサヒコ 板越 正彦 ＜令和6年10月＞		修士 (国際経営学)		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

248	兼任	非常勤講師	イイダ スケル 飯田 卓 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 4通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
249	兼任	非常勤講師	トビタ アヤコ 飛田 綾子 ＜令和6年10月＞		修士 （政治学）		法学 憲法	1前 1～4前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
250	兼任	非常勤講師	オモテ カカリ 表 孝憲 ＜令和6年10月＞		修士 （経営学）		アントレプレナー教育	2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
251	兼任	非常勤講師	ヒラハラ サトシ 平原 佐斗司 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		緩和ケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
252	兼任	非常勤講師	ヒラハタ コウイチ 平畑 光一 ＜令和6年10月＞		学士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
253	兼任	非常勤講師	ミヅタ トシヒコ 峰尾 俊彦 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
254	兼任	非常勤講師	モチヅキ タツル 望月 太敦 ＜令和6年10月＞		学士 （社会福祉学）		高齢者の健康と看護	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
255	兼任	非常勤講師	ホンダ マサカズ 本田 雅一 ＜令和6年10月＞		学士 （経済）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
256	兼任	非常勤講師	オモテ カズヤ 面 一也 ＜令和6年10月＞		修士 （政治学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 4通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
257	兼任	非常勤講師	キト ヨシフミ 木戸 芳史 ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		心の健康と看護Ⅱ	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
258	兼任	非常勤講師	ノグチ ヒロト 野口 大斗 ＜令和6年10月＞		修士 （学術）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
259	兼任	非常勤講師	ノムラ マサコ 野村 政子 ＜令和6年10月＞		修士 （学術）		公衆衛生看護学Ⅲ	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
260	兼任	非常勤講師	ヤトミ ユミコ 矢富 有見子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		成人看護学	2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
261	兼任	非常勤講師	スズキ セイゴ 鈴木 征吾 ＜令和6年10月＞		博士 （保健学）		小児看護学Ⅱ	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
262	兼任	非常勤講師	クニイ オサム 國井 修 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
263	兼任	非常勤講師	クオン デンソン 權 大聖 ＜令和6年10月＞		博士 （現代アジア研究）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
264	兼任	非常勤講師	ウスラハシ タツナリ 鵜橋 辰成 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

265	兼任	非常勤講師	タカハシ ユミホ 高橋 優美穂 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		アカデミック・リテラシー	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
266	兼任	非常勤講師	ベルチェ アドリアン BERCEA ADRIAN ＜令和6年10月＞		博士 （文学）		Japanese Culture and Society	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
267	兼任	非常勤講師	コーリス ジョナサン CORLISS JONATHAN ＜令和6年10月＞		修士 （人類学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ 実践看護英語Ⅰ 実践看護英語Ⅱ 実践看護英語Ⅲ	1通 2・3・4 通 2前 3前 4前	6 1～4 1 1 1	6 1 1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
268	兼任	非常勤講師	イクバル プラムクティ Iqbal Pramukti ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		実践看護英語Ⅰ 実践看護英語Ⅱ 実践看護英語Ⅲ	2前 3前 4前	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
269	兼任	非常勤講師	リットン クリストファー トンプソン LITTEN CHRISTOPHER T ＜令和6年10月＞		修士 （教育学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
270	兼任	非常勤講師	ミヤ マルツカ MIYA MARUTSUKA ＜令和6年10月＞		学士 （環境資源科学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4 通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
271	兼任	非常勤講師	リート ジェシー ライアン Reed Jesse Ryan ＜令和6年10月＞		修士 （教育学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4 通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
272	兼任	非常勤講師	ウマリ アンパロ アデリナ Umali Amparoadelina ＜令和6年10月＞		博士 （国文学）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
273	兼任	非常勤講師	エン カキ YANJIAQI ＜令和6年10月＞		修士 （言語学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
274	兼任	非常勤講師	エントウ ジュンジ 遠藤 順治 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
275	兼任	非常勤講師	ヨコヤマ イズミ 横山 泉 ＜令和6年10月＞		博士 （経済学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
276	兼任	非常勤講師	ヨコヤマ テツジ 横山 徹爾 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		疫学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
277	兼任	非常勤講師	カサハラ リョウジ 笠原 良士 ＜令和6年10月＞		高等学校卒業		性と生殖と健康と看護	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
278	兼任	非常勤講師	ミヤタ ヨコ 宮下 陽子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		リハビリテーション看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
279	兼任	非常勤講師	コトウ トモミ 後藤 友美 ＜令和6年10月＞		修士 （医療政策学）		看護制度論	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
280	兼任	非常勤講師	タカハシ ユミホ 高橋 優美穂 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
281	兼任	非常勤講師	タカツ イズミ 高松 泉 ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		公衆衛生看護学Ⅲ	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

282	兼任	非常勤講師	ウルハラ ヒサシ 漆原 尚巳 ＜令和6年10月＞		博士 （社会健康医学）		生物統計学応用Ⅱ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
283	兼任	非常勤講師	シハタ オグサ 芝田 おぐさ ＜令和6年10月＞		修士 （公衆衛生学）		看護制度論	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
284	兼任	非常勤講師	オケラ アキコ 小倉 朗子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		公衆衛生看護学Ⅲ	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
285	兼任	非常勤講師	ニイツ コウスケ 新津 晃右 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		実践看護英語Ⅰ 実践看護英語Ⅱ 実践看護英語Ⅲ	2前 3前 4前	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
286	兼任	非常勤講師	ミスノ テツヤ 水野 哲也 ＜令和6年10月＞		修士 （体育学）		フィジカルウェルビーイング*	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
287	兼任	非常勤講師	ホシノ タカヒロ 星野 崇宏 ＜令和6年10月＞		博士 （学術）博士 （経済学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
288	兼任	非常勤講師	アキ ハルエ 青木 春江 ＜令和6年10月＞		修士 （看護学）		成人看護学演習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
289	兼任	非常勤講師	イツヅカ カズミ 石塚 紀美 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		クリティカルケア看護学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
290	兼任	非常勤講師	カカミ チナル 川上 千春 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ	1前 2前	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
291	兼任	非常勤講師	タツミ タカユキ 辰巳 嵩征 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		性と生殖と健康と看護 周産看護学Ⅰ	3前 3前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
292	兼任	非常勤講師	シマザキ サトコ 島崎 聡子 ＜令和6年10月＞		学士 （栄養学）		小児の健康と看護	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
293	兼任	非常勤講師	フカリ アユミ 布川 あゆみ ＜令和6年10月＞		博士 （社会学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
294	兼任	非常勤講師	ハツトリ サトシ 服部 聡 ＜令和6年10月＞		博士 （臨床統計学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
295	兼任	非常勤講師	ヒラミツ シロウ 平光 史朗 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		病態学	2通	5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
296	兼任	非常勤講師	ノマ ヒサシ 野間 久史 ＜令和6年10月＞		博士 （統計数理学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
297	兼任	非常勤講師	モゲシ カオル 茂櫛 薫 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

教 員 の 氏 名 等													
(医学部保健衛生学科検査技術学専攻)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務 に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
1	専任	教授	イトリミ 伊藤 南 ＜令和6年10月＞		博士 (工 学)		医用システム情報学講義(Ⅰ) 医用システム情報学講義(Ⅱ) 医用システム情報学実習(Ⅰ) 医用システム情報学実習(Ⅱ) 臨床検査総合管理学 医学情報処理演習(Ⅰ) 医学情報処理演習(Ⅱ) 医療概論・関係法規 総合講義 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ) 生命理工学概論	1後 3前 2前 3前 1後 2後 4前 4前 4通 3後 3後 4前 2・3後		1 1 1 1 1.5 1 1 1 1 2 12 1 1 6 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	5日
2	専任	教授	ナシマ セイ 柿沼 晴 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		臨床生理検査学講義(Ⅰ) 臨床生理検査学講義(Ⅱ) 臨床生理検査学実習(Ⅰ) 臨床生理検査学実習(Ⅱ) 医療概論・関係法規 臨床病態学(Ⅱ) 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ) アドバンスド生理機能検査学 心電図判読	2後 3前 2後 3前 4前 4前 1前 2前 4前 3後 3後 4前 3・4後 3・4前		2 2 3 2 1 2 0.5 0.5 1 12 1 6 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2	東京医科歯科大学 教授 (令和2年6月)	5日
3	専任	教授	スミ ユキ 角 勇樹 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		臨床生理検査学講義(Ⅰ) 臨床生理検査学講義(Ⅱ) 臨床生理検査学実習(Ⅰ) 臨床生理検査学実習(Ⅱ) 臨床検査総合管理学 医療概論・関係法規 臨床病態学(Ⅰ) 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ) アドバンスド生理機能検査学 AI実践演習 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	2後 3前 2後 3前 1後 4前 2前 3後 3後 4前 3・4後 2・4通 1後 2・3・4 2・4通		2 2 3 2 1.5 1 2 12 1 6 1 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年4月)	5日
4	専任	教授	ホシ オサム 星 治 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		人体構造学講義 人体構造学実習 生理学講義 生理学実習 医療概論・関係法規 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ)	1通 2前 2前 2後 4前 3後 3後 4前		3 1 3 1 1 12 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	5日

5	専任	教授	オカリ リョウノスケ 大川 龍之介 ＜令和6年10月＞	博士 (理学)		分析化学検査学Ⅰ 分析化学検査学Ⅱ 分析化学検査学Ⅲ 臨床検査総合管理学 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ 臨地実習 卒業研究（Ⅰ） 卒業研究（Ⅱ） Learning Medical English	1後 2通 3前 1後 1前 2前 4前 3後 3後 4前 2・3・4後	2 4 3 1.5 0.5 0.5 1 1 1 6 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 3	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	5日
6	専任	教授	サイトウ リョウイチ 齋藤 良一 ＜令和6年10月＞	博士 (保健学)		病原体検査学講義（Ⅰ） 病原体検査学講義（Ⅱ） 病原体検査学実習（Ⅱ） 免疫検査学講義 臨床検査総合管理学 医療概論・関係法規 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ 臨地実習 卒業研究（Ⅰ） 卒業研究（Ⅱ）	1後 3前 3前 2後 1後 4前 1前 2前 4前 3後 3後 4前	1 3 2 3 1.5 1 0.5 0.5 1 12 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年7月)	5日
7	専任	准教授	ニシオ ミロコ 西尾 美和子 ＜令和6年10月＞	博士 (保健学)		血液検査学講義 血液検査学実習 臨床検査総合管理学 公衆衛生学講義 公衆衛生学実習 医療概論・関係法規 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ 臨地実習 卒業研究（Ⅰ） 卒業研究（Ⅱ） 短期海外研修A 短期海外研修B 短期海外研修C 短期海外研修D	2後 3前 1後 4前 4前 4前 1前 2前 4前 3後 3後 4前 1通 2通 3通 4通	2 2 1.5 2 1 1 0.5 0.5 1 12 1 6 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和元年5月)	5日
8	専任	准教授	タカ コキエ 田中 ゆきえ ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		免疫検査学講義 免疫検査学実習 臨地実習 卒業研究（Ⅰ） 卒業研究（Ⅱ）	2後 3前 3後 3後 4前	3 2 12 1 6	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和4年5月)	5日
9	専任	准教授	ススキ ノブハル 鈴木 喜晴 ＜令和6年10月＞	博士 (地球環境科学)		生化学講義（Ⅰ） 生化学講義（Ⅱ） 生化学実習 遺伝子・染色体検査学講義 遺伝子検査学実習 医療概論・関係法規 臨地実習 卒業研究（Ⅰ） 卒業研究（Ⅱ）	1後 2前 2後 2前 3前 4前 3後 3後 4前	2 1 1 2 1 1 12 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成26年2月)	5日
10	専任	助教	カメタ カキヒロ 亀田 貴寛 ＜令和6年10月＞	博士 (保健学)		分析化学検査学Ⅰ 分析化学検査学Ⅱ 分析化学検査学Ⅲ 医療概論・関係法規 臨地実習 卒業研究（Ⅰ） 卒業研究（Ⅱ）	1後 2通 3前 4前 3後 3後 4前	2 4 3 1 12 1 6	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和元年10月)	5日
11	専任	助教	ヤマカチ シンシ 山口 純司 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		臨床生理検査学講義（Ⅰ） 臨床生理検査学講義（Ⅱ） 臨床生理検査学実習（Ⅰ） 臨床生理検査学実習（Ⅱ） 臨床病態学（Ⅱ） 臨地実習 卒業研究（Ⅰ） 卒業研究（Ⅱ） アドバンスド生理機能検査学	2後 3前 2後 3前 4前 3後 3後 4前 3・4後	2 2 3 2 2 12 1 6 1	1 1 1 1 1 1 1 1 2	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	5日

12	専任	助教	アサヅミ 実穂 赤座 実穂 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		臨床生理検査学講義(Ⅰ) 臨床生理検査学講義(Ⅱ) 臨床生理検査学実習(Ⅰ) 臨床生理検査学実習(Ⅱ) 医療概論・関係法規 臨床病理学(Ⅰ) 臨床病理学(Ⅱ) 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ) アドバンスド生理機能検査学 Learning Medical English	2後 3前 2後 3前 2後 4前 2前 4前 3後 3後 3後 4前 3・4後 2・3・4後	2 2 3 2 1 2 2 2 12 1 6 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 3	東京医科歯科大学 助教 (平成29年4月)	5日
13	専任	助教	オホタ ユウスケ 太田 悠介 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		病原体検査学実習(Ⅱ) 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ) Learning Medical English	3前 3後 3後 4前 2・3・4後	2 12 1 6 1	1 1 1 1 3	東京医科歯科大学 助教 (令和3年3月)	5日
14	専任	助教	フジシロ ヒトミ 藤代 瞳 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		人体構造学講義 人体構造学実習 生理学講義 生理学実習 医療概論・関係法規 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ) 心電図判読	1通 2前 2前 2後 4前 3後 3後 4前 3・4前	3 1 3 1 1 12 1 6 1	1 1 1 1 1 1 1 1 2	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	5日
15	専任	助教	ソエジマ ユリエ 副島 友莉恵 ＜令和6年10月＞	博士 (保健学)		病理検査学講義(Ⅰ) 病理検査学講義(Ⅱ) 病理検査学実習 臨床検査総合管理学 医療概論・関係法規 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ) Learning Medical English	1後 2通 2後 1後 4前 3後 3後 4前 2・3・4後	1 3 2 1.5 1 12 1 6 1	1 1 1 1 1 1 1 1 3	東京医科歯科大学 助教 (平成27年4月)	5日
16	専任	助教	ホンマ サトル 本間 達 ＜令和6年10月＞	博士 (保健学)		医用システム情報学実習(Ⅰ) 医用システム情報学実習(Ⅱ) 医療概論・関係法規 臨地実習 卒業研究(Ⅰ) 卒業研究(Ⅱ)	2前 3前 4前 3後 3後 4前	1 1 1 12 1 6	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成19年4月)	5日
17	兼任	教授	バウ ミン BAO MIN ＜令和6年10月＞	修士 (社会福祉学)		国際地域文化入門 人文社会科学特論 フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 1前	2 2 2 2 2 2 1 2 1 1 1.5	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	
18	兼任	教授	ハク ヘウォン PARK HEEWON ＜令和6年10月＞	博士 (理学)		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2・3・4前 1後	2 1 1	2 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年6月)	
19	兼任	教授	イトリ マサリ 伊藤 正則 ＜令和6年10月＞	博士 (理学)		生物学入門 生物学 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 1前	1 2 1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成22年4月)	
20	兼任	教授	イタカ ケイジ 位高 啓史 ＜令和6年10月＞	博士 (医学)		生命理工学概論	2・3後	1	2	東京医科歯科大学 教授 (平成29年4月)	
21	兼任	教授	カガキ ヒロユキ 影近 弘之 ＜令和6年10月＞	博士 (薬学)		生命理工学概論	2・3後	1	2	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	

22	兼担	教授	カシノ ヒロカズ 梶 弘和 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年10月）	
23	兼担	教授	カベキリ ユウジ 樺沢 勇司 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	
24	兼担	教授	キシカテ アキオ 岸田 晶夫 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
25	兼担	教授	ヨシダ ナミ 吉田 直美 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年9月）	
26	兼担	教授	タムラ ヒロカズ 玉村 啓和 ＜令和6年10月＞		博士 （薬 学）		生命理工学概論	2・3後	1	2	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
27	兼担	教授	カサヅリ マサフ 金澤 学 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年5月）	
28	兼担	教授	クニ ヨシアキ 具 芳明 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病原体検査学講義（Ⅰ）	1後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
29	兼担	教授	ササキ ヨシコ 佐々木 吉子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年4月）	
30	兼担	教授	ハシナ イヒサオ 坂内 英夫 ＜令和6年10月＞		博士 （情報 理工学）		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用	1後 2・3・4 前	2 1	2 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
31	兼担	教授	ササノ テヲ 佐野 哲郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		心臓生理学	2・3・4 後	1	3	東京医科歯科大学 教授 （令和元年6月）	
32	兼担	教授	ミツバヤシ コウジ 三林 浩二 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
33	兼担	教授	オガタ ヤスコ 緒方 泰子 ＜令和6年10月＞		博士 （保健 学）		公衆衛生学講義 公衆衛生学実習	4前 4前	2 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
34	兼担	教授	モリ ヒロキ 森 弘樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成30年10月）	
35	兼担	教授	シズミ ヒデユキ 清水 秀幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2・3・4 前 1後	2 1 1	2 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年2月）	
36	兼担	教授	アベキ カズヒロ 青木 和広 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	
37	兼担	教授	イシノ トモコ 石野 智子 ＜令和6年10月＞		博士 （薬 学）		病原体検査学実習（Ⅰ）	2後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年8月）	
38	兼担	教授	カワシタ マサス 川下 将一 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		生命理工学概論	2・3後	1	2	東京医科歯科大学 教授 （平成31年4月）	
39	兼担	教授	アベタ シュン 相田 潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年8月）	

40	兼任	教授	オホシ ケンイチ 大橋 健一 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		病理検査学講義（Ⅰ） 病理検査学講義（Ⅱ）	1後 2通	1 3	1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年7月)	
41	兼任	教授	オシマ シゲル 大島 茂 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年5月)	
42	兼任	教授	イケチ マサシ 池内 真志 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 教授 (令和3年10月)	
43	兼任	教授	タケチ カツキ 竹内 勝之 ＜令和6年10月＞		修士 (医科学)		アントレプレナー教育	2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 教授 (令和3年4月)	
44	兼任	教授	ナカジマ ヨシカズ 中島 義和 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 教授 (平成29年4月)	
45	兼任	教授	ナカバヤシ ジュン 中林 潤 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		数学Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用	1前 1通 1後 2通 2通 3通 1前 1後 1後 2 2・3・4 前	1 1 2 1 1 1 1.5 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
46	兼任	教授	アサカガ タカヒロ 朝蔭 孝宏 ＜令和6年10月＞		博士 (生物科学)		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	
47	兼任	教授	ツミ タカシ 堤 剛 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	
48	兼任	教授	タカ マコト 田中 真琴 ＜令和6年10月＞		博士 (生物科学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成28年6月)	
49	兼任	教授	タナカ トシヒロ 田中 敏博 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		遺伝学	2・3・4 前	1	3	東京医科歯科大学 教授 (平成25年4月)	
50	兼任	教授	トリガ シュウジ 東田 修二 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		血液検査学講義 総合講義	2後 4通	2 2	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年9月)	
51	兼任	教授	フジイ タカオ 藤井 達夫 ＜令和6年10月＞		修士 (政治学)		人文社会科学概論 国際地域文化入門 政治学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1通 1後 2通 2通 3通 1前	2 2 2 1 1 2 1 1 1 1.5	2 2 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年1月)	
52	兼任	教授	フジワラ タカオ 藤原 武男 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		ポストコロナ社会における感 染症対策 疫学基礎	1・2・ 3・4通 1前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成28年4月)	
53	兼任	教授	ナラ マサユキ 奈良 雅之 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		化学入門 化学 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1通 1後 2通 2通 3通 1前	1 2 1 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成22年4月)	

54	兼任	教授	クロナギ カズヨ 畔柳 和代 ＜令和6年10月＞	修士 (学 術)		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 1前 1前 2前 4前 2・3・4 通	6 1 2 1 1 1.5 0.5 0.5 1 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成22年12月)	
55	兼任	教授	ヒラカワ アキヒロ 平川 晃弘 ＜令和6年10月＞	博士 (工 学)		医療とAI・ビッグデータ応用 臨床試験方法論基礎 臨床試験方法論応用	2・3・4 前 1前 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
56	兼任	教授	ヤスタ シンタ 保田 晋助 ＜令和6年10月＞	博士 (医 学)		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年1月)	
57	兼任	教授	キナシ アツヒロ 木下 淳博 ＜令和6年10月＞	博士 (歯 学)		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用	1後 2・3・4 前	2 1	2 1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
58	兼任	教授	キタニ マキコ 木谷 真紀子 ＜令和6年10月＞	博士 (国 文 学)		人文社会科学概論 国際地域文化入門 民俗学 文学 社会心理学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 1前 1後	2 2 2 2 2 1 2 1 1 1.5 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
59	兼任	教授	ヤシタ カズヨシ 柳下 和磨 ＜令和6年10月＞	博士 (医 学)		フィジカルウェルビーイング フィットネスマシント 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 1前	2 2 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年7月)	
60	兼任	教授	タデシ ウキヒデ 立石 宇貴秀 ＜令和6年10月＞	博士 (医 学)		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年10月)	
61	兼任	教授	ヒエタ ミツノリ 檜枝 光憲 ＜令和6年10月＞	博士 (理 学)		物理学入門 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ入門	1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 1前 1後	1 1 1 1 1 2 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	
62	兼任	教授	タカハシ クニヒコ 高橋 邦彦 ＜令和6年10月＞	博士 (理 学)		医療とAI・ビッグデータ入門 生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1後 1前 1後 1後	2 1 1 1	2 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
63	兼任	教授	タカタ カツキ 高田 和生 ＜令和6年10月＞	博士 (医 学)		Moral and Political Philosophy for Medicine Leadership Negotiation Design Thinking オンライン異文化交流	1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成24年12月)	
64	兼任	准教授	キャネル デイビット CANNELL DAVID ＜令和6年10月＞	PhD East Asian Languag es and Literat ures		教養選択科目	1通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成26年6月)	

65	兼担	准教授	ｼﾞｬﾈﾙ ﾙﾈｰ ﾓﾛｽ JANELLE RENEE MOROSS ＜令和6年10月＞		准学士 （看護）		System-based medical terminology I Diagnostic Procedures in English IMRAD Format Presentation in English	3前 4通 3, 4通	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年2月）	
66	兼担	准教授	ｼﾞｬﾈｯﾄ ｾﾞﾆｯｼｮﾝ JEANETTE DENNISSEN ＜令和6年10月＞		修士 （理学）		英語 I 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 1前 2・3・4 通	6 1 2 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成27年4月）	
67	兼担	准教授	ﾊﾟﾄﾘｯｸ ｳｵｽ PATRICK FOSS ＜令和6年10月＞		博士 （言語学）		英語 I 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 1前 2・3・4 通	6 1 2 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
68	兼担	准教授	ﾅｶﾞﾀ ﾏﾏｼ 永田 将司 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		薬理学	2後	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
69	兼担	准教授	ｺｼﾉ ｶｽﾞｷ 越野 和樹 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		物理学入門 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ入門	1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 1前 1後	1 1 1 1 1 2 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
70	兼担	准教授	ｺﾖｲ ﾀｵｼ 横井 太史 ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		生命理工学概論	2・3後	1	2	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年9月）	
71	兼担	准教授	ｵｶﾀﾞ ﾀｶﾔ 岡田 卓也 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		Fundamentals of Global Health	1・2・ 3・4通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
72	兼担	准教授	ｵｶﾓﾄ ﾖｼｷ 岡本 師 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年10月）	
73	兼担	准教授	ｲﾜｷ ﾏｲｺ 岩城 麻衣子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	
74	兼担	准教授	ｶﾈｺ ﾎｼﾞ 金子 英司 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
75	兼担	准教授	ｺﾞﾄｳ ﾂﾅﾔｽ 後藤 利保 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		分子生物学	2・3・4 前	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
76	兼担	准教授	ｲﾏﾅﾞ ﾖｺ 今津 陽子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
77	兼担	准教授	ｵﾉｷﾞ ﾂｼﾔ 小野木 真哉 ＜令和6年10月＞		博士 （科学）		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
78	兼担	准教授	ﾏﾂﾓﾄ ﾏｷﾗ 松元 亮 ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成23年3月）	

79	兼担	准教授	マウマ ユウスケ 松山 祐輔 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		口腔疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和4年8月)	
80	兼担	准教授	モリタ ケイイチ 森田 圭一 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		遺伝学	2・3・4 前	1	3	東京医科歯科大学 准教授 (令和3年11月)	
81	兼担	准教授	イシカワ トモリ 石川 智則 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 (令和元年10月)	
82	兼担	准教授	オオキ ミコ 大木 明子 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成23年4月)	
83	兼担	准教授	ナカガワ ミナ 中川 美奈 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成25年8月)	
84	兼担	准教授	イノカマ ケイコ 猪熊 恵子 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 2通 3通 1前 2・3・4 通	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成24年4月)	
85	兼担	准教授	ツルタ シンゴン 鶴田 潤 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成25年8月)	
86	兼担	准教授	トクナガ シンイチ 徳永 伸一 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		数学Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座 情報科学 医療とAI・ビッグデータ入門	1前 1通 1後 2通 2通 3通 1前 1前 1後	1 1 2 1 1 1 1.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 2	東京医科歯科大学 准教授 (平成19年4月)	
87	兼担	准教授	ナガノ ノブトシ 那波 伸敏 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医療とAI・ビッグデータ入門 ポストコロナ社会における感染症対策	1後 1・2・3・4通	2 1	2 1	東京医科歯科大学 准教授 (令和4年8月)	
88	兼担	准教授	アカシ タカミ 明石 巧 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		病理検査学講義（Ⅱ）	2通	3	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成25年8月)	
89	兼担	准教授	キムラ クヨシ 木村 剛 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 (平成25年8月)	
90	兼担	准教授	サワノ コリコ 澤野 頼子 ＜令和6年10月＞		博士 (農学)		化学入門 化学 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1通 1後 2通 3通 1前	1 2 1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 (平成22年4月)	
91	兼担	講師	アノサ イ タツヒコ 安齋 達彦 ＜令和6年10月＞		博士 (医療マネジメント学)		生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1前 1後 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年9月)	
92	兼担	講師	イシミ アヤ 伊角 彩 ＜令和6年10月＞		博士 (国際公共政策)		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年10月)	
93	兼担	講師	イトウ マイ 伊藤 真以 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		血液検査学講義	2後	2	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	

94	兼任	講師	イツィ ヤスヒロ 井津井 康浩 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ 医療とAI・ヒューマンデータ入門	1前 2前 4前 1後	0.5 0.5 1 2	1 1 1 2	東京医科歯科大学 講師 (平成25年4月)	
95	兼任	講師	イツカ タシ 磯田 健志 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年4月)	
96	兼任	講師	イツシ モトキ 稲次 基希 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 講師 (平成25年8月)	
97	兼任	講師	ウカシン ツカサ 宇賀神 つかさ ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 講師 (平成29年4月)	
98	兼任	講師	ウヨ ヨウトウ 王 耀東 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 講師 (平成29年4月)	
99	兼任	講師	ウカタ エリコ 岡田 英理子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医療とAI・ヒューマンデータ入門	1後	2	2	東京医科歯科大学 講師 (平成26年4月)	
100	兼任	講師	カシワ ミチコ 梶原 道子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		免疫検査学講義	2後	3	1	東京医科歯科大学 講師 (平成25年8月)	
101	兼任	講師	ヤマクチ クミコ 山口 久美子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 (平成23年4月)	
102	兼任	講師	ヤマモト コウヘイ 山本 浩平 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		病理検査学講義（Ⅱ）	2通	3	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	
103	兼任	講師	コミヤ チカヲ 小宮 カ ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年4月)	
104	兼任	講師	タニ ユカコ 谷 友香子 ＜令和6年10月＞		博士 (生物科学)		疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和4年7月)	
105	兼任	講師	ナカガワ ツヨシ 中川 剛士 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 講師 (平成27年4月)	
106	兼任	講師	セキ ナオコ 関 奈央子 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		Applied Critical Thinking for Health Sciences オンライン異文化交流	1・2・3・4通 1・2・3・4通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 (令和3年4月)	
107	兼任	助教	ナカタ ユキ 永田 有希 ＜令和6年10月＞		博士 (生命科学)		遺伝学	2・3・4前	1	3	東京医科歯科大学 助教 (平成30年5月)	
108	兼任	助教	イツタ ノリコ 岩田 乃理子 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年1月)	
109	兼任	助教	ハシモト ヨシヒデ 橋本 良秀 ＜令和6年10月＞		博士 (学術)		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (平成27年10月)	
110	兼任	助教	クマカヰ タシ 熊谷 貴 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		病原体検査学実習（Ⅰ）	2後	1	1	東京医科歯科大学 助教 (平成19年4月)	
111	兼任	助教	イガシ タエ 五十嵐 多恵 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (平成27年7月)	

112	兼任	助教	チトウ ヒロユキ 佐藤 宏征 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		臨床試験方法論応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 (令和2年4月)	
113	兼任	助教	カシマダ アヤコ 鹿島田 彩子 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	2	東京医科歯科大学 助教 (平成26年4月)	
114	兼任	助教	カウマ トシユキ 勝又 敏行 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		化学入門 化学 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 1前	1 2 1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成19年4月)	
115	兼任	助教	マツモト ユキヒサ 松本 幸久 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		生物学入門 生物学 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 1前	1 2 1 1 2 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成25年2月)	
116	兼任	助教	ヌマサリ ミツユキ 沼沢 益行 ＜令和6年10月＞		学士 (医学) 学士(薬学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成30年4月)	
117	兼任	助教	シンタカ ヒロシ 新宅 洋 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		病理検査学講義(Ⅱ)	2通	3	1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	
118	兼任	助教	シンザワ ナオアキ 新澤 直明 ＜令和6年10月＞		博士 (薬学)		病原体検査学実習(Ⅰ)	2後	1	1	東京医科歯科大学 助教 (平成29年7月)	
119	兼任	助教	モリ タカヤス 森 崇寧 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学(Ⅱ)	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (平成29年4月)	
120	兼任	助教	スサ コウイチロウ 須佐 紘一郎 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学(Ⅰ)	2前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (平成26年11月)	
121	兼任	助教	ストウ タカアキ 須藤 毅顕 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		AI実践演習 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	2・4通 1後 1後 2・3・4 前 2・4通	1 2 2 1 1 1	2 1 2 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和2年9月)	
122	兼任	助教	スキノ タカアキ 杉野 貴明 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	
123	兼任	助教	イシマル ミホ 石丸 美穂 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		AI実践演習 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習 口腔疫学基礎 疫学応用	2・4通 1後 1後 2・3・4 前 2・4通 1前 1後	1 2 2 1 1 1 1	2 1 2 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
124	兼任	助教	ソウ ヒタン 曹 日丹 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		AI実践演習 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	2・4通 1後 1後 2・3・4 前 2・4通	1 2 2 1 1 1	2 1 2 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年10月)	
125	兼任	助教	ノリタケ カナコ 則武 加奈子 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成25年8月)	

126	兼任	助教	タケモト アキラ 竹本 暁 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		遺伝学	2・3・4 前	1	3	東京医科歯科大学 助教 (令和4年5月)	
127	兼任	助教	ウシモト カズキ 辻本 和峰 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (平成29年4月)	
128	兼任	助教	トイ ナミ 土井 理美 ＜令和6年10月＞		博士 (臨床 心理学)		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年10月)	
129	兼任	助教	フジワラ モトヒロ 藤原 基裕 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		臨床病態学（Ⅱ）	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
130	兼任	助教	イタニ ケンタ 飯谷 健太 ＜令和6年10月＞		博士 (工 学)		生体医工学	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年2月)	
131	兼任	助教	イダ ヨリツグ 飯田 頼嗣 ＜令和6年10月＞		修士 (理 学)		アントレプレナー教育	2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年1月)	
132	兼任	助教	ヒラカ ユウイチ 平岡 優一 ＜令和6年10月＞		博士 (理 学)		分子生物学	2・3・4 前	1	1	東京医科歯科大学 助教 (平成28年7月)	
133	兼任	助教	キノ シホ 木野 志保 ＜令和6年10月＞		PhD in Epidemi ology and Public Health		口腔疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和4年4月)	
134	兼任	助教	ノグチ アヤコ 野口 綾子 ＜令和6年10月＞		博士 (看護 学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (令和3年4月)	
135	兼任	助教	スズキ ヒトミ 鈴木 瞳 ＜令和6年10月＞		博士 (口腔 保健福 祉学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	
136	兼任	助教	タカギ シュンスケ 高木 俊輔 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 助教 (平成28年4月)	
137	兼任	非常勤 講師	カールソン レベッカ リン Carlson Rebecca Lynn ＜令和6年10月＞		博士 (人類 学)		Biosocial Research Topics	1・2・ 3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
138	兼任	非常勤 講師	オム スンジェ EOM SEUNGJAE ＜令和6年10月＞		修士 (理 学)		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
139	兼任	非常勤 講師	イソハ テツ 磯部 哲 ＜令和6年10月＞		博士 (医 学)		ポストコロナ社会における感 染症対策	1・2・ 3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
140	兼任	非常勤 講師	ウタガハリ マコト 宇田川 誠 ＜令和6年10月＞		修士 (文 学)		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
141	兼任	非常勤 講師	ナカタ ユキコ 永田 夕紀子 ＜令和6年10月＞		修士 (グ ローバ ル研 究)		スペイン語Ⅱ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
142	兼任	非常勤 講師	オシモト カズトシ 押元 一敏 ＜令和6年10月＞		修士 (芸術 学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

143	兼任	非常勤講師	カン シヤ 加地 真也 ＜令和6年10月＞		学士 (体育)		フィットネスマネジメント	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
144	兼任	非常勤講師	クボタ コト 久保田 木都 ＜令和6年10月＞		学士 (美術)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
145	兼任	非常勤講師	ミヤヅキ サチ 宮崎 幸江 ＜令和6年10月＞		博士 (Linguistics)		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
146	兼任	非常勤講師	ミヤガワ タカ 宮川 拓也 ＜令和6年10月＞		博士 (農学)		化学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
147	兼任	非常勤講師	ミヤタ ヨシヤ 宮田 義矢 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		宗教学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
148	兼任	非常勤講師	コライ アサ 牛来 明日香 ＜令和6年10月＞		修士 (体育科学)		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
149	兼任	非常勤講師	クマガイ ジロウ 熊谷 二郎 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		病理検査学講義（Ⅱ）	2通	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
150	兼任	非常勤講師	クリタ ケイコ 栗田 圭子 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
151	兼任	非常勤講師	フルカワ タカコ 古川 高子 ＜令和6年10月＞		修士 (学術)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
152	兼任	非常勤講師	コトウ アツコ 後藤 敦子 ＜令和6年10月＞		博士 (人文科学)		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
153	兼任	非常勤講師	コウカ マサヒロ 甲賀 真広 ＜令和6年10月＞		博士 (日本語教育学)		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
154	兼任	非常勤講師	アラカワ ヒロノリ 荒川 裕紀 ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
155	兼任	非常勤講師	タケリ レイ 高久 玲音 ＜令和6年10月＞		博士 (商学)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
156	兼任	非常勤講師	ササキ ミツヤ 佐々木 充文 ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		スペイン語Ⅰ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
157	兼任	非常勤講師	サトリ マイ 佐藤 舞 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		心理学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
158	兼任	非常勤講師	サカモト ヒデオ 坂本 秀生 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		総合講義	4通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
159	兼任	非常勤講師	ササノイ モモ 笹野井 もも ＜令和6年10月＞		修士 (美術学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
160	兼任	非常勤講師	サンカ マサヒロ 三家 雅弘 ＜令和6年10月＞		修士 (理工学)		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

161	兼任	非常勤講師	ミカミ リョウ 三上 亮 ＜令和6年10月＞		修士 (美術学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
162	兼任	非常勤講師	ミムラ ケンロウ 三村 邦裕 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		総合講義	4通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
163	兼任	非常勤講師	ミチノ シュンコ 三谷 純子 ＜令和6年10月＞		修士 (Communications学)		文化人類学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
164	兼任	非常勤講師	ヤマダ テツオ 山田 哲夫 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		病理検査学講義（Ⅱ）	2通	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
165	兼任	非常勤講師	トキモト ナオコ 時本 楠緒子 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		生物学入門	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
166	兼任	非常勤講師	ムロタ ナオコ 室田 尚子 ＜令和6年10月＞		修士 (芸術学)		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
167	兼任	非常勤講師	ワカマツ コウイチロウ 若松 功一郎 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
168	兼任	非常勤講師	マツモト ミヤ 松本 美耶 ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
169	兼任	非常勤講師	ナリタ ヒロキ 成田 大起 ＜令和6年10月＞		修士 (政治学)		社会思想史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
170	兼任	非常勤講師	シミス サトシ 清水 智史 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
171	兼任	非常勤講師	ニシカワ ラン 西川 蘭 ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
172	兼任	非常勤講師	クラチ シン 倉持 仁 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
173	兼任	非常勤講師	ムラタ ミツル 村田 満 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		総合講義	4通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
174	兼任	非常勤講師	オオタ ケイト 太田 岳人 ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
175	兼任	非常勤講師	オオカ ユキ 大賀 祐樹 ＜令和6年10月＞		博士 (学術)		哲学 倫理学	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
176	兼任	非常勤講師	オウラ ヒロキ 大倉 韻 ＜令和6年10月＞		修士 (社会学)		社会学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
177	兼任	非常勤講師	ナカガチ エツシ 中口 悦史 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		統計学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
178	兼任	非常勤講師	ナカヤマ トシヒデ 中山 俊秀 ＜令和6年10月＞		博士 (言語学)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

179	兼任	非常勤講師	ハセガワ アツヒコ 長谷川 温彦 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		免疫検査学講義	2後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
180	兼任	非常勤講師	ツカギ マサオ 津垣 正男 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
181	兼任	非常勤講師	ツカガ タケヒロ 塚田 岳大 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		生物学入門	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
182	兼任	非常勤講師	タハラ シンジ 田原 慎二 ＜令和6年10月＞		博士 (経済学)		経済学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
183	兼任	非常勤講師	タカ アサシ 田中 丹史 ＜令和6年10月＞		修士 (学術)		科学史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
184	兼任	非常勤講師	ワタナベ カズキ 渡辺 数基 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
185	兼任	非常勤講師	ワタナベ ソウイチロウ 渡邊 総一郎 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		化学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
186	兼任	非常勤講師	フジイ シュンゴ 藤井 俊吾 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
187	兼任	非常勤講師	フジエダ フミエ 藤枝 史江 ＜令和6年10月＞		博士 (人文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
188	兼任	非常勤講師	トクサ ミコ 徳久 美生子 ＜令和6年10月＞		博士 (社会学)		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
189	兼任	非常勤講師	イタコシ マサヒコ 板越 正彦 ＜令和6年10月＞		修士 (国際経営学)		アントレプレナー教育	2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
190	兼任	非常勤講師	イイタ スケル 飯田 卓 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
191	兼任	非常勤講師	トビタ アヤコ 飛田 綾子 ＜令和6年10月＞		修士 (政治学)		法学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
192	兼任	非常勤講師	オモテ カヲリ 表 孝憲 ＜令和6年10月＞		修士 (経営学)		アントレプレナー教育	2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
193	兼任	非常勤講師	ヒラハタ コウイチ 平畑 光一 ＜令和6年10月＞		学士 (医学)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
194	兼任	非常勤講師	ミネオ トシヒコ 峰尾 俊彦 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
195	兼任	非常勤講師	おノマ ナオコ 本間 尚子 ＜令和6年10月＞		博士 (病理)		病理検査学講義（Ⅱ）	2通	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
196	兼任	非常勤講師	おシダ マサカズ 本田 雅一 ＜令和6年10月＞		学士 (経済)		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

197	兼任	非常勤講師	オモテ カス'ヤ 面 一也 ＜令和6年10月＞		修士 (政治学)		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
198	兼任	非常勤講師	モグ'シ カオル 茂櫛 薫 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		アントレプレナー教育	2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
199	兼任	非常勤講師	ノグ'チ ヒロト 野口 大斗 ＜令和6年10月＞		修士 (学術)		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4 通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
200	兼任	非常勤講師	ヤミ ユカ 矢富 裕 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		総合講義	4通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
201	兼任	非常勤講師	ヤノ テツヤ 矢野 哲也 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)		病理検査学講義（Ⅱ）	2通	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
202	兼任	非常勤講師	クニイ オサム 國井 修 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
203	兼任	非常勤講師	クオン テ'ソウ 権 大聖 ＜令和6年10月＞		博士 (現代アジア研究)		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
204	兼任	非常勤講師	ウス'ラ'シ タツナリ 鴉橋 辰成 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		グローバル教養総合講座 アカデ'ミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
205	兼任	非常勤講師	タカハシ ユミホ 高橋 優美穂 ＜令和6年10月＞		修士 (文学)		アカデ'ミック・リテラシー	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
206	兼任	非常勤講師	ベルヂェア アド'リアン BERCEA ADR I AN ＜令和6年10月＞		博士 (文学)		Japanese Culture and Society	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
207	兼任	非常勤講師	コーリス ジ'ヨナサン CORLISS JON ATHAN ＜令和6年10月＞		修士 (人文学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4 通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
208	兼任	非常勤講師	リットン クリストファー トン LITTEEN CHR I STOPHER T ＜令和6年10月＞		修士 (教育学)		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
209	兼任	非常勤講師	ミヤ マルツカ MIYA MARUTS UKA ＜令和6年10月＞		学士 (環境資源科学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4 通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
210	兼任	非常勤講師	リード' ジェシー ライアン Reed Jesse R yan ＜令和6年10月＞		修士 (教育学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4 通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
211	兼任	非常勤講師	ウマリ アンバ'ロ アデ'リナ Umal i Ampa r o Adeli na ＜令和6年10月＞		博士 (国文学)		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
212	兼任	非常勤講師	エン 兼 YAN J I A Q I ＜令和6年10月＞		修士 (言語学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
213	兼任	非常勤講師	エント'ウ シ'ェンシ'ェ 遠藤 順治 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	
214	兼任	非常勤講師	ヨコヤマ イズ'ミ 横山 泉 ＜令和6年10月＞		博士 (経済学)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4 通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 (令和6年10月)	

215	兼任	非常勤講師	タカハシ オサム 高橋 修 ＜令和6年10月＞		学士 （商 経）		アドバンスド生理機能検査学	3・4後	1	2	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
216	兼任	非常勤講師	タカハシ ユミホ 高橋 優美穂 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
217	兼任	非常勤講師	ウダシハラ ヒサシ 漆原 尚巳 ＜令和6年10月＞		博士 （社会 健康医 学）		生物統計学応用Ⅱ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
218	兼任	非常勤講師	ミスノ テツヤ 水野 哲也 ＜令和6年10月＞		修士 （体育 学）		フィジカルウェルビーイング	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
219	兼任	非常勤講師	ホシノ タカヒロ 星野 崇宏 ＜令和6年10月＞		博士 （学 術）博 士（経 済学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
220	兼任	非常勤講師	カワミ チナル 川上 千春 ＜令和6年10月＞		博士 （看護 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 2前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
221	兼任	非常勤講師	フカワ アユミ 布川 あゆみ ＜令和6年10月＞		博士 （社会 学）		ポストコロナ社会における感 染症対策	1・2・ 3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
222	兼任	非常勤講師	ハットリ サトシ 服部 聡 ＜令和6年10月＞		博士 （臨床 統計 学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
223	兼任	非常勤講師	ヒラミツ シロウ 平光 史朗 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		臨床病態学（Ⅰ）	2前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
224	兼任	非常勤講師	ノマ ヒサシ 野間 久史 ＜令和6年10月＞		博士 （統計 数理 学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	